

〔上松〕(まげまつ) 一七六哩八 福島から上松を絶て須原に至る間には、木曾の樓の址あり、寢覺の床あり、小野の瀧あり、木曾溪谷の勝此數里の間に萃まると云つて好いので、寧ろ徒歩しな方が興は多からう。中にも寢覺の床は最世に知られ、汽車の窓からも俯瞰されるので、汽車はわざと速力を緩めて行くことゝなつて居る。驛からは南十二丁、臨川寺畔に在り、兩頭の翠壁相合ふところ、九曲の寒水流れて蒼潭をなし、具に水石の美を極む、潭邊に重疊せる岩面に多くの圓き穴の見ゆるは、渦流の石を廻して穿つたものである。〔三留野〕(さんりゅう) 此驛から坂下に至る間、木曾川の河岸一里に亘つて賤母の紅葉境あり。〔中津川〕(なかつがは) 昔は木曾山中に入る關門であつた、東南に舟を覆せた様な惠那山を望む、山麓まで二里俵一圓、四時間にて登られる、海拔七千四百尺、近江の淡湖、伊勢の海を下取せられる、中津川旅館廣業、橋利喜。〔多治見〕(たぢみ) 美濃焼の主産地である、驛の東北十三丁、虎溪山水保寺あり、土岐川の溪谷を園地として勝景をなして居る、俵貫廿五錢、多治見旅館松屋、びいどろや。〔大曾根〕(おほそね) 瀬戸電氣鐵道の接續點、この電車は名古屋市内から來て、大曾根を経て瀬戸まで行く、瀬戸は陶器製造の大邑落で、陶器館、陶器學校などがある〔名古屋〕(なごや) 東海道線参照

甲斐がねに雲こそ、かゝれ梨の花 蕪 村
 はらわたも冷つく木曾の清水かな 子 規
 送られつ送りつ果は木曾の秋 芭 蕉

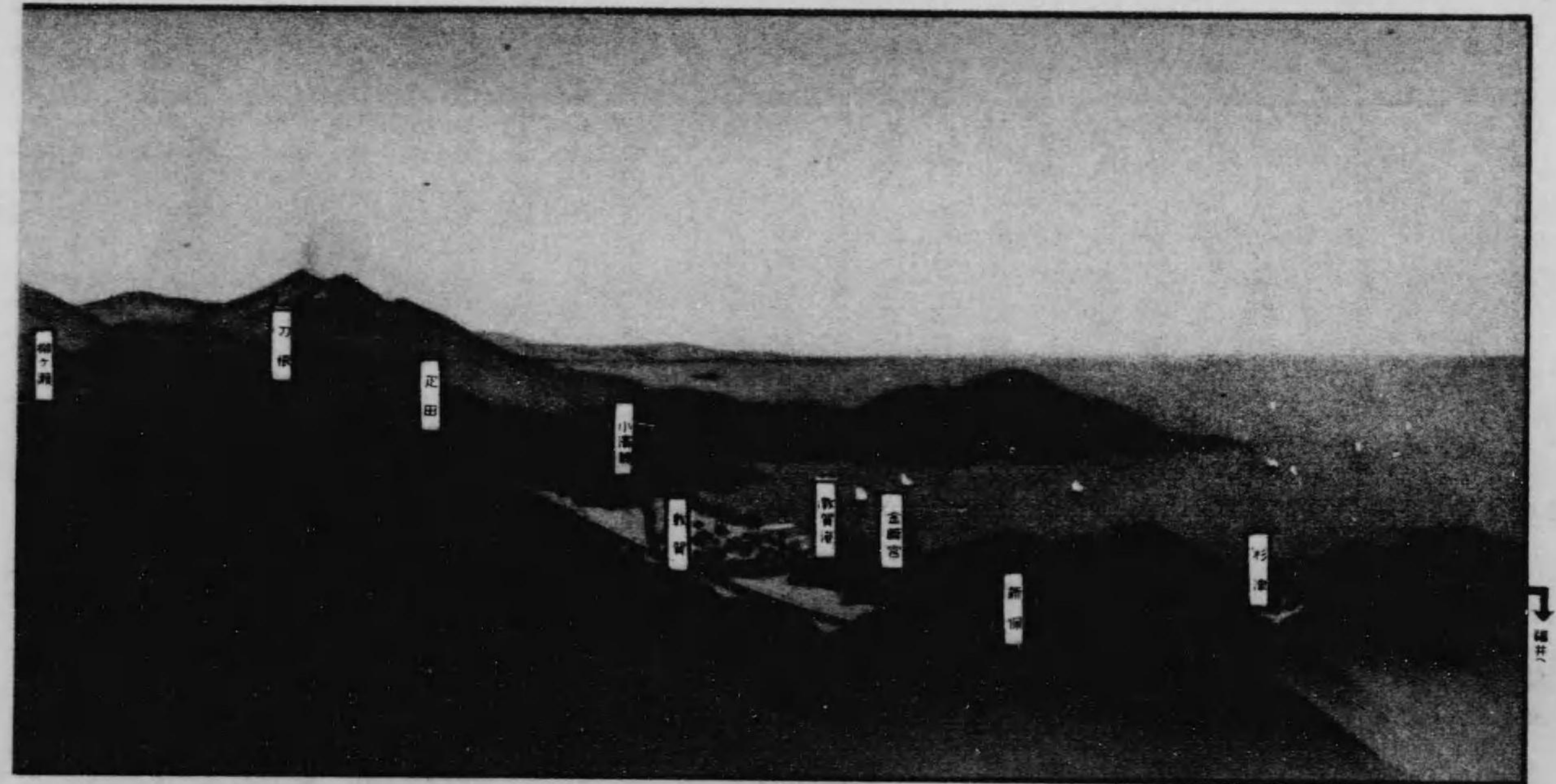
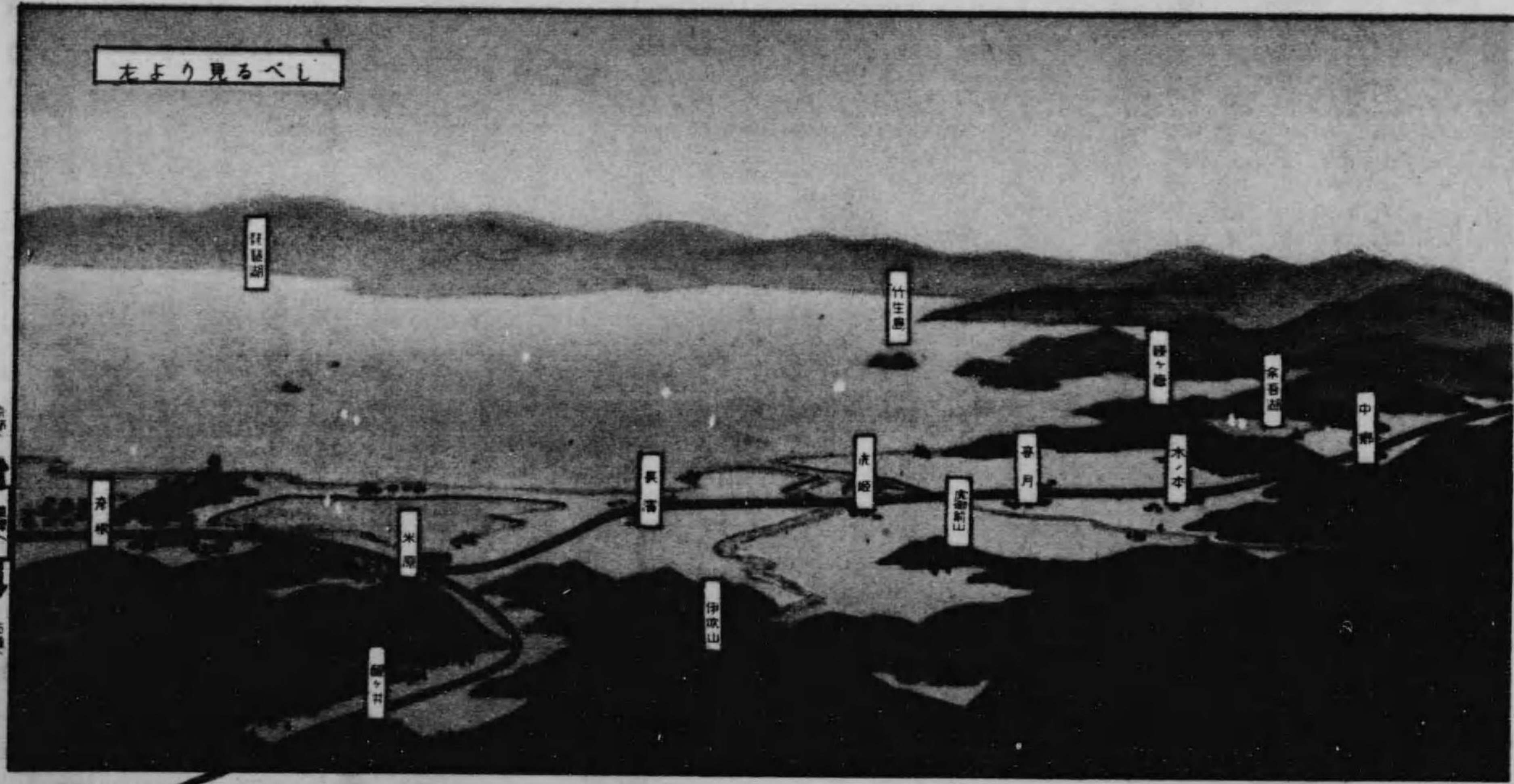
北陸線

北陸線とは

- 一 北陸本線 米原、直江津間、二二八哩三分、及敦賀、敦賀港間一哩五分
- 一 小濱線 敦賀、若狭高濱間四二哩八分
- 一 三國線 金津、三國間五哩四分、及貨物支線
- 一 七尾線 津幡、七尾港間三四哩四分
- 一 中越線 伏木、城端間二三哩
- 一 氷見輕便線 伏木、氷見間五哩八分
- 一 新湊輕便線 能町、新湊間二哩二分

の總稱で、其本線は東海道本線米原から分岐し、琵琶湖岸に沿うて北して北陸に入り、露領沿海州との交通門戸たる敦賀に至りて右し、福井、金津、富山を経て直江津に至りて信越線に接續して居る、其間敦賀から分岐して舞鶴に至らんとする小濱線があり、金津から分岐する三國線があり、津幡から分岐して能登半島を經斷する七尾線があり、高岡から分岐して北は伏木南は城端に至る中越線があり、氷見、新湊の輕便線が夫から岐れて居る。列車の運行は本線内の富山明石間一回、東京上野から此線を経て明石に至るもの二回、那波から此線を経て新潟に至るもの一回、姫路、直江津間一回、糸魚川、明石間一回あり、露領彌斯徳との交通連絡の爲には別に一週一回東京から敦賀の敦賀港驛まで寢臺車の直通運轉あり、約十三時間餘を要す。小濱線の若狭高濱から新舞鶴に至る約一〇哩は今工事中である。米原を後にすると汽車は直に琵琶湖の水光に接し、右窓には伊吹山の變えて居るのが見える。七本鎗を以て名高い賤ヶ嶽や余吾湖を左にして進み、柳ヶ瀬陸道を過ぐれば地は既に北陸でやがて敦賀の瓦葺に接するのである。

敦賀からは西に小濱線を岐ち、本線は北に向うて木の芽峠の



山脈に數箇の隧道を穿て居る。隧道の絶え間には風光畫くが如き敦賀灣が見渡され、螺蝶ヶ岳半島は近く呼ば、應に答へむとし、頓に眼界の清新なるを覺ゆる、山間の一驛を杉津と云ひ、絶壁の半腹に在りて眺望甚佳、本線中稀に見るの好風景である元比田の隧道を過ぐれば鐵路は東に迂回し、今庄に至りて平野に入り武生を経て福井を指すのである。福井からは九頭龍川を渡りて尙平野を走り、細呂木から國境に連る山路を下りて加賀の大聖寺に至り、小松驛から再び海岸に近づき、青松白沙の間蒼海を望み、小舞子、美川の邊り展望殊に秀麗である。金澤を後にすると河北潟の風光がある、津幡は七尾線の岐るる所で、本線は木曾義仲の奇捷を以て名高い俱利伽羅峠を越えて越中に入る、福岡を過ぐれば平野は漸く開けて高岡市に至る。茲から中越線が南北に岐れて居る。高岡富山の間、檜、榛等の雜木林が田野の間に散在し、渺茫たる廣野の眺望を碍げて居る所がある。これは富山平野の特色であつて、前田氏が幕府に對する政略上造林したものと傳へて居る。

富山以東の地は高山峻嶺其南東に蜿蜒し、汽車は多く海岸に近く走つて居る。泊から境川を渡ると越後の國で、所謂日本アルプスの飛騨山脈の一脈日本海中に突出し、百尋の峻崖峭壁と爲り、巖に崖下の汀際に一路を通じて居る、これが有名な親不知子不知の險で、今鐵道はこの絶壁を開鑿して敷設し、市振から親不知を経て青海に至る間七大隧道を穿つて居る。車窓の眺望頗る雄大怒濤眼下に咆哮し、佐波ヶ島遙に能登半島と相對して、一對の青螺を水天髣髴の間に漂はせて居る。姫川を渡れば糸魚川、姫川の橋上よりは左に直に日本海の海光あり、右に飛騨山脈の重疊せるを見るべく、展望甚佳である。能生驛附近海中には數箇の巨巖が横はり、松樹海風に壓せられて、姿體奇怪愛すべき風光をなして居る。かくて汽車は名立川を渡りて鳥首崎を横断し、郷津隧道を出で、右に春日山城址を仰ぎつゝ直

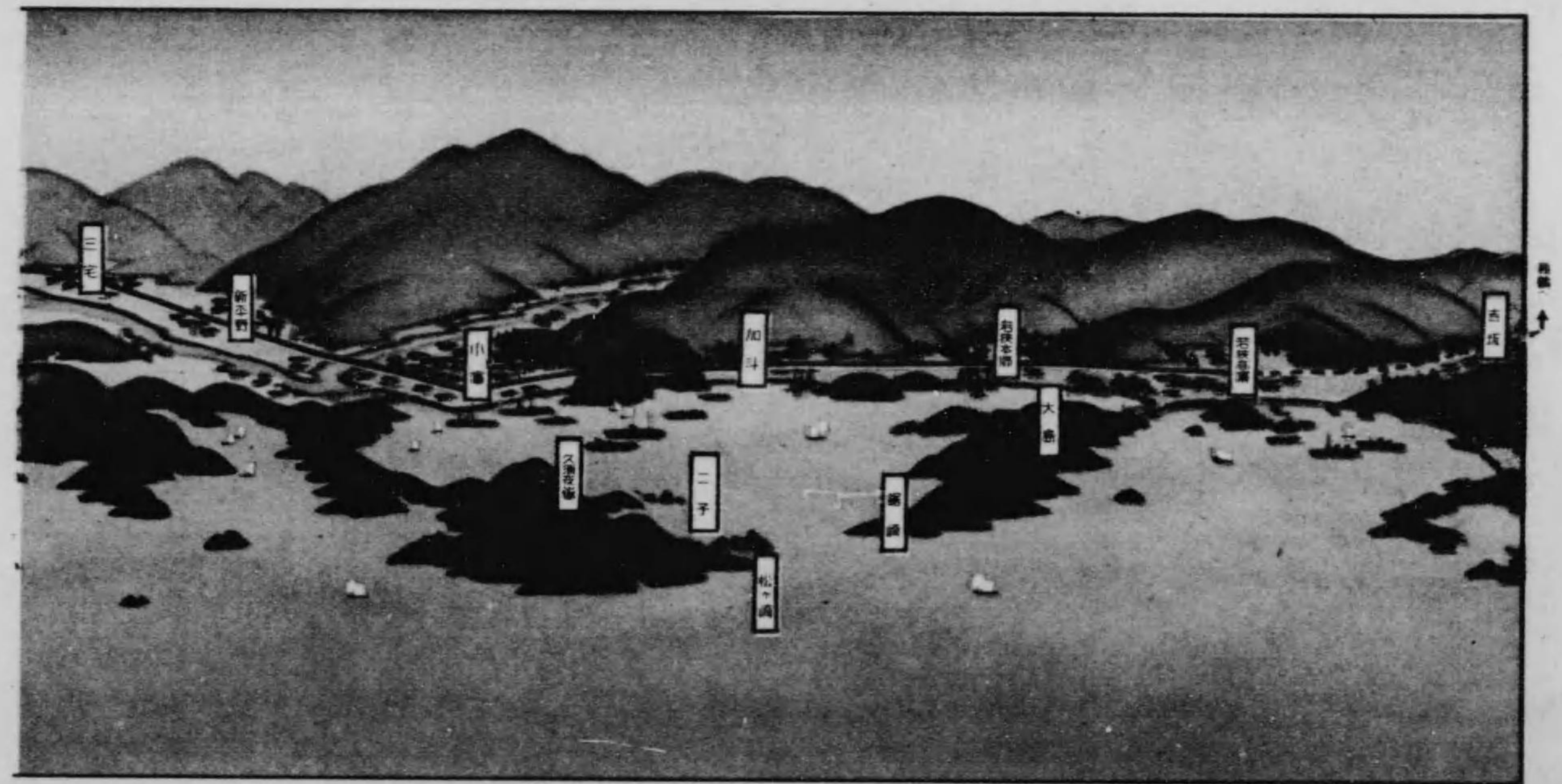
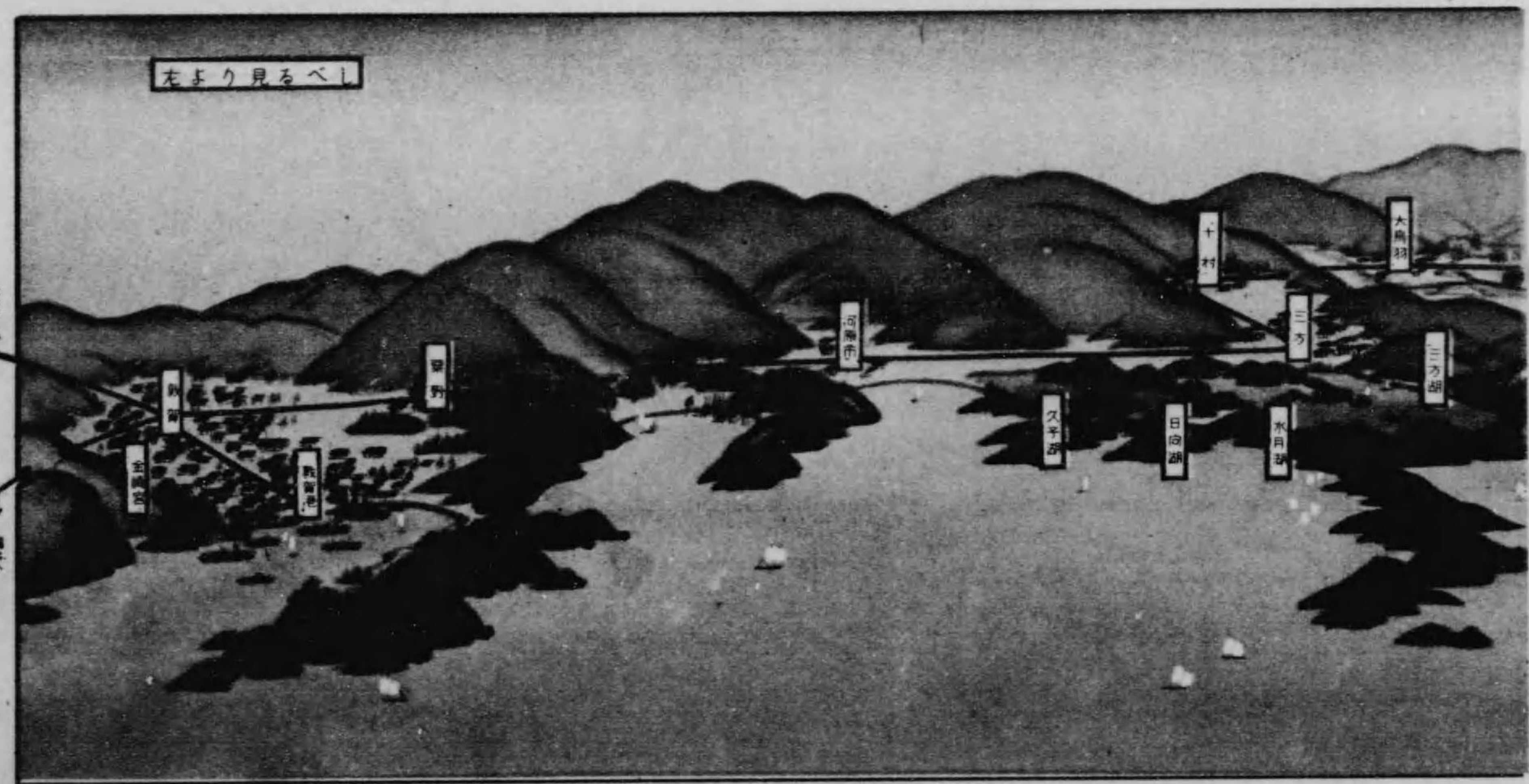
江津に著く

北陸本線

米原—直江津 二二八哩三分

【米原】(はいばら) 【長濱】(ながはま) 琵琶湖東第一の繁華地濱縮の産地として有名である、其産額の六分は京都に行つて衣服地、友禪染となり、四分は大阪、神戸、名古屋、東京へ出ると云ふ。▼竹生島詣、この線からは長濱から行きかへりは大津へ出た方が好い、賃金三等四十五錢、二等七十錢【木ノ本】(きのもと) ▼賤ヶ嶽と余吾湖、秀吉が柴田勝家を敗つた古戰場として、長鎗を揮つて驍名を留めた七本鎗の勇士の晴の舞臺として賤ヶ嶽の名は旅行者の心を唆らずには置かぬ、山は驛西三十丁山麓まで俵貫五十錢、南は琵琶湖北は余吾湖に臨み、兩湖の隔隙をなして居る、賤ヶ嶽登山の上余吾湖の風光を愛で、中ノ郷に出るは面白き散策である 【敦賀】(つるが) 三〇哩三 米原から約二時間、敦賀灣頭の良港、浦鹽新徳へは毎週一回、北群の元山、城津、清津へは毎月二回の汽船便があり、大正九年の貿易額は輸出九百五十二萬圓、輸入四十萬圓に上つて居る、地は三面山を繞らして海山の景勝に富む、港の内外にて見るべきは大島居で名高い官幣大社氣比神社北十三丁俵貫三十錢、後醍醐天皇の皇子尊良恒良の兩親王を祀つた官幣中社金崎宮北二十五丁俵貫四十錢、敦賀灣一帶の風光一眸の下に見え、新田義貞が兩親王を奉じて孤軍奮闘した金ヶ崎城址も後方山頂に在り、歴史的回顧の念を起させる。氣比の松原は四二十六丁俵貫五十錢、武田耕雲齋などを祀つた松原神社がある、辨天島と常宮様には船から行くが面白く、船賃辨天島へ一圓五拾錢、常宮へ二圓、俵によると辨天島へ一圓、常宮へ二圓、旅館熊谷ホテル、具足屋、大黒屋

小濱線 敦賀から西に分歧し、新舞鶴に行つて舞鶴線と接続すべき線で、今若狭高濱まで四二哩八分開通して居る、三



方驛附近には三方、水月、久々子、日向の四湖相連綴して風景を爲して居る、國幣中社若狹彦神社へは新平野が小濱からがよ、小濱は若狹第一の都會で山海の風景あり、外面は外洋に面して既屋二里の間、瀑布、洞穴、崎嶇多く、若狹第一の勝地である

【武生】(たけぶ) 古の府中で前田氏も嘗て茲に居た、此處から武岡輕便が岐れて岡本新まで行つて居る、其五分市驛の近くには眞宗出雲路派の本山龜攝寺があり、粟田部驛の近くには繼體天皇に因み深き花籃公園がある 【鯖江】(さびえ) 驛の附近には眞宗誠照寺派の本山の誠照寺と、同山元派の本山の登誠寺がある 【福井】(ふくい) 六八哩八 米原から約三時間半、足羽川の流に

嵐

沿うた越前平野の中心地である、昔は北の庄と云つて柴田勝家の據つたところ、松平氏が此處に封を受けてから今の名に改めて北陸の雄藩(石高三十二萬石)として知られて居た、

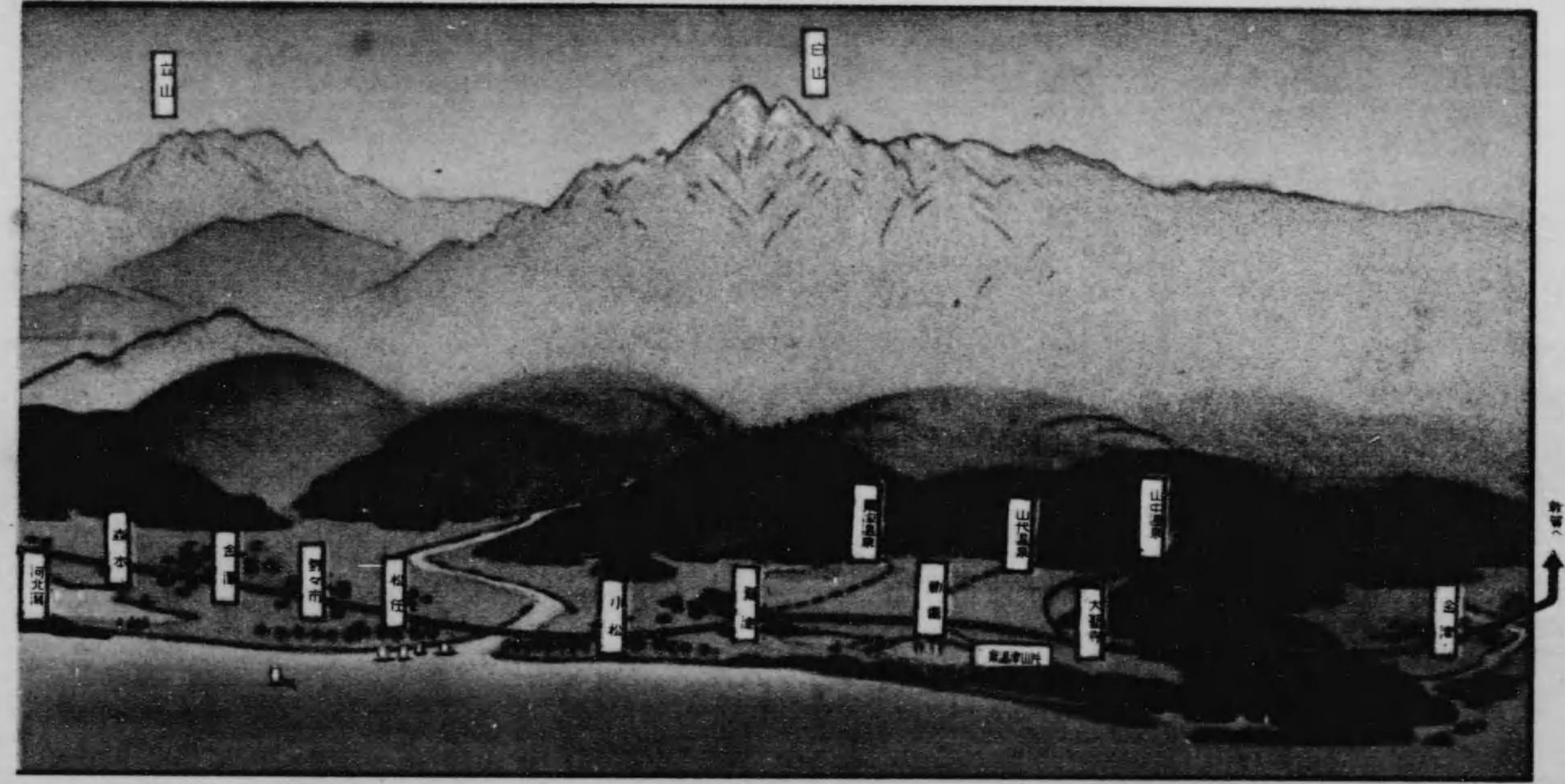
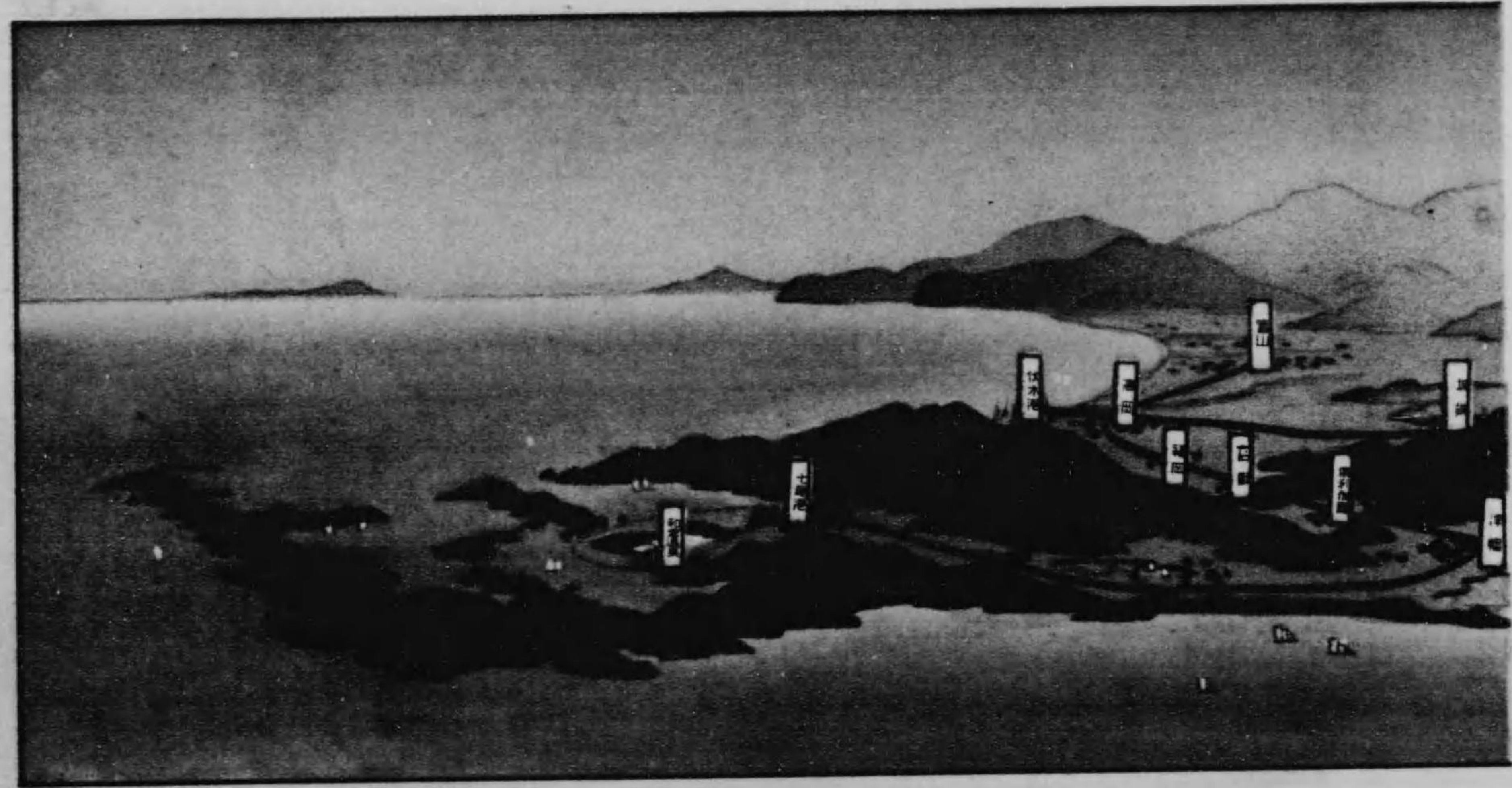
今人口五萬七千人を有し、羽二重の産出多く絹織物の産額は全國第一位を占め、機業場市の内外に散在して居る。市内にて見るべきは福井城址西三丁、城内藩祖を祀つた佐佳枝神社がある、足羽山公園は西南十五丁俵三十五錢、市の瓦葺から三國港頭まで見渡され、山の東面には新田義貞一族を祀つた別格官幣社藤島神社がある、眞宗三門徒派の本山専照寺は西南半里、商品陳列所は四十六丁、以上巡遊約三四時間で充分である、市内旅館名和屋、月見屋、幾代、花月 ▼永平寺詣、東北四里自動車の便もあるが、大方は越前電氣の電車で行く、電車は福井から大野口まで行つて居るが、其永平寺驛から東五十六丁、自動車往復一圓、俵往復一圓五十錢、寺は云ふ迄もなく曹洞宗の大本山で、枯木寒岩の色、鳥聲風韻の音自ら俗塵遠く堂塔伽藍宏大である、信徒は寺内に宿泊を請ふ便宜もある

福井市は福井縣廳所在地、縣は越前若狹兩國を管轄して居る、縣の西半は若狹

湖に臨み、敦賀、小浜の兩藩あり、敦賀は日本海軍第一の良港である、東半は主として九郎河川及支流日野川の流域で産業盛に、福井は羽二重機業の中心地であり産額全國に冠絶して居る。

輸出向羽二重の主要産物	絹織物	絹織物の主要産地	福井	七九〇六二、九〇四	全	福	一五、九一、六八一四四	(大正八年)
			石川	一五七、七九七、八五二	全	石	一一、五七、五二二	(大正八年)
			福井	七二、六四八、九六七	全	福	六七、九七〇、〇三三	(大正八年)
			石川	五二、三九七、七四四	全	石	二九、七五〇、四一六	(大正八年)
			福井	二七、二四六、四三二	全	福	二四、八一七、八九二	(大正八年)
			石川	二一、五二一、九五七	全	石	六七、三九三、七三六	(大正八年)
			福井	一一、三三三、五九〇	全	福	一九、一八四、五〇八	(大正八年)
			石川	一七、三三二、三三三	全	石	一六、九四四、六〇九	(大正八年)
			福井	九、四九三、二八八	全	福	八、八六一、二四二	(大正八年)
			石川	六、六四二、八四四	全	石	一、八三三、〇二九	(大正八年)

【金津】(かねづ) 三國線の分岐點で、同線は蘆原を経て三國に至る短支線である、蘆原は温泉として榮え、開化亭ホテル、紅屋、つるやなどあり、三國は九頭龍川口の港で、北一里には東尋坊の奇勝がある 【大聖寺】(おほせいじ) 【勸修寺】(くんしゅうじ) 【粟津】(あはづ) 以上三驛とも温泉電軌電車の接續點で、山中、山代、粟津、片山津、浴泉客の下車驛である、大聖寺からは山中へ電車賃廿九錢、動橋からは山代へ電車賃十六錢、片山津へ馬鞍賃十二錢、自動車賃四十錢、粟津からは粟津へ電車賃十二錢、自動車賃三十錢であるが、電車は温泉から温泉へと接續運轉をして居るから便利である。山中は名の如く山中の温泉で蟋蟀橋の奇景が知られて居る、旅館はよしのや、三谷屋、かきや、俵屋、山代は平野の温泉で旅館はあらや、くらや、片山津は柴山湯に臨んだ景勝地で旅館は矢田屋、森本、粟津の近くには那谷の觀音堂あり、旅館は法師、嘉宮、坂田屋、この四温泉に加へて蘆原、和倉、小川、愛本の諸温泉を巡浴するは、北陸線旅行者の最樂しみとする所で一週間もあれば充分である ▼吉崎御坊から蘆原へ、吉崎御坊は蓮如上人駐錫布教の址で東西兩本願寺の別院があり、北湯の入江に臨んで居る、大聖寺からは西南一里半、其處から舟を雇つて細呂木に出て細呂木驛に出てよし、又舟で小牧まで渡つて蘆原温泉へも出られる、小牧から蘆原ま



で三十丁「小松」(こまつ) 勸進帳で名高い安宅の關址は西北一里安宅町の海濱であつたと云ふが、漸次海中に没して今は殆ど其址が無い「野々市」(のいち) ▼白山登山、野々市から鶴來まで七哩三分鐵道の便あり賃金三等三十三錢、鶴來から馬車は吉野まで三里賃金六十五錢、俵は島まで九里七圓、島から牛ヶ

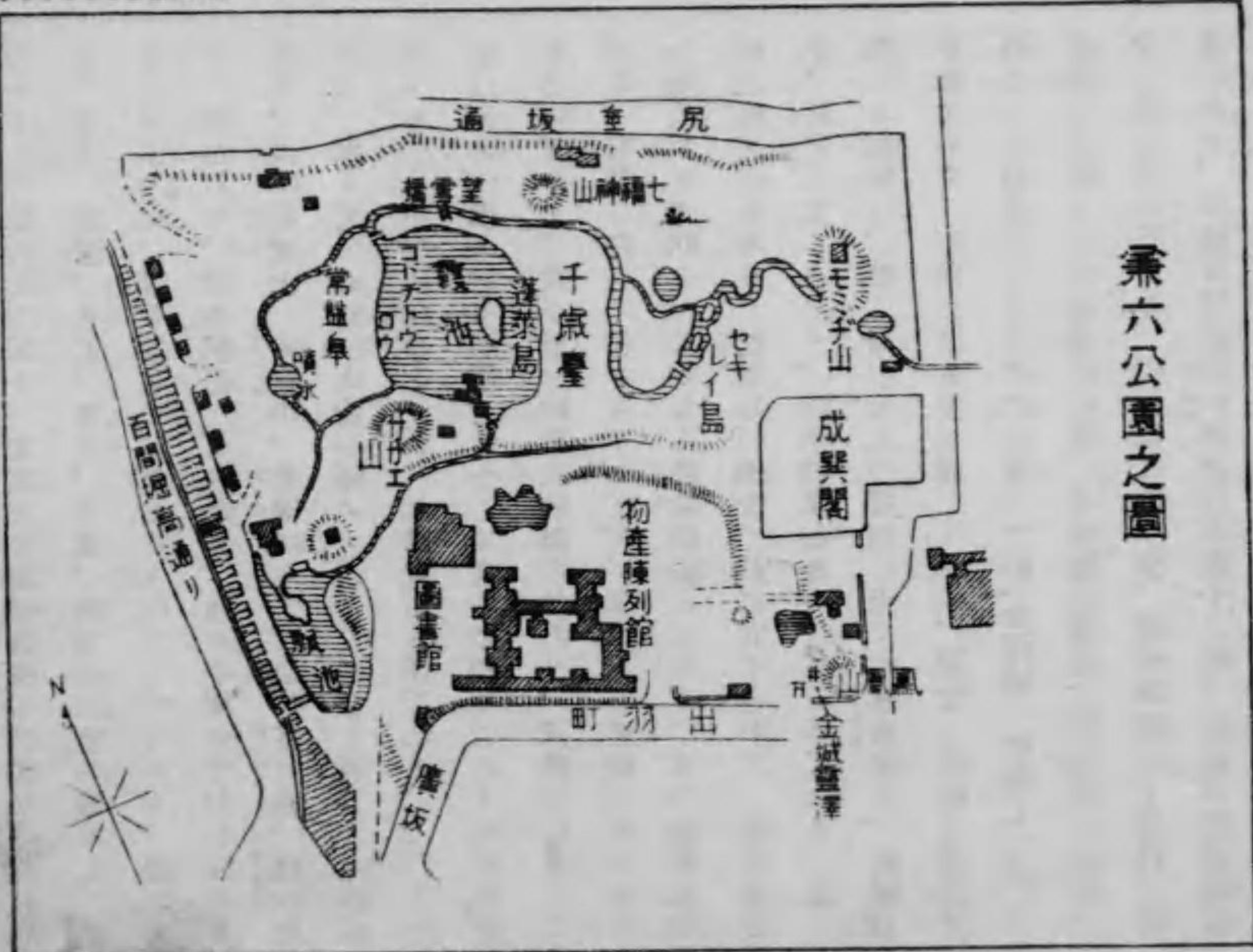


首まで一里自動車四人乗貸切二十圓、福井からすると越前電軌で勝山まで電車賃六十錢、勝山から牛ヶ首まで五里餘、河合まで二里賃賃一圓五十錢、河合から谷峠を越えて行く、牛ヶ首から路は険しくなり四里にして白山温泉に達す、温泉から頂上まで二里半、彌陀ヶ原附近黒百合、野鳳仙花などの高山植物亂開

し、雷鳥の翱翔する態參らし、室堂からは火山岩の磊々たる間を攀ちて絶頂白山本宮に達す、海拔八千八百六十七尺加越能美飛の諸州眼下に在り、登山期七月十八日から九月一日迄【金澤】(かなざは) 一一六哩四、米原から約六時間、金澤は元前田氏百萬石の城市で、犀川、淺野川の流域を占め、外國貿易の卒先者、錢屋五兵衛の居住した金石港を西北に控へ、人口十三萬人を有し、北國第一の都會である、産物には羽二重を始め、絹



兼六公園之圖



織物、漆器、銅器、陶器を出し、商況活潑である。名物には御所落雁、梅精、胡桃漬、深山の雪等あり。市の中央に一丘陵の

連立して居るのは即ち舊金城址で、又有名なる兼六公園のあ
る處である、園は驛の東南十八丁、電車の便あり、日本三公園
の一として知られて居る、文政元年前田齋廣の經營せられた所
で、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼有して居
ると云ふので、松平樂翁公が命名せられたものである、池沼あ
り、瀑布あり、松林鬱葱、花木妍麗、泉石亭榭皆雅致を極めて
居る、山に紅葉山、福壽山、榮螺山あり、池に霞ヶ池、瓢ヶ池
あり、瓢ヶ池の畔殊に幽邃を極め、瀑あり翠瀾と稱し、これに
對する一小亭を夕顔亭といふ、結構頗る古雅である、これより
北に進めば樹木愈々蒼鬱、人をして身の公園中にあるを忘れし
むるのである、霞ヶ池の畔春花秋葉の美あり、又眺望に富んで
居る、花期は四月上旬から下旬まで、池に近く唐崎の松の種子
を植えたる老松と、有名なる微軫燈籠とがある、その他曲水の
幽趣揃すべきあり、鶴鶴島の躑躅、萩に宜しきあり、龜甲橋附
近の杜若に宜しきあり、四季遊杖を曳くに足るのである、園に
隣れる樓閣は、曾て藩主夫人の隱栖に充てられた成巽閣で、結構甚
華麗である、市内には電車が通じて居り、遊覽三四時で充分で
ある、其他見るべきは卯辰山東二十町、金澤城と相對して居る、
金澤の市街から近嶺遠岳の翠、日本海の煙波、河北潟の藍碧、
皆一眸の中に集まる、野田山は南一里、藩祖利家以下歴代の墳
墓がある、別格官幣社尾山神社は東南十二町、社地は舊前田家
の別第で、館を金谷と云ひ其風景を皆樂器に擬り、泉水築山を
設けてある、西本願寺別院へ東五丁、東本願寺別院へ東八丁、
天徳院へ東南一里、第九師團司令部は東南十七丁、舊城内に在
り、石川縣廳、市役所、第四高等學校、醫學專門學校、物産陳
列館等舊城近くに散在して居る、市内旅館古今亭、大浦屋、兩
夜、源圓、塚本

金澤市は石川縣廳所在地、縣は加賀、能登兩國を管轄して居る、東南には山
脈連立して白山の秀峯あり、北方には能登半島突出し、其七尾灣に七尾港あり、
輪島は半島の北岸に在りて輪島塗を出して居る、縣下町は處工業盛に羽二重、



器、陶器等特に著はれ、金澤市の外、大聖寺、山代よりは九谷焼を産し、山中よ
りは漆器を出し、小松は羽二重の産地として聞えて居る

絹織物無地及絹織物類の主要産地 (大正八年)

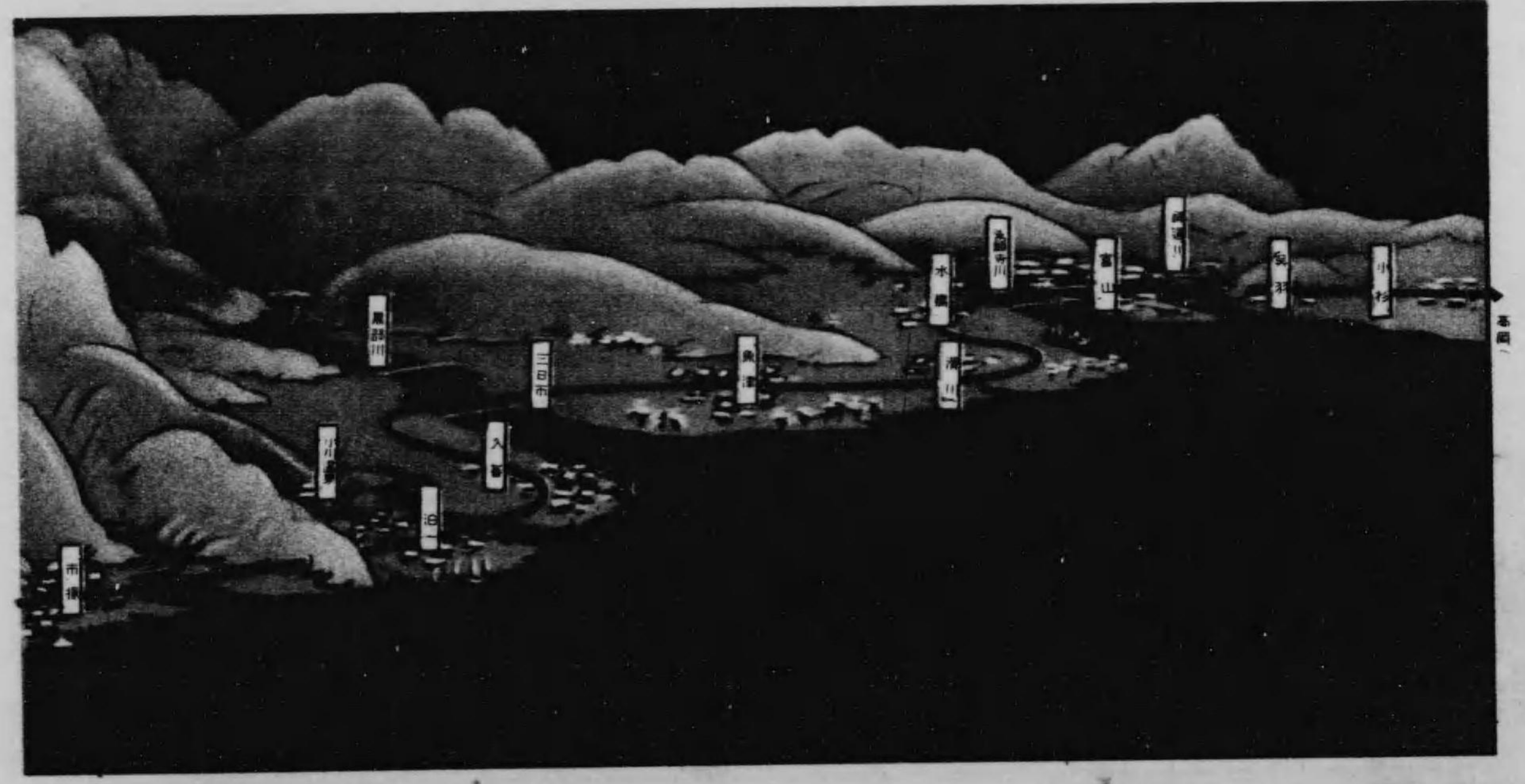
石川	四六、八七、〇二、一〇	群馬	六、四七、二七、一四
山梨	四、〇九、一五、一〇	都府	三、七五、六六、〇〇
福井	三、一七、一八、〇〇	全	六四、九五、三二、二四
漆器の主要産地			(大正八年)
石川	四、四二、五、七九、九〇	和歌山	二、六五、一八、六〇
福島	二、五〇、二七、〇〇	京都	二、一三、〇一、〇〇
新潟	一、二八、九六、六六	富山	一、一七、四六、七一
新潟	一、一七、五〇、三三	全	二四、一五、〇三、七五
漆液の主要産地			(大正八年)
石川	五、五〇、三三、七〇	京都	三、四八、一八、四〇
愛知	一、八二、六九、〇〇	福井	一、一七、一五、一〇
全	二、二五、五九、四〇		

【津幡】(つばた) 七尾線の分岐點、同線は津幡七尾港間三四哩四
分、羽咋から北一里には國幣大社氣多神社がある、七尾は日本
海岸の良港で大正七年の貿易額は輸出五千圓、輸入百十四萬圓
に上り、能登島其前面に横はつて好風景をなして居る、和倉温
泉は七尾驛から二里自動車賃八十五錢、七尾港から汽船便もあ
る、旅館和歌崎館、多田館、あさひや 【高岡】(たかおか) 一四
哩八 米原から七時間 北陸屈指の都會、
人口三萬七千人を有し漆器、銅器、鉄器、毛
斯友禪、線糸を産す、市内にて見るべきは橋
の馬場から國幣中社射水神社のある舊城址た
る高岡公園、瑞龍寺の古建築、物産陳列所などで約二時間で見物
が出来、旅館木津樓、梅松園

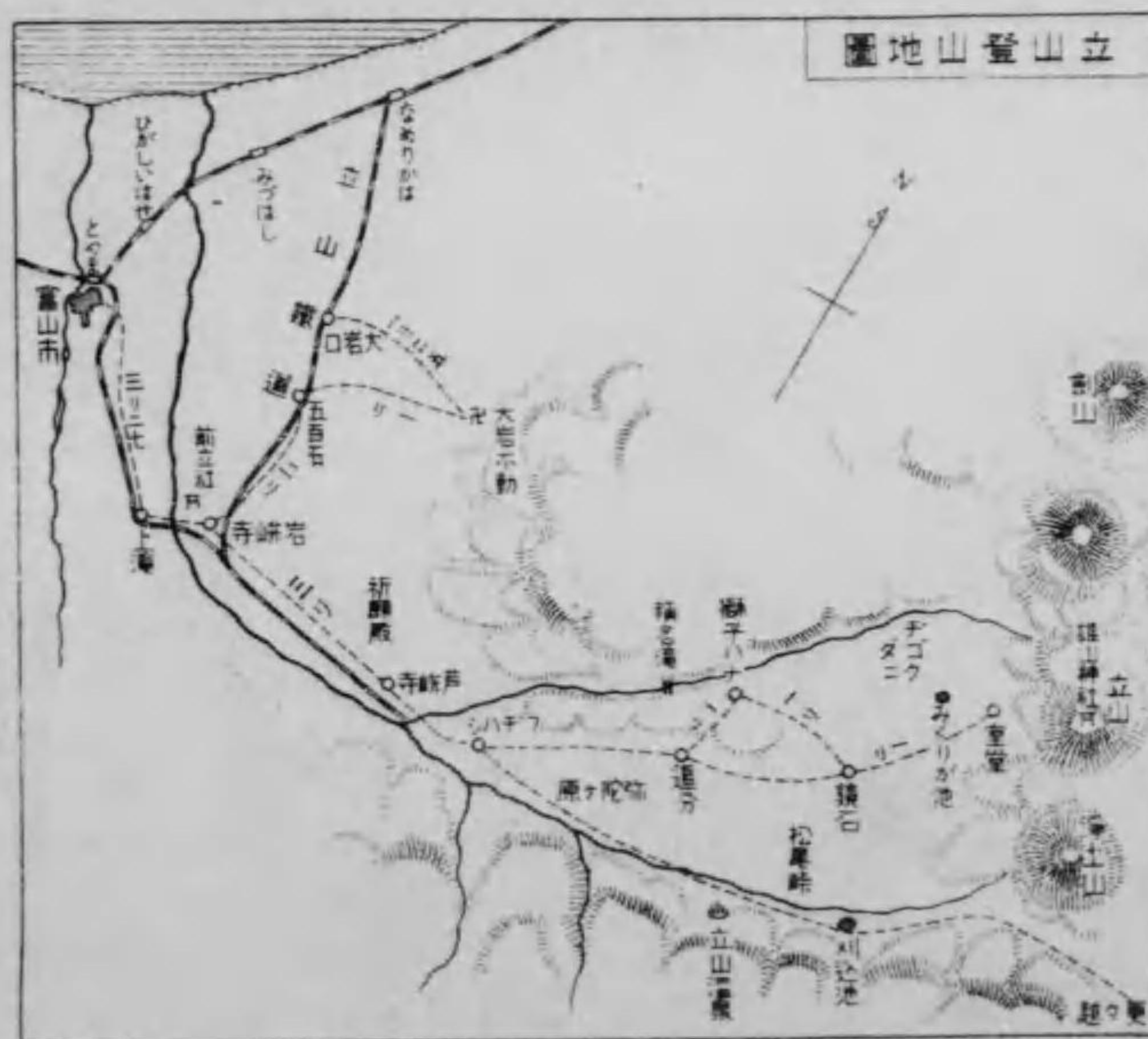
中越線 高岡から北は伏木、南は城端まで行つて居り、能
町からは輕便線が岐れて新湊へ行き、伏木からも亦輕便線が
雨晴、島尾を経て氷見まで行つて居る、其島尾には島尾遊園
地がある、伏木は開港場で大正七年の貿易額は輸出二十一萬
圓、輸入三十三萬圓である



【富山】(とやま) 一五三哩五 米原から七時
間半 もと前田氏支藩の地、神通川に跨り
越中平野の中央に在り、人口六萬二千人を
有して居る、此市の實業は其名四方に聞え



てどんな田舎に行つても反魂丹や熊膽丸感應丸等の名を知らぬものばなく、遠くは支那、西伯利亞、布哇へも輸出して居る、羽二重其他の絹織物も近年聲價を高めて来た、市内には電車があり南富山驛や美羽山公園方面に行つて居る、見物すべきもの神通橋、美羽山公園、賣藥會社廣真堂など、旅館富山ホテル、富山館、舟山館、立山登山、東南十六里、古來富士、白山と並稱せられて日本三山に數へられて居た、登山往復四五日を要す富山からは電車で南富山に行き其處から富山縣營鐵道は岩崎寺



を経て一本松まで十哩を開通し、一本松から山麓の藤橋まで六哩は今工事中である。滑川驛から立山輕便鐵道で行く人は岩崎寺で縣營線に乘換へねばならぬ、藤橋からはやがて急峻なる材木坂を攀ぢ、廣瀨なる彌陀ヶ原を経て、直下千三百五十尺の稱名瀧を見つ、海拔八千尺の室室に行く、堂は數百人を宿泊させる

ことが出来る、其傍には高山氣象觀測所があり電話も架せられてある。此あたり無數の高山植物あり、千紫萬紅燦爛たり、名高い地獄谷は堂の北八丁、熱氣常に噴出して地底沸々たる響を聞く、淨土山を経て絶頂にとると手力雄命を祀つた雄山神社あり、海拔九千九百尺七十二峯の稱ありて雄大なる眺觀比肩すべきものなく、信越濃飛其他日本中部に於けるあらゆる高峯を見、天際遙に富嶽を仰ぎ、日出の大觀言語に絶す、歸路は別山に廻りて險阻な松尾坂を下り、立山温泉に一泊し、常願寺川の谿谷を辿つて藤橋に出るが好い、登山期は七月廿五日から九月十日まで

富山市は富山縣廳所在地、舊は越中國を管轄して居る三面山を繞らして北富山湖に臨み、神通川、射水川下流の沿岸には富山平野ありて木の産が多い、飛騨山脈中立山は特に世に知られ、黒部川其間より出て、深き峽谷をなして居る。富山市は昔より醫藥業を以て名高く又羽二重の機械業が盛である、其間には銅鑛、漆器の産あり、伏木港は米を積出すことが多し

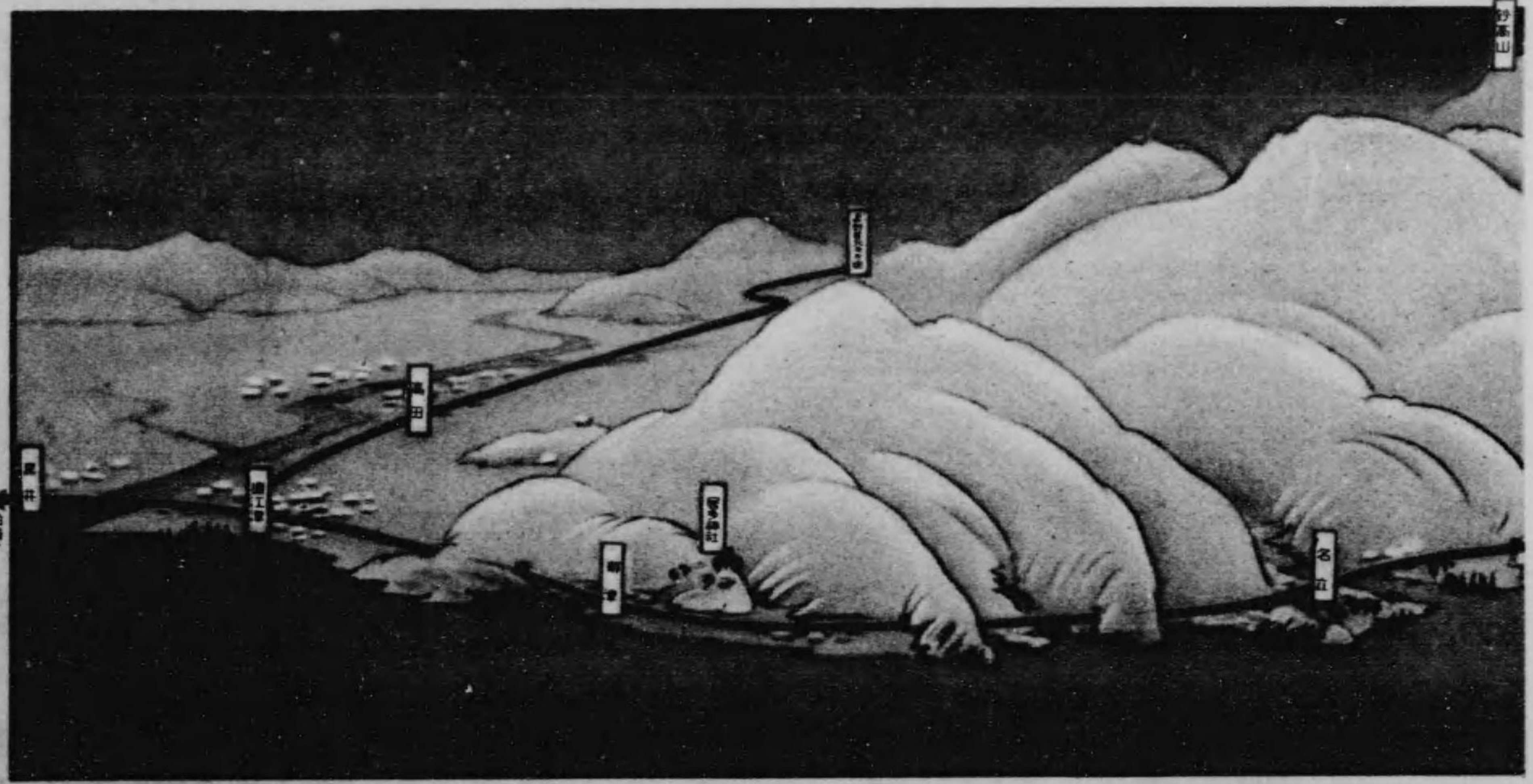
富山の主要産地		(大正八年)	
富山	五、〇二二、九八一	栃木	一、四九三、五二八
福井	一、〇二八、五六八	長野	一、〇五三、三三五
滋賀	一、〇二八、五六八	山梨	二、二一六、七三五
静岡	五、〇二二、九八一	群馬	(大正八年)
愛知	一、八一一、二四五	栃木	三、四二八、二二二
岐阜	一、五二二、二四四	群馬	一、六九四、五七九
富山	一、九八〇、一四一	長野	三、三二八、一八八
福井	一、一六五、三五八	山梨	(大正八年)
滋賀	一、二一八、四〇九	群馬	一、〇二九、七四六
静岡	九三二、九八九	山梨	九、九二六、二二四
愛知		長野	八、〇六七、五五一

【魚津(うをづ)】 海上に屋敷が現はれるので有名である、春夏の交水蒸氣最多い時期に朝霞暮靄の間に見ゆることあり

【三日市(みっかいち)】 ▼愛本温泉、驛から三里半、愛本橋まで二里半の間自動車馬車陣が行く

【泊(とまり)】 ▼小川温泉、東半里自動車四十錢、有磯海を見渡した眺が好い、親不知子不知は浴客一日の散策地である、旅館小川温泉株式會社旅館

【親不知(おやしらず)】 一九五哩二市振から親不知に至る間、飛騨山脈の末端の海に入る處、親不知の險がある、峭崿亂峙約一里、道路屢波に犯されて没し、行人波の間に覗うて走り返るのである、



若し風潮猝に襲ふ時は避けて岩窟に逃がる、是時に方て歩武の運速は忽ち死生の境をなすので親は子を省み、子は親を思ふの暇がないのである、秋冬の交朔風海を捲き怒濤激盪すれば往來通ぜず、北陸第一の危険である、今鐵道は山の牛腹を穿つて通じ、往時險難の場所も車窓より望見することが出来る、驛の東三丁に龍岩、東八丁に駒返しこまがへしの奇勝がある、【糸魚川】いとがけ二〇二哩六、姫川の河口東邊に在り、元松平氏の城邑である、この方面からの日本アルプス白馬山登山口である、糸魚川から姫川に沿うて進むと五里半にして平岩温泉あり、此處で強力を履ひ、約四里にして蓮華七湯に達す、夫れより白馬山頂まで約三里、石室あり三十人を容るべし、翌朝日の出を拜し大蓮華小蓮華を経て約三里にして蓮華七湯に歸る、又白馬山から乗鞍を経て大野川に出て松本に出てよい、▼小谷温泉、南六里、内三里人力車賃四十五錢、海拔三千五百尺、避暑に適する、【郷津】がうづ一二五里四、居多濱の小澳で近時築港の計畫がある、居多神社は東二十五丁、居多濱の松山に在り、上越後第一の名祠である、【直江津】なほえつ一二八哩三、信越本線接続點

名月や北國日和定めなき 芭蕉
北國や雪の中なる青嵐 樽良
時鳥待ちてや越の遅さくら 夏橋
立山や雪に分け入る雁の影 樽良

關西線

關西線とは

- 一 關西本線 名古屋、木津、奈良、湊町間一〇八哩八分
- 一 參宮線 龜山、鳥羽間四四哩五分
- 一 草津線 柘植、草津間二二哩六分
- 一 奈良線 木津、京都間二一哩六分
- 一 櫻井線 奈良、高田間一八哩二分
- 一 片町線 木津、片町間二八哩一分
- 一 和歌山線 王寺、和歌山市間五五哩三分、及貨物支線
- 一 城東線 天王寺、大阪間六哩六分及中之町連絡線

の總稱で、畿内の地に恰も蜘蛛の巣の如く敷設せられて居る。其本線は名古屋を起點として、伊勢灣に沿うて西し、龜山から南に參宮線を岐ち、鈴鹿山脈を横ぎりて柘植より北に草津線に分岐し、木津川に沿うて木津に下るのである。木津よりは北に岐れて京都に至る奈良線あり、西に岐れて大阪に至る片町線あり、本線は南して奈良の古都に至りて、高田に至る櫻井線を岐ち、王子よりは和歌山線を南に分岐し、天王寺よりは大阪市天王寺の東部を一周する城東線を岐ち、本線は湊町に至りて止まるのである。沿線の風光としては、伊勢灣の眺望あり、鈴鹿山間の風色あり、木津川に沿うて笠置山麓を走る間、四邊の風光一幅の畫圖を展開せるが如く、奈良の古都附近は温然たる嫩草山、鬱蒼たる春日山の邊、堂塔伽藍夢の如く現はれ、恰も身を千年の古に置くの思が湧き、懐古の情車輪の響と共に轉廻して、郡山、法隆寺あたり、心に史乘を迎へる人が多からう。王子よりは、大和川に沿うて川を渡ること三度、山水の景勝新である。列車は名古屋、湊町間三回の直通列車あり、伊勢大廟參宮者の爲には名古屋より六回、湊町より四回、京都より一回の參宮線直通列車を運轉し、名古屋、湊町間約五時間半乃至六時間、名古屋、

山田間約三時間半乃至四時間半、湊町山田間約五時間乃至六時間、京都山田間約五時間半を要す

關西本線 名古屋―湊町 一〇八哩八分

【名古屋】(なごや) 東海道本線接續點 【彌富】(やとみ) 一〇哩三尾西鐵道の接續點、當驛より長島を経て桑名に至る間、木曾川と榑斐川を渡る、尾西鐵道には津島驛から西八丁に津島神社あり、社殿壯麗、其舟祭は名高いものである、春は其近くの天王川の櫻が人を呼ぶ 【桑名】(くはなま) 一四哩九 養老鐵道、北勢鐵道接續點、榑斐川の吐口に在り、米穀の集散甚だ多く又材木の取引が盛である、往時の東海道五十三驛の一で、旅客は此地の焼蛤に舌を鳴し、渡船で熱田まで七里の海上を渡つたものである、鎮國守國神社は東十二丁舊城址に在り、松平定綱及定信を祀る、定信は即ち樂翁公である、大福殿寺は西南五丁、北勢の名刹である、多度山は西北三里、養老鐵道多度驛から近く、山麓國幣大社多度神社あり、法雲寺あり、八重谷の勝あり、桑名旅館、船津屋、京屋、江戸屋 【富田】(とみだ) 夏は海水浴場として富田濱臨時驛を設く、一帯の海邊沙白く海青く波靜である、旅館慶洋館、霞館 【四日市】(よっかいち) 二三哩二 四日市鐵道及三重鐵道接續點、伊勢灣に瀕する貿易港で、北伊勢第一の都會、人口三萬四千人を有し、四日市製油場、川村組陶器會社、東洋紡績會社等あり、萬古燒、綿絲布、漁網、肥料、生糸、茶、醬油、和紙、燒酎等を産す、大正七年の貿易額は輸出六百二萬圓、輸入四千三百二十九萬圓に上つて居る、旅館松茂、大正館 ▼湯の山温泉、北西四里、四日市鐵道の便あり、湯の山驛まで賃金五十五錢、湯の山驛から温泉場まで二十八丁、道は三瀧川の清流に沿うて風光佳、山駕籠賃金一圓三十錢、地は三面山を負ひ、東方遠く展けて伊勢灣を見る



山に櫻樹多し、花期四月中旬、旅館壽亭、杉屋 【加佐登】(かまど) ▼能褒野神社、西一里半、俵賃六十錢、日本武尊を祀る 【龜山】(かめやま) 三七哩三 參宮線の分岐點、元石川氏の城邑であつた、北八丁に龜山城址あり、旅館柏屋、魚庄

參宮線 この線は龜山から分岐し、津、松阪を経て、大廟の鎮座まします宇治山田を経て、景勝地鳥羽に至つて止まる線で、列車は大廟參拜者の爲に、名古屋、湊町、京都から直通列車を運轉してゐる 【一身田】(いしんでん) 七哩五 ▼専修寺、東二丁、眞宗高田派の本山、佛殿祖堂以下堂宇巍々として居る 【津】(つ) 九哩六 安濃鐵道、中勢鐵道、伊勢鐵道の接續點、上古三津の一、伊勢灣に臨み、附近を阿漕浦と云ひ、岩田川の吐口を港津として居る、藤堂氏の舊城市で勢州第一の都會、伊勢は津で持つゝの俗諺がある、今人口四萬八千人を有し、阿漕燒、津緞子、綿布等を産す、旅館聽潮館、大觀亭、岡宗 ▼津城址、東南十九丁 ▼借樂公園、西南三丁、關西屈指の名園、もと藤堂氏の山莊である、園内三重縣勸業陳列館あり ▼觀音寺、南半里、俵賃二十五錢 【阿漕】(あこぎ) 一二哩 津市の南端 ▼阿漕浦、北東十三丁、海水浴に適す、俵賃三十五錢、往古は伊勢大廟の神饌に供すべき御贄の漁場として殺生禁斷の地であつた、旅館千島館、竹島家 ▼阿漕塚、東北十丁、漁夫平次老母の難病に阿漕浦に棲む矢乾魚は無二の良薬だと聞き、禁斷を犯して網を投げた罪に依り、糞卷として海底に沈められたりと傳ふ、謡曲阿漕浦に委し ▼結城神社、東南十二丁、別格官幣社、祭神は結城宗廣である



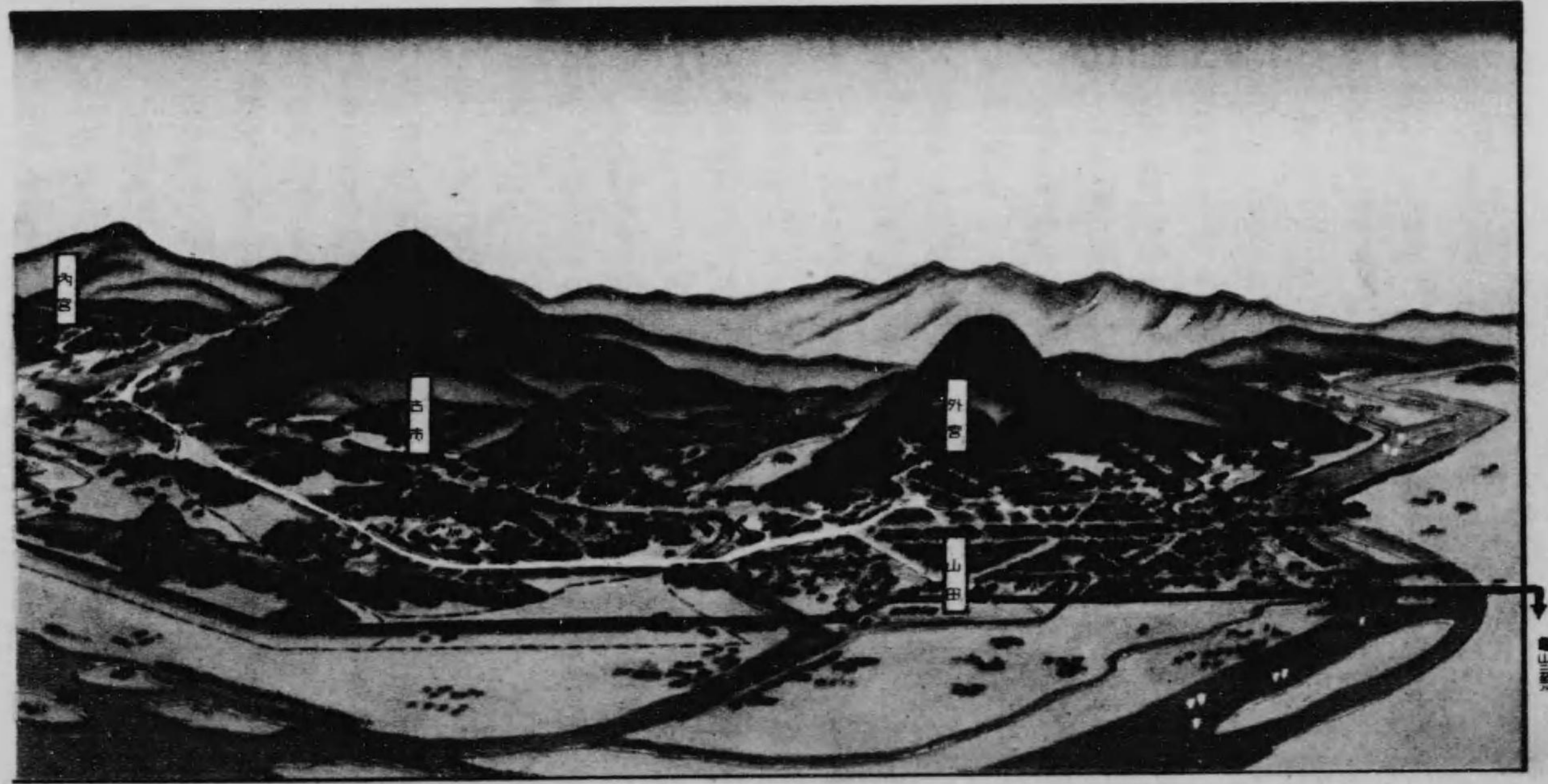
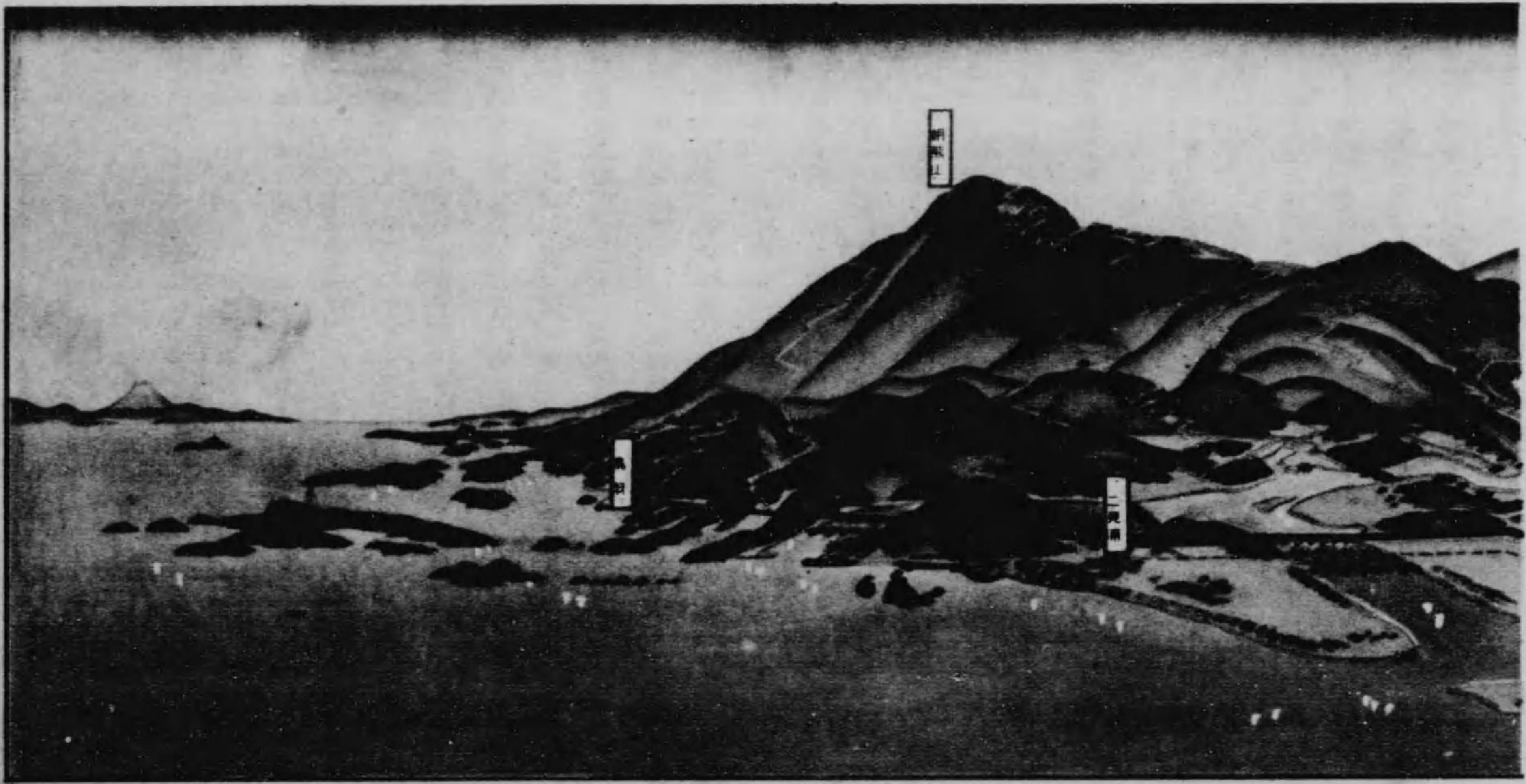
津市は三重縣所在地 縣は伊賀、伊勢、志摩の三國及び伊國の一部を管轄して居る、縣の西境には鈴鹿山脈立置山脈あり、東は伊勢灣に臨み、志摩半島其間に突出して居る、伊勢灣の沿岸は平野連り、米、粟、麥、茶等の農産に富んで居る、桑名は平野の北端に在り木製の市場として聞え、四日市は開港場で紡績製紙の工場あり、宇治山田は伊勢大廟があるの世に知られて居る、鳥羽は志摩の良港で附近には風車貝の養殖行はれ、又鮎の産が多い

龍崎の主要産地
三 重 二〇六八七八四 長 崎 一二九六六〇四
和歌山 一一一九八〇四 全 國 九四一八〇七四
(大正八年)

【高茶屋】(たかちや) ▼香良洲浦、東南三十丁、海水浴場あり
香良洲神社あり、俵賃五十錢 【松阪】(まつさか) 二一哩五
松阪輕便鐵道接續點、旅館山川ホテル、米屋 ▼松阪公園、
西七丁、蒲生氏郷の城址、鈴の家翁本居宣長の書齋あり、翁を
祀れる山室山神社も附近に鎮して居る、俵賃廿五錢 ▼宣長
の墓、西南一里三十丁、俵賃六十五錢 ▼岩内瑞嚴寺、西北二
里、境内櫻楓多し ▼大口海岸、東北一里、輕便鐵道賃十一錢
【相可】(あまか) 二六哩四 ▼柳田川の魚梯、三里俵賃一圓十
錢、鮎の湖上に便す ▼尾鷲港、南西二十三里、毎日二回自動
車の便あり、此方面から紀州熊野地方に入るには、鳥羽から
汽船によるか此處から自動車に頼むが好い、尾鷲からは
木の本まで發動汽船便あり、木の本から自動車一時間にて熊
野川の川口に近き新宮町に行ける、尾鷲岩城旅館【宮川】
(みやがせ) 三三哩三 ▼宮川堤の櫻、東十五町、俵賃二十錢
▼水産試驗所、西北一里 ▼明野ヶ原飛行場、北東二十二丁
【山田】(やまだ) 三五哩七 五十鈴川の上、神路山の麓、神さ
びたる一區の淨地がある、これが神祖、天
照皇大神を奉祀せる大廟のある所で、市を
宇治山田と稱し日本の所謂聖地である。今
人口三萬九千人を有し、春慶塗、宮木箸、篠
笛、茶、傘、紙煙草入、櫻紙等を産し名物赤福餅あり。山田よ
りは内宮、二見浦に至る電車あり、内宮より二見浦への電
車がある、電車賃、内宮まで十九錢、廻遊賃金内宮を経て二
見まで三十五錢、内宮二見を経て歸着するもの四十五錢、自
動車乗合、外宮内宮間五十錢、貸切外宮内宮間六人乗五圓、
時間賃一時間六人乗五圓、俵賃外宮まで二十錢、外宮を経て
内宮まで五十三錢である、旅館山田五二會ホテル、戸田家、



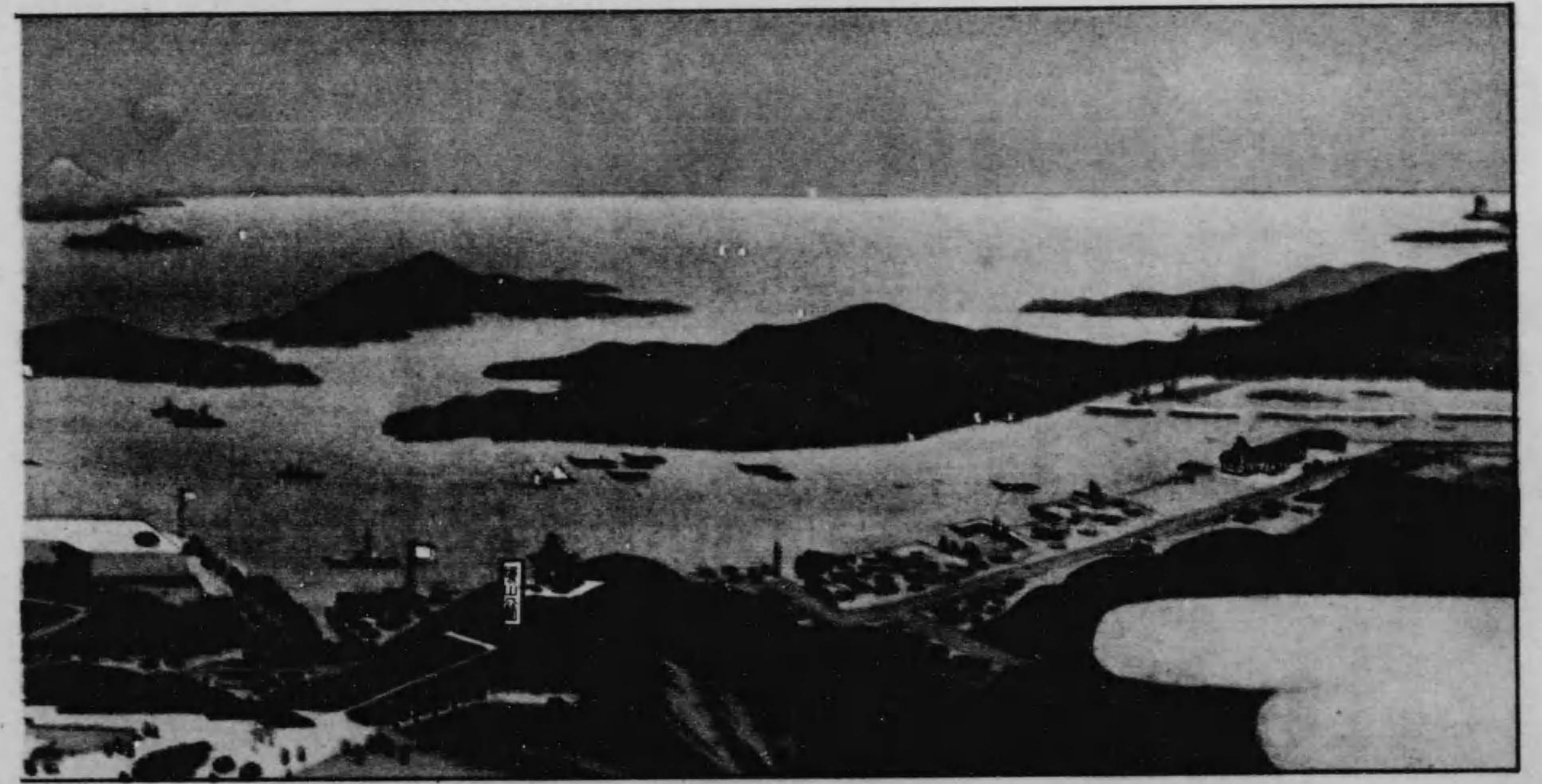
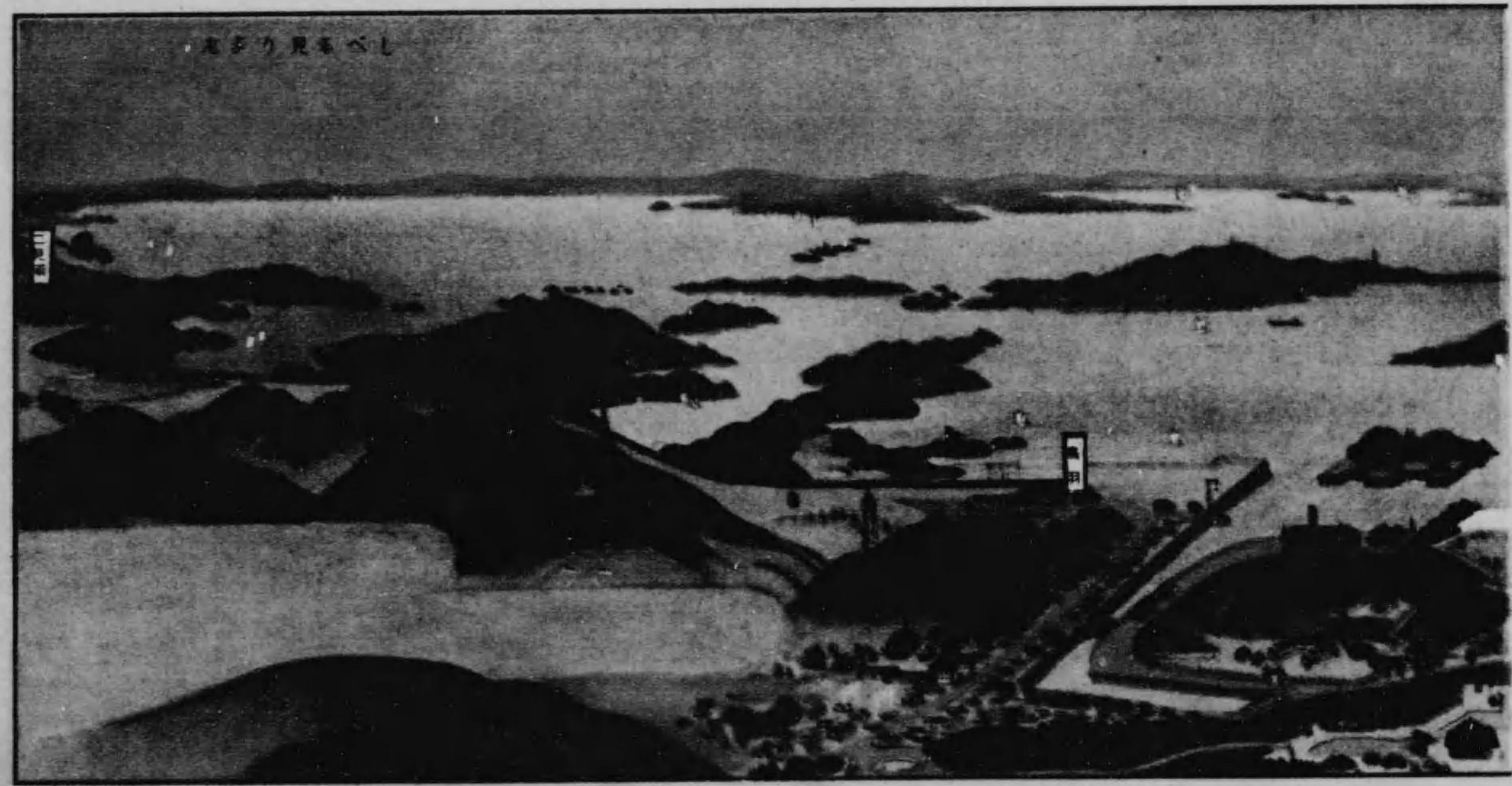
十五樓、油屋支店、高千穂館、神風館、宇仁館、古市油屋本
店、淺吉、大安、宇治大橋館、すし久、五鈴館、神州館
大廟は内宮と外宮に分れ、内宮は皇大神宮と稱し奉りて五
十鈴の川上に、外宮は豐受大神宮と稱し奉りて高倉の山麓に
鎮座しまして居る、外宮は山田驛より五町、雄略の御世今の
大宮地に鎮め奉られたもので、百穀發生のもとを掌り、天下の
人民に衣食を幸ひ給ふ神である。神殿は南向にて萱葺の獨立
柱、白木の儘の結構であるから、神代のさまも實にやと偲ば
れる。内宮は外宮を距ること凡そ五十丁、宇治橋に至れば、
五十鈴川流は澄みて、神路山は杜に茂つて居る。橋を渡れば
即神苑で、綠甍を展べたやうな芝生に處々稚松の點綴するあ
り、清涼の氣身に過りて、我已に塵世をはなれ、こと遠きを
覺ゆるのである。苑内大山大將奉獻の大砲と、東郷大將奉獻
の大砲がある、前者は二十七八年役、後者は三十七八年役の
戰利品として、共に神明加護の謝恩を表せる絶好の記念であ
る。尙進めば老柏古檜森然として天を衝き、蒼古幽遠の絶巖
高の情に堪へないのである。一ノ鳥居を経て、五十鈴川の水
に口嗽きて左に轉じ、二の鳥居をくぐり、御垣の下に跪きて
拜すれば、森々たる木立に風靜に渡りて、神下りますかと宮居
尊く、清淨無垢なる白木造に一點の塵も許さず、頼づけば得も
しらの美き薫り移りて、衣の香ばしきも嬉しく、木の間より
洩れ来る日の御影の嚴かなるを仰ぎては、何事のおはします
かはしられども、忝けなさに涙のはふり落つるを禁じ得ない
であらう。宮は崇神の御世までは、宮中に奉祀せられたが、神
威を瀆し奉らむことを恐れまして大和の笠縫の里に移しまあ
らせ、後垂仁の御世に倭姫命神跡を請けて、今の地に齋き祀
られたので、御靈代は長くも八咫の御鏡にして、三種の御神
器の一である。そもく内外兩大宮が皇室の宗廟として、舉
世尊崇の中心たるは、今更めて説くの要はない、されば四時



の祭祀莊嚴を極め、事あれば必ず勅使を遣はして奉告せらるるのである。特に明治三十七八年役を畢りて平和克復するや、聯合艦隊先づ來りて爰に詣で、尋で車駕親臨、親しく克捷奉告の祭を行はせられた、蓋し曠古の盛儀である。▼朝熊山、内宮より頂上まで一里二十九丁、麓まで一里七丁、俵賃六十五錢、桶部より一里半、桶部まで電車賃十三錢、桶部には俵が居らぬから、俵に頼る人はやはり山田から履ふが好い、山麓朝熊村から急坂二十丁を登るととうふや、其處から金剛證寺まで十餘町である、山は海拔一七〇〇尺伊勢灣の展望秀絶である。▼宮川堤の櫻、西二十丁。▼徴古、農業館、東南十四丁。▼神宮司廳、南一里一丁。▼神宮皇學館、南一里九丁。【二見浦】(ふたみのうら) 三九哩七 伊勢電氣接續點、沙白く松青く海水浴に適す、旅館朝日館、二見館、松島館。▼夫婦岩東北十四丁。▼御鹽殿、西北八丁。▼朝熊山、南二里。【鳥羽】(とば) 四四哩五、稻垣氏の舊城下、風光の美を以て開ゆ、旅館對月樓、皆春樓、對神館、錦浦館、長門館、角卯館、灣内菅島に於ける蟹の眞珠貝採りは旅客の喜ぶ所である、觀覽料一艘五圓。▼日和山、南三丁、鳥羽灣の風光を見るべし、山に無線電話局あり。▼樋ノ山遊園、南十三丁、麓まで俵賃二十五錢、皆春樓まで一圓五十錢、山は海拔三百尺鳥羽灣の風光觀望第一の地答志島、菅島、桃取島、辨天島、安樂島等大小十數島基布の如く脚下に浮び、伊良胡、知多の兩岬遠く蜿蜒として烟る、快晴の日は富嶽を始め駒ヶ嶽、八ヶ嶽等亦眼界に入り、展望廣闊風光明媚、陸前松島に勢歸たる景色を一眸の中に收む。▼鳥羽城址、東南五丁。▼鐵工所、東南三丁。▼伊雜宮東南四里三十丁 俵賃一圓四十錢 所謂伊勢大廟の裏宮で二千年來の古社である。▼御木本眞珠養殖場、東南六里、俵賃二圓三十錢。▼水産試験所 南八里、俵賃二圓九十錢

【關】(せき) 四〇哩八 此地古鈴鹿の關を置かれた所である、關地藏堂は北西四丁、其名世に顯はれ、一休和尚開眼の逸話を知らぬ人はあるまい、筆捨山は西北三十二丁岩根山とも云ひ景勝に富む、狩野法眼元信、此風光を寫す能はず、筆を捨て嘆じたるより此名ありと傳ふ、羽黒山北一里、景趣或は筆捨山に優る、往古の道は此山麓を過ぐ、所謂筆捨山とはこれを指すとも云ふ、鈴鹿峠は西北二里、田村將軍鬼神退治のこと謡曲に歌はれて居る、關から汽車を離れて鈴鹿峠にかゝり、坂下から峠を越え、土山を経て水口に至る昔の海道の草鞋旅は、秋季紅葉の季節に最興趣の多いものである。【柘植】(ついで) 四九哩七 草津線の分岐點、併聖芭蕉は此處で生れて上野で人となつたと傳へ記念碑が建つて居る、模範村玉瀧村は西北二里二十二丁、俵賃一圓二十錢、模範村中の模範と稱せらる、曾て荒廢せる寒村も今富裕なる模範自治體となり、施設經營に見るべきもの尠なからず、視察者毎年二千人に上る、佐奈具、深川驛よりも至るべし、玉瀧の隣村榎田村も亦模範村で、一里十四丁、俵賃八十錢。草津線 この線は柘植、草津間二哩六分の支線で、關西本線と東海通本線との連絡線である、京都から伊勢大廟へ參拜する人の爲には、この線を通じて毎日一回の直通列車がある。【深川】(ふかは) 七哩八 ▼宮乃溫泉、西南十九丁、俵賃三十五錢。▼鹽野溫泉、西南二十丁、俵賃三十五錢。▼模範村玉瀧村、南一里三十丁。【貴生川】(きよしかがは) 九哩五 近江鐵道の接續點、同線附近多賀神社や紅葉の勝を以て聞ゆる永源寺がある。【三雲】(みくも) 一二哩七 ▼天保義民記念碑、驛附近 ▼妙感寺、西南十七丁、藤原藤房の開基、境内楓樹が多い。▼野洲川砂防工事、北一里餘、車中よりも見るべし、此附近山地崩壞の爲め河底蓋上し、汽車陸道にて川下を通過すべき所謂天上川數條あり。【石部】(いしべ) 一七哩一 ▼新善光寺、西北二十五丁。▼金勝寺、南一里半、金勝山頂に在り、

露光量違いの為重複撮影



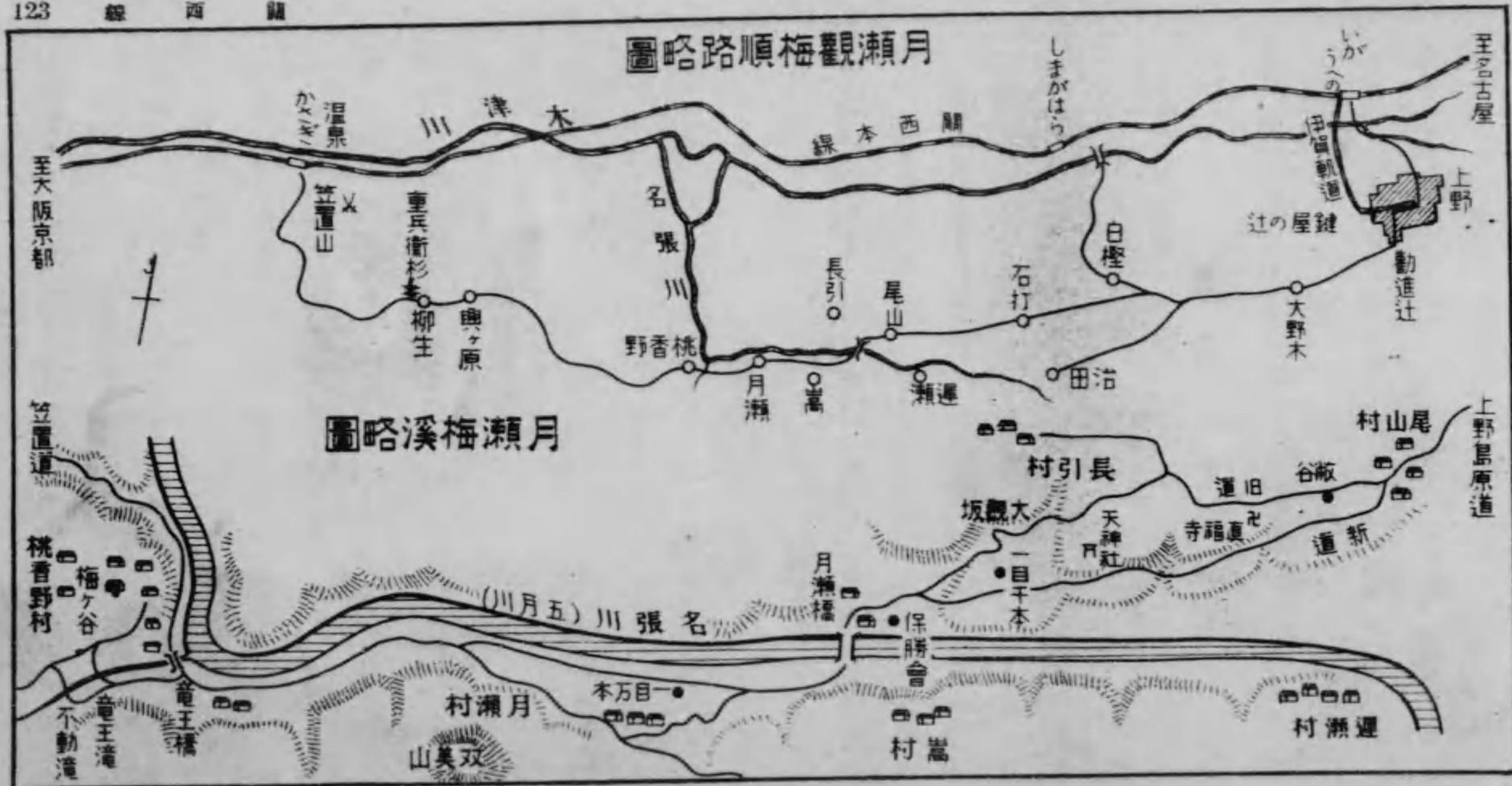
露光量違いの為重複撮影



観音寺とも云ふ、湖水眺望の勝地として世に知られて居る

【草津】(くさつ) 二二哩六

【佐那具】(さなき) ▼政國神社、南半里、南宮山に在り、伊賀第一の大祠今國幣中社に列して居る 【伊賀上野】(いがのへ) 五八哩八 伊賀鐵道接続點、同線は驛より上野町に至る二哩餘の短線であるが今秋名張まで延長開通の豫定である、上野町は伊賀第一の繁華地、藤堂氏の外城であつた、命、米、繭、生糸を産し名物ながさき菓子あり、旅館友忠、八百新、三田清、余吉、町の内外にて見るべきは舊城址にして今は上野公園なる上野城址春花秋葉の美もあるが、伊賀の國一圓の山河を一目に見渡す展望に公園の生命がある、町の愛染院には芭蕉翁の古塚があり観屋の辻は伊賀越仇討に名高い荒木又右衛門が渡邊數馬を援けて敵河合又五郎を討つた遺跡である、町为天満宮は社の宏壯と云ふより其祭禮に出る山車の精巧なのが評判となつて居る、小田村は町の隣村でこれも模範村である、西蓮寺は西南十五丁天台宗眞盛派の名刹、其開祖眞盛上人入寂の地で、其墓塔が残つて居る ▼新大佛寺、東三里半、自動車賃一圓、東大寺後乗坊重源上人の開基、石坐の上に丈六の尊像あり、上人の像、千體佛印など國寶が多い ▼月瀬の梅林、南四里、尾山まで自動車六人乗貸切往復拾貳圓、片道四十錢、待一時間一圓五十錢俾賃月ヶ瀬橋まで往復三圓九十錢、桃香野まで往復四圓三十錢、島ヶ原驛よりは道近けれど俚の便なし、月ヶ瀬は我國第一の梅林である、名張川水色綠碧、淵となり潭となり瀨となり、以て梅咲く村を貫く、香は二州に廣り、花は九村八谷に及ぶ、齋藤拙堂以來此地の勝、已に天下に聞えて居る、梅樹の最多いのは天神山の麓鷺の瀨の邊で、山隈水滸悉く白雪が薫つて居る、月瀬村は一村皆白く、月色清朗の夜杖を曳いて逍遙すれば、枝々光を帯び、暗香藪影疎影横斜し、身は既に畫中の景となるのである、溪はまた杜鵑花が多く、鄧獨山の稱がある、旅館騎鶴樓、香



露光量違いの為重複撮影



雲亭、雪中庵 ▼赤目四十八滝、同南六里半、俵賃二圓六十錢
 貸切自動車六人乗十二圓、乗合一圓五十錢、伊賀鐵道は近く名
 張まで開通する筈である、瀧は名張川の一支源に連り續いて四
 十八を數へ、中に布曳の瀧は高さ百八十尺最偉觀である ▼香
 落湖、名張から二里、青蓮寺川の兩岸岩山對峙二里餘に及び、玉
 の如き其間を曲流するところ、歩々景觀を新にす、奇景甲州御
 嶽新道に優る 【鳥ヶ原】(しまがはら) 六三哩三 ▼月瀬梅林、西
 南二里半、▼正月堂、北十二丁 【笠置】(かさぎ) 七一哩一 驛
 附近の風光清絶、温泉あり、鮎流の樂あり、加ふるに元弘帝蒙
 塵の遺跡笠置山あり、觀月の勝地として知られて居る ▼笠置
 山、東十丁、丘陵峻崖木津川に遮つて居る ▼笠置鑛泉、東
 三丁、旅館笠置館 ▼月瀬梅林、南東三里半、途名張川の流に
 沿うて風光佳、上野から行つた人は、この道を取つて笠置に出
 るが好い 【加茂】(かもし) 七五哩二 ▼淨瑠璃寺、南東一里、俗
 に九體寺と云ふ行基の開基、俵賃後押付一圓 ▼瓶の原、北十
 丁、聖武天皇の恭仁京址である 【木津】(きづ) 七八哩九 奈良
 線、片町線の分岐點

奈良線 この線は木津京都間二一哩六分の支線で、關西本
 線と東海道本線との支線である、記事は多く京都の遊覽區域
 として既に記載したが、尙主要なるものを摘記する 【木津】
 (きづ) 關西本線接續點 【玉水】(たまみづ) 四哩七 ▼玉川の
 山吹、東二丁、玉川は木津川の一支流、川畔山吹の老林叢生
 して花恰も黄金の帯を延べたるが如し、歌枕に名高き井手の
 玉川は此處である ▼山吹山、東三十丁 【長池】(ながいけ)
 ▼青谷梅林、東二十丁 【宇治】(うぢ) 一二哩四 宇治茶の本
 場である、宇治以北は東海道線京都の部参照、既記の外縣神
 社、興聖寺、宇治神社、宇治橋の斷碑、離宮八幡、橋寺、倘
 姫祠、三室戸寺、浮島の寶塔等あり、名所廻遊、俵賃一圓二
 十錢、旅館菊屋、花屋敷浮舟園 【木幡】(きはた) 一五哩 ▼萬

福寺、南十六丁、電車の便あり、禪宗黃檗派の本山、明僧隆元
 の開基、殿宇の結構明の遺制に賴る ▼日野薬師、東北半里
 阿彌陀堂薬師堂は特別保護建造物で佛像も國寶となつたのが
 多い、日野家の莊園の跡で親鸞上人産湯の井がある ▼醍醐
 寺、三寶院、東北三十五丁、寺は醍醐帝の特建で眞言宗醍醐
 派の本山、一山上下に分れて居る、三寶院を始め、五重塔、金
 堂、清瀧社、經藏、五大堂、薬師堂など皆特別保護建造物で
 國寶となれる佛像古文書などが多い、秀吉屢々此處に觀花の
 宴を催したりと云ふ 【桃山】(ももやま) 一七哩二 旅館澤文
 寺田屋 ▼伏見桃山御陵、明治天皇の御陵である、東北十丁、
 俵賃往復五十錢 ▼伏見桃山東御陵、昭憲皇太后の御陵であ
 る、東北十一丁、明治天皇の御陵を拜して、次で此御陵を拜す
 る順序となる、歸途乃木神社に廻つて驛に出るが好い ▼恒
 武天皇御陵、西北九丁、俵賃往復十五錢 ▼醍醐天皇御陵、北
 東五十丁 ▼朱雀天皇御陵、北東五十丁 ▼御香宮、北四丁、
 神功皇后を祀る ▼巨椋池、南西十四丁 【稻荷】(いなり) 驛前
 官幣大社稻荷神社あり、朱閣丹樓老樹の間に隱見す 【京都】
 (きょうと) 二一哩六

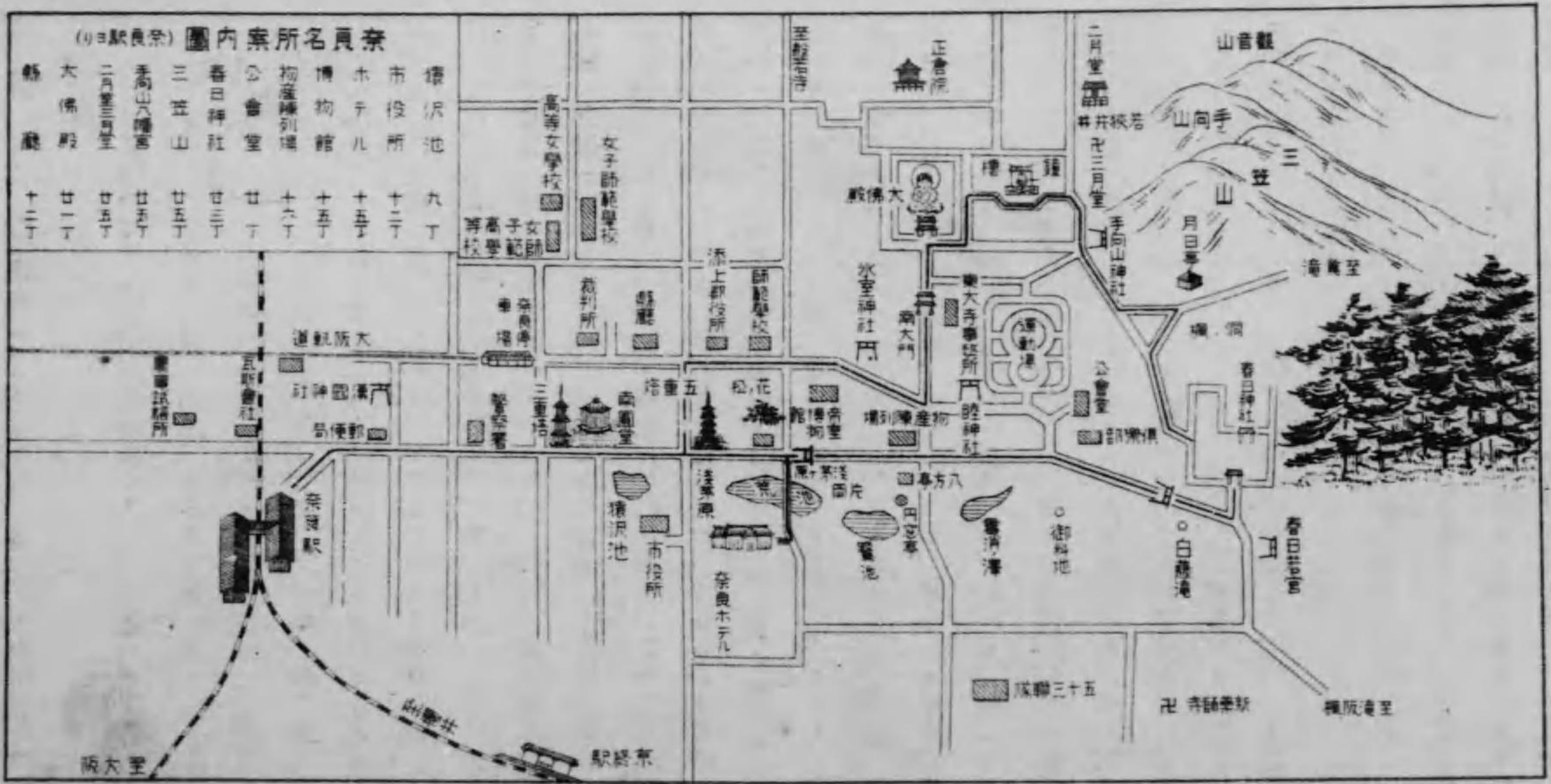
片町線 木津、片町間二八哩一分の支線である 【木津】
 (きづ) 關西本線接續點 【田邊】(たなべ) 七哩七 ▼新一休寺、西
 七丁、一休入寂の地 【長尾】(ながき) ▼博士王仁墳、東南四丁
 【津田】(つた) ▼源氏の瀧、東南十丁、俵賃三十錢 【四
 條驛】(しよんがはて) 一九哩九 ▼別格官幣社四條畷神社、東
 八丁、飯盛山の西腹に在り、楠正行及正時の靈を祀る、社地
 は正行が決死吉野を出で、敵の大軍と奮戦した處、四條村字
 北條に今猶ほ暖の遺路を存して居る、小楠公の墓は驛の西四
 丁、田畝の間に在る 【野崎】(のさき) ▼野崎觀音、驛前、堂
 の後院本で有名なお染久松の墓がある 【片町】(かたまち) 二
 八哩一 大阪市内北區に在り、造幣局、砲兵工廠等に近し

【奈良】(ま) 八三哩三 大阪電氣軌道接續點 【郡山】(こほりやま) 八六哩二 【法隆寺】(はよりうじ) 九〇哩六 大阪電氣天理線接續點



大和は名勝の國である、歴史の國である、宗教の國である、美術の國である、日本上古史を繙くもの誰か此一國が史實の大半を占めて居るを知らざるものがあらう。而して其中心點は實に奈良の古都である。地は大和平原の東北隅を占め、東に三笠山を負ひ、生駒山、金剛山は西の方指呼の間に在り、元明天皇より以下七代七十餘年間の帝都たりし所で、今なほ其時代の神社佛閣の残つて居るものも多く、洵に我邦文藝美術の淵藪と謂ふべきである。西人嘗て此地に遊び、其山容水態の優雅なるを見て、奈良の風物は佳酒の如し、人をして美情煦々眠りを思はしむと云つた、まことや足一度奈良の地を踏んで先づ温然たる嫩草の山に向へば、體緩に神舒ぶるの感がある。今の市街地は古都の外郊に當り、當時の大宮人の櫻がさして逍遙した遊覽地である。市は現時人口四萬人を有し、奈良人形、鹿角細工、根來塗、奈良晒布、蚊帳、奈良漬、霰酒、筆墨等の産あり。奈良公園に近く鐵道經營の奈良ホテルがある、驛より十五町、春日野公園の一隅に位して池に臨み、形勝の地を占めて居る、建築は四邊の風光に適應せしめむが爲に古風宮殿の式に據り、設備も行き届いて居る、専用自動車あり、停車場の送迎は片道一人金五十錢、市内外巡遊一時間四圓(定員三人)である、旅館は奈良ホテルの外藥水樓、對山樓、魚佐、月の家、大松樓、大文字屋など

春日神社、東大寺、興福寺境内は今奈良公園となつて居る、規模の大、風致の美、海内他に比すべきものはない。俵貨、興福寺、春日神社、三笠山、大佛殿廻り四十五錢である。猿澤池は驛より九丁、謠曲采女の古蹟で興福寺の南崖下に在る、池に





奈良

春日神社



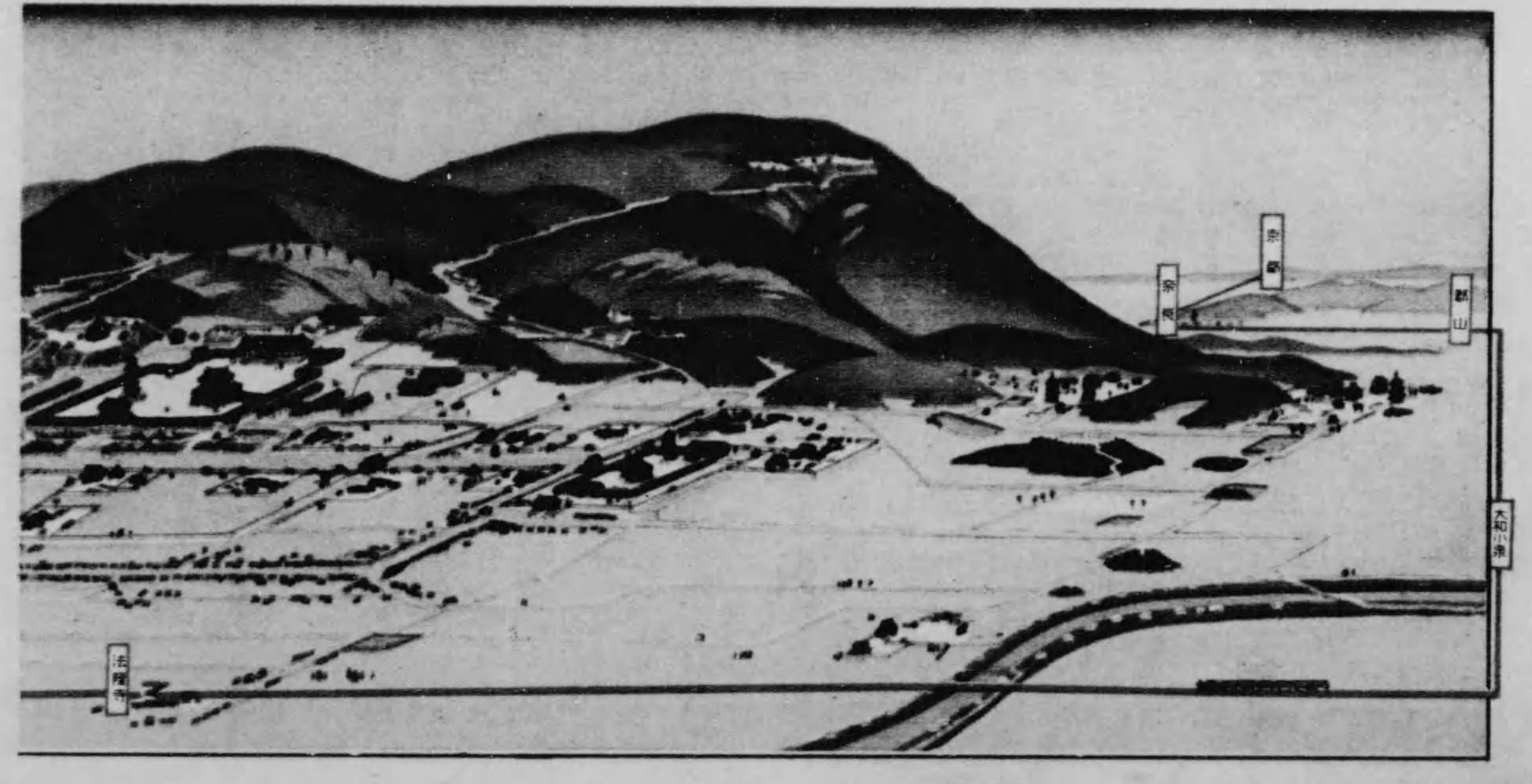
は鯉が多く、俗に魚七分水二分と云つて居る、石階を登れば興福寺とて、古の宏大壯麗な有様は今も見る事が出来ないけれど、尙南圓堂、北圓堂、東金堂、假金堂、五重塔などがある、南圓堂は八角寶珠形の堂宇で、古色愛すべきものがある、堂の南に三重塔がある、北圓堂は境内最古の建築で、藤原時代、南圓堂五重塔は應永年間の再建で、東山時代の趣味を發揮したものである、東金堂の前に弘法手植の花の松がある、清陰百歩の地に敷いて、花よりも麗である。師範學校内に在る八重櫻は、東圓堂の址に、古の奈良の都の名残を留めて居る。奈良帝室博物館は寺の東に在りて驛より十五丁、俵貫三十四錢、其陳列品は歴史美術工藝の三部に分れ、皆優秀なる寶物である。一の鳥居を潜れば官幣大社春日神社の境内で、春日野の若草煙るが如く萌えて居る、路の左傍は淺茅ヶ原で、梅の木が多く、雪消澤も近くにあつて、若菜摘んだ古がなつかしい。いはゆる神鹿は諸人の興がる所で、或は芝生の上或は小流の畔、或は路傍に或は樹陰に三々群をなし、伍々隊を作りて人の袂をひいて食を乞ふさま洵に愛らしいものである、十月中旬に行ふ鹿の角切には遠くより見に行く人もある。賽路の左右には燈籠が多い、廟宇の華麗なことは更めて説くに及ぶまい、祭神は四座四字百五問の廻廊左右に渡り、千體の釣燈籠、繡華花の如く古色揃すべきものがある、詣路の石燈、社内の掛燈、毎年節分の夜悉く點火すと云ふことである、又毎年十二月十七日の祭體には古代行列の催がある、廟の背後に峙てるは春日山で、一山鬱蒼として見る目も心地がよい、青海原ふりさげ見れば」と仲鷹をして故郷の月を戀ひしめたのはこの山である。嫩草山はまた三笠山ともいひ、満山小芝生で山容温藉笠を覆せたやうである、毎年二月中旬に山焼あり、偉觀自ら人をして快哉を叫ばしむる、春焼の後は殊に雅趣あり、兒女の麗粧して遊べるありさま、宛然土佐家の圖様を見るやうである、山の麓を東行すれば五十丁にして鶯

の瀧に至る、青翠森然、幽邃の趣清涼の氣身邊に逼りて塵世を遠く隔てたるの感が起る、俵貫五十錢

手向山の八幡宮は楓の名所、其處を過ぐれば東大寺で、二月堂、三月堂、四月堂がある、中に二月堂は山腹に倚りて眺望がよい、毎年三月一日より十四日に亘りて水取祭あり、京阪地方よりの參詣が多い。三月堂は奈良第一の古建築で、人をして天平時代の建築を偲ばしめる。大佛殿は即ち東大寺の本堂で、結跏趺坐五丈三尺五寸の盧舍那佛を安置してある。仰望其偉大なるに驚かぬものはなからう。これが今より一千二百年前の鑄造かと思へば、世界の珍とせらるゝのも尤なことである、驛より二十一丁、俵貫四十四錢である。正倉院は大佛の西北に在り、本邦無雙の寶庫で、聖武天皇御遺愛の貴重品を納め、今帝室の有に歸して居る、驛より廿五丁、俵貫五十錢

正倉院前より西して東大寺の轉吉門を出で、更に五六町行けば、宏闊なる一帯の風光が眼前に展開せらるるのである、遠く南を眺むれば、平野の極まる所に畝傍、香久、耳成の三山相竝び近く東には観音山、嫩草山、春日山諸丘陵相連り、西は生駒、志貴の諸山蜿蜒として相接し、雲煙縹渺として宛然一幅の名畫を展べたやうである、元明以降七朝七十餘年、咲く花の匂ふが如く盛んであつた奈良の古都は、實にこれら諸山に圍まれたる、この一帯の廣き盆地に構へられたのである

法華寺の西數丁、土俗大國の芝と稱する芝生は、古の大極殿の遺址で、其西北に雜木林の繁茂した處は内裏の址であるといふ。都跡村佐紀に至れば路が三つに岐れて居る、一は北秋篠寺に至り、一は西大寺に至り、一は南郡山に行く道である。賽者はまづ北して秋篠寺に詣り、西大寺に行くがよい、西大寺は南都七大寺の一眞言律宗の本山で、殿堂は近世復興したものであるが、尙宏大の遺制を存して居る、寺を出でて南すれば、一帯の地風情ある松林が續いてゐる、これが唐招提寺の境内である、



寺は唐僧鑑眞の創建したもので、南都七大寺中、典雅幽深千古の風色を傳へて居るものは、法隆寺以外この寶坊あるのみである。本堂の後にある講堂は、平城宮の朝集殿を賜りて移建したもので古色揮するに足るものがある。山門を出でて尙南すれば疎林の間一塔高く中天に聳えて居るものが見える、これが藥師寺である。寺は南都七大寺の一で、天武の勅願所、孝謙天皇當寺を以て行在所と定められたので、今尙西の京と唱へて居る。本堂の本尊藥師如來は金銅の立像で脇士は日光月光の二尊である、これが嘗てフェノロサをして世界無比の鑄造佛であると驚嘆せしめたものである、東塔は三重であるが塔階があるから、恰も六層を見るやうである、塔と相對して佛足堂がある、中に有名な佛足がある。寺を出でて南すれば羅城門址、即ち古都の南の果で、郡山町の北である。

郡山は奈良の次驛で柳澤氏の舊領地である、白木綿、紡績等を産し、名物城の口あり、城址は町の西偏にあり、附近築敵多く夕陽花光城壁を照らすのである、我朝の古美術は、奈良の古刹殊に法隆寺に其粹を集めて居るとは、斯道の人の唱ふる所である、寺は法隆寺驛の北十三丁、俵貫三十五錢、歷朝勅願寺中第一の古刹である。本邦古美術中、其舊態を存せる點に於て、此寺の右に出づるものなく、從て保護建築物及國寶の數頗る多く、中にも金堂、五重塔、中門は、元明朝のまゝであつて雄大絶倫である、伽藍の結構配置恰も人面を形成して居るので佛面伽藍とも稱へて居る。南大門を入りて中門へ至れば、門を中心として廻廊左右に連り、北折して金堂及五重塔を包み、直に其後なる講堂に達して、おのづから一廓を構成して居る、金堂は五間四面の重層で裳階あり、これに對して無限の美感を催さぬものはなからう、堂内の四壁は悉く四佛淨土圖及菩薩諸像を畫き、天井裏には蓮花の描寫あり、有名な王虫厨子もまたこの堂内に安置してある。金堂を出づれば西に五重塔があつて、内に泥塑

の佛像人物山水等を配置してある。夢殿は太子の三昧定に入らせられた所で八稜形の建築、本尊の觀音は太子等身の像である。凡そ此寺は其建築に於ては推古朝の典型を遺し、法寶に於ては隋唐三韓の光明を傳へて居る、これが識者の推賞して措く能はざる所以である。法輪寺は法隆寺の北六丁、これより東六丁にして法起寺がある、聖德太子岡本の宮の跡で、其三重塔は法輪寺の三重塔と共に推古朝に屬して居る。廣瀬神社は驛南十五丁俵貫十七錢、官幣大社で歷朝祈年の大祀である。▼奈良縣廳、奈良驛より東十二丁 ▼物産陳列所、同東十六丁 ▼市役所、同東十二丁 ▼公會堂、同北東二十丁 ▼農事試験場、同北六丁 ▼女子高等師範學校、同東十四丁 ▼尾花座、同東十二丁 ▼攝津紡績工場、郡山驛より北十丁 ▼藥師寺、同北半里 ▼唐招提寺、同北二十二丁 ▼西大寺、同北一里十丁 ▼垂仁天皇御陵、奈良驛より北十六丁 ▼安康天皇御陵、西五十四丁 ▼孝謙天皇御陵、北西五十四丁 ▼成務天皇御陵、西五十四丁 ▼平城天皇御陵、西三十六丁 ▼元正天皇御陵、北三十六丁 ▼元明天皇御陵、北三十六丁 ▼聖武天皇御陵、北十六丁 ▼開化天皇御陵、東北四丁 ▼光仁天皇御陵、東南三里

奈良市は奈良縣廳所在地で、縣は大和國を管轄して居る、北半の大和當地は神武天皇の橿原宮都以來桓武天皇の平安京遷都まで久しく帝都の地であつたので、到る處史蹟に富み、特に奈良市附近に其神を集めて居る、當地の中には廣産多く又木綿織を出して居る、縣の兩年は殆ど山地にて大塚原山、山上嶺等の高峯あり山中林産に富み、吉野杉の名産、世に聞えて居る。

奈良	一〇一六、一四九圓	埼玉	一、三〇九、六七圓
愛知	四八七、五八三圓	全關	四、七五〇、一〇七圓
奈良	二七九、七二〇圓	三重	一、四三三、四二圓
全關	三、一四一、五二圓		

紅茶の主要産地 (大正八年)

櫻井線、この線は奈良、高田間一八哩二分の支線で、沿線には名所舊蹟が多い【奈良】(な) 關西本線接續點【帶解】(ま) (ま) (ま) ▼圓照寺、東北半里 ▼帶解地藏尊、東南三丁 【樺本】(ま) (ま) ▼柿本寺、東南三丁附近人磨塚あり 【丹波市】(ま) (ま) 六哩一 天理輕便鐵道接續點 ▼天理教會

本部、東九丁、俵貨三十錢 ▼石上神社、東十五丁、俵貨四十錢、官幣大社、社域山に據り、林を貫ひ、頗る清西である
 【柳本】(なぐさもと) ▼天和神社、北十二丁 官幣大社 ▼景行天皇御陵、東南七丁、▼崇神天皇御陵、南十丁 【三輪】(さんりん) 一哩一 ▼大神神社、東五丁、三輪山麓に在り、官幣大社 國家修成の功神、大物主神を祀る、社前三輪の茶屋あり 【櫻井】(さくらい) 一二哩二 長谷鐵道の接續點 ▼舒明天皇御陵 東十五丁 ▼崇峻天皇御陵 南三十二丁 ▼文珠院、西南十丁 本尊は獅子に騎つた文珠菩薩で、丹後の切戸、羽前の永井と共に日本三文珠の稱あり ▼多武峰談山神社、南一里半 俵貨一圓二十五錢、藤原鎌足を祀り別格官幣社に列す、祠殿莊麗、西の日光と云はれて居る、境内櫻楓が多い ▼長谷寺、長谷鐵道の初瀬驛より東十丁、俵貨三十錢、寺は初瀬山の牛腹に在り、殿堂、廻廊共に宏壯、古來櫻花の名所として聞え、今境内に牡丹が多い、殿堂の構造は京都清水寺に似、三折百八間の長き廊下あり、廊角毎に風情ある鐵燈籠を掲げてある、春宵月籠なるの時獨り此廻廊を逍遙すれば、古燈籠の火美しう櫻花に映じて、光景已に千年のものである、蓋し三輪初瀬邊は古へ奈良朝の時、公卿百官の悠遊一日を消した處で、古文學を綴く人の目になつかしい地である、櫻は彼岸櫻八重櫻多く、花期三月下旬より四月中旬に亘る、謡曲玉葛の墓もこの近くにあり、旅館井谷屋、紀の國屋、大野屋 ▼室生寺、初瀬の東四里、俵貨三圓、自動車大野まで一圓五十錢、夫れより徒歩約一里半、大野からは自動車で伊賀の名張に出られる、寺は弘法大師の再建で女人高野の稱あり、五重塔其他保護建造物に指定せられ、國寶となれる寶物多し
 【畝傍】(うねび) 一五哩二 旅館竹葉亭、池竹亭 ▼畝傍山東北御陵、西南十丁、俵貨廿五錢、自動車貨廿五錢、皇祖神武天皇の御陵である、區域周圍四百七十間、繞らすに二重壕と瑞

籬とを以てし、松樹其の間に趣致を添へて、うたゝ敬虔の念を儼さしむる、一昨年は恰も二千五百年式年祭に當り、畏くも聖上皇后兩陛下畝傍に行幸啓の上御親祭あらせられ、次で神宮に御參拜あらせられたのである ▼橿原神宮、御陵の南十丁俵貨卅一錢、神武天皇及皇后媛踏輪五十鈴媛を祀り、官幣大社に列す、地は神武創國の皇居の址で、國家發祥の地である、賽者群を正して帝業の偉大なるを想ふであらう ▼綴靖天皇御陵、西南八丁 ▼懿德天皇御陵、西南二十丁、▼安寧天皇御陵、西南二十三丁 ▼宣化天皇御陵、西南三十五丁 ▼孝元天皇御陵、西南三十丁 ▼欽明天皇御陵、南東三十七丁 ▼文武天皇、持統天皇御陵、南東三十七丁 ▼文武天皇御陵、南東五十五丁 ▼久米寺、西南廿二丁、俵貨三十五錢、久米仙人の由緒のある寺である ▼飛鳥神社、東南一里九丁、俵貨六十錢 ▼岡寺、橘寺、共に南一里十五丁、俵貨七十八錢、自動車貨六十五錢 ▼天の香具山、東南廿八丁 ▼畝傍山、西南二十丁 ▼耳成山、東北十丁 【高田】(たかた) 一八哩二

【玉寺】(たまてら) 九二哩八 和歌山線の分岐點 ▼孝靈天皇御陵 南半里 ▼龍田神社、西南二十丁、官幣大社 ▼龍田川の紅葉 北東二十五丁、紅葉の勝地、謡曲龍田に其名著し、龍田橋あり 楓樹が多い、俵貨五十錢 ▼達磨寺、南八丁 ▼信貴山多門天 西北一里、堂塔懸崖の上に倚つて畫中の趣を添ふ、乗合自動車 八十五錢、俵山麓まで二十五錢 【柏原】(かしはら) 九八哩七 大阪鐵道の接續點、同線附近も名勝が多い、道明寺附近の地は大 阪陣の時の古戰場として名高く、古市、櫻田附近は歴代の帝陵 が多い、富田林より石川を渡りて東南に進めば、金剛山の翠色 鬚眉を壓し、人をして楠正成の千早、赤坂に於ける武勇を追想せ しむべく觀心寺、天野山には吉野朝末路の悲しむべき遺蹟があ る ▼道明寺、天滿宮、東南二十五丁 ▼玉手山遊園、東南三

十町 ▼葛井寺、西南一里四丁 【平野】(まの) 一〇四哩一
 南海電車接續點 ▼大念佛寺、南 三丁 【天王寺】(まのうじ)
 一〇六哩五 城東線分岐點、同線は大阪市の東邊を繞り、桃谷、
 玉造、京橋、櫻宮、天満を経て大阪驛に至つて東海道本線と
 の連絡を保つ支線である ▼天王寺公園、驛前に在り、大阪市
 内第一の新公園にして、和洋兩風に分れ、綠樹繁茂し四季花を
 絶たず、煙の都の中の一勝地で忙中の閑を偷むに絶好の地であ
 る ▼動物園、西五丁 ▼夕陽丘北十四丁 ▼新世界、西六丁
 ▼四天王寺、北七丁 ▼一心寺北十丁 ▼雲水寺、北三丁
 【湊町】(みなとまち) 一〇八哩八 大阪市内南部に在り、道頓堀、
 千日前に近し、驛前より電車に乗れば直路梅田の大阪驛に至る
 べし、大阪高野鐵道、南海鐵道の起點近くに在り、記事は東海
 道本線大阪驛參照、驛附近旅館浪花旅館、岸澤屋支店 ▼道頓
 堀、千日前、東四丁 ▼四天王寺、南二十六丁 ▼生國魂神社、
 東十六丁 ▼高津神社、東十五丁 ▼天満宮、北東一里 ▼今
 宮戎神社、南二十丁

南海鐵道は大阪難波から南に攝河泉の海岸を縫うて和歌山に
 行く、同線は名勝の主なるものは ▼今宮戎神社、今宮戎
 驛より東半丁 ▼阿部野神社、岸の里驛より東五町、北島親房、
 顯家を祀れる別格官幣社である ▼紹鳳の森、同東二丁、茶人紹
 鷗舊樓の地、豊公塀の政所へ往來の途次、此茶亭に與を止めら
 れたので、天下茶屋の名が起つたと傳へて居る ▼官幣大社住吉
 神社、住吉公園驛より東二丁、神社の構造は魚鱗鵝翼の備を
 顯はした住吉造である、境内の反橋と高燈籠が名高い、高燈籠
 の近くに住吉菖蒲園あり ▼妙國寺、堺驛の東北十二丁、境
 内に名高い大蘇鐵あり、信長が京都へ移植し
 たところ「妙國寺へ歸りたい」と泣いたと云
 ふ蘇鐵である ▼仁徳天皇御陵、同東南三十
 丁 ▼大濱潮湯、同西五丁 ▼堺商品陳列

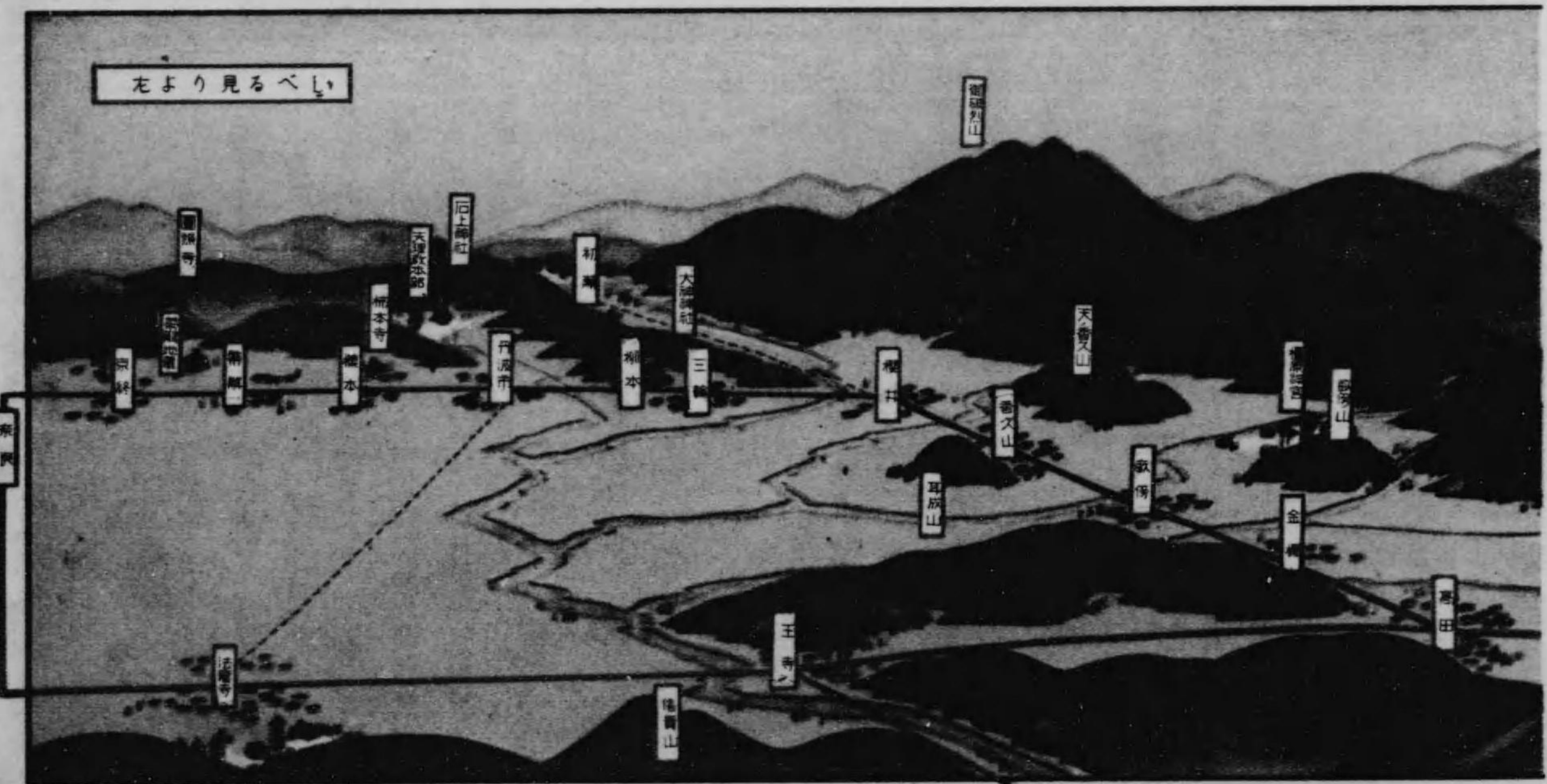
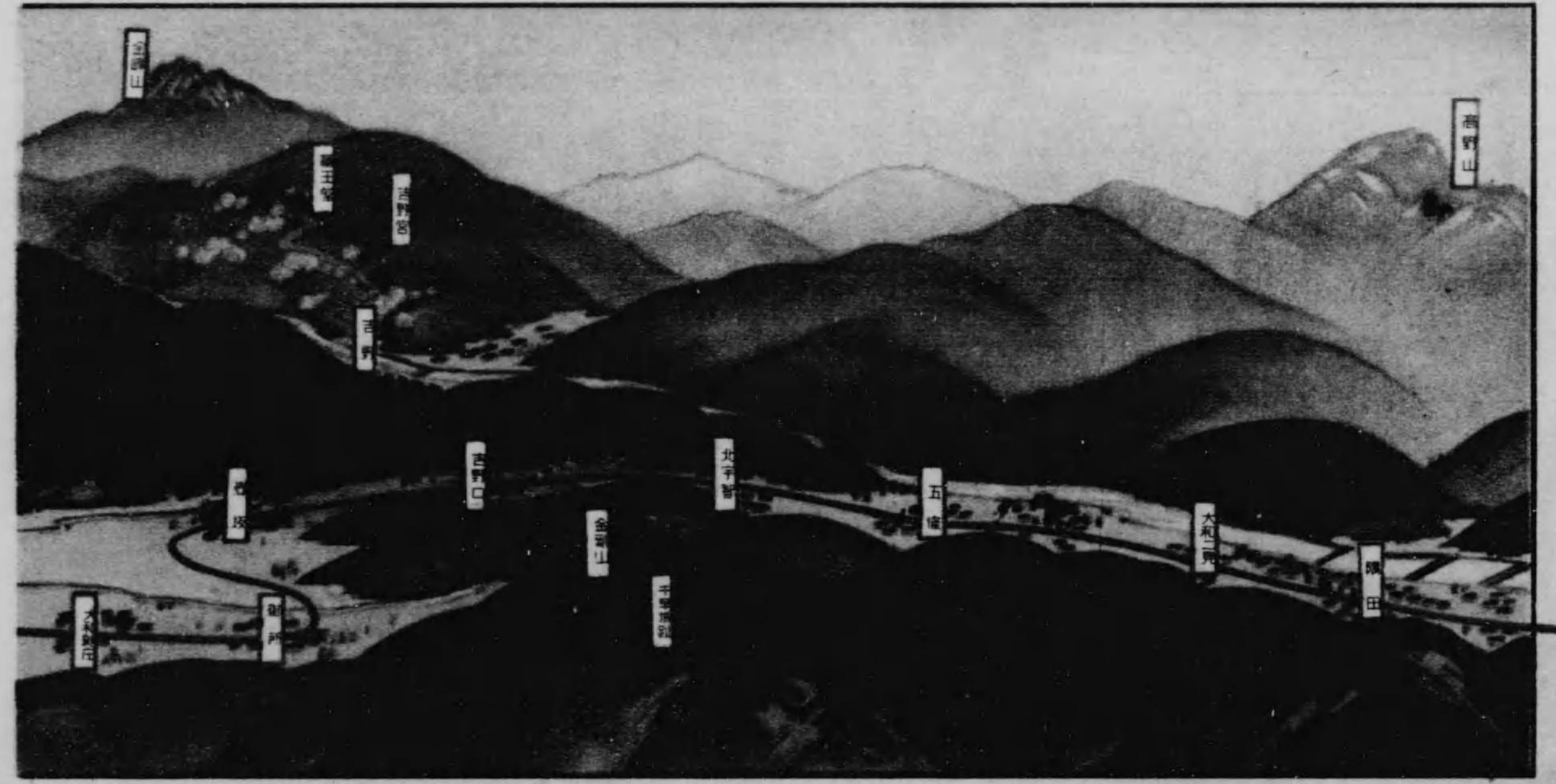


場、同西五町 ▼大濱海水浴場、同西五町 ▼大鳥神社、濱寺
 公園驛より東十二丁、官幣大社である ▼濱寺公園、同西一丁
 風光明耀の境、南海園遊場、公會堂等あり、附近の海岸は海水
 浴場である ▼葛葉稻荷、葛葉驛より東十丁、信田の森の古蹟
 である ▼榎尾寺、大津驛より東四里 ▼牛瀧山、岸和田驛の
 東四里、紅葉の勝地である ▼岸和田城址、同西南九町 ▼蟻
 通神社、佐野驛より東二十九丁、▼犬鳴山七寶瀧寺、同東南三
 里、傳賢一圓、名高い義犬の墓がある ▼樽井遊園、樽井驛よ
 り西一丁、海は遠淺で海水浴に適す ▼金熊寺溪梅林、同東五
 十丁、傳賢六十五錢、著名なる梅林である ▼砂川の奇勝、
 同東北三十丁、泉州耶馬溪の名あり ▼淡輪御陵、淡輪驛より
 東一丁 ▼淡輪遊園、同西一丁、山海の景勝を兼ねて居る
 ▼深日浦、深日驛より西五町、古歌に名高き風景、この浦より海
 岸づたひ、小島住吉を経て紀淡海峡の絶景を眺めつゝ、加太に出
 づるを小島めぐりと云ふ ▼孝子葺山、孝子驛より西三丁、泉
 州松茸の本場である

大阪高野鐵道は大阪汐見橋を起點として長野にて大阪鐵道に
 接し、橋本にて和歌山線に接する鐵道で、沿線名所の主なるも
 のは ▼木津川の千本松、木津川驛より南十三丁 ▼阿部野神
 社、阿部野驛より東二丁、北島氏を祀れる別格官幣社である
 ▼天下茶屋の舊蹟、同東北一丁 ▼官幣大社住吉神社、住吉
 東驛より西二丁 ▼浅香山遊園、浅香山驛より東十丁 ▼方違
 神社、堺東驛より東一町 ▼反正天皇御陵、同東二町 ▼履仲
 天皇御陵、同南十町 ▼百舌鳥八幡宮、百舌鳥八幡驛より西四
 丁 ▼狭山池、狭山驛より西南五丁 ▼瀧谷不動、瀧谷驛より
 東二十丁 ▼長野遊園、長野驛前 ▼天野山、同西五十丁、傳賢
 七十錢 ▼觀心寺、同東二十五丁、傳賢五十錢 ▼千早城址、同
 東二里 ▼金剛山、同東三里

和歌山線

王寺—和歌山市 五五哩三分



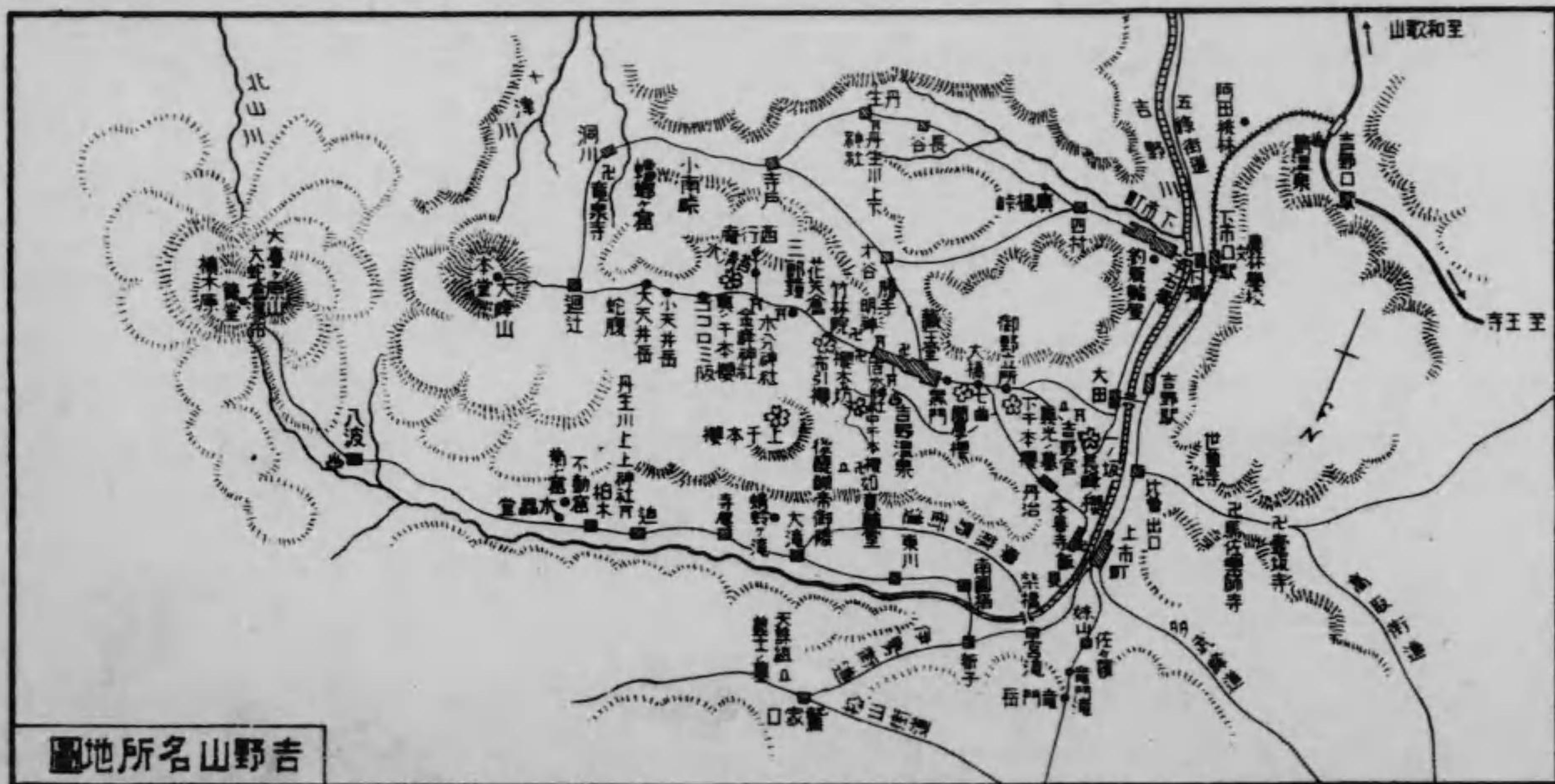
をより見るべし

和歌山

和歌山

この線は王寺にて關西本線から岐れて南下し、吉野口を過ぎてからは吉野川——紀の川の流域に沿って西に向ひ、和歌山に至つて止まる支線である

【王寺】(わおうじ) 關西本線接続點 【下田】(しもた) ▼當麻寺、西南一里九丁、傳賃七十六錢、二上山麓に在り、奈良朝時代の名古刹で中將姫の蓮絲の曼陀羅がある、東塔西塔は天平初期の建物として名高い ▼武烈天皇御陵、西北二十丁 ▼顯宗天皇御陵、西北七丁 【高田】(たかだ) 七哩一 櫻井線の接続點 【御所】(ごせ) ▼孝安天皇御陵、東南十五丁 ▼孝昭天皇御陵、西南八丁 ▼櫛羅の瀧、西二十五丁、葛城山麓に在り ▼一言主神社、西南二十五丁 ▼吉祥寺、東十五丁、役の行者の誕生地 【壺坂】(つぼさか) ▼壺坂寺、東一里二十四丁、傳賃一圓五十錢 奥の院には五百羅漢像あり、寺に澤市の杖と傳ふるものを藏して居る ▼齋明天皇御陵、東北六丁 【吉野口】(よしのくち) 一五哩五 吉野鐵道接続點 ▼三位維盛の遺址、吉野鐵道下市口驛より南九丁、傳賃二十錢、下市町に在り、千本櫻に名高い釣瓶館屋、大方の食通に珍重せられて居る ▼吉野山公園は吉野驛より南東三十丁、吉野連峰の北端なる金峰山の山嘴に在り、堂塔祠宇樹林の間に構へられて風光秀麗である、特に山背溪畔至る所花ならざるはなく、人をして、これはこればとばかりの感あらしむるのである、加ふるに吉野朝廷四十餘年、蒼涼萬古の事蹟を留めて、「歌書よりも軍書に悲し」の感も亦深い、此地の古より櫻の名所たりしことは古來の和歌などに著るしく、一目千本、中の千本、奥の千本に涉つて約一里ばかりの間に櫻が多い、下から上まで花が咲き上るには殆ど一ヶ月もかゝるのである、此處の櫻は又日本に於ける關西地方の種類を代表して居る、驛を出で、吉野川の流れ静けき橋を渡れば、五丁にして吉野山入口の黒門が見える、是より二十餘丁の間五曲りの坂路あり、長峰と云つて居る、二十八丁目には村上義光忠烈の碑



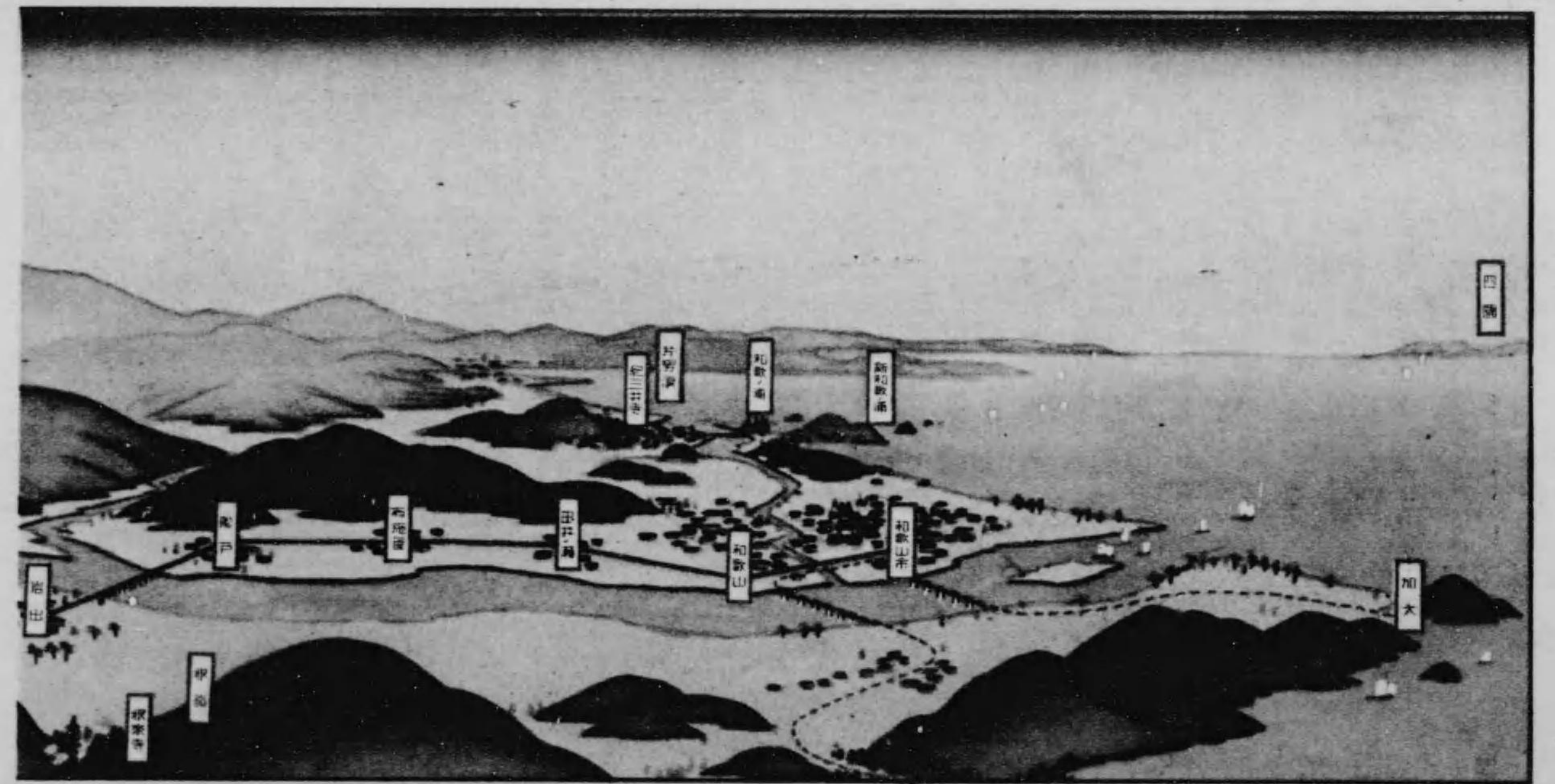
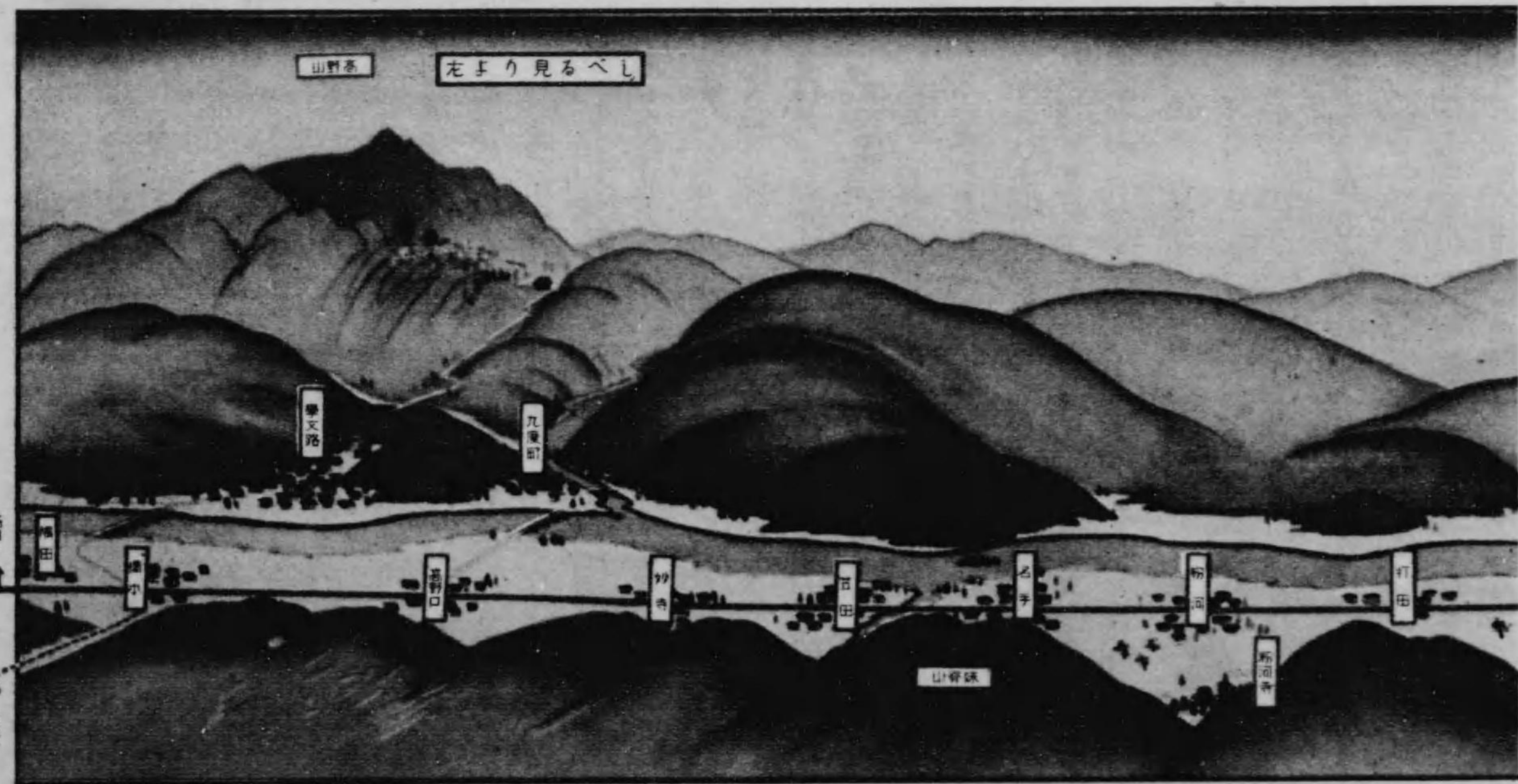
吉野山名所地圖

あり三十丁、前後の邊、山も谷も悉くこれ櫻花、峰も尾も悉くこれ白雲、即口の一日本で、一に日本が花とも云つて居る、吉野宮は此香雲裡に在り、官幣大社で醍醐天皇を祀つてある、吉野町の人家はこれより山嘴を傳うた道路の左右懸崖に凭つて構へられ、頗る風情がある、町を過ぐれば金峰山寺で壯麗華麗な藏王堂を見るのである、堂前四本櫻あり、大塔宮吉野落の時、離杯を擧げられた所で、堂の西三町の實城寺址は、吉野朝三帝四十餘年の行在所である、藏王堂より本道を南に進めば、三丁にして吉水神社がある、後醍醐の吉野に行幸せられた時、先づこゝにお入になつて、花にれてよしやよしの、吉水のの御詠のあつた處で、宮は天皇及楠正成を祀つてある。附近山口神社あり、神社の前を左に谷に沿ひ溪を渡りて東に上れば、七丁にして吉野朝の勅願寺であつた如意輪寺がある、楠木正行が髪を截つて、佛殿に納め一族百四十三人の姓名を記し、獻してかへらじとの歌を刻したと云ふ扉は猶此寺に藏して居る、堂後に後醍醐天皇陵がある、落花紛々の時茲に詣で、吉野朝の古を思へば、涙襟を濕すであらう、更に本道に戻りて山口神社より南に進めば、三丁にして竹林院がある、これより天王橋を渡り猿叢坂に至りて東の溪谷を望めば、香雲飄飄として日光に映じ、風光の美宛然土佐の名畫を見るやうである、これが中の千本である、かくて布引櫻、滝櫻等を愛で、更に上れば世尊寺址がある、これより二丁にして水分神社、七丁にして金峰神社がある、昔清水は金峰神社より右四丁西行法師三年庵住の舊地で閑寂な境である、淺くともよしや又淡む人はあらじわれにこと足る山の井の水」と法師の詠じたのは庵址に至る路の小川で、芭蕉こゝに至りて「露とくく試に浮世そがばや」の吟があつた、庵址の後方、櫻花いよ／＼深く幽趣云ふべからず、これが奥の千本である、吉野旅館、芳雲館、竹林館、佐古屋、辰巳屋、東南院

吉野大峰に登るにはこの道を本道とし、吉野町より頂上まで六里である、山上には大峰山本堂あり、宏大な建築で、藏王權現を本尊としてある、山は四月十日に開いて九月廿七日に閉ち、半歳の間人の住ふものはない

吉野川上流沿岸の地も亦景勝の地が多い、上市は吉野驛の東二十丁、俵貫四十錢、町の東五丁、川を挟んで妹背山がある、宮流は上市の東五十丁、磯殿時立し、碧巖登りて其下深潭をなす處、橋あり、風光がよい、此近傍は古の國栖の地で、朝廷大儀の時來つて歌曲を奏し御贊を獻じた所である、大流は宮流と距る五十丁、それより一里にして丹生川上神社あり、官幣大社である、附近の地石灰洞が多い、吉野一帯の地木材、吉野紙、苗木を産し、名物吉野葛、櫻餅、鮎鮒あり

【北宇智】(きたうち) ▼金剛山千早城址、西北一里二十丁 【五條】(ごじょう) 吉野川に臨む、附近香魚漁に適す、旅館藤井館、吉野屋 ▼榮山寺、東南八丁、寺前の吉野川を音無川と云ひ、磯岩並列して淵を爲し風光がよい ▼櫻井寺、西南三丁、暮末藤本鐵石が天誅組の本陣を置いた處である ▼賀名生行宮址、南二里 ▼丹生川下神社、東五里 【橋本】(はしもと) 二八哩 大阪高野鐵道接續點、旅館驛前堺屋、橋本屋、竹屋、よしや、學文路玉屋、玉の屋 ▼應其寺、西二丁、木食上人の開基である ▼荊萱堂、一里 ▼高野山、南西四里十九町、推出まで二里、俵貫一圓廿錢、推出、高野女人堂間、二里八丁、駕籠賃九圓二十錢 【高野口】(かうやぐち) 三一哩 四 旅館驛前東雲館、葛城館水野館、大仲館、神谷花の屋、花市、金川 ▼慈尊院、南十五丁、弘法大師其母を茲に迎へ、月に九度山上より來りて、孝養を盡したと云ふので九度山と云ふ、眞田幸村父子閑居の邸址も近くにある ▼高野山、南三里半、駕籠賃七圓、俵貫推出まで五十丁八十五錢、推出より駕籠賃五圓、山は弘法大師の開基、金剛峰寺の靈域で、輪奐たる堂塔壯麗たる僧坊上に凭り谷を埋めて、海内第一の靈刹と稱せらる、寺城周圍十三里、僧坊



百三十餘、大門、金堂、本堂、高大壯嚴言語に絶して居る。奥の院は大師の廟所、四面寶形造で瑞巖を周らし、鬱蒼たる杉檜之を圍み、清涼なる玉水之を繞つて居る、幽邃閑寂眞平の靈場である、謡曲高野物狂にはよく全山の模様が寫されてある【笠田】(かきた) ▼妹背山、西半里、紀ノ川南岸に在るを妹山、北岸にあるを背山と云ふ【粉河】(こながは) ▼粉川寺、北七丁【岩出】(いはで) ▼岩田大宮、西四丁 ▼根來寺、北一里十三丁、俵五十錢、新義真言宗總本山、高野山と並びて法風盛に戦國の際に及び、僧兵の強項根來を推して第一とした、寺城宏潤古松老柏の間櫻樹が多い、花期は三月下旬より四月中旬まで

【布施屋】(はしや) ▼伊太祈曾神社、南一里八丁、國幣中社である【田井ノ瀬】(たのせ) ▼日前、國懸兩神宮、西南二十五丁、俵三十錢官幣大社である ▼龜山神社、西南一里半、官幣大社である【和歌山】(わかやま) 五四哩三 加太鐵道、山東鐵道接續點、前記龜山神社、日前國懸神社、伊太祈曾神社等皆山東鐵道沿線の名所である【和歌山市】(わかやまし) 五五哩三 市は徳川氏親藩の舊城市、紀の川の吐口に在り、人口八萬四千人、南海第一の都會である、綿フランネルの産地として名高く、漆器、蜜柑、傘等の産あり、驛前より市内を経て和歌の浦、黒江に至る電車あり、市内旅館有田樓、富士屋 ▼和歌山公園、和歌山驛より南十五丁、舊城内に在り ▼和歌の浦、西南一里半電車の便あり、天の橋立、三保の松原と地形を同じうし、青松白沙の間に優遊す、三斷橋、玉津島神社、東照宮、南龍神社、紀三井寺等あり、紀三井寺よりの眺望最勝れて居る、近年和歌の浦の西方に連る一帯の山地を拓きて新和歌の浦と稱し、旅館料亭多く此地に移り、形勢全く一變するに至つた、地の島沖の島の近きより遠きは阿土の山々も指點すべく、新和歌の浦は其眺望の雄大なるに在り、旅館あしべ屋、望海樓、米榮別荘

▼磯の浦海水浴場、西北二里加太鐵道加太驛附近 ▼淡島神社

西北二里、同加太驛附近 ▼上山英農園、保田村宇山田原に在り、和歌浦より箕島まで汽船により、箕島より陸路二十五丁、



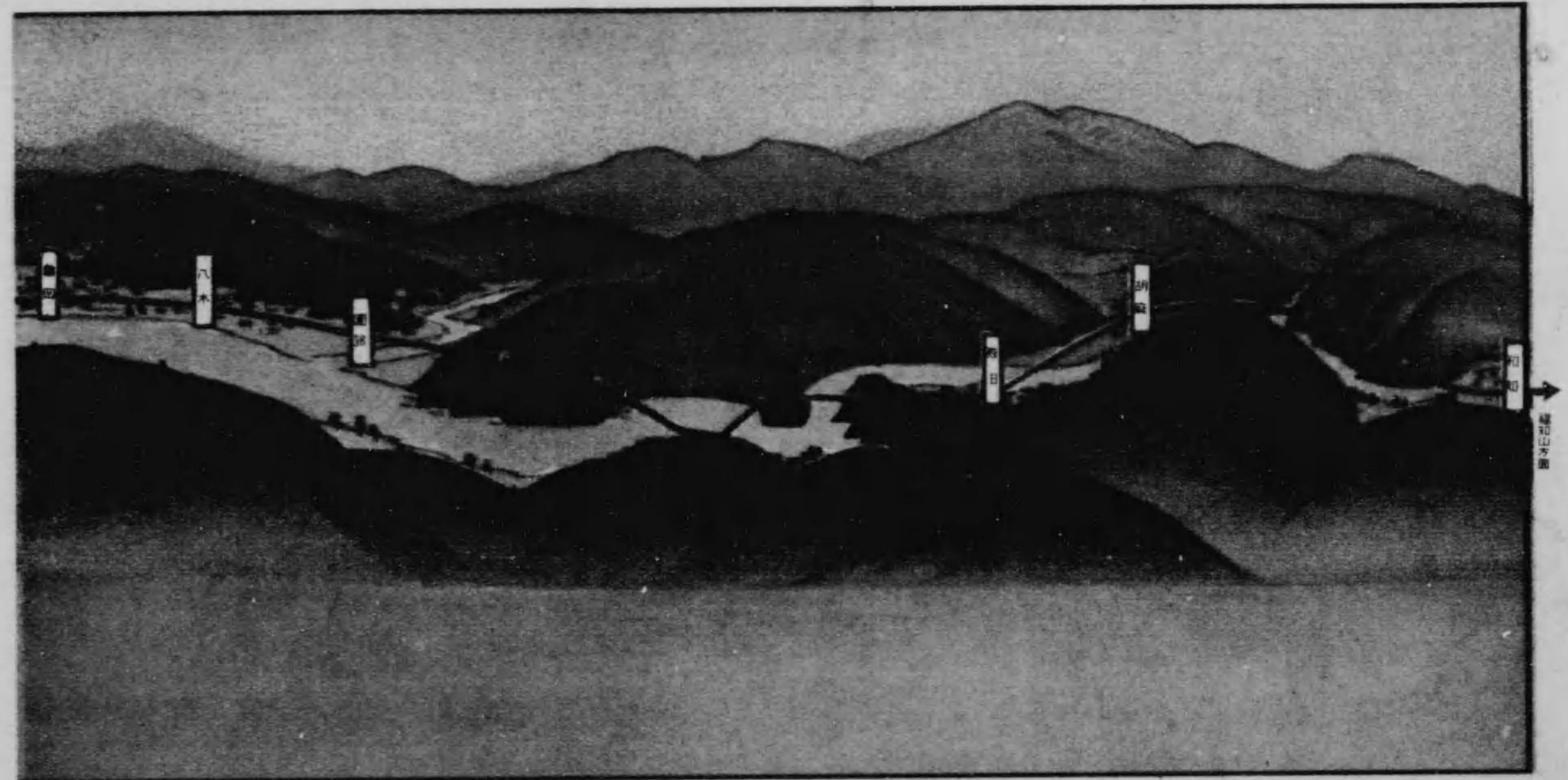
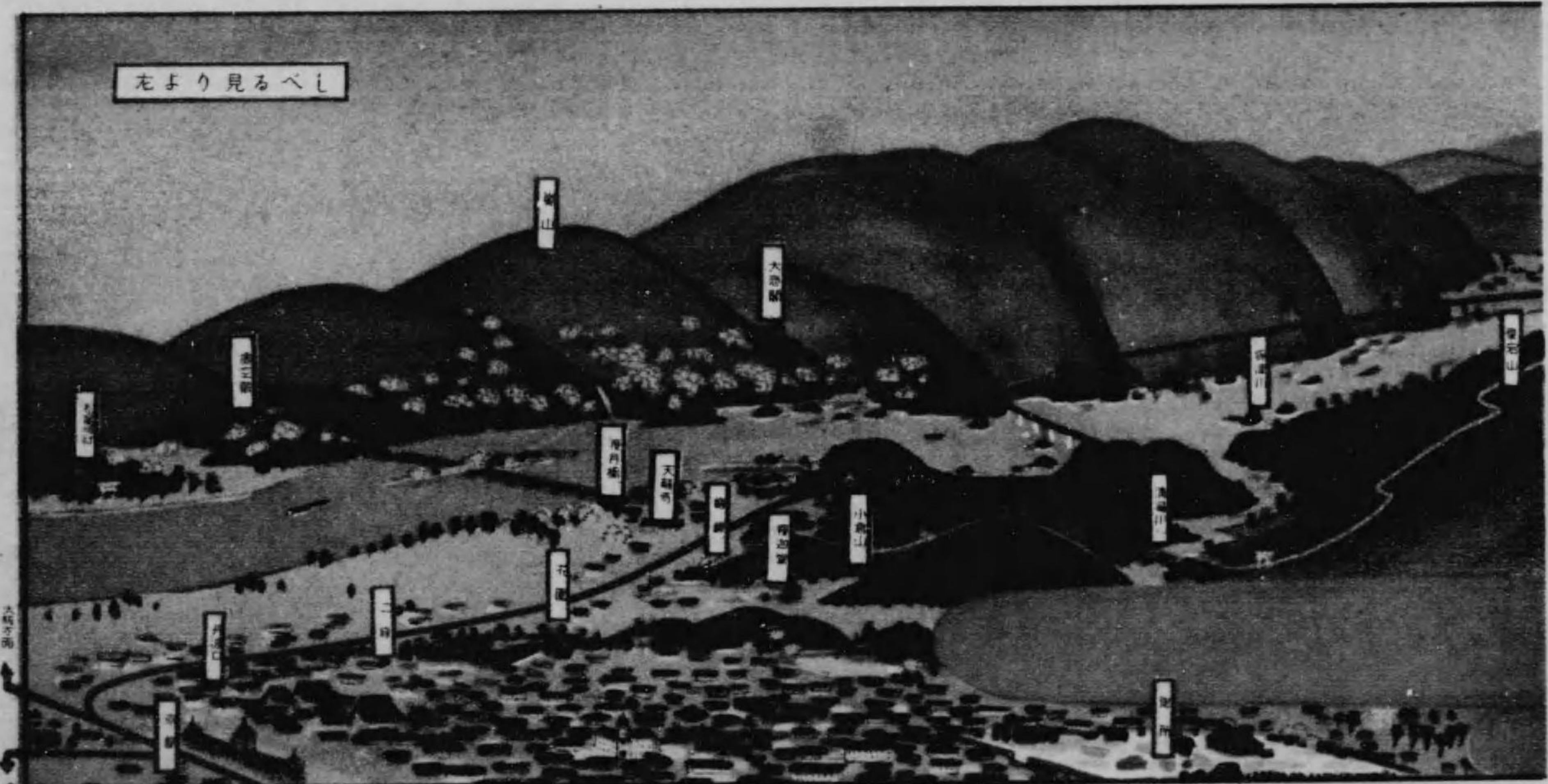
蜜柑及除蟲菊の産出多く、除蟲菊の製造盛なり ▼熊野地方、山水の勝あり、瀨八丁、那智の瀑、熊野座神社、熊野速玉神社等世に聞ゆ、兩者共に官幣大社である、大阪又は和歌浦より勝浦まで汽船便あり、勝浦は景勝地で、赤島温泉

外の湯、貴志の湯、湯川などの温泉あり、勝浦から新宮までは新宮鐵道あり、那智の瀧へは其那智驛から自動車で行く、賃金一圓、那智觀音、熊野夫須美神社がある、新宮は熊野速玉神社鎮座の地で熊野地方第一の繁華地である、此處から瀨及本宮へはプロペラ式自動艇の便あり、遊覽者の多くは先づ本宮の熊野坐神社に詣で、約三十丁を離れた湯の峰温泉に一泊、引返して本宮から舟を雇うて北山川の上流の奇勝瀨八丁の風光を見て一泊、翌日瀨から新宮へ舟にて下る人が多い、旅館勝浦赤島温泉旅館、湯川生駒屋、新宮油屋、宇治長、本宮赤井屋、湯の峰玉置、瀨、瀨亭

和歌山市は和歌山縣廳所在地で、縣は紀伊半島の大部を管轄して居る、縣内山嶽多く高野、熊野の大森林あり林産に富んで居る、有田川、紀ノ川の両城は所産紀州蜜柑の産地で、産額全國に冠し、菜蓴、海苔は其輸出額である、熊野地方は奇跡多く、熊野川口に在る新宮は木材の集散地である、和歌山市は紀の川口に在り、綿フランネルを産することが多い

和歌山	四六三九二、七八〇圓	大	阪	四一三〇九、〇五四圓
和歌山	九九五四四、八五五圓	全	國	一〇三六二、六五四圓
和歌山	四、六一七、七八二圓	大	阪	四、一九九、四七四圓
和歌山	三、五五四、七八三圓	大	阪	三、五五二、八三五圓
和歌山	二、八五五、七七六圓	大	阪	二、八七三、七二四圓
和歌山	二、六五九、五四三圓	大	阪	八、〇二五、一七三圓
和歌山	三、三六四、一五〇圓	大	阪	一、九四五、三五七圓
和歌山	一、〇一〇、一七〇圓	大	阪	九七六、六一一圓
和歌山	九七〇、五二三圓	大	阪	八二四、九一七圓
和歌山	八二一、五三九圓	大	阪	一四、八七九、六二九圓

をより見るべし



山陰線

山陰線とは

- 一 山陰本線 京都、濱田間二九五哩一分
- 一 舞鶴線 綾部、新舞鶴間一六哩四分、舞鶴、海舞鶴間一哩、新舞鶴、中舞鶴間二哩一分
- 一 因美輕便線 鳥取、用瀬間一三哩一分
- 一 倉吉輕便線 上井、倉吉間二哩六分
- 一 伯備北線 伯耆大山、伯耆溝口間七哩
- 一 境線 米子、境間一一哩二分
- 一 大社線 出雲今市、大社間四哩七分

の總稱で、其本線は京都を起點として、保津川の溪谷に沿うて山陰に入り、綾部に至りて舞鶴線を北に岐ち、本線は西して福知山線と會し、和田山にて更に播但線に接して北し、圓山川に沿うて城崎温泉地に至り、竹野に出て、初めて蒼茫たる日本海の煙波に接するのである。竹野から西米子に至るまで、汽車は絶えず日本海に沿うて走り美しい景色が多い。鐵橋は懸崖の上になり展望雄大である、斷崖の下岩に纏つて軒を列ぬる漁村の見ゆるは鐵村で、やがて渡る餘部の鐵橋から右に見ゆる御崎村と共に、平家の落武者村と傳へられて居る。鐵驛から西に走ること約一哩、辨天荒神兩山の溪間、餘部の村落を跨ぎて延長一〇一五尺、高さ一三二尺、恰も紅霞の如く中空に架けた餘部の大鐵橋を渡る、雲上徂徠の語は正にかゝる處を形容した詞であらう、久谷、濱坂から居組、岩美に至る間、景致勝絶車窓目を休むるの適なき風光である。鳥取にて因美輕便線を左に岐ちて進めば湖山池の風光あり、東郷湖の景致あり、優麗なる大山の山容また車窓の眺に入りて、風光更に壯美を加ふ、其山麓伯耆大山驛からは伯備北線が左に岐れる、米子は境線の北に岐る、處で、本線は更に西して中の海に沿うて松江に至り、更に茲に秀麗なる

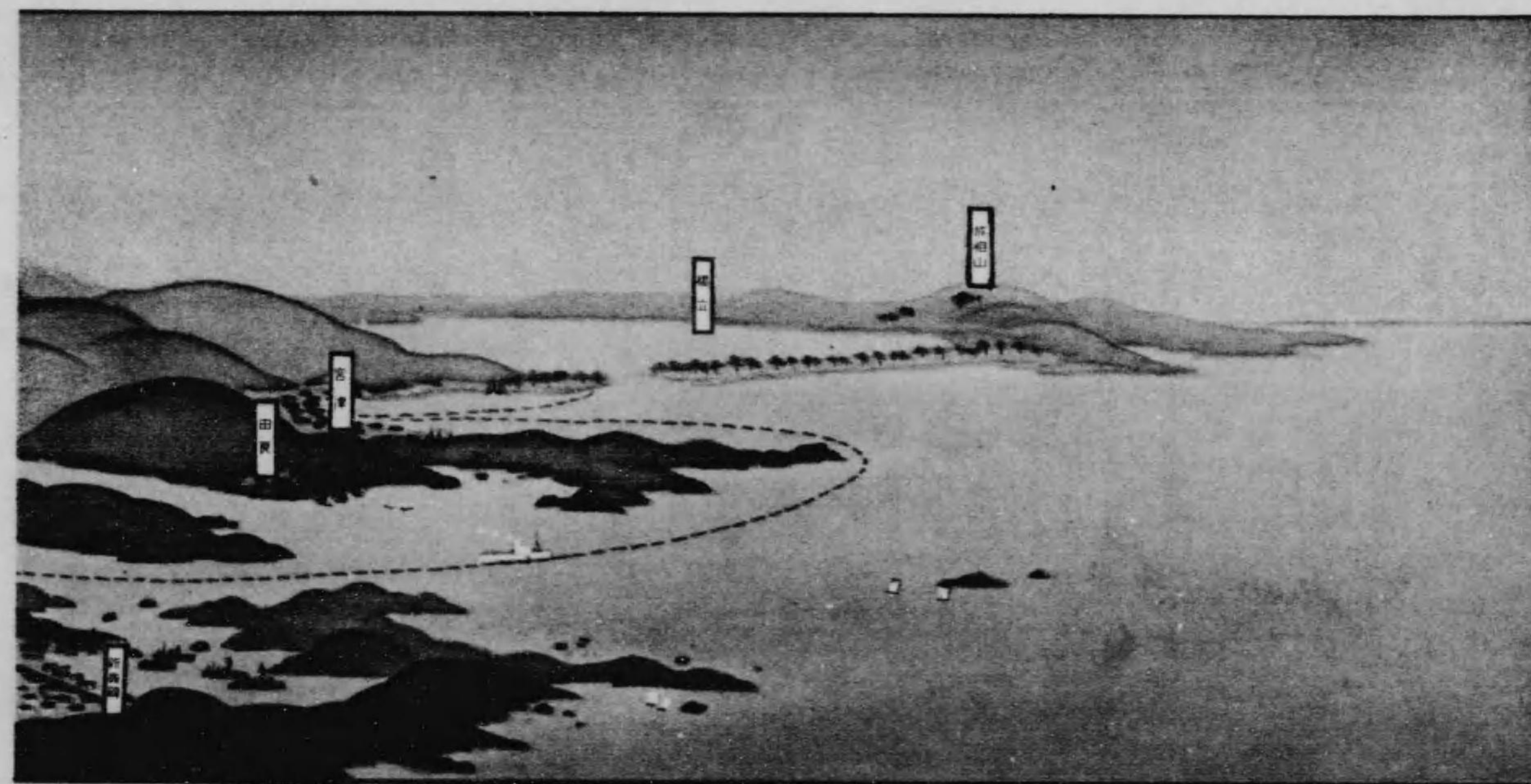
尖道湖の風光を見ることとなる、日本海の雄壯な風光を後にして、この温雅な光景に遇ふ、山陰の風光亦多趣なりといふべしである。松江からは汽車尖道湖畔に沿うて走り、出雲今市に至り、茲に大社線を岐ち、本線は濱田に至つて止まつて居る、列車の運行は京都より大社へ一回、大阪より福知山線を通じて松江へ一回、大社へ一回の直通列車あり、大社へのは夜行である京都大社間約十二時間、大阪大社間約十二時間三十分を要する

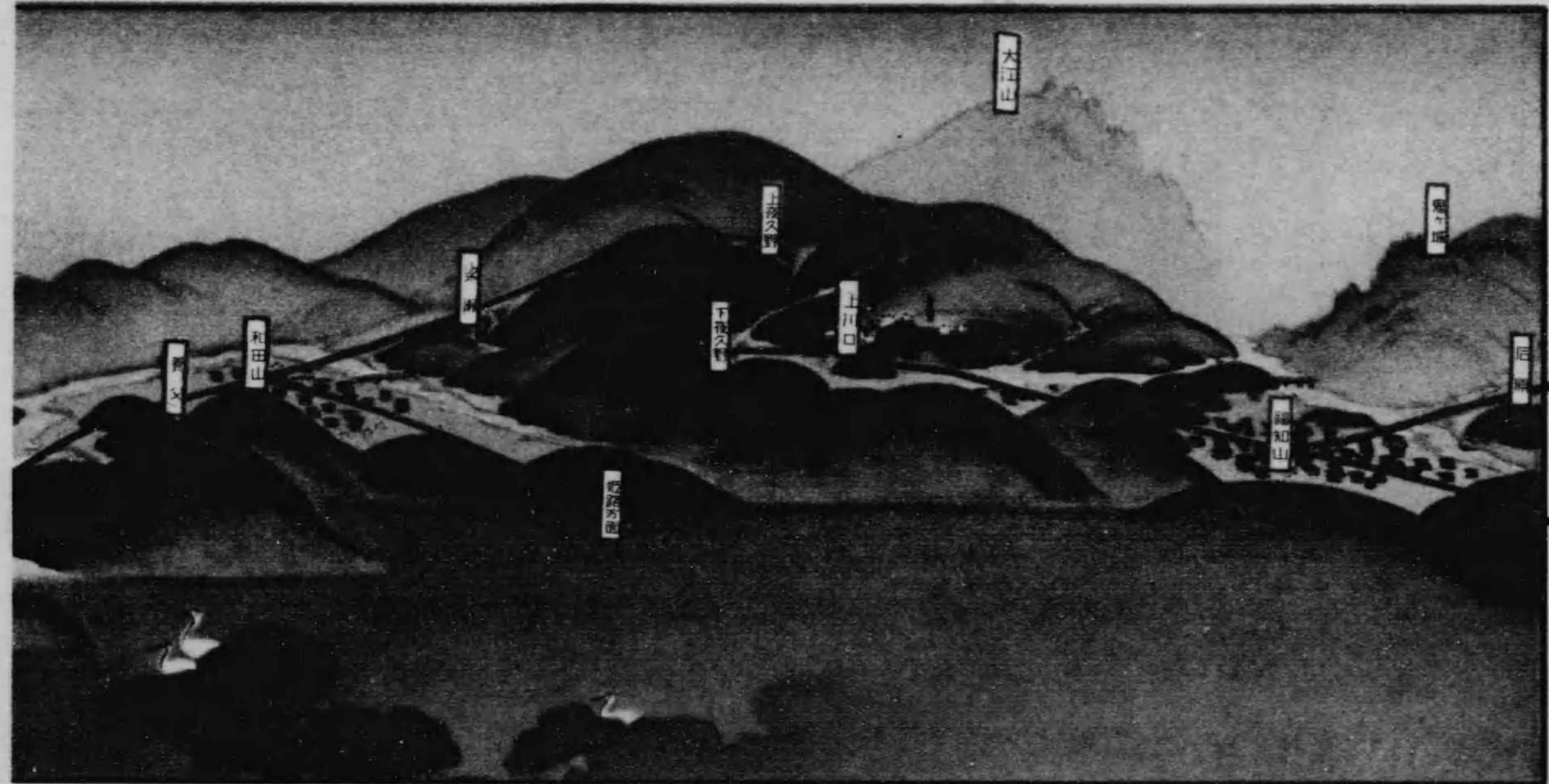
山陰本線

京都—濱田 二九五哩一分

【京都】(きやうと) 東海道本線参照 【龜岡】(かめおか) 一三哩五もと龜山と稱し松平氏五萬石の舊城邑、驛の前面にある龜山城址は明智光秀の築いたもので、本能寺襲撃は茲で計畫されたといふ、旅館改開樓、高島屋(綾部) 四八哩三 もと九鬼氏二萬石の舊城下で、大本教の本部がある

舞鶴線 綾部から分岐して新舞鶴まで一六哩四分、舞鶴軍港と天の橋立の名勝があるので、京都、大阪から直通列車があり京都からは約三時間半、大阪からは約五時間で行ける。【舞鶴】(まゐづる) もと牧野氏三萬五千石の舊城邑で、田邊城址は南三丁、古今傳授の松がある、旅館清和樓、常盤樓 【海舞鶴】(うみまゐづる) 丹後の宮津へ省經營の連絡船がある、天の橋立記事別項 【新舞鶴】(しんまゐづる) 舞鶴軍港所在地、小濱線若狭高濱へ自動車の便がある、又茲から中舞鶴への支線あり、海軍鎮守府、海兵團が其近くにある。▼橋立見物、萬松路海に浮ぶこと凡二十八丁、上下概ね枝梢を齊しうして、一字を碧水の上に描き、遠く之を望めば長州海波に映して水中松あるが如く、碧水天と連りて天上亦橋あるに似たるもの、これ丹後の天の橋立の風光である、橋立は宮津の北一里餘、與謝の海の西側なる門洲状の沙嘴である、海舞鶴から宮津へは省の連絡汽船便あり一時四十分で到着す、汽船費二等九十三





旅行である【和田山】(おだやま) 七五哩 播但線接続点【江原】(えはら) ▼鶴山、西北十五丁、山本村に在り、毎年五七月の間十數羽の鶴が山腹の松上に巢を構へて雛鶴を生む ▼國幣中社出石神社、東二里、自動車賃一圓、太古我國へ渡來した新羅王子天日鎰命を祀る【豊岡】(とよおか) 九三哩二 元京極氏一萬五千石の城下、柳行季を産す【玄武洞】(げんぶどう) 驛前圓山川の對岸を望めば山の半腹に石窟が見ゆるのが玄武洞で、全長四十間左右の三房に分れてゐる【城崎】(きのさき) 昔から開いた温泉地、海山の勝を兼ねてゐる、唯旅館に内湯のないのが不便である、旅館油筒屋、西村屋、三木屋 ▼山陰温泉廻り城崎は山陰温泉の門戸で、此處を振り出しに、山陰線には至る處温泉があるから、此線の旅行者は、往返共に温泉に浸る樂がある、城崎から尙進むと濱坂驛から二里半を距て、湯村温泉がある、自動車賃八十錢、煮物に薪炭を用ひずに熱湯を用ひてゐる旅館富屋、井筒屋、岩井温泉は岩美驛から東南一里、自動車賃五十錢、旅館木島屋、岩井屋、吉方温泉は鳥取驛の東北十二丁、自動車の便がある、旅館鳥取温泉、吉岡温泉は湖山驛から二里十丁の便がある、鳥取驛から三里三十丁、自動車賃一圓、旅館三谷、田中屋、油屋、濱村温泉は濱村驛から北三丁、旅館鈴木、煙草屋、温泉から一里半鹿野町には山中鹿之助の墓のある幸盛寺、鹿野城址があり、自動車賃五十錢、東郷温泉は松崎驛から七丁、律の便がある、東郷湖畔風光が佳い、旅館養生館、淺津温泉は同湖上十八丁、渡船賃二十錢、旅館東郷館、旭館、上井驛から倉吉輕便線に乗換へ倉吉驛に至れば、東二里三丁に三朝温泉がある、自動車賃八十錢他に律がある、ラヂウム含有量日本第一といはれ、一里餘に名刹三徳山三佛寺がある、旅館岩湯、西津館、關金温泉は同倉吉驛から西南二里二十丁、自動車賃一圓、ラヂウム含有量の多い事は三朝に次ぐ、旅館鳥飼、山本、再び本線に戻つて湯町に至れば南十八丁に玉造温泉がある、

旅館、保性館、豆腐屋、米子館、小屋原、池田の兩泉は、石見大田驛から行くがこれは三瓶登山者の休息地であるから其時述べる、温泉津温泉は温泉津驛から十二丁、海岸に臨んで風光が佳い、旅館益屋、熊川屋、有福温泉、都野津から一里二十丁、自動車賃一圓、旅館小川屋、大崎玉市、塗師屋【香住】(かすま) ▼大乗寺、東南十丁、律賃二十錢、圓山應舉が密英法師の恩義に酬ゆる爲禊を首め、多くの畫幅に筆を残したので應舉寺とも云ふ【鏡】(かがみ) 鏡村は附近の御崎村と共に平家の落武者の逃匿した處と傳へ、古來山海の交通の無い一瀟村で一帶の海岸に奇蹟が多い、此の驛から次驛久谷驛間には餘部の大陸橋がある長さ千十五尺、高さ百廿二尺、橋脚はトレススル式を用ひてゐる【岩美】(いわみ) 浦富海岸、西北二十三丁、浦富より網代に至る海岸二哩の間、風光は陸前の松島に似て豪壯は寧ろ彼に勝つて居る、観音、染種、門、千貫松の諸島特に知られて居る【鳥取】(とり) 一四四哩一 京都、大阪より七時間半、舊池田氏廿二萬五千石の城市で、今人口二萬九千人を有し、繭、生糸、米、木材、和紙、白珊瑚、海松パイプ等を産する、市内名勝巡りの



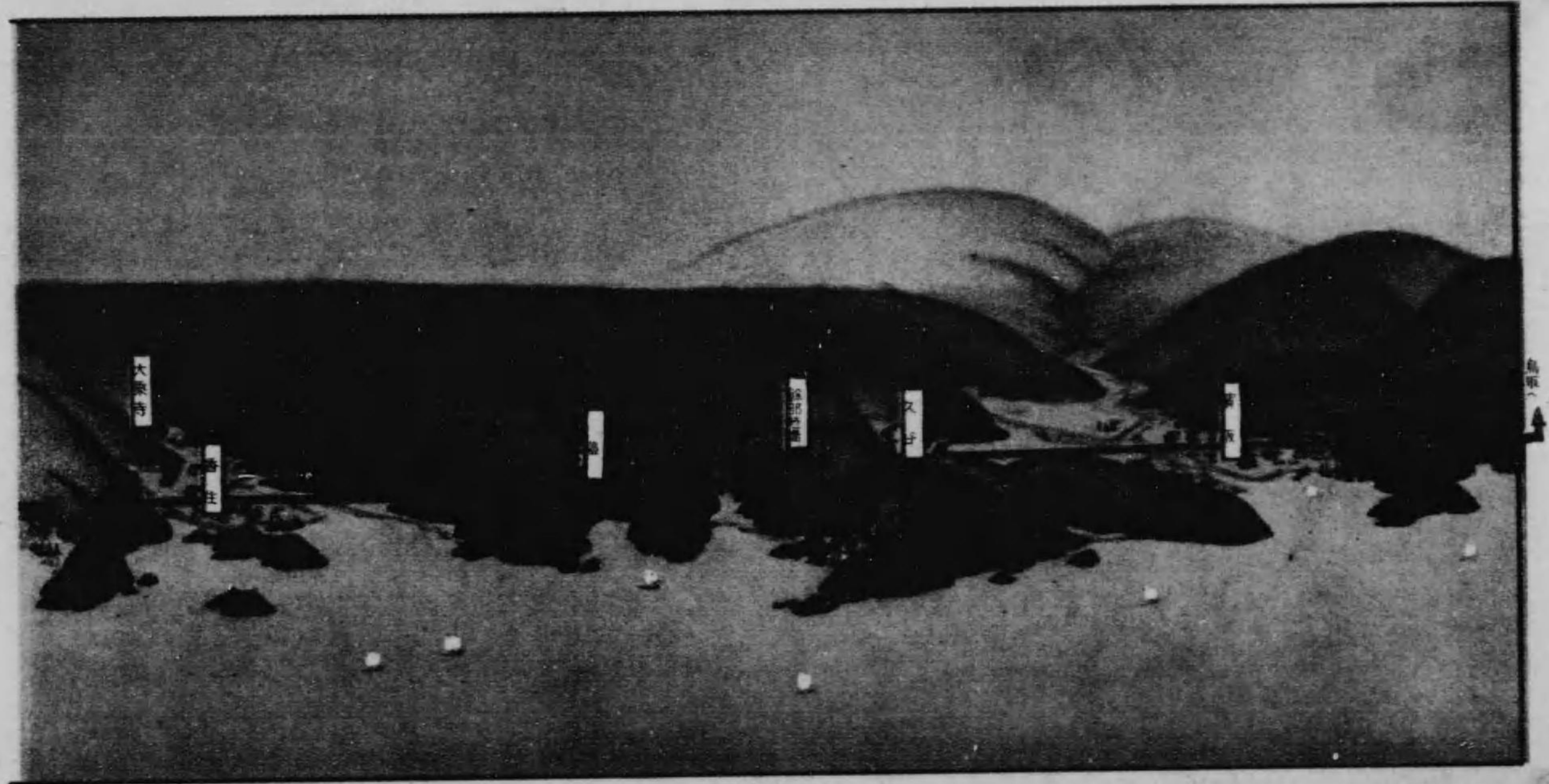
律賃は一時間六十錢の割合で、市内の乗合自動車は廿五錢均一である、鳥取城址は久松山麓にあり驛から十五丁、櫻嶽神社は東北十六丁、律賃四十錢、國幣中社宇部神社は東北一里九丁、律賃七十錢、稻葉山麓に在り武内宿禰を祀る、摩尼寺北一里卅丁、摩尼山願にある因州第一の靈境で山麓迄律七十五錢、旅館小錢屋、米善、松榮館

因美輕便線 鳥取から用瀬に行く、其郡家驛から若櫻迄四里十三丁、自動車賃二圓、用瀬から智頭迄二里廿七丁、自動車賃一圓廿錢である

鳥取市は鳥取縣廳の所在地で、縣は因幡、伯耆を管轄し、大山火山高く嶺の西部に聳え、其麓には牧場がある、縣は一般に重要産物は、西部には絹の産多く倉吉よりは木綿織の産がある



无より見るべし



大塚

寺

池

山

大

山

山

【赤崎】(あかき) 船上山、西南二里二十町、大高山系中の一峯で、名和長年が元弘帝を奉じて義旗を擧げた處山中の智積寺は行在所の跡である、山中船上神社がある【御來屋】(みくりや) 別格官幣社名和神社、西南十六丁、元弘の忠臣名和長年を祀る賽路に櫻多く毎年四月上旬から五月上旬まで觀櫻客の爲に名和假驛を設ける【伯耆大山】(はくしだいせん) 一九八哩八 伯備北線の分岐點、同線は伯耆濱口まで七哩、溝口から福岡、根雨、多里へ自動車の便がある ▼大山登山 大山は絶頂まで東南五里六丁、山陰線旅行者の忘るべからざる風光の一である、山は一大神山と稱し、伯耆富士又出雲富士と云つて居る、火山通有の圓錐形を呈し、巍然として海拔五六五〇尺、山陰山陽第一の高峯である、山麓は曠漠たる野で最牧畜に適し、例年日を定めて牛馬の糶市を開き大山村には軍馬育成所の設がある、驛から尾高、岡成の諸村を経て一の谷より舊道をたどつて中復大山寺迄三里半、一の谷より赤松村の本道を経て三里三十四丁、普通登山者は大山寺の僧房に一泊する、蓮淨院、洞明院、金剛院、普明院、清光院其他旅館もある、氣候は晝間最高八十五度、最低七十度、夜は十度位降下する、頂上の温度は不明だがメリヤスシャツを携帯するがよい、登山案内人は十四五名迄は一人てよく、雇賃一圓五十錢内外である、大山寺は天台宗に屬し、今の本堂及阿彌陀堂は遠く天承年間の造營に成り、後稍縮少して再建したが、棟木柱礎皆創立當時のものを用ひてあるから、依然として千年の古建築たるを失はない、寺域は大山の中腹に位し眺眺の快筆にも盡しがたい、僧房に一泊した登山者は午前二時頃本堂の東敷丁の國幣小社大神山神社奥社に參拜し、神社の鳥居より右折し行くこと半里、横腹と云所より愈峻峻な登山道となる、登路極めて峻峻、僅廿六丁の絶頂まで、登り三時間要する、頂上の眺望は頗る雄大、北は船上山より隱岐の孤島美保灣、中海、宍道湖等より西は出雲石見の境上に聳ゆる三瓶山に及び、

東は但馬丹波の峯巒より遠く、南は作州の諸峯を見下し、四國淡路島に及び、凡そ山陰山陽兩道に崛起せる名山大嶽、皆容を整へて仕ふるが如く見ゆるのである、下山は頗る爽快で裏坂砂上を約一時間で下つて大山川原に達する、茲より奥社を経て大山寺に約三十分で歸着する、盛夏の候は旅館より宿引を兼ねた道案内者が伯耆大山驛に來るから極めて便利である【米子】(よこご) 二〇一哩七 京都及大阪から約十時間半、元荒尾氏の城下で中海に面し夜見半島の頭部を占めて居る、境と共に山陰に於ける良港で、今人口二萬三千人を有し、木綿の取引が盛である、米子城址は西九丁、銀貨卅一錢、港山の頂にあり大山の英姿、夜見半島の翠松、中海の蒼波皆一眸の裡に入り、山海の眺望絶佳である、旅館岩佐、米村、松屋

境線 米子から岐れて境迄十一哩二分、沿線一帶の地は即ち夜見ヶ濱である、濱は美保灣と中海との間を隔離する一條の堆洲で長五里瀾一里、また弓ヶ濱とも云ふ。一帶の蒼松雲の如く連りて風光優美、詩人は之を大天橋と呼んで居る【境】(さか) 夜見ヶ濱の尖端に在り、東は渺茫たる大海に臨み、西は中海を介して宍道湖に通じ、前面島根半島障壁を爲して、自然に北海の風濤を防いで居る、山陰に於ける有数の要津で山海の景勝を占めて居る、開港場の一で大正七年の貿易額は輸出二七萬圓に上つて居る、旅館油屋、香川 ▼隱岐の西郷港、北四十哩、毎日一回汽船便あり、賃金二圓 ▼美保關、島根半島の東南端、境より汽船便一日十回あり、往復四十三錢、四十分を要し、松江よりも一日十回、海上十里約三時間で達し賃金片道五十錢、往復九十五錢である、境を出ると伯耆富士は前面に聳立して、其秀麗な美保灣の碧波に映じ、夜見ヶ濱の大天橋は右に長架を曳いて、風光の美を盡して居る、舟が美保關に近づくと五本松の峰が見ゆる、關の五本松一本伐りや四本あとは伐られぬ夫婦松と云ふのがそれである、



港は灣に沿うて狭長な街衢を爲し、三面山嶺に圍繞せられて居る、山陰に於ける遊樂地として知られた處である、町の西南海に面して老松青を拖くが中一つの島居がある、これが即ち國幣神社美保神社で、大國主神の御子事代主神及其妃美保津姫命を祀る、毎年四月七日に青柴垣の神事、十二月三日に諸手船の神事を執行する、これ事代主神が大國主神の命に從ひ、國士を天神に譲り、青柴垣を海中に作り、船の權を踏みて、自ら隱退し給うた故事によるので、社頭神代史の一頁を繙くも興多きことである、町から海岸路を三十丁行くと燈明臺がある、美保ヶ關に行つた人の必ず散策する處である、旅館美保館、福岡、山根

【安來】(やすき) ▼清水寺、東南一里半、俣の俣がある、雲州第一の伽藍である、雲樹寺も此寺に近く高麗傳來の古鐘を藏す
【荒島】(あらいま) ▼月山城址、南二里廿丁の廣瀬町にある、自動車貨一圓、廣瀬は松平氏三萬石の城下で、戰國の頃には尼子氏の根據地であつた、經久の墓を始め尼子氏悲劇の跡が多い、【松江】(まつえ) 二一九哩七 京都及大阪より十一時間半、宍道湖と中海との間の狭長なる地頭に位置を占めて山光水色の美を領して居る、もと松平氏十八萬五千石の城市で、



山陰の首府の稱がある、大橋川市の中央を貫通して市を未次、白瀧の二部に分ち、宍道湖と中海との交通を連絡して居る、今人口三萬七千人を有し、生糸、八雲塗、陶器、人蔘、瑠璃細工等を産する、市街は直に宍道湖に臨み、北に宍道山脈の蜿蜒たるあり、風光畫を見るやうである、市内自動車は二十錢均一である、松江城址は北半里、俣貨三十五錢、天主閣は開いて上ることな許してある、閣上の眺望は山陰無比の絶景で、松江市の瓦葺より宍道湖畔の風景を一陣の中に收め中海を隔て、伯耆の大山を仰ぐ宍道湖は四十丁、周圍十一里半、湖中姥ヶ島の勝あり、渡船往

復廿五錢、袖師ヶ浦は四十五丁、俣貨四十錢、八重垣神社は南一里十五丁、俣貨七十五錢、縁結びの神として名高い、佐太神社、西北二里半、俣貨一圓廿錢、社前櫻馬場がある、第九高等學校、一里、俣貨七十錢、模範村熊野村南三里廿丁、村に國幣大社熊野神社がある、旅館皆美館、赤木館、岩田支店、一文字屋本店、臨水亭、松崎水亭、望湖樓

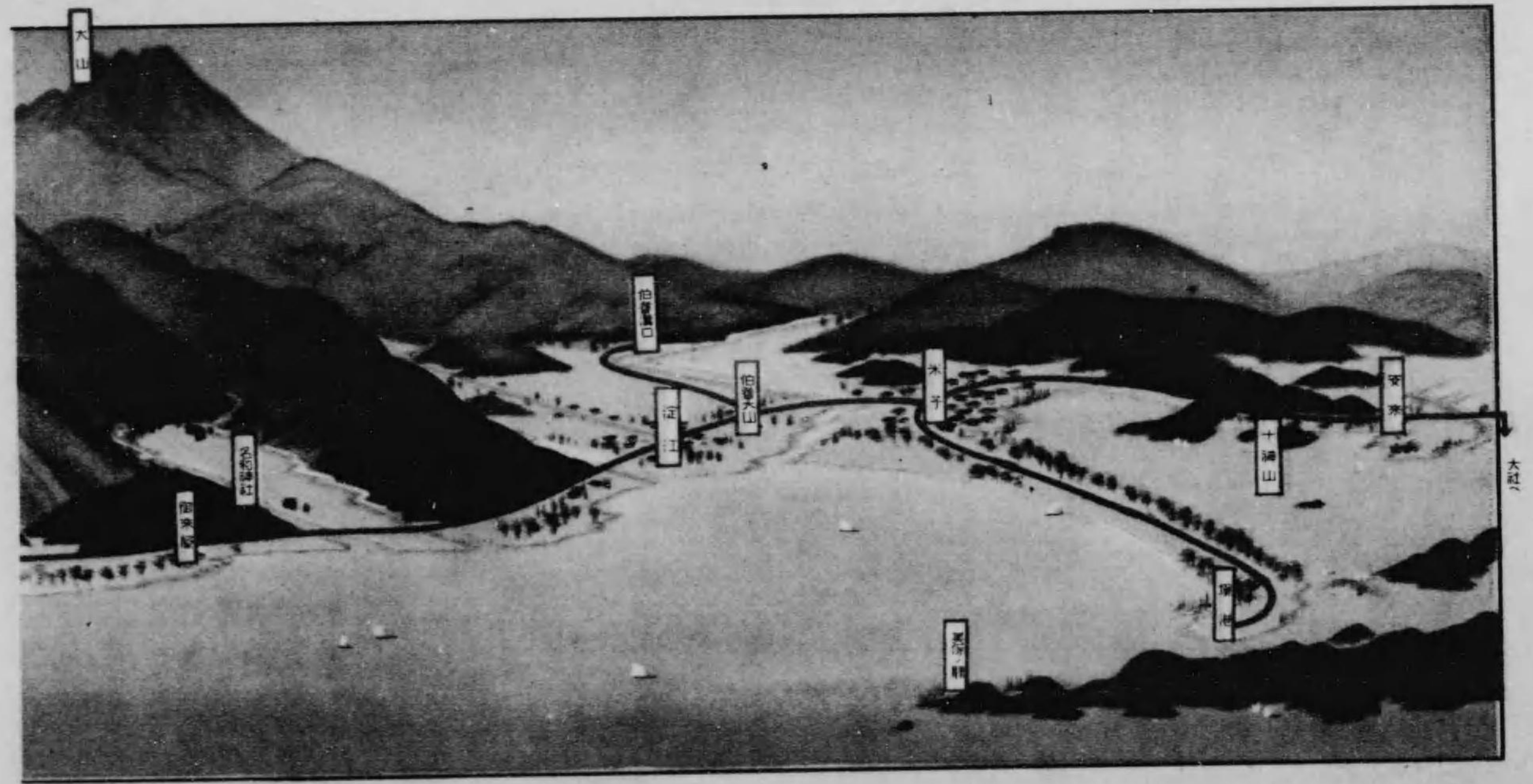
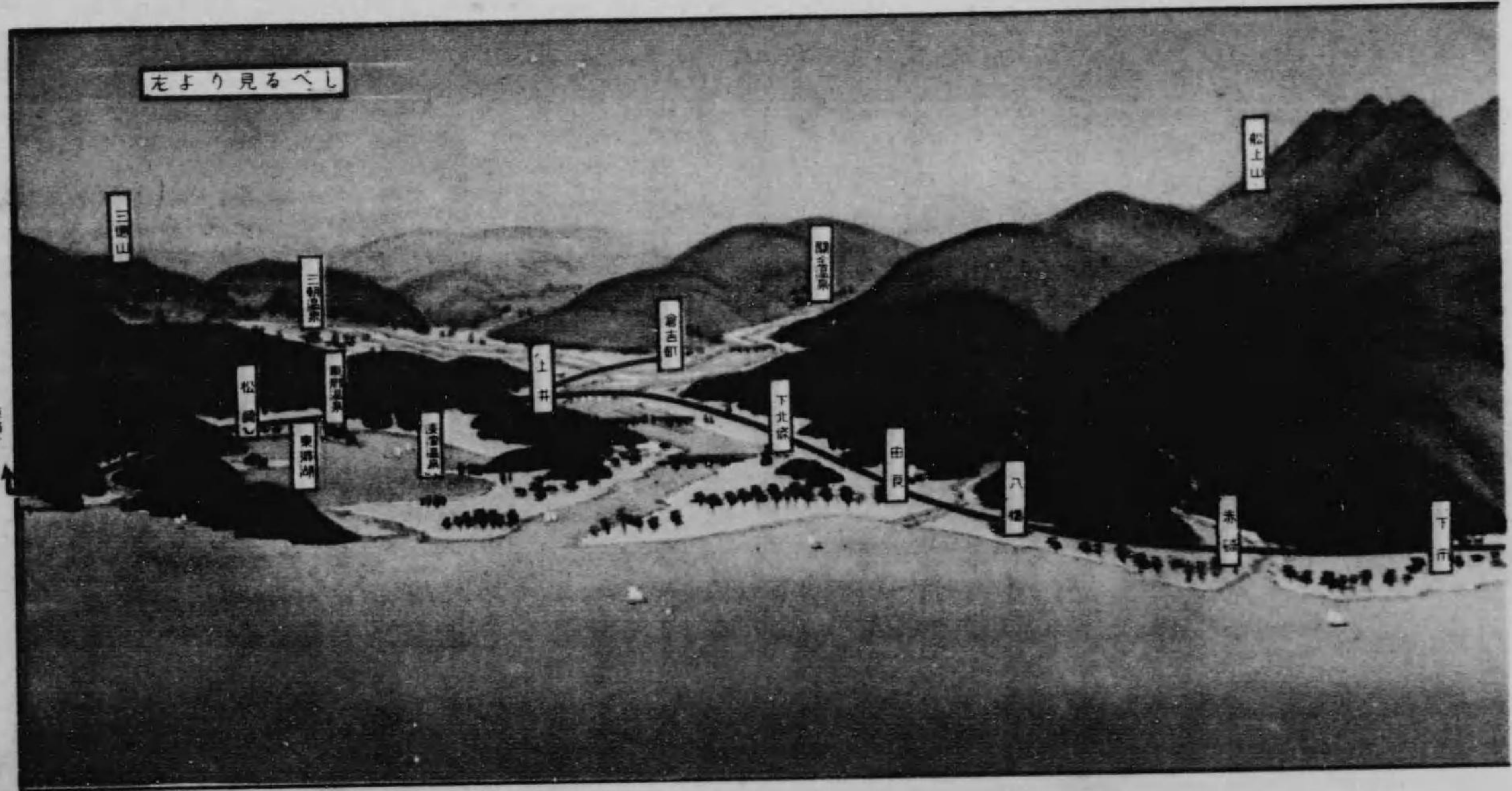
松江市は熊野縣廳の所在地で、縣は出雲、石見、隱岐を管轄し、中國山脈其南境に據え、三瓶山、青野山の火山あり、石見は特に山地多く、鐵、銅を産し又大瀬、石見半紙を出す、斐伊川は宍道湖に注ぎ、其下流は豐沃なる沖野原野をなして未穀の産が多い

互稱の主要産地 (大正八年)

島根	五九四、四三三圓	船本	一七、六五〇圓
島取	一四、六三七圓	全圖	六四、一九二八圓
(大正八年)			
島根	二二六、八二三圓	山口	九四、五七〇圓
島取	九一、四六一圓	全圖	八九、六六一圓

【宍道】(しんじ) 二二三〇哩三 釜上鐵道の接續點、同鐵道の沿線は神代史に著明な傳説を持つた地が多い、即ち加茂中縣から東北二里の須賀神社は素戔鳴尊が八岐の大蛇を退治て我心すがすがしと宣らせ給ひ、宮造して住まはれた處だといひ、木次驛の北七丁の八本杉は其退治られた場所だといつてゐる、木次驛の南六里には鬼の舌振といひ、馬木川の溪流二十餘丁に亘つて出雲第一の奇蹟を作つてゐる 【出雲今市】(いづまいまいち) 二四〇

大社驛の分岐點、同線は大社迄四哩七分、列車は多く大社へ直通する ▼大社驛で、大社驛から十二丁、俣貨三十錢、宮は古日本一の王者大國主命を祀り、創建遠く神代にあり、大社驛に下車して宇迦橋を渡り、大鳥居を過ぎ、阪路を上げれば第二の鳥居あり、それより賽路となる、中央に被橋あり、賽路の左右には古松長く連つて居る、更に碧銅の大鳥居を過ぐれば即ち社境で、四面荒垣を繞らし、内に拜殿、社務所、會所、八足門、樓門、神饌所、齋火殿、觀祭櫓を初め、大社の攝社末社整々相望んで居る、八足門の内更に瑞垣玉垣を二重に對して中央に本殿あり、即天日隅宮である、本邦初期の建築法で、祠宇の構造全く他の神殿と



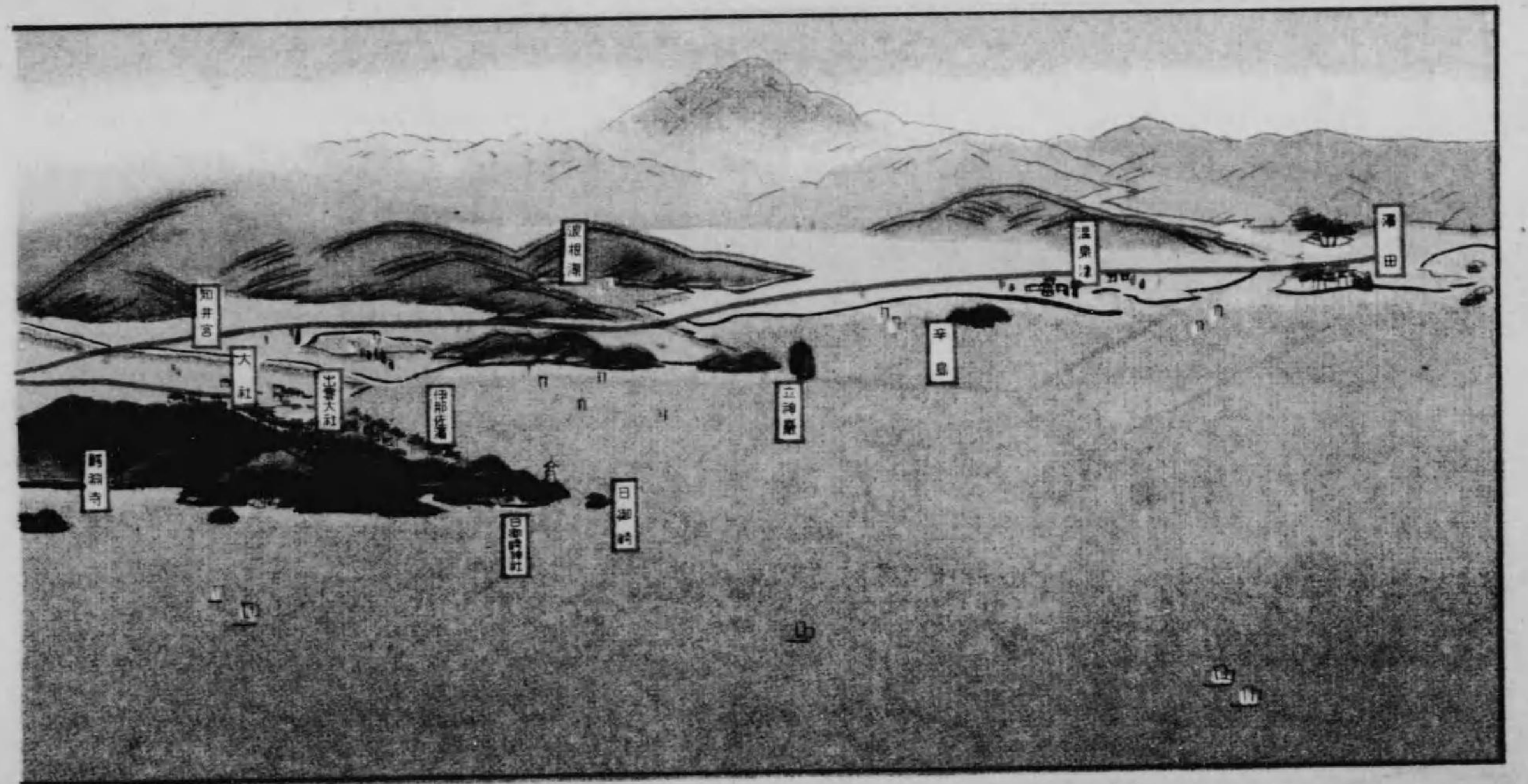
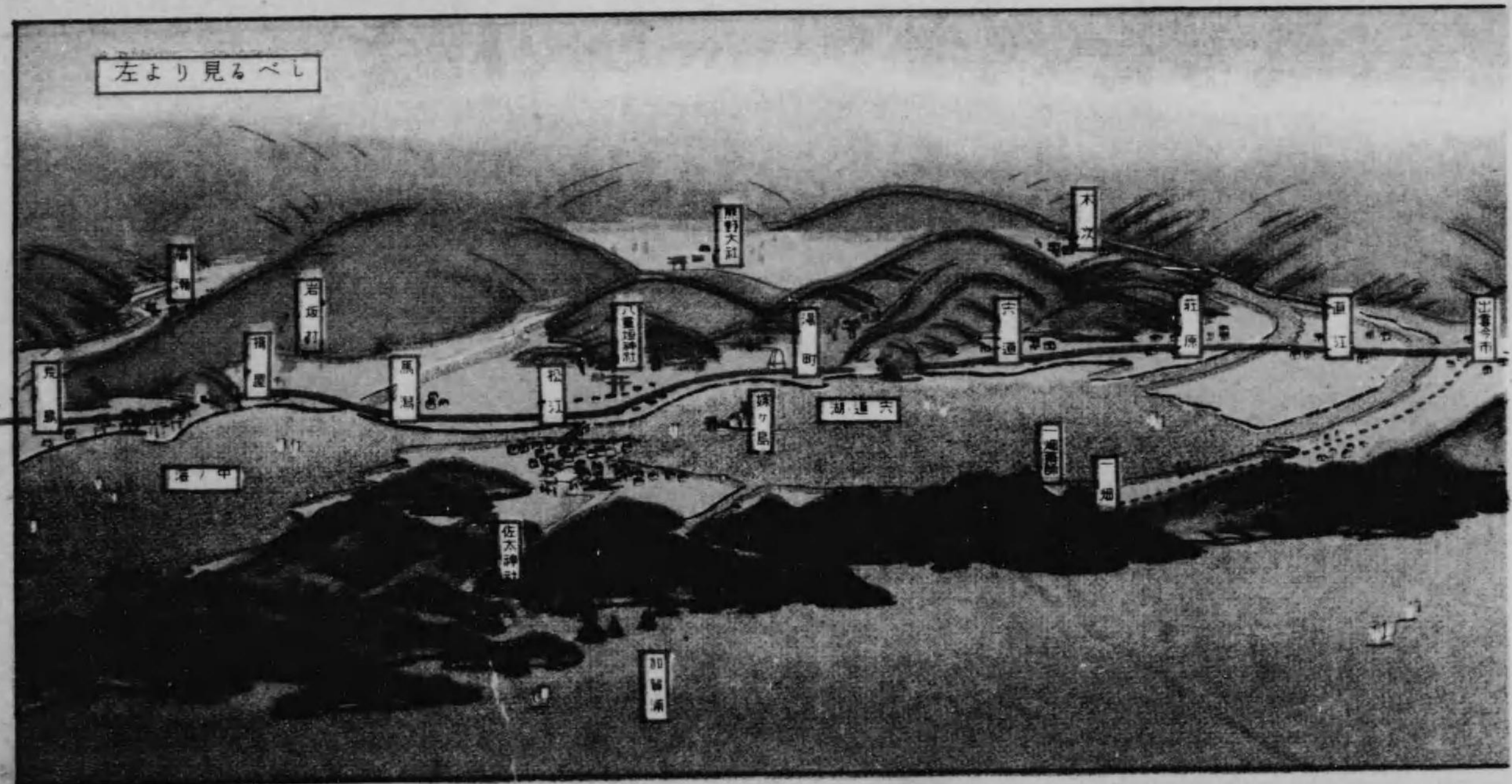
趣を異にし、椽木高く空に聳え、不均齊式の構造甚奇にして而も頗る莊嚴である、樓門に刻んだ葡萄に栗鼠の浮彫は左甚五郎の作で、日光の眠猫と共に双絶と稱せられ、觀祭樓上に在る稻田媛の塑像は、明眸浩齒長髮地に曳き、双を拵じて片足つまたてたるさま、溫和貞淑の相尊く拜される、社境は三面丘陵を以て圍まれ、後丘を八雲山といひ、向つて左は鶴山、右は龜山である、長松空を蔽うて俗塵を遮り、幽禽雲に啼いて靜なること太古の如しである。杵築の海濱は伊那佐濱、武家魂神と經津主神とが、大國主に迫りて、國避の諾否を問はれた舊蹟である、一帯の沙汀彎曲して三里濱とも云つて居る、船を備うて日御碕神社に賽することが出来る、宮は杵築より北西二里二十丁、伊那佐濱より船にて一時間で行かれる、發動機船買五人迄往復二圓である、上宮には素盞鳴尊、下宮には天照皇大神を祀り、今國幣小社に列して居る、境は丘陵に據り、松林社頭を蔽ひ、西南一帯日本海に面し、海上大小の島嶼岩礁起伏し風景がよい、附近に日御碕燈臺がある、今市旅館大平、加藤、黒崎、大社旅館、因幡屋、大和屋、森龜

▼一畑藥師詣で、出雲今市から一畑輕便鐵道が一畑迄走つてゐる、一畑藥師は一畑驛から八丁、古來賑疾に靈驗があるといはれ、參詣者は引きも切らない有様で、堂塔も壯麗である、途中雲州平田驛から三里を距て、鰐淵寺がある、俣貫院迄二圓、出雲今市からは北約二里、内一里俣貫七十錢、寺は天台宗の古刹で堂塔壯嚴に、境内は幽邃閑寂を極めてゐる 【石見大田】(いしほはた) 二六〇哩二 ▼國幣小社物部神社、東南一里、神武天皇の大業を補翼し奉つた可美眞手命を祀る、旅館環翠樓、木蓮、磯竹 ▼三瓶山登山、三瓶山は佐比賣ヶ嶽といひ海拔四千五百尺、石見第一の高峯、山頂四個に分れ、其最高峯を男三瓶、東の一峯を女三瓶、西の右を子三瓶、左を孫三瓶といふ、登路二途、一は西北麓小屋原より、一は南麓志學よりするが、多く志學から登る、志學迄俣は二人曳で行くが歩いた方が却つてよい

驛から大田川に沿ひ池田村を経て裾野に達し、片腕の松、夫婦松を経て志學温泉上の町迄五里十五丁、茲に一泊する、旅館北原、日の出館、翌朝六時頃より上の町横道より登山し、子三瓶より室の内を環狀に進めば、中央に舊噴火口の遺跡なる窪地があり、其東方に室の内池がある、行く事約二丁孫三瓶に接する處を鳥地嶽といひ、盛んに炭酸瓦斯を發散するので小鳥蟲等は斃死し、一帶の草木も色を變じてゐる、茲より男三瓶の頂上は十二三丁、頂上は平坦で金比羅の小祀がある、頂上からは藝備の連山と日本海とを一眸に收め、近く雲石の諸山と江川の上流邊りは絶えず雲の海と化し、其壯觀は筆舌の盡すところでない、登山は半日で足りるから案内者一人を雇ふの外何等の準備も要らぬ、歸途は小屋原温泉に浴するがよい、旅館熊谷がある、小屋原より石見大田驛迄二里二十丁 【温泉津】(ゆのつ) 二七三哩

一 風光明眉な海岸に地を占め、温泉と良港とで知られてゐる 【都野津】(つのつ) 二八六哩 ▼人麿神社、六丁、境内に人麿手植の松といふ老松がある 【濱田】(はまた) 二九五哩一 もと松平氏六萬石の城下で、龜山城址は驛から一丁である、外の浦は西北二十丁、風光明眉である、粟島は西一里、濱田港の全景を一眸の裡に收め、大麻山、三階山を望み、海上遙に高島孤島を眺むる、濱田以西は今建設工事中で本年十一月濱田周布間開業の豫定である、濱田益田間十里二十丁、自動車賃四圓五十錢 益田津和野間十里、自動車賃五圓、津和野徳佐間三里半、自動車賃二圓、萩行は濱田港から汽船による

大山お山の二股椿、枝は姫路に葉は日野川に、
花は米子の城で咲く



讃岐線

高松—伊豫西條 七一哩
多度津—琴平 六哩九分

讃岐線は高松を起點として西し、丸龜、多度津、觀音寺を経て伊豫西條に至る線と、多度津より琴平に至る線とを云ふのである。西條より松山に至る約四六哩及琴平池田間十七哩の徳島線との連絡線は目下建設中で、大正十四年開通の豫定である。列車は多く高松より琴平に直通運輸し、其間約一時間四十分を要する、本州との交通は岡山より宇野に至り、省經營の連絡船に頼つて高松に着するのである。連絡船は毎日六回往復し約一時間十分を要する。記事は高松より琴平迄通じ、次に多度津伊豫西條に移つて居る。

【高松】(たかまつ) 四國の大埠頭で松平氏十二萬石の舊城市、玉藻城の白壁が美しく見える、今人口四萬六千人を有し、傘、漆器、保多織、彫刻物、燗寸、砂糖、鹽、麥稈眞田、素麵、醬油、和紙等を産し、名物屋島焼、源平餅、鯛味噌漬、理平焼、カラ



スミがある、高松で見物すべき所は栗林公園である、公園は南半里、電車賃九錢、俵賃三十錢、舊藩祖松平頼重の築造したもので、四代頼泰が之を修治した、面積十六萬五千餘坪、後に紫雲山を負ひ、六の池水と十三の山坡とを巧に布置し、叢林四方を透つて林泉の美夙に世に聞えてゐる、近時北園を拓いて洋風を加味し、南園と相對して一層の景趣を添へてゐる。▼屋島から五劍山、志度寺へ、屋島は東一里卅四丁、山麓迄電車賃廿四錢、四十分を要する、山麓から寺迄約半里、駕籠賃往復二圓、片道一圓、屋島は源平二氏の決戦場たる歴史と、獅子の靈岩、談古嶺等瀬戸内海の風光とを持つるので訪ふ人が尠くない、屋島寺は堂宇壯麗、源平合戦の古器を多く藏してゐる、山を下つて電車に乗り更に東へ進めば五劍山下に停留場がある、五劍山頂迄は道が峻しいので多くは中腹の八栗寺に參詣して歸る、寺

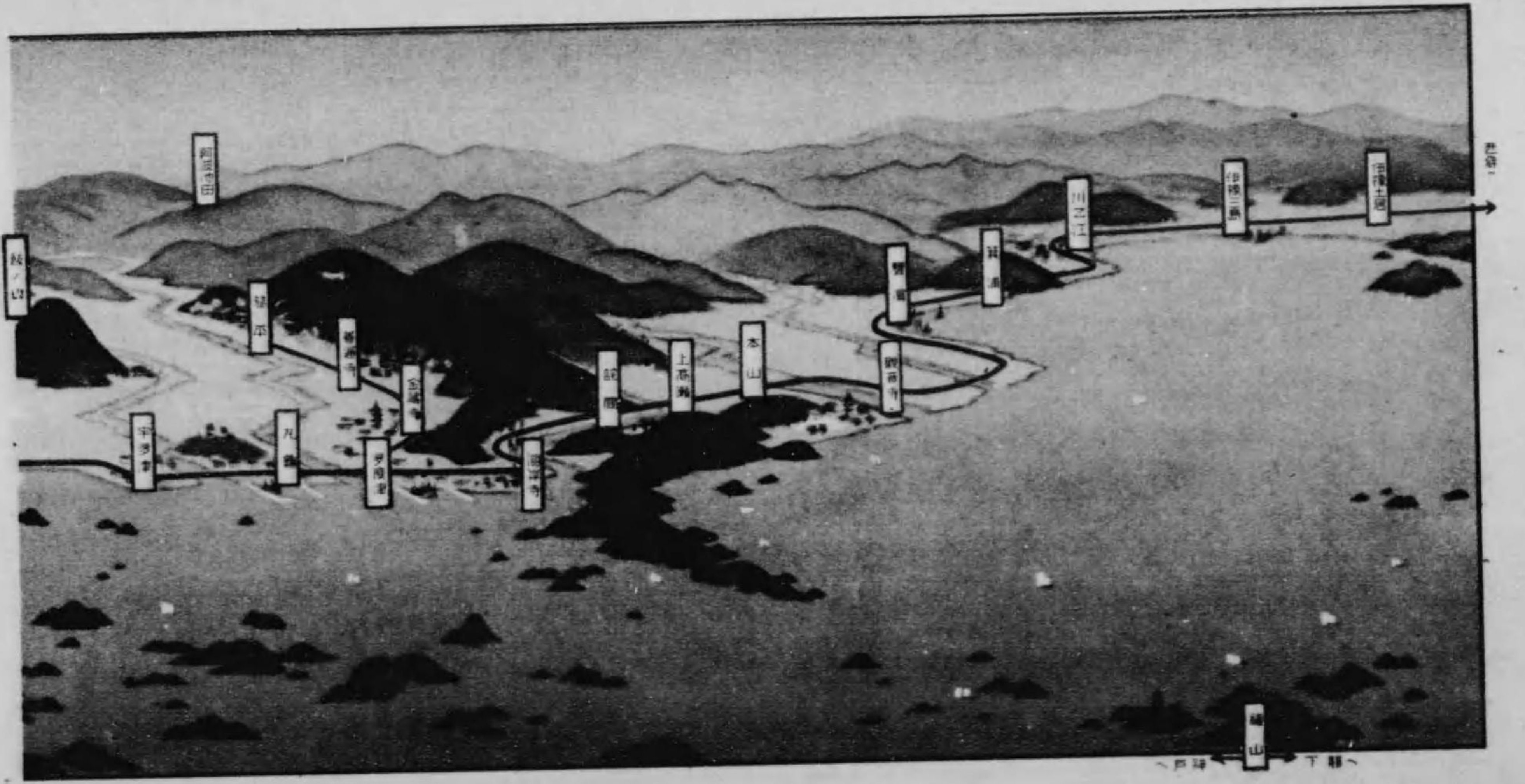
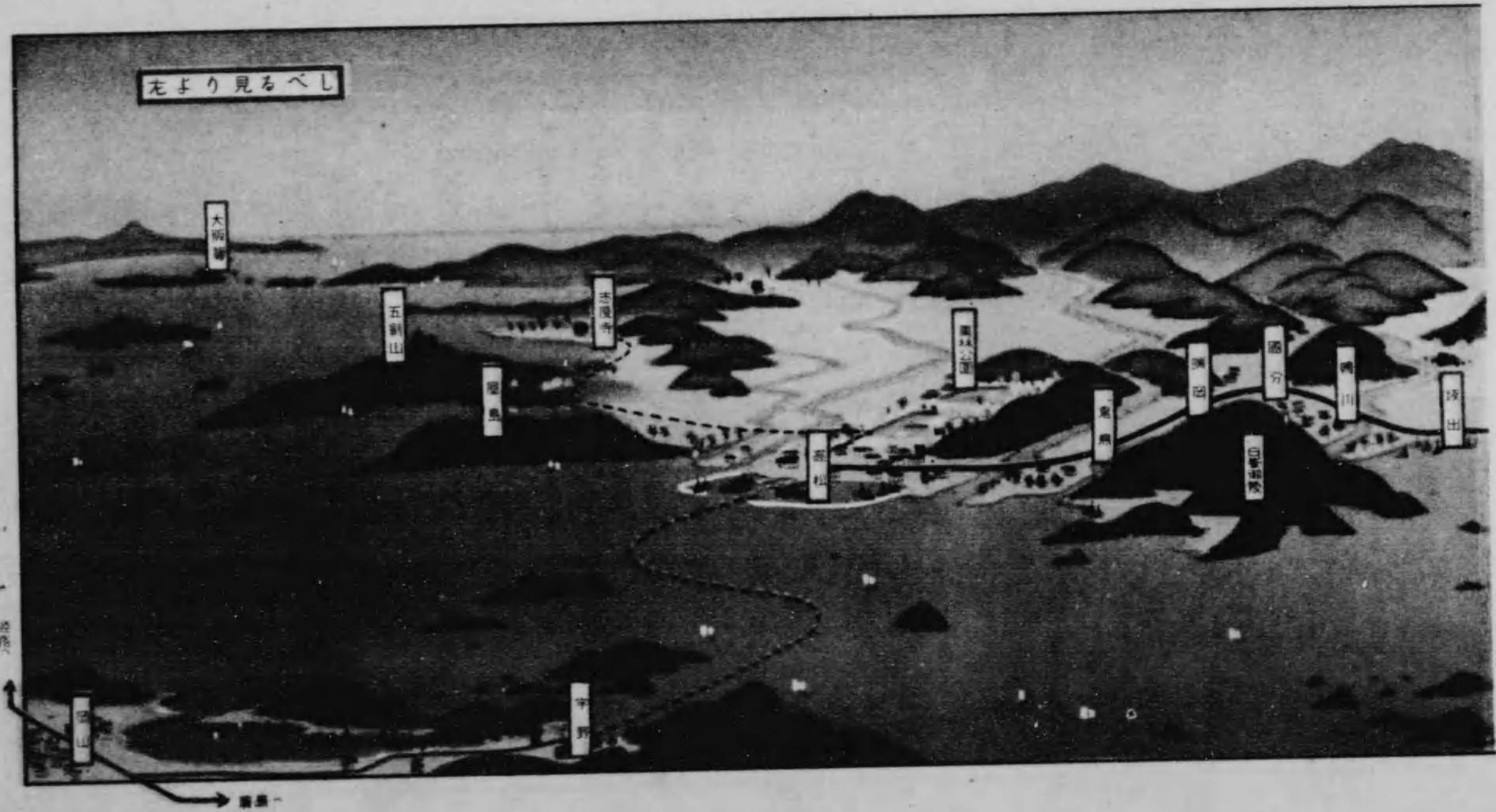
迄往復約三時間を要する、更に電車を志度の終點に下車すれば、志度寺は五六丁に過ぎぬ、謡曲海女の古蹟で蛸女の墓もあり、國寶志度寺縁起もある、志度から東約二里、俵賃八十錢に津田の松原がある、以上の行程は高松を早朝に出發すれば其日に高松に戻る事が出来る。▼小豆島寒霞溪 高松より坂手迄東十五里、汽船の便があり、一時間半を要する、寒霞溪は坂手より二里、洞門、怪岩、瀑布、溪流の勝に加へて瀬戸内海眺望の美あり、或は九州の耶馬溪に優ると稱せられ、紅葉の時分には訪ふ人が尠くない、高松よりは二日の行程である、高松旅館辻梅、可祝、岡田屋、砂屋、蓮井、備中屋、井戸屋

高松市は香川縣廳所在地、縣は讃岐國を管轄し、府境には讃岐山脈あり、地勢次第に北に低く、平野は農産に富み米麥の産が多い、海産は出入多く製鹽の業盛に振出は其中心地である

香川	六九、二八五圓	北海道	五一、七九三圓
島取	二五、二九九圓	大 阪	二五、二四二圓
廣 島	一一、九四九圓	全 國	四一、二六三圓
(大正八年)			
出 庫	二九七、六三五、一〇五圓	三 田 尻	一六一、三三八、三二四圓
兵 庫	一三四、〇五五、一四七圓	廣 島	一一四、五七六、五二八圓
全 國	九八一、六七五、五二四圓		

【鬼無】(きなし) ▼國幣中社田村神社、南一里俵賃五十錢 【國分】(くにぶ) ▼國分寺、東二丁 【鴨川】(かみがは) ▼白峰寺北二里

麓迄俵賃五十錢、山上崇徳天皇の白峰御陵があり、内海の水一碧鏡の如きを見る、尙驛南十丁には天皇の行在所たる木丸御所址がある、俵賃二十錢 【坂出】(さかいで) 一三哩二 瀬戸内海に望んで附近に鹽田多く、人口二萬を有する ▼讃岐富士飯の山、南一里十丁、俵賃七十錢、旅館三島屋、紅葉屋 【丸龜】(まがめ) 一七哩四 元京極氏五萬二千石の城市で昔は琴平參詣の要津として榮えたものである、今人口二萬五千人を有し、花菱、團扇、醬油、竹細工等を産し、坊太郎餅の名物がある、城址は今丸山公園となり南十丁、西半里、(俵賃三十錢) には中津公園あり附近に海水浴場がある、旅館玉川、中村、阿波勤、日の出 【多度津】(ただつ) 二〇哩一 京極氏一萬石の支封地で鐵





道は茲に分岐し、一は南して琴平に至り、一は西して西條に至つて居る、築港は北十三丁俵廿五錢、四國樞要の良港で一日の汽船發着二十回あり、尾道方面よりする琴平參詣客

の上陸地である、旅館花菱、戎屋、讀樂舎、旭屋【金藏寺】(とんざうじ) ▼金倉寺、東三丁、智證大師の誕生所で乃木大將の遺跡がある【善通寺】(ぜんつうじ) 二三哩八 ▼善通寺、西十丁俵三十錢、弘法大師の誕生地で寺域は父善通の邸宅だつたといふ、境内廣瀨堂宇各所に聳え洵に讃州第一の名刹である ▼第十一師團司令部、西南十四丁、旅館鹽田、錦屋【琴平】(ことひら) 二七哩 ▼國幣中社金刀比羅宮、西十四丁、道の半以上は石段であるから俵に乗る程ではない、大巳貴命に崇徳天皇を配祀してゐる、群俗の崇敬極めて厚く賽人の多き事伊勢大廟に亞ぐといはれる、神殿、拜殿、繪馬殿、參籠所、旭社、社務所等何れも壯大華麗なものである、拜殿の附近から讃岐富士、五剣山から内海の風光迄見渡される、神社に参拜したらば鞘橋を見て公園に行かれるがよい ▼阿波池田町、南九里、自動車賃四圓五十錢、三時間を要する、琴平旅館、琴平花壇、虎屋、備前屋、櫻屋【本山】(もとやま) ▼本山寺、南十丁【觀音寺】(くわんおんじ) 三四哩九 ▼琴彈公園 北十五丁、俵賃卅錢、瀬戸内海に面して風光絶佳である、園内に名刹觀音寺、琴彈八幡等あり、寶永通寶の錢形が掘られてあるのも面白い、旅館松廼屋、池徳、藤川【曇演】(とんげん) ▼曇邊寺、曇邊寺山上に在り眺観雄大である、麓迄俵賃五十錢【川之江】(かはのき) 四四哩六 ▼城山公園、西十丁 ▼三角寺、東南一里半 ▼仙龍寺奥の院、東南二里半 ▼阿波池田町、東南七里十五丁、自動車賃三圓六十錢、約二時間半を要する、旅館川路屋、杉源、坂本屋【伊豫三島】(いよさんま) 四八哩 東豫商業の中心地で北東五丁に三島神社がある 旅館千鳥亭、綠屋【新居濱】(にいりはま) 六四哩 ▼新居濱町、



北一里俵賃五十錢、本線沿岸汽船の寄航地で別子銅山の埠頭である、旅館善喜樓 ▼別子銅山、南三里、新居濱町から續物運搬軌道がある、住友家の經營になるもので、従業員約六千人、銅年産額五百萬斤、東の足尾と共に銅礦として天下に知られ、規模も亦雄大である【伊豫西條】(いよさいじょう) 七一哩 西條町は北十丁俵賃二十錢、松平氏三萬石の舊城下である、旅館新屋 ▼石槌神社、南六里、石槌山の半腹にあり、賽路喧しく鐵道を攀ずる處もある、毎年夏季の参拜者極めて多い ▼西條より松山へは四十里、自動車賃六圓、約三時間を要する 今治を経て松山に至る國有鐵道は今工事中である、松山は久松氏十五萬石の舊城下で、人口五萬一千人を有し、愛媛縣廳が置かれてある、中國方面よりする者は尾道より汽船によつて高濱又は三津ヶ濱に上陸して伊豫鐵道又は松山電氣によつて松山に行く。道後温泉は松山の近郊にあり、松山より電車が

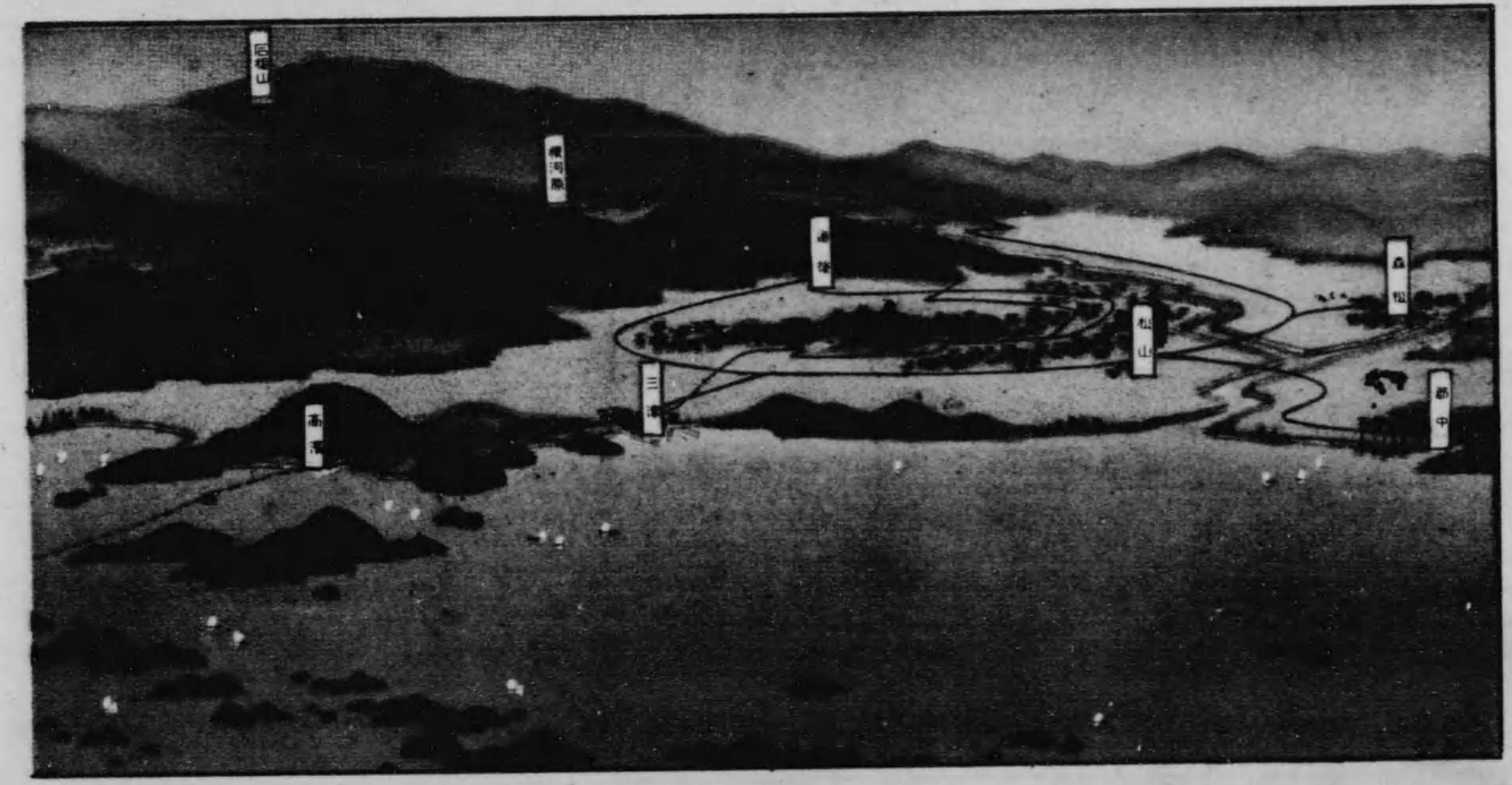
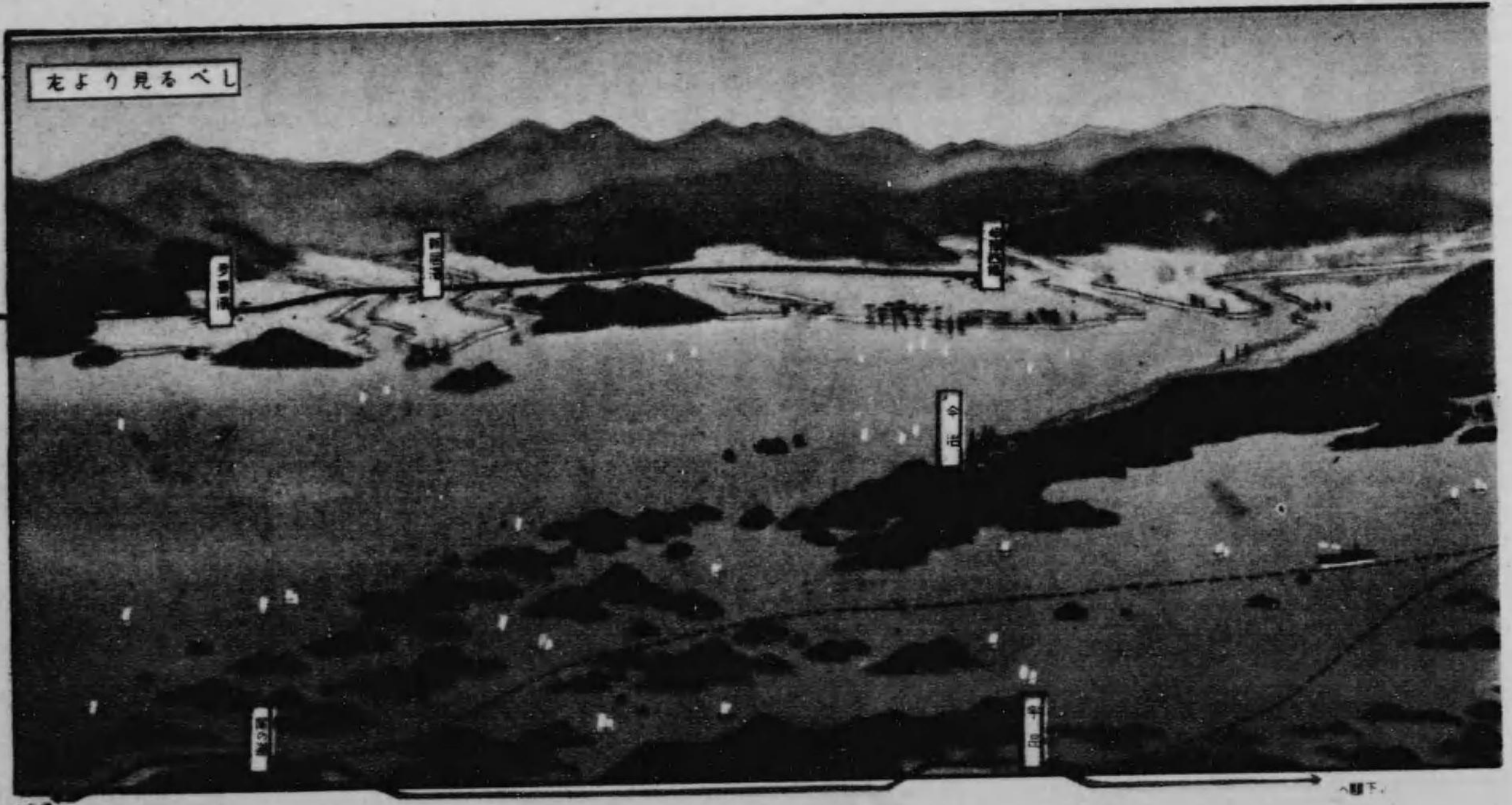
ある、道後旅館別荘、道後ホテル、岩井屋

調物本局の主要産地 (大正八年)

愛媛	一三八九七五〇圓	福岡	一〇五一三三九圓
桑良	六八九二九三〇圓	靜岡	二、八九八、二七一圓
埼玉	二、五五七、六〇六圓	全 國	四七、五三七、二八圓

桃の花散り、櫻も散つて、夏の來るのはもう間もないよ、織らねばならん旦那の單衣、キッコ バツタリコ〜。

伊豫俚語



徳島線

徳島線とは

一徳島本線 徳島、阿波池田間四六哩
 一 小松島輕便線 徳島、小松島間六哩九分
 の總稱で、其本線は徳島を起點として吉野川の南岸を走り池田に至つて止まり、小松島輕便線は連帶航路の大坂商船と阿波共同汽船との着船地たる小松島より徳島に至つてゐる、小松島と大阪、兵庫間には毎日二回の汽船便あり、賃金大阪兵庫共に三等二圓二十五錢、二等四圓五十錢、一等六圓七十五錢、別に此汽船を介して汽車汽船の連絡切符を發賣する、列車は多く小松島より阿波池田に直通運轉し、約三時間を要する、便宜上記事は小松島より始めた

【小松島】(こまつしま) 大坂商船及阿波共同汽船着船場 ▼横須の松原、東南廿五丁、海水浴に適する、旅館万野、松の家、角佐【中田】(ちゅうでん) 阿南鐵道接続點、此鐵道は立江町を経て古庄迄走つてゐる ▼日峰神社、北廿丁 【地藏權】(ぢざうばし) ▼丈六寺、南廿五丁、傳賃卅五錢 【二軒屋】(にせんや) ▼勢見山、西北六丁、山上國幣中社忌部神社がある ▼模範村佐那河内村西南三里廿五丁、傳賃一圓七十錢 【徳島】(とくしま) 六哩九



蜂須賀氏廿五萬八千石の舊城市で、人口六萬八千人を有し、四國第一の都會である、阿波縮、綿糸、白木綿、紺緋、絨織、酒、煙草、鳴門若布を産し、藍、材木、砂糖の集散が盛

んである、徳島市の大體觀は舊城址滑山と大瀧山公園とに登つて眺める事によつて知れる、滑山は徳島公園の事で東三丁、大瀧山は西南八丁、傳賃廿六錢、春は櫻が見られる、津田浦海水浴場は東一里十丁、傳賃七十錢、模範村勝占村は東南一里、里浦村は北三里にある、有名な阿波の鳴門は東北五里、吉野川を巡

航船にて古川橋に至りそれより撫養迄阿波軌道(三等三十六錢)によれば撫養より二里餘、傳賃往復三圓、雨天四圓、月歸の初滿潮の時は南海第一の壯觀を呈する、徳島旅館平龜樓、志摩源、龜龜樓、松水

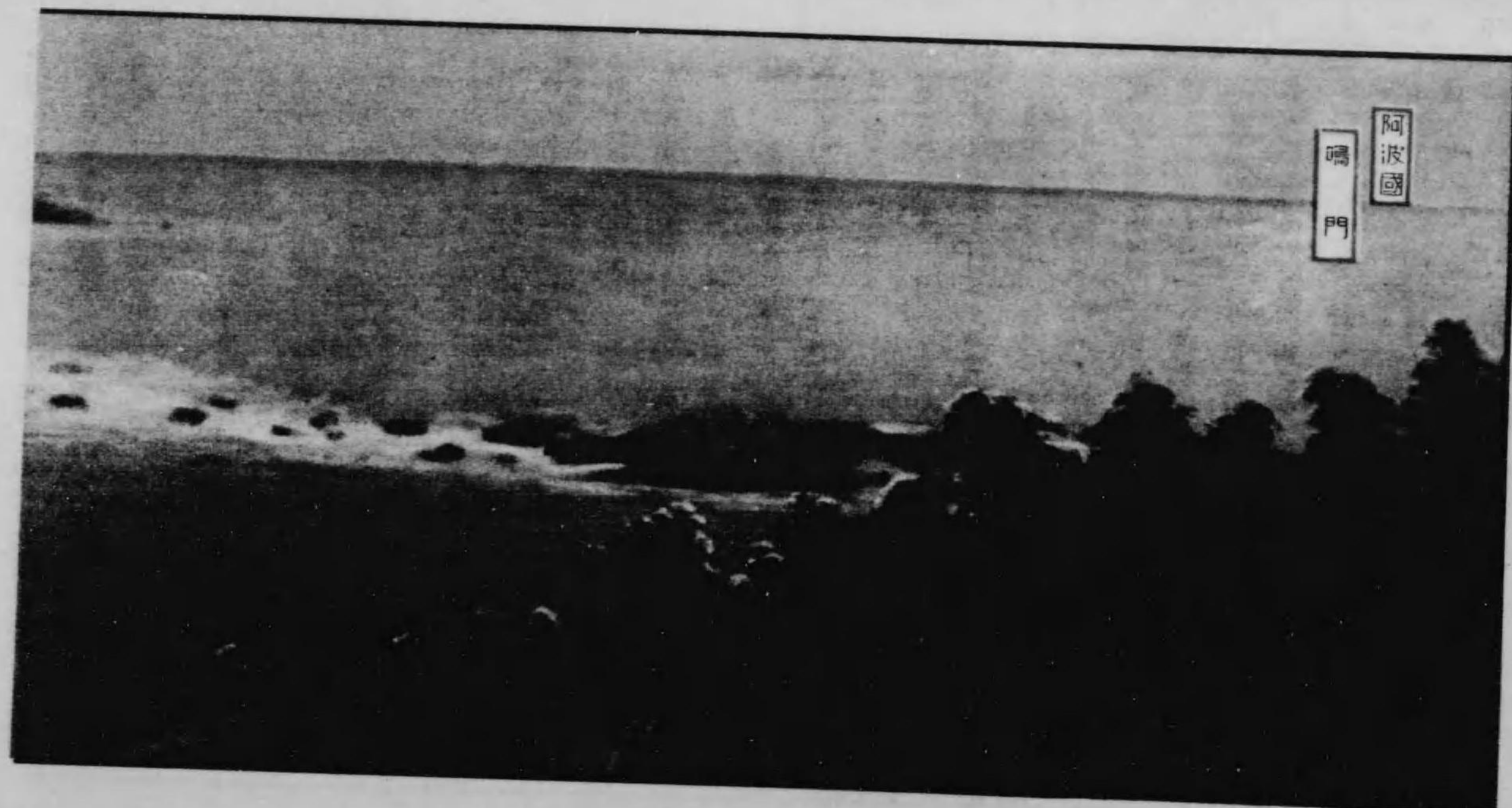
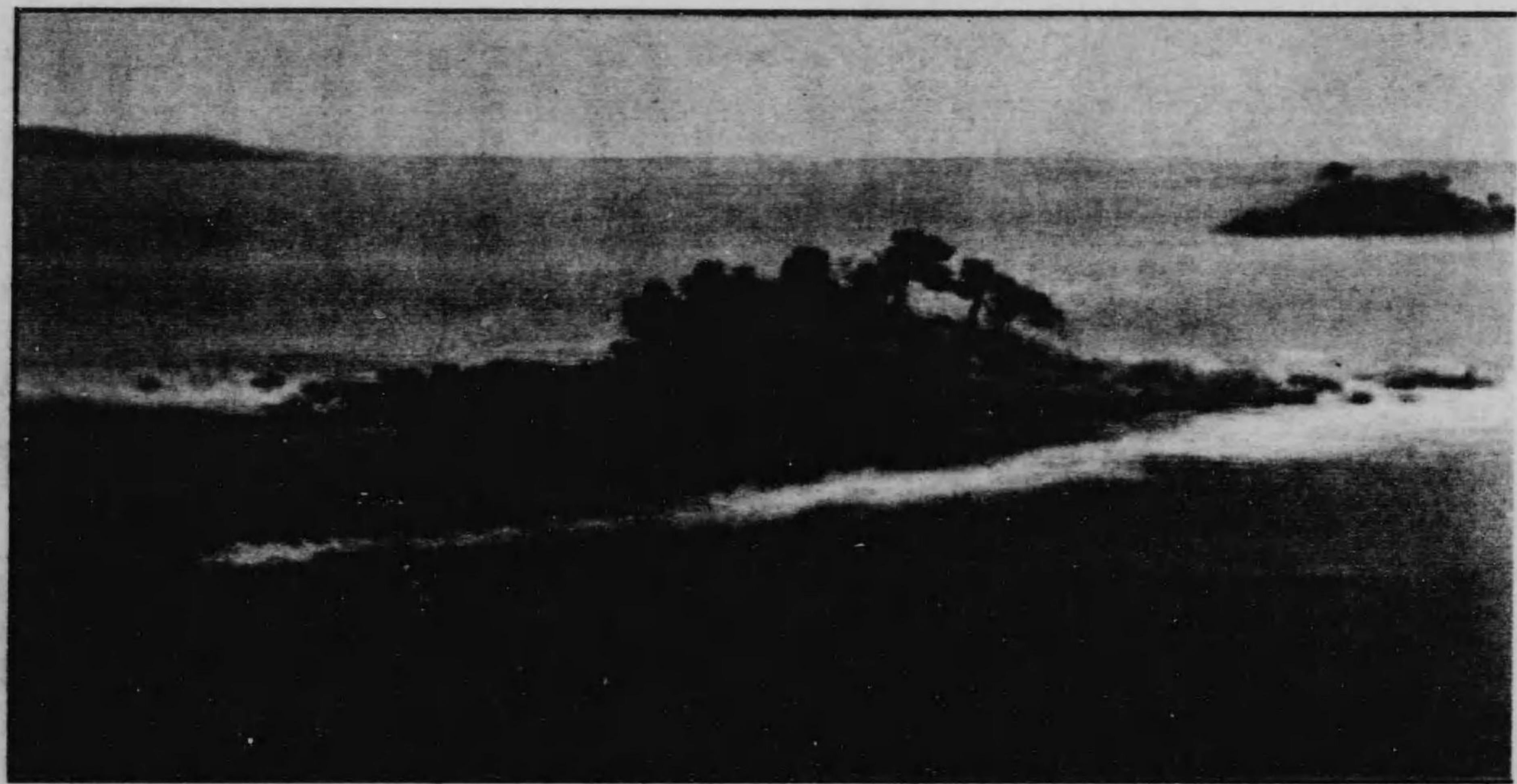
徳島市は徳島縣廳の所在地で、縣は阿波國を管轄し、四國山脈の東部郡下に延び、吉野川沿岸の地は藍の産地として名高く、河口の三角洲には徳島市あり、上流の池田附近には藍草を多く産出し、撫養は鳴門海峡に面して青田鹽を産して居る

徳島の主要産地	北海濱	一七三二一九圓
三重	全 國	三三九七五七八圓
藍の主要産地	(大正八年)	
沖繩	全 國	一七一〇四五圓
藍玉の主要産地	全 國	四、一四四六一九圓
愛知	全 國	(大正八年)
徳島	全 國	一一、一七九二圓
愛知	全 國	一、四九八三九二圓

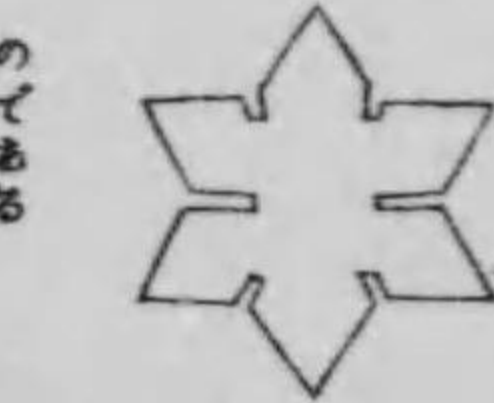
【府中】(こま) ▼國分寺、西南廿丁 【鴨島】(かもしま) 一八哩六
 ▼藤井寺、南廿七丁 ▼法輪寺、北一里半 ▼熊谷寺 北一里半、旅館豊島屋 【阿波川島】(あはがしま) 二一哩 ▼古城山、北四丁 ▼切播寺北二里、旅館綿屋 【川田】(かはた) ▼林村土柱、北一里、礫砂から成る水成岩は水氣に侵蝕されて土柱となり、其高さ四五丈に達するもの無數林立し、地質學上珍重されてゐる

【穴吹】(あなぶき) 三〇哩九 讃岐高松へ十四里半、乗合自動車賃五圓、途中に鹽ノ江源泉がある 【阿波加茂】(あはかも) 驛前の索道は延長八哩、祖谷山無盡藏の林産物は此索道に依つて輸送される 【辻】(つじ) ▼善藏寺、西北一里半、吉野川を渡つて行く、山麓迄傳賃七十錢、麓より十八丁、もと琴平神社の奥の院と云はれた寺で、堂塔伽藍壯大を極めてゐる、歸途は二里弱の池田に出るがよい 【阿波池田】(あはいけだ) 五二哩九 山間の

要害地で讃豫土交通の衝に當り、吉野川を上下する船舶も亦多く輻輳するので、一種河港の繁華を呈してゐる、昔は三好氏に在つて阿波を治め、長曾我部氏も亦對岸の白地に居城して四國を兼併した ▼雲邊寺、西北三里、川之江行きの自動車は其半里程前を通る、寺は雲邊寺山上に在り、元親が四州を望んで



呑嚙の念を起したと傳へる ▼大歩危、小歩危の勝、南西四里乃至五里半、大歩危迄自動車賃四圓、大歩危迄は自動車は危険な個所を通過するので途中川口村(賃金一圓五十錢)で下車し、更に車を雇へば川口村より大歩危迄往復三圓である、土佐街道に沿うた吉野川の奇勝で、兩岸高く壁立して、流れ狭くて低く恰も井底を走るが如く、舟を雇つて川を下れば水鳴り石動き宛然柳州八記の中に在るが如き思ひがある、大歩危、小歩危間舟賃二圓乃至三圓 ▼祖谷蔓橋東八里十丁、一字迄七里半、俵賃六圓、松尾川の溪澗左右絶壁をなし、橋梁を架する事が出来ぬので蔓を編んで釣橋を設くるもの十三、中に善徳橋と云ふのが最も高い、若し橋上から何十丈もあると思はれる深溪を見下したならば眼がくらむと言はれる、祖谷村の住民は平氏の遺裔なりと傳へ、赤旗二旗を藏し、正平中の輪旨執達狀を傳ふる舊家がある、僻遠なる深山に武家が逃込んだ處として、三好氏も長曾我部氏も全く手につけられなかつたといはれる、外界の文化に感化を受ける事なく、言語風俗中世の遺風を留めて居る ▼池田から高知市迄廿三里廿八丁、自動車賃八圓五十錢、讚岐線川之江驛迄七里廿七丁、自動車賃三圓六十錢、旅館松又、政海樓、清月樓、(池田町)菊屋(佐馬地村)芳野館(山城谷村)



高知縣は未だ國有鐵道を有せず、阿波池田より吉野川の上流に沿うて入るか又は汽船便に頼るの外はない、縣は土佐國を管轄し、四國南部の大半を占め、南に土佐國を抱き、山嶺重疊森林蓋覆して良材を産する、仁淀川の流域には、檜、三杉多く、半沢の製造が盛んで伊野は其中心地である、高知市は高知縣廳の所在地で浦戸灣頭に在り、人口四萬二千七百人を有して居る、近海は水産に富み、鯉鮭の産多く、土佐節の名風は世に聞えて居る

のいある

高知	一八、一三三、五八三圓	愛媛	七、二六八、三六九圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓
高知	一、一八、二二八、〇六二圓	高知	一、一八、二二八、〇六二圓

東京	五三、一九、五五八圓	岐阜	五、二六七、〇八七圓
東京	四六、六一、四三八圓	岐阜	七、九、五七四、〇七九圓
東京	二、三、七、一、五七五圓	岐阜	九、九、一、〇七圓
東京	五、四、二、七、二〇圓	岐阜	六、八、八、七、七三圓
東京	一、七、七、六、三九圓	岐阜	六、三、一、八、二五圓
東京	五、五、九、五、一六圓	岐阜	五、三、一、〇、〇六圓
東京	四、六、八、五、三二圓	岐阜	七、九、七、三、四二圓

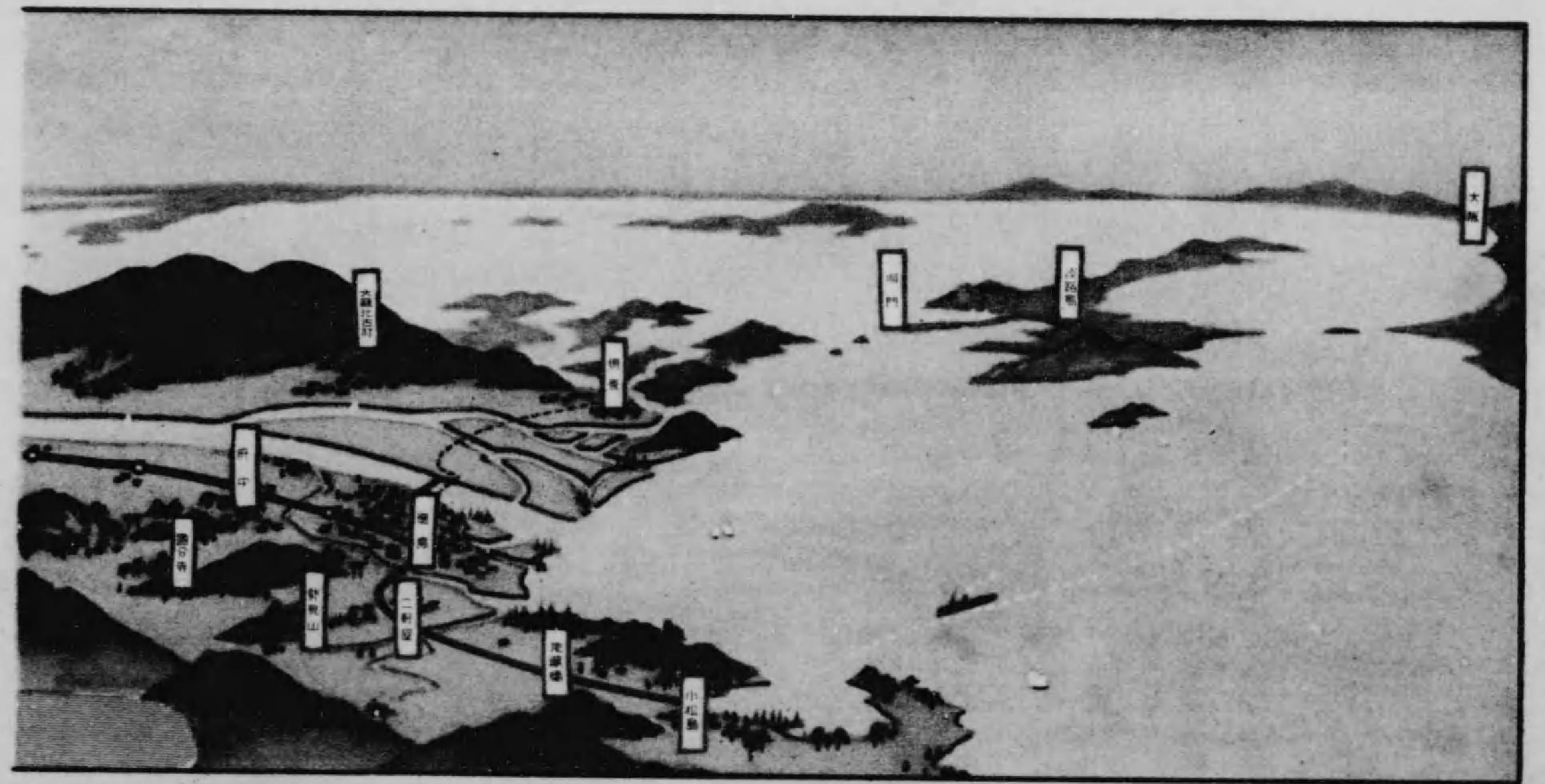
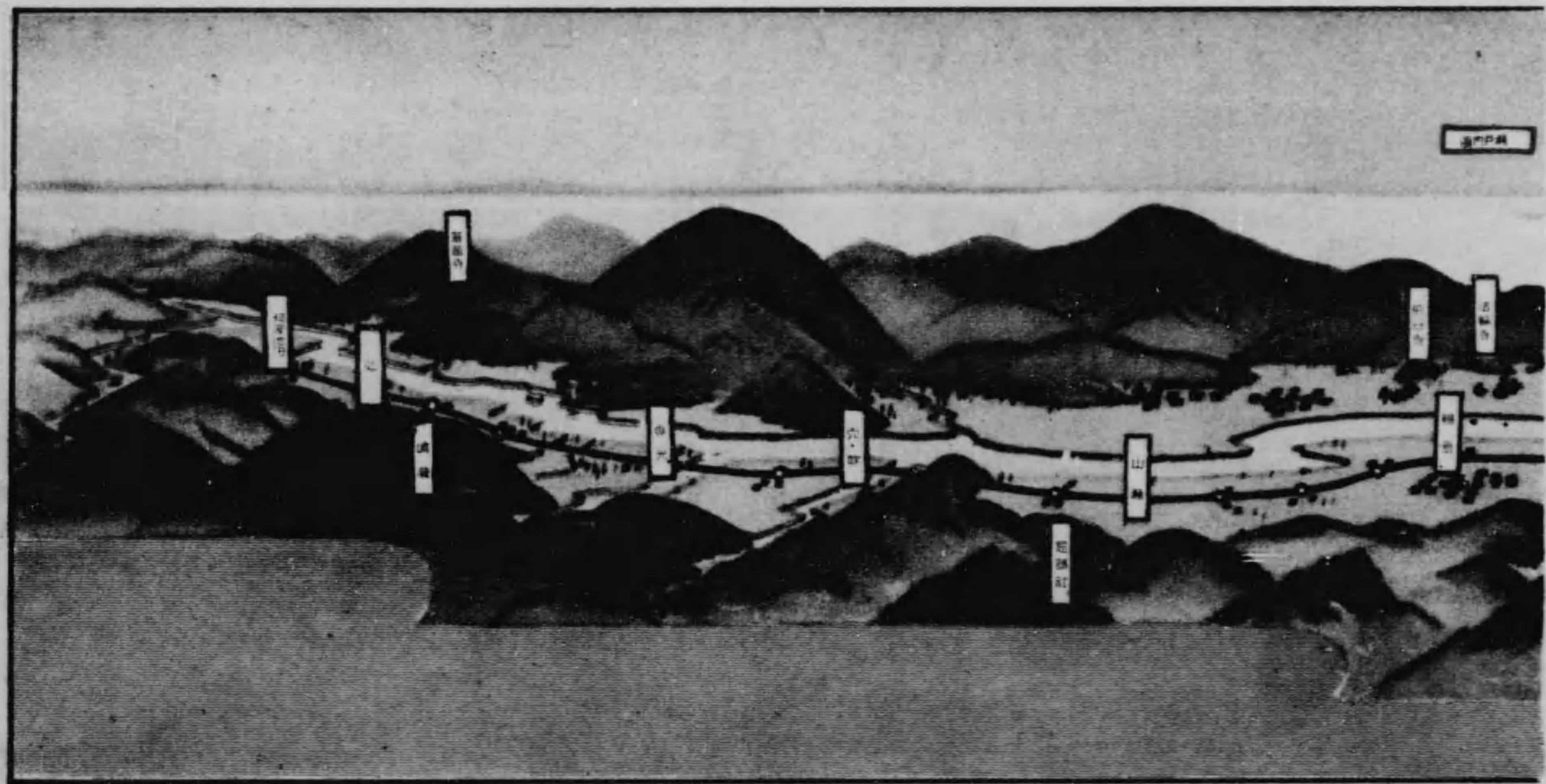
早川に金わをすゑて火を焚くとも、いやよ、ふた道かける殿は、いやよ、ツトトントト、殿はいやよ。

淀川に綱なし船はつなぐとも、いやよ、ふた道かける殿は、いやよ、ツトトントト、殿はいやよ。

土佐はよい國南をうけて、年にお米が二度とれる。見ましまし見せましまし、浦戸をあけて、月の名所に桂濱。

(土佐)

(阿波)



鹿兒島線

鹿兒島線とは

- 一 鹿兒島本線 門司、鹿兒島間二三八哩八分、及貨物支線
- 一 室木線 遠賀川、室木間六哩九分
- 一 篠栗線 吉塚、篠栗間六哩四分
- 一 宮地輕便線 熊本、宮地間三三哩一分
- 一 三角線 宇土、三角間一五哩九分
- 一 山野輕便線 栗野、山野間一四哩五分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部をなし、門司を起點とし、九州を縱貫して鹿兒島に達するのである。其間小倉よりは豐州線を南に分岐し、折尾にては築豐線と交叉し、遠賀川よりは室木線を南に岐ち、吉塚にては東に篠栗線を岐ち、鳥栖よりは長崎線を西に分岐し、本線は更に南して熊本にて宮地線を東に岐ち、宇土より三角線を西に岐ち、栗野から山野輕便線を岐ち、國分よりは鹿兒島灣に沿うて鹿兒島に至つて居る。列車は門司鹿兒島間四回、門司長崎間四回の直通列車あり、中一回は急行にして、鹿兒島へは急行約十時間、普通約十三時間、長崎へは急行約六時間半、普通約八時間半を要する。

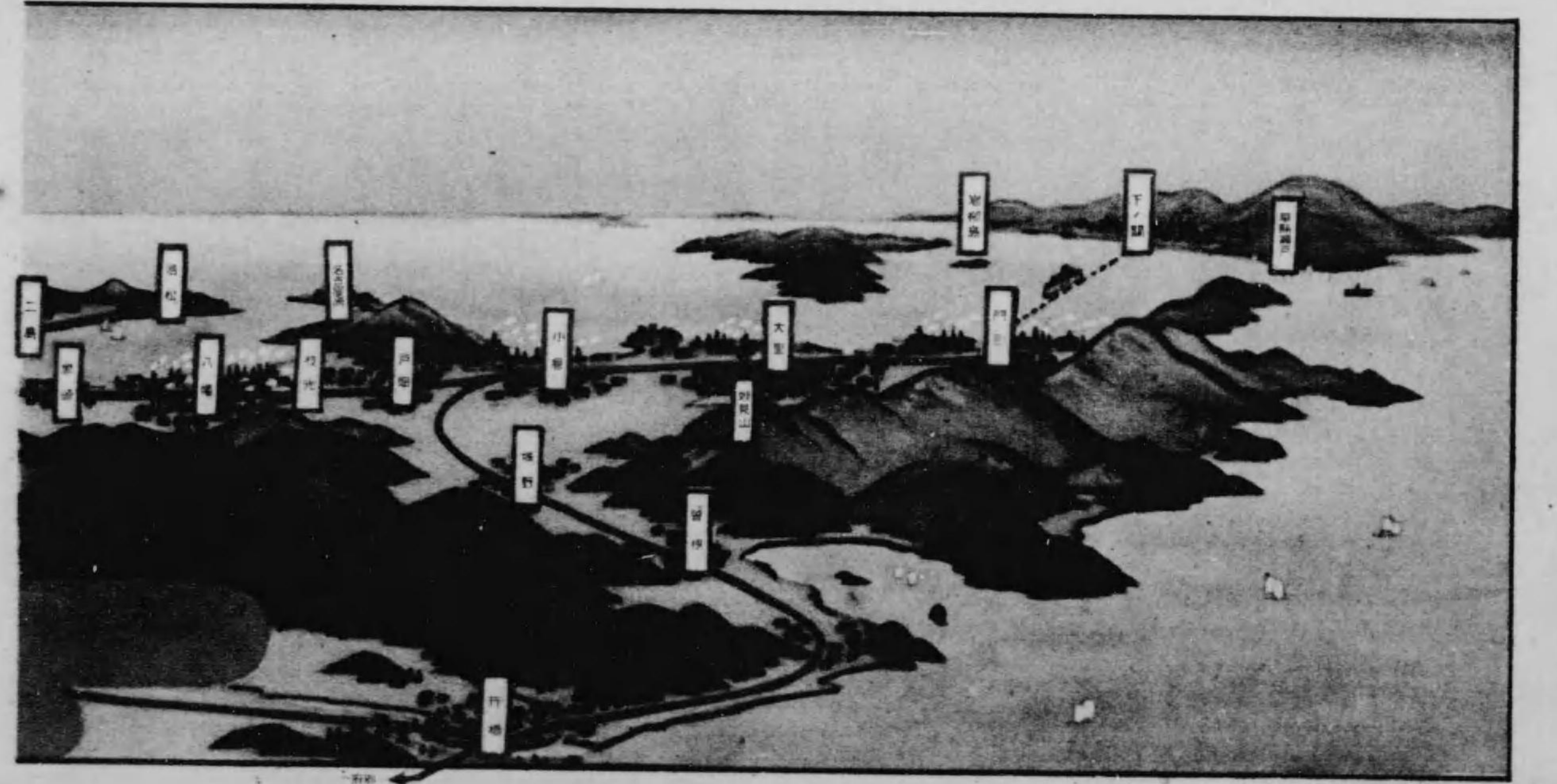
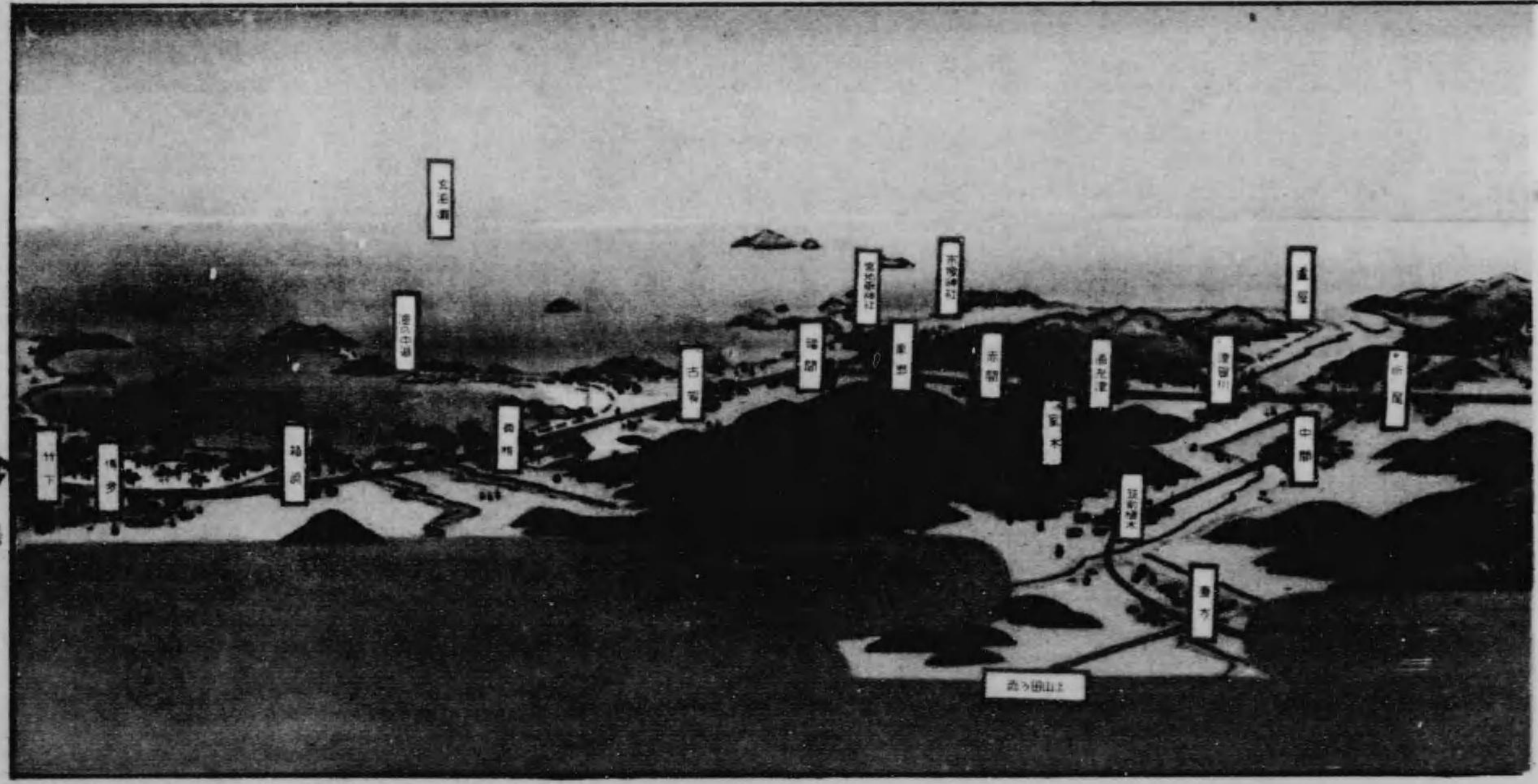
汽車が門司を發して海岸に沿うて西に走ると、車窓の右に筑豐諸地の煤炭累々として人をして直に九州の富を想はしむる。大里の海濱は金救の高濱と云ひ、白沙青松長く連り風光が佳い濱を後にすれば玄海灘怒濤澎湃として六連、馬、藍、白洲の諸島眼界に入り來るのである。月畑から汽車は洞海の東南岸に沿うて走り、線路の右に入幡の製鐵所見えて、無數の煙突林立し、煤煙天を覆ひ、對岸の若松港亦近く指點せられる。香椎、箱崎の間、一水緩に流れて海に入るのは多々良川で、尊氏西奔の時、肥後の菊池氏が吉野朝の爲に、屢少貳大友と戦つた所、汽車は此間を走りて、海の中道を右に見つゝ進む、風光明媚である。

鹿兒島本線 門司—鹿兒島 二三八哩八分

箱崎より博多に至る間は即ち千代の松原、満目の赤松、千態萬様、筑崎宮、龜山上皇、日蓮の銅像等皆車窓の眺に入りて、汽車亦畫中のもとなつた感じがする。博多よりは鐵路南し、菅公に因深、天拜山を右に、寶滿山を左に見つゝ進んで行く、この間山野田蕪の間、多く櫛樹を見る、晩秋の眺、紅楓より美を呈するのである。鳥栖よりは長崎線が西に岐れ、本線は更に南して筑後川を渡る、川は九州第一の長流、賴山陽の詩に名高き所で鐵橋を渡れば久留米である。大牟田を過ぎて長洲に至れば、有明海初めて見えて快云ふべからず、海の彼方に峨々として聳ゆるのは鳥原の鎮山温泉嶽、これより八代に至る間、幾度か車窓の人を樂しましむるのである。高瀬より南木葉、植木の邊は明治十年西南役の古戰場、彼山此水悉く血戰奮闘の跡で、此間汽車は右に三ノ嶽、左に田原坂の丘陵を見つゝ進むのである。

熊本城は加藤肥州の築く所にして、明治十年の役に名高き所汽車は上熊本より熊本驛に至る迄、左に其外廓を見て走るのである、熊本驛を出て、より左窓東北を望めば、群峯天を指す中に、中央の一山、巒に煙を噴くを見る、これが阿蘇の靈峯である。八代よりは鐵路球磨川の峡谷に沿うて走り、絶勝目を新にするものあり、人吉の盡頭、三度球磨川を渡りて矢嶽に至る間は、球磨川畔と共に九州に於ける難工事で、急傾斜の山嶽を登るに際し、軌道を螺旋狀に敷設し、其中間に水平面を設けて大烟驛を設けてある。矢嶽隧道を出れば霧島の峰巒波濤の如く連り、眞幸平の平野遠く見えて景致雄大である。汽車はこれより急勾配の線路を下りて眞幸を経、益々南して錦江灣頭の國分に至り、灣に沿うて西南鹿兒島を指すので、其間櫻島は除に山容を變へて絶えず東窓の眺に入り風光畫を見るやうである。

【門司】(ト)九州の最北端で海峡を隔て、下關と相對し、瀬戸





内海及九州の咽喉を扼し、本邦重要な海門である、對岸下關との間には鐵道省經營の關門連絡船あり、一日二十七回、十八分で達する、今人口七萬二千人を有し、大正七年の貿易額輸出四千七百二十萬圓、輸入六千二百五十萬圓に上つてゐる、**▼和布刈神社**は北廿丁、電車の便がある。對岸壇ノ浦と僅に數

丁を隔て、其間潮流激甚を極め、風光も亦明媚である。旅館川卯、石田、古賀文、**【大里】**(だいり) 三哩一 東南三丁に安徳天皇の御所がある、附近には大工場が多い、**【小倉】**(こぐら) 七哩三 豐州線分岐點、小倉鐵道接續點、小笠原氏十五萬石の舊城市で、南五丁の勝山城址には今第十師團司令部が置かれてゐる、今人口三萬四千人を有し、古來小倉織を産し、洋紙、ワイヤロープ、束織、硬質陶器、鹽酸加里を出



し、木材の集散盛んである、舊幕時代には九州諸藩主東上の船場であつたが、今は漸次門司に其繁榮を奪はれる事になつた、永照寺は東七丁、延命寺は東南二十八丁、海岸の丘上にあつて眺望がよく、對岸の岩柳島は宮本武藏の敵討によつて知られてゐる、福聚禪寺は南二十八丁、妙見神社は同三十二丁にある、市の内外には大工場が多い、旅館梅屋、花山、飯盛、**【八幡】**(や



はた) 一三哩七 製鐵所を設けられてから異常な發達を遂げた處で今人口十萬人を有する旅館松本、原田、**【折尾】**(せりき) 一九哩四 筑豐本線の交叉點、若松へ六哩六、附近に炭坑が多い、**【遠賀川】**(えんががは) 二二哩 室木線は茲より岐れて室木迄の支線で沿線には炭坑が多い、蘆屋鐵道も茲より蘆屋町に行く、町は古は水壑の岡又は岡の水門といひ、神武天皇の舊蹟で玄海灘の眺望が雄大である、**【赤間】**(あかま) **▼官幣大社宗像神社**、北二里、自動車賃六十錢、俵賃八十錢、次驛東郷よりは北一里、自動車賃四十六錢、神社のある田島村は模範村であ



る、**【福岡】**(ふくま) **▼宮地嶽神社**、北十六丁自動車賃廿六錢、馬車鐵道賃十錢、開運の神として參詣者が多い、**▼津屋崎海水浴場**、西一里、馬車鐵道賃十六錢、**【香椎】**(かしの) 四三哩九 **▼官幣大社香椎宮**、東南八丁、俵賃往復廿錢、**▼名島**、西三十丁、俵賃往復一圓、帆柱石がある、博多灣鐵道は茲より左右に岐れ其右するものは海の申道に行く、**【箱崎】**(はこまき) **▼官幣大社箱崎八幡宮**、西二丁、箱松、敵國降伏の扁額等がある、**▼九州帝國大學工學部**、同農學部は北九丁乃至十二丁にある、旅館抱洋閣、**【吉塚】**(よしづか) **▼東公園**、西一丁、千代の松原をいひ、園内に元弘記念館、龜山上皇及日蓮上人銅像、九州帝國大學醫學部、崇福寺がある、篠栗線及筑前參宮鐵道は茲より分岐し其沿線は何れも炭坑に富む、**【博多】**(はかた) 四八哩九 門司より約二時間半、博多は福岡市の一部で、那珂川を隔て、福岡と相對してゐる、福岡市は黒田氏廿一萬石の舊城市で今人口九萬五千人を有し、博多織、博多人形、博多焼、筑前琵琶、

平助筆等を産する、博多は古の那大津で本邦三津の一に數へられ支那貿易の市場として其名風に海外に聞え、殊に太宰府に近い要衝に當つてゐたので、守護職を置いて外敵防禦の要地としてゐた、今市の内外には電車の便があり、壱岐の勝本、對馬の嚴原へは汽船便がある、大正七年の貿易額は輸出四十萬圓、輸入六十五萬圓に上つてゐる、市内で見物すべき處は西四丁の萬行寺、北十二丁の東公園、西一里の西公園である、西公園からは博多灣の景勝が一眼に見渡される、**▼今津防壘**、芥屋の大門、虹の松原廻遊、今津の防壘は西四里、今川橋迄電車賃十一錢、今川橋より軌道にて今宿又は女原迄行けば軌道賃今宿迄廿五錢、停留所より徒歩約一時間を要する、西公園へ行つた人は公園前から今川橋迄電車で行ける、文永、弘安兩度の戰蹟で、役後築いた防禦の石壘、蒙古軍人塚及千人塚等がある、再び女原に引返



博多
元弘國難

し前原迄軌道によれば、真金十六錢、前原から約二里、自動車賃六十錢で芥屋の大門に行く。驛から西約七里である、玄武岩より成る芥屋浦の巨巖が北東を怒濤に嘯まれて洞を穿ち、洞口より凡五十間の間は小舟が入る事が出来る、洞頂も洞底も多くは六角石を以て編み、到る處に龜甲紋を織つてゐる、實に天下の奇觀である、再び前原に戻り、更に軌道終點加布里に行く、賃金十錢、加布里より濱崎迄約五里、俾、貸切自動車の便がある、此道は海岸に沿つて風光が佳い、濱崎からは虹の松原の中を馬車軌道に依つて唐津に出られる、博多唐津間十四里である、福岡旅館榮屋、松島屋、紅卯、旅順館、今任

福岡市は福岡縣の所在地で、縣は筑前、筑後の兩國及豊前の一部を管轄して居る。北は玄海灣と瀬戸内海に面し、下關海峡を挟んで山口縣と相對して居る。遠賀川流域地方は矢野多く直方其中心をなし、門司、若松は其輸出港である。門司の西側には小倉市あり小倉縣を産し、小倉の西方八幡には東洋第一と稱せらるる製鐵所がある。福岡市は博多灣岸に位し商工業は博多の産あり、又九州帝國大學を置かれて居る。博多灣頭より南筑後川下流に及べる筑紫平野には米、粟種の産多く、又蠶糸の産あり、久留米は筑後川に沿つて久留米新田を出し、瀬高、柳河地方は薩摩藩が盛である。南筑の大牟田附近には枕邦第一の炭坑を有し、近年三池活の興隆あり、石炭の輸出をなして居る。縣下福岡、門司、小倉、久留米若松、大牟田、八幡の七市を有して居る。

石炭の主要産地

福岡	二四九、八八〇、二七〇	北海	七五、一九三、九〇〇
長崎	三六、二八〇、七〇七	山口	三、六八七、八二六
熊本	二一、六三四、六九一	山口	一、六四〇、九八七
大分	八、一八二、一五一	山口	四四、二五四、九四一
大分	テノントの主要産地	山口	(大正八年)
熊本	八、三六一、九三二	山口	六、三〇一、〇〇〇
熊本	五、三九六、八五〇	山口	三、五八三、六八一
熊本	二、八四九、九三三	山口	四二、〇〇九、五四〇
熊本	兼種の主要産地(地)	山口	(大正八年)
福岡	三、九八九、五九二	山口	一、七四二、五四〇
福岡	一、六七一、八〇一	山口	一、一四一、八九五
福岡	八四〇、二九八	山口	二、八六八、四五〇
福岡	兼種の主要産地	山口	(大正八年)
福岡	二、〇八六、八九五	山口	一、〇五三、〇九七
福岡	六一七、一七八	山口	四、〇九三、七〇七
福岡	木蠶生蠶の主要産地	山口	(大正八年)
福岡	二、〇六二、六六七	山口	六、六五、一八五
福岡	三七六、七六〇	山口	四、三四五、三三四
福岡	青大豆の主要産地	山口	(大正八年)
福岡	一、九三二、九八五	山口	一、〇九六、九二五
福岡	一、〇三六、五五九	山口	八、三六八、一七九
福岡	鹿兒島の主要産地	山口	(大正八年)
福岡	九七四、四五五	山口	六、五〇一、七九四



崎本線分岐點【久留米】(くさめ) 七一哩五門司から急行三時間、普通四時間、有馬氏廿一萬石の舊城市で、今第十八師團が置かれてゐる、人口四萬三千人を有し、久留米耕、足

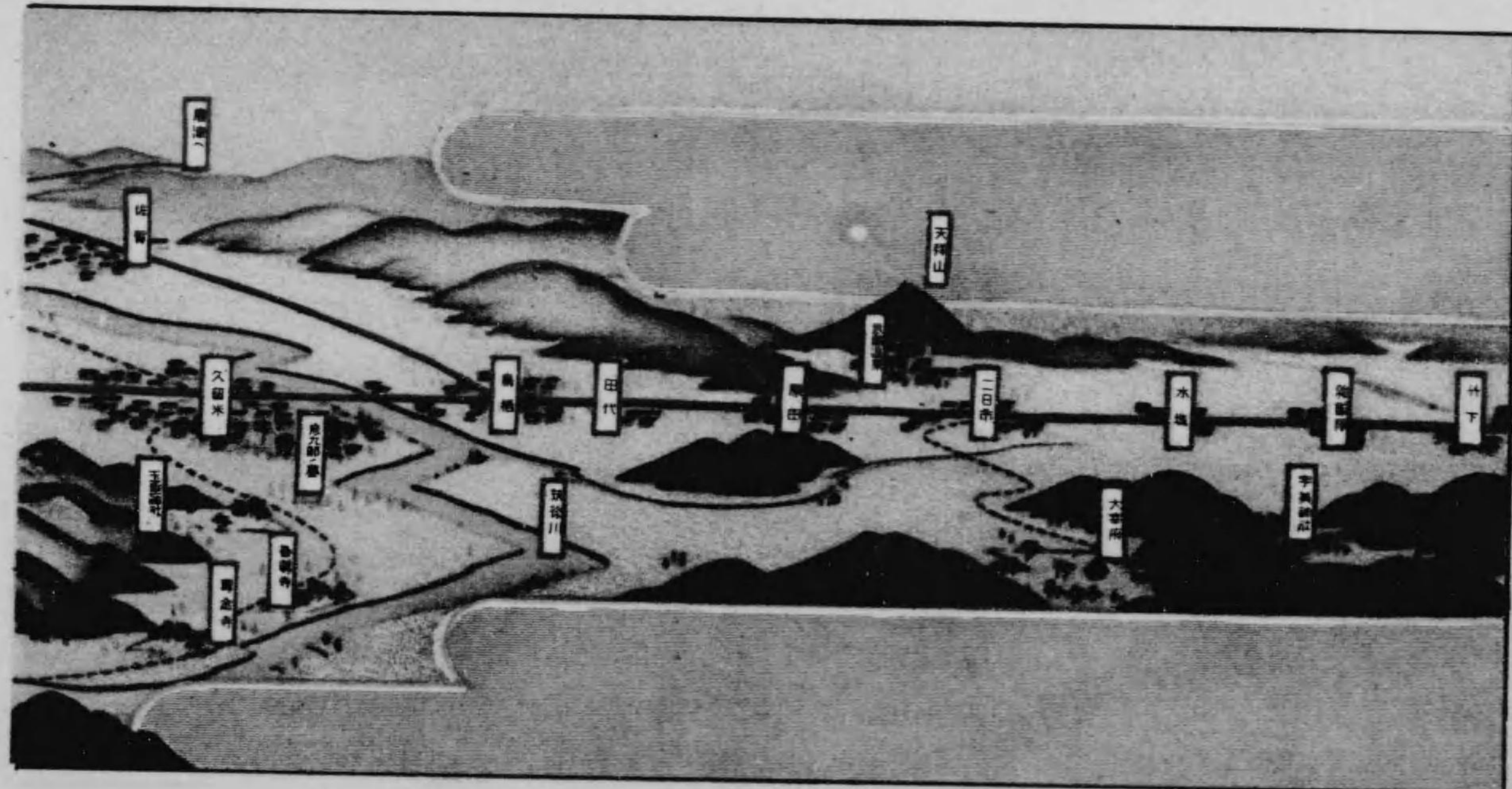
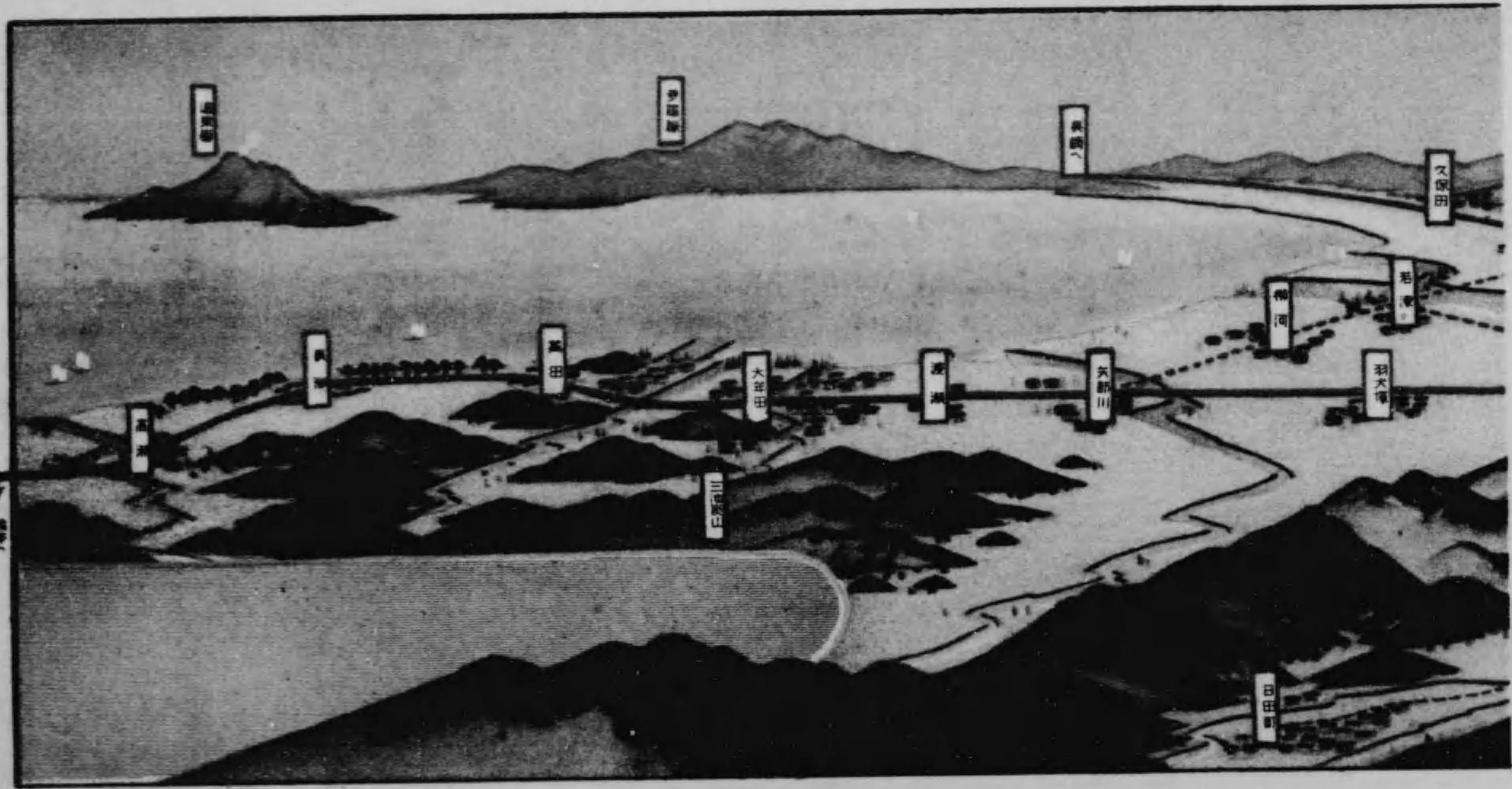
袋、漆器、生蠶等を産し、名物金狀霧島躑躅、千歳蛤がある、舊城址は東七丁、筑後川に臨んで篠山神社があり、東十五丁の遍照寺内には高山彦九郎の墓がある、西三丁には梅林寺、同七丁には水天宮がある、高良山は東南一里半、軌道賃廿錢、山上に國幣大社高良玉垂神社がある、善導寺は東三里、軌道賃卅五錢、淨土宗の九州本山である、尊念寺は東三里、軌道賃廿九錢九州日光と呼ばれてゐる、日田町は東北十一里、筑後軌道賃一圓四十錢、筑後川の上流山水秀麗の地を占め鮎漁で名高い。久留米旅館布屋、青々館、林松館【羽犬塚】(はいぬづか) ▼日向神岩から菊地神社へ、先づ南一里、俾賃六十錢、馬車賃卅錢の舟小屋(なづな)屋嶺泉に浴し、(桶口軒、玉振館)再び驛附近に戻り三里の山内迄

大分

大分	六〇、一七二	長崎	五、四八、三四二
大分	四四、三五五	長崎	三、九〇七、九三二
大分	兼種の主要産地	長崎	(大正八年)
大分	一、八六二、二二四	長崎	一、八二二、三三四
大分	一、五三三、九四四	長崎	一、四七九、一七一
大分	鳥貝の主要産地	長崎	(大正八年)
大分	一、〇九〇、九二五	長崎	一、〇二六、九九九
大分	六九〇、九五五	長崎	五、一〇、四九五

【雜鯛】(ざつしよのくま) ▼字美八幡宮、東北一里半、應神天皇御降臨の舊蹟で、吉塚から筑前參宮鐵道、香椎から博多灣鐵道がある【水城】(みづき) 東北一丁には天智天皇の朝外冠に備へる爲に築造した水城の址があり、東約半里には都府樓址、戒壇院、觀世音寺等がある【二日市】(ふつかいち) 北東三十丁には官幣中社太宰府神社があり、社迄太宰府軌道賃十二錢、自動車賃三十錢、社殿は壯麗雄偉で境内に飛梅がある、都府樓址、戒壇院、觀音寺、官幣小社龍門神社は皆此近くである ▼武藏温泉

西南三丁、旅館延壽館、大丸館【鳥橋】(とりはし) 六七哩一長崎本線分岐點【久留米】(くさめ) 七一哩五門司から急行三時間、普通四時間、有馬氏廿一萬石の舊城市で、今第十八師團が置かれてゐる、人口四萬三千人を有し、久留米耕、足



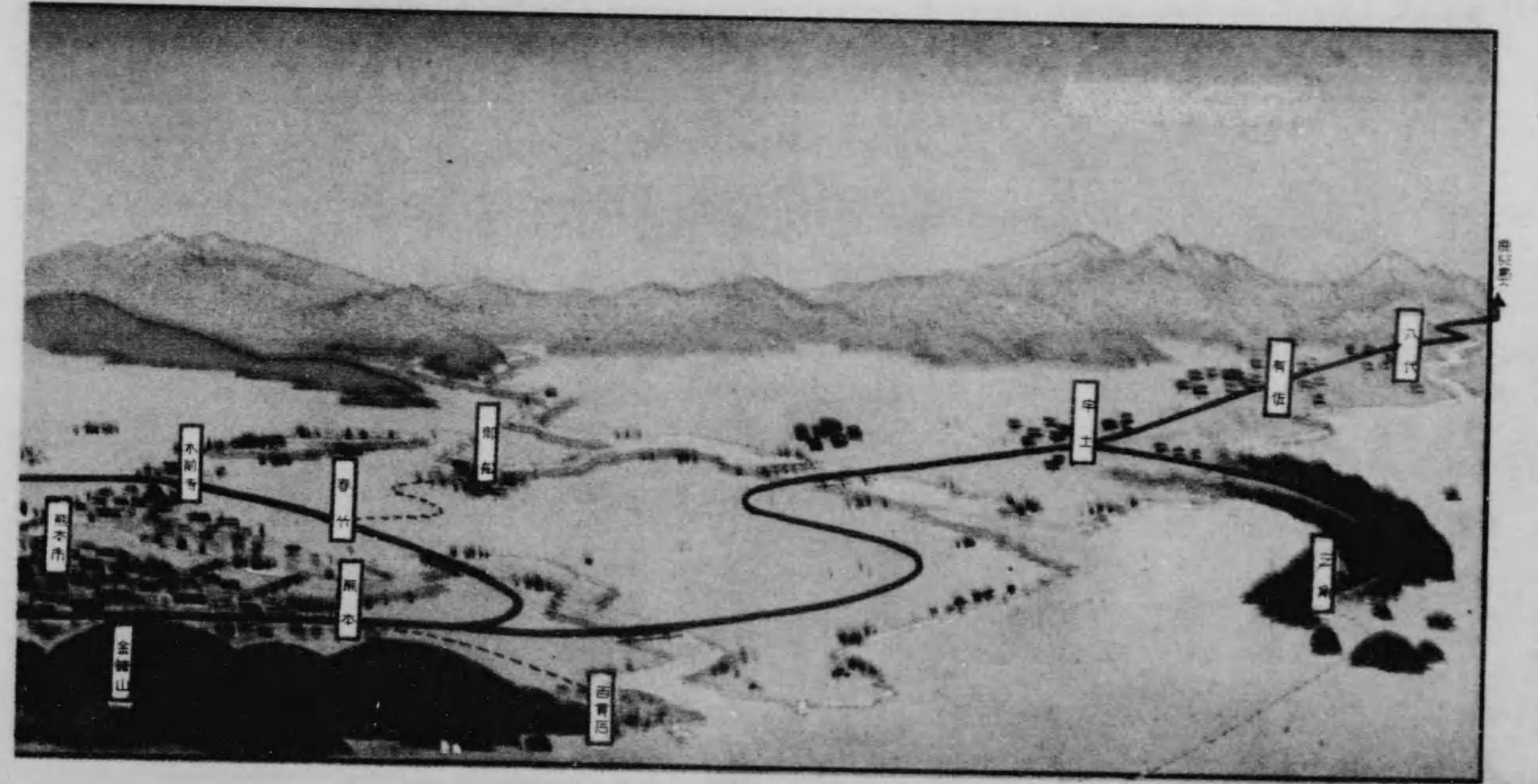
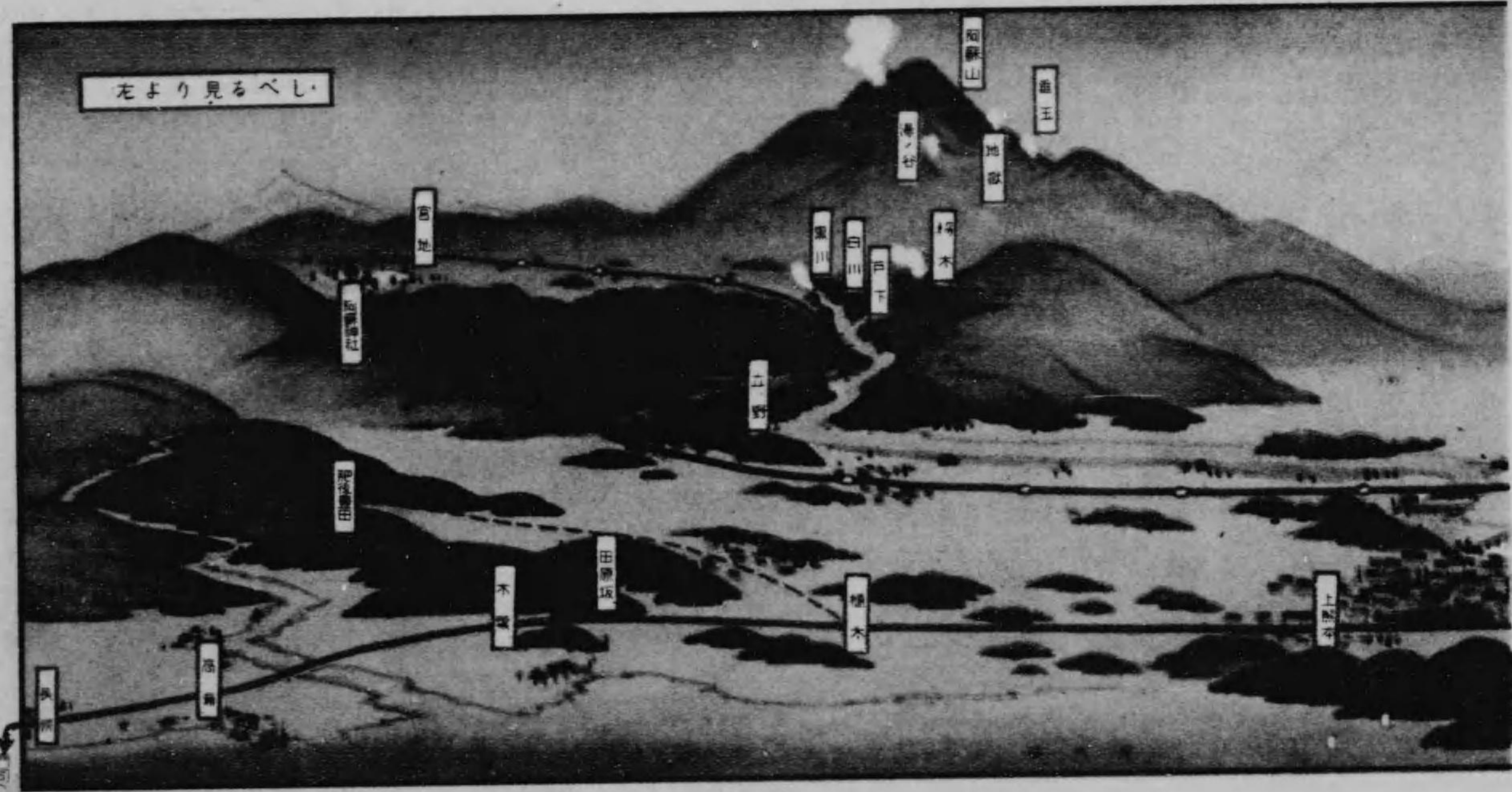


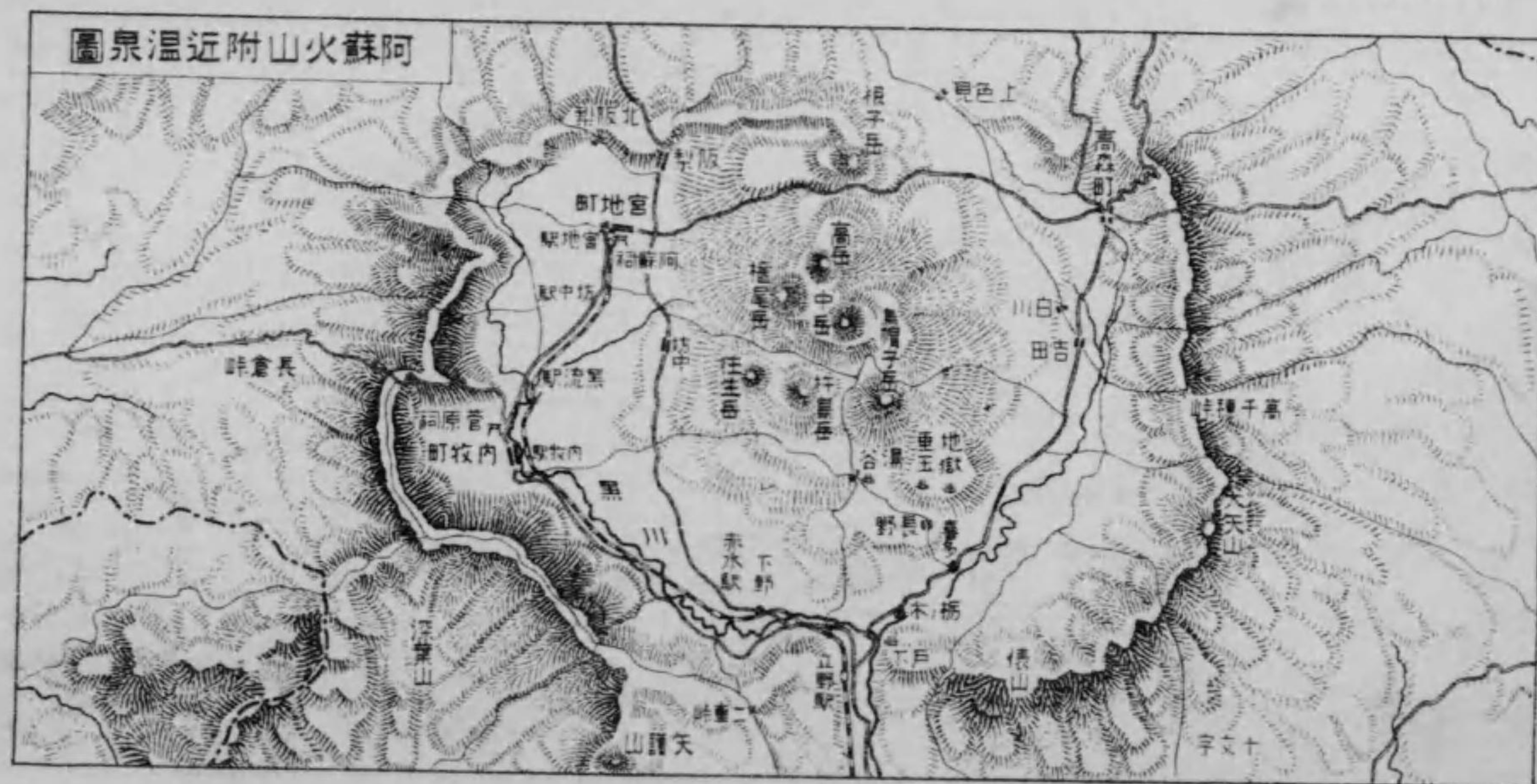
南筑軌道により(貨金廿七錢)更に山内より二里の黒木迄黒木軌道による、貨金廿二錢、黒木より東約四里、俵貨三四で日向神岩に達する、岩は大淵、矢部兩村の間に在り、矢部川の兩岸に奇巖羅列して耶馬溪に劣らぬ奇勝を作つてゐる、矢部村の奥御側名には後征西將軍長成親王の御墓がある、附近に九州に於ける吉野朝の末路を語る史蹟が尠くない、矢部村から約一里福岡熊本の縣界を越えて行けば隈府町の菊池神社に出る、無論此間には徒歩を要する、菊池神社は南朝の忠臣菊池武時を祀る別格官幣社で境内に櫻が多い、神社から菊池軌道の隈府停留場迄僅に九丁で、軌道に乗れば上熊本驛に出る【矢部川(やべがは)】▼清水寺、東肥鐵道本吉驛の東山路約十丁 ▼柳河町、西一里半、柳河軌道貨廿六錢、町は立花氏十二萬石の舊城下で味噌を産する【大牟田(おほむた)】九二哩 門司から急行三時間半普通四時間半、有明海濱にあり、附近に三池炭田があるので異常な發達を遂げ今人口六萬四千人を有してゐる、近年三池港が築港されてから開港場としても榮え、大正七年の貿易額輸出一千二百萬圓、輸入六百萬圓に上る、三池炭田は東南半里乃至一里の間に在り、本邦第一の大炭田で三井家の經營に成り、萬田、宮浦、宮原、勝立、大浦、七浦の七坑の大正九年度採炭料百九十三萬三千噸、工夫數一萬七千六百二十人に及んでゐる、旅館肥前館、十五庵【萬田(まんた)】萬田炭坑のある處で西北廿丁の四ツ山築港よりは鳥原へ一四十七錢、所要二時間、口之津へ一圓七十一錢所要五時間半の汽船便がある【楠木(くまき)】一一五哩四 ▼山鹿温泉、茲より分岐する鹿本鐵道宮原驛より西北一里廿五丁馬車貨廿五錢、約四十分を要し、自動車貨六十錢、約十五分を要す、山鹿神社の山鹿燈籠も名高い、旅館櫻井 ▼菱形八幡宮、北廿六丁、俗に穴八幡といひ、應神天皇が初めて神となり現れ給うた處と傳へてゐる【熊本(くまもと)】一一二二里



九 門司より急行約四時間半、普通約六時間、熊本は白川畔肥後平野の間にあり、加藤清正が茲に封ぜられたから繁華を來し、細川氏五十四萬石の城下となつて益々榮えた、今人口七萬人を有し、米穀の集散甚盛んで醤油、織物を産し、朝鮮館の名物がある、鐵道は市の北端に上熊本驛、南端に熊本驛を設け、熊本驛よりは宮地線を分岐し、上熊本驛は隈府に至る菊池軌道に接続してゐる、熊本見物は上熊本よりするがよい、見物には車賃二圓、約五時間を要する、遊覽順序は本妙寺—加藤神社—熊本城—新市街—藤崎八幡—水前寺—唐人町—花陵山—二本木—熊本驛と廻る、本妙寺は上熊本より西南十一丁、俵貨廿錢、清正公の廟がある、加藤神社は同東南十一丁、軌道貨四錢、俵貨廿錢、神社の前は熊本城で今第六師團が置かれてゐる、岡帯小社藤崎八幡宮は同東廿六丁、軌道貨九錢、俵貨廿五錢、水前寺は同東南一里五丁、俵貨六十錢、宮地輕便線水前寺驛より東六丁、俵貨二十錢、規模廣大で林泉の美と風致の妙とは九州第一といはれる、團内の出水神社は細川氏祖先の祠廟である、花陵山は熊本驛より數丁、熊本全部を一眸に收め風景が佳く、山櫻も多い、蓮華寺は同南半里、楡垣女の石塔がある、熊本旅館研屋本支店、綿屋、竹田屋、寶來屋

宮地輕便線 熊本より東阿蘇山麓を経て豊後に入り、大分に達せんとする所謂轉肥橫斷線で、今宮地迄三三哩一分開通してゐる、其春竹驛よりは御舟鐵道が枝れ、水前寺驛の附近には水前寺、畫圖湖があり、立野、坊中、宮地は阿蘇の登山口である ▼阿蘇登山及温泉驛 阿蘇は世界有数の活火山で、所謂阿蘇の五岳の南北には火口原たる阿蘇谷、南郷谷があり火口湖たる黒川、白川の二流其兩谷を流れ、立野に至つて四方の一壁を破つて合流し、三町、十一村、無慮五萬の生靈が此火口原に栖息し、更に其の平原を取巻く外輪山あ





阿蘇山附近温泉圖

り、北は長倉峠一帯の山嶽を以て、南は大矢山、冠嶽を以て西は依山、二重峠を以て、東は豊後境上の連山を以て之を劃り、西北七里、東西四里に亘り、形勢の雄大世界に多く其匹儔を見ないと云はれ、日本に於ける火山研究者の寶庫と稱すべきものである、立野からの登山道には十八丁に戸下温泉(自動車賃五十錢、馬車賃廿錢、碧翠樓)一里に榎木温泉(自動車賃九十錢、馬車賃廿五錢、小山旅館)がある、榎木から湯ノ谷登山道をとれば噴火口迄三里である、榎木から地獄、垂玉の兩温泉を経る地獄登山道は約一里遠いが道は楽である坊中驛からは噴火口迄約二里、登路は極めて平易で二時間半で達する、登山道中の最捷経路である、宮地驛よりは約三里である、登山者は往返道を換へて行かれるがよい、噴火口へは阿蘇神社奥宮の側から行く、焦石と爛沙の中を少し進めば黒煙奔騰して萬雷の轟く如き壯觀を見るのである、宮地驛より北十丁には官幣大社阿蘇神社がある、二千年來の古社で健甕命を祀り、社殿は平安朝時代の皇宮の制に擬し、樓門其他規模宏壯である、旅館蘇門館、吉野屋

鹿本市は熊本縣所在地で、縣は肥後國を管轄して居る、東北には火口の大世界第一と云はる、阿蘇山あり、熊本平野其西に横はりて農産盛に、良質の米を産し、又粟の産が多い、縣下文茶の産出多く牧畜亦よく行はれ、河内山地方よりは柑橘を産出して居る、鹿本市は熊本城あるを以て名高く、其南鹿川の口に近く宇土半島突出して尖端開港場三河港あり、縣の南部は九州山脈連亘し、球磨川の急流其間を流れて鮎を産すること多く、上流には人吉あり、河口には八代あり、八代の附近よりはセメント及紙を産し、鐵には窒素肥料の工場がある、天草群島の下天草島よりは無煙炭、陶土を産して居る、熊本電氣は阿蘇山下の白川及黒川に發電所を設け、縣下及筑後方面に電力を供給して居る

鹿本市の主要産地

鹿本市	六八六、二七三石	一四、二一五、八八〇圓
川島	六〇〇、三八一石	一五、二二三、四一八圓
川原	五五五、二二一石	一五、〇六五、六八五圓
川原	五五二、七九六石	一四、〇五〇、七三三圓
川原	五二九、六六八石	一四、六一〇、八二五圓
川原	四六三、〇三〇石	一四、四九三、二四四圓
川原	八、二九七、〇九〇石	一九一、〇四五、五九四圓

鹿本市	九八三、三〇九圓	鹿兒島	五、九三二、四五三圓
鹿本市	二、一七七、〇九一圓	鹿兒島	二、一五三、八三四圓



青森	11,063,537	全	分	1,757,721
岩手	1,472,726	全	分	3,974,927
秋田	1,338,383	全	分	9,333,333
山形	7,388,860	全	分	3,781,100
福島	1,364,146	全	分	(大正八年)
茨城	5,800,840	全	分	1,022,170
栃木	3,022,987	全	分	5,193,240
群馬	2,187,320	全	分	5,913,948
埼玉	1,464,414	全	分	(大正八年)
東京	762,240	全	分	1,218,030
神奈川	1,258,490	全	分	9,777,770
和歌山	1,696,720	全	分	(大正八年)
奈良	1,584,900	全	分	1,415,630
大阪	1,696,720	全	分	(大正八年)
兵庫	1,374,700	全	分	1,602,550
京都	1,374,700	全	分	2,049,570
大阪	1,374,700	全	分	

【宇土】(うす) 三角線の分岐点で同線は三角迄一五哩九分の支線である、三角港は三角驛の西北二十丁、俵賃卅五錢、大正七年の貿易額、輸出十二萬圓、輸入三十二萬圓に上る、島原の温泉嶽と天草諸島の翠色とを眺める景後第一と稱せられる、舟を雇うて島巡りをする興も極めて面白いものである、茲より島原本渡、富岡、牛深へ汽船便がある、これに頼つて此間を周遊すれば船上矚目する所は天草洋で、雲耶山耶吳耶越、水天髣髴青一髪」の山陽詩中の人となる楽しみがある、三角は海水浴場としても知られてゐる、三角旅館薩摩屋、池田屋、宇土屋【有佐】(ありさ) ▼鏡町、四十丁、始めて米券倉庫を設けた地として知られ、先年窒素肥料會社の工場が設けられた ▼五箇庄、東十里、球磨川の支流なる川邊川の山谷を占め、方四五里に亘る、椎原、久連木、榎木、葉木、仁田尾の五村は山峯重疊の中間に在り、九州第一の僻地で平家の落武者が逃匿した處だといひ、言語風俗を異にして一の桃源境を形造つてゐる【八代】(やつしろ) 一四五哩 ▼官幣中社八代宮、西廿二丁、俵賃三十錢、松江城内に懷良親王を祀る、旅館帶屋、油屋 ▼日奈久温泉、南二里半、自動車賃一圓、俵賃八十錢、馬車賃五十錢、天草島の翠巒を望んで風光が佳い、旅館金波樓、柳屋【人吉】(ひとよし) 一七七哩一 球磨川の上流にあり、相良氏二萬二千石の城

下で、城址は東南廿丁、球磨川の天嶮に據り日本三名城の一に數へられてゐる、城内の人吉神社には相良長頼以下累代の靈を祀る、旅館小針屋、鍋屋 ▼林温泉、西南卅丁、自動車賃、俵賃共に五十錢、旅館翠嵐樓 ▼球磨川下り 球磨川下りとは人吉より白石迄七里を三時間、八代迄十六里を五時間で下るのをいふ、今は普通白石迄である、舟は貸切のみで白石迄十二人乗一艘十圓、人吉の鍋屋旅館が、船場小路の吉岡勝一氏に申込むのである、一勝地附近左右の峽壁嶄然として球磨川を壓する所には剪落岩と清正公岩とが相對してゐる、清正公岩下の奔流は一轉して直に槍倒岩に向ふ、岩の附近を通過する時は相良侯も行列の鎗を倒さねばならなかつた程急湍をなしてゐる、一勝地白石間は山溪殊に色を生じ、急瀨奔湍相連續し、車窓からもよく此風光が見ゆる、鐘乳洞のある神瀨の岩門、高音の瀨を見て白石に上陸する【吉松】(よしまつ) 一九八哩三 宮崎線分岐點

【粟野】(くりの) 山野輕便線分岐點、同線終點山野には山ヶ野金山あり、尙其の先約一里には永野金山もある【牧園】(まきぞの) ▼霧島諸温泉、東四里半、乗合馬車賃二圓十錢、約四時間、歩いて同じ位である、湯は榮之尾、碓黃谷、明礬等に分れてゐる、何れも山中の温泉場ではあるが、霧島登山を兼ねて行く人が多い、榮之尾から霧島神宮へ山路四里、神宮から高千穂峯迄二里、神宮から國分驛へは南六里、俵賃二圓五十錢馬車賃一圓五十錢である、又神宮から宮崎線の高原郡城にも出られる【國分】(くにぶ) 二二一哩五 ▼官幣大社鹿兒島神宮 西北八丁、俵賃廿錢、馬車賃十錢、所謂國分八幡宮で産大々出見尊を祀る ▼日當山温泉、北十五丁、俵賃卅錢、鹿兒島人士の遊樂地である、旅館加藤 ▼安樂温泉、北三里、俵賃一圓五十錢、馬車賃六十錢、牧園よりは東南二里十五丁、馬車賃一圓五十錢、旅館安樂館、掬翠館、保養館 ▼官幣大社霧島神宮、北六里、牧園、高原参照【鹿兒島】(かごしま) 二二三八哩八 本





線の終點、川内線の分岐點である、市は鹿兒島灣に望み西北に城山を頂ひ、前に櫻島を控へて風光繪を見るやうである、元島津氏七十七萬石の城市で、今人口十萬二千人を有し、薩摩焼、薩摩餅、煙草、薩摩芋、錫器、竹器を産し、輕葉、櫻島大根等の名物がある、市内見物は先づ西北九丁、傳賢廿錢の南洲翁以下の墓地に參詣し、其處より、岩崎谷に南洲翁終焉の地を申つた後城山に上る、城山からは全部を脚下に見晴して櫻島に對した風光もよく、市の大體を知らうとするならば、此處に登る必要がある、城山を下れば別格官幣社照國神社がある島津齊彬公を祀り、公以下の銅像三基が境内にある、櫻島は鹿兒島から舟航一時間、驛の近くから渡船がある、大正三年の大噴火以來稍々山容の美を損じたが、此島あつて鹿兒島市の風光が一層増される程秀麗である、旅館明治館、山城屋、薩摩屋

鹿兒島市は鹿兒島縣所在地で、縣は大隅、薩摩二國を管轄して居る、二國共に大半島にして鹿兒島灣を抱き中に櫻島火山あり、鹿兒島は天に對して藩市をなし、薩摩餅、薩摩燗、陶器を産して居る、縣下の農産は甘藷、烟草、薯蕷等を第一とし、牧畜の業亦盛に、林産には木材、樟腦あり、近海は水産の利多く、鮪、鰯、鰯等を産し、鮮魚村に開き居る、鹽産には干貝、山ヶ野よりは金、郡山よりは銅を産して居る、薩南諸島の中種子ヶ島は甘蔗の栽培地、大島には黒砂糖、大島綿の産がある

甘蔗の主要産地

鹿兒島	二四、六七三三三三	沖繩	三〇、九一〇、九〇九
長崎	一三、〇一〇、三三三	熊本	一七、〇五七、一〇一
千葉	七、七四七、八二八	埼玉	六、九三七、六三六
愛媛	六、七二〇、九六三	全	一、八〇八、一三、三〇〇
粟種の主要産地			
鹿兒島	二、九一五、九一五	北海道	二、六三九、七三三
千葉	八、一六七、二九五	茨城	八、一三三、五三三
熊本	七、六六三、七五五	全	一一、〇一八、六八八

鹿兒島縣を記するの序、沖繩縣を略記すべし、縣は琉球全知を管轄し、薩南諸島の西側に連り、北部に沖縄諸島あり、南部に先島諸島あり、沖繩島の形質に縣を置いてある、甘蔗の産多、甘蔗より製する砂糖は縣の主産物となつて居る、其他泡盛、芭蕉布、琉球餅、阿豆福等も世に聞えて居る、郡額は貿易活で、大正五年の貿易額は輸出四萬七千圓、輸入三十六萬圓である

甘蔗の主要産地

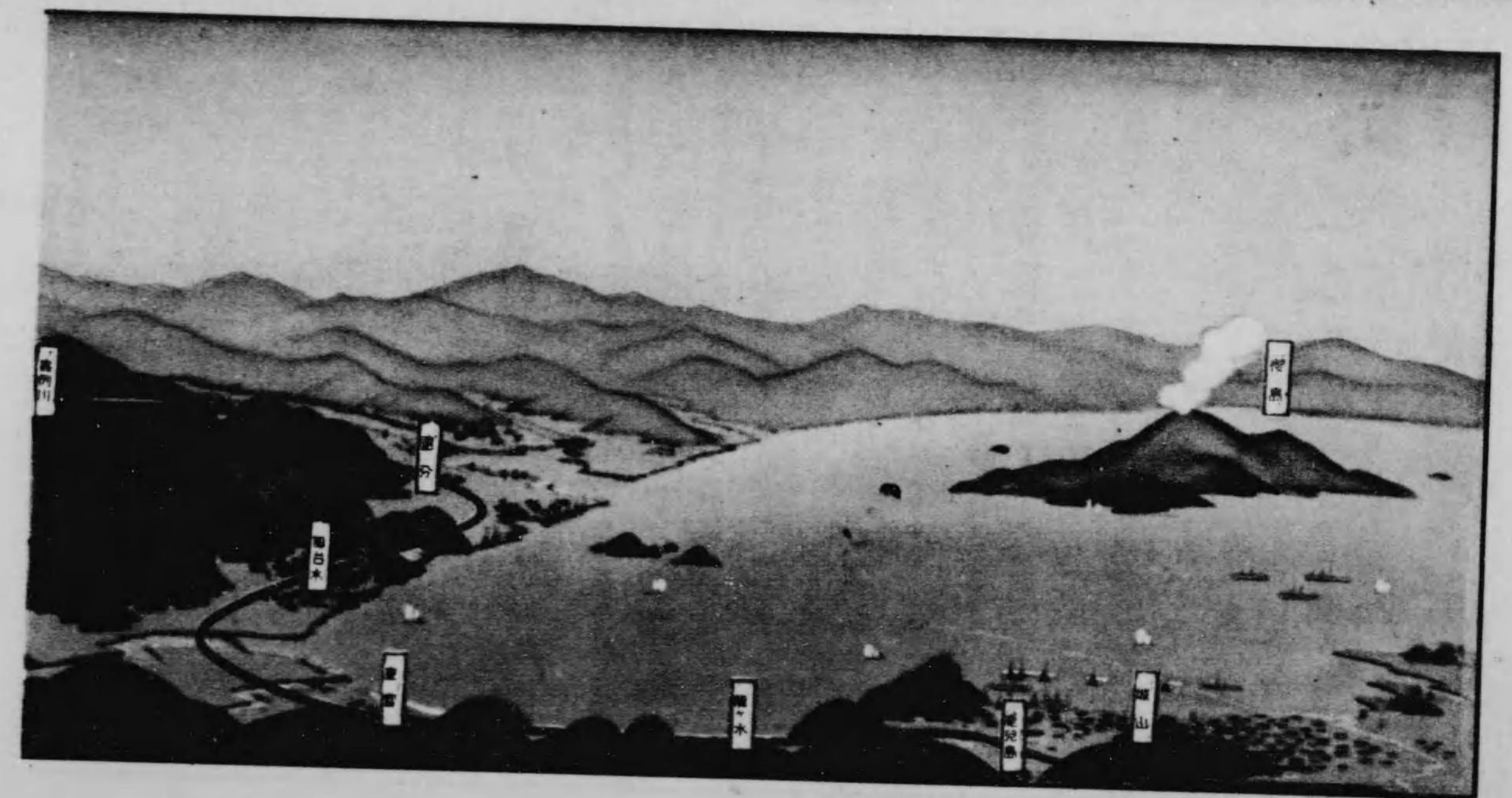
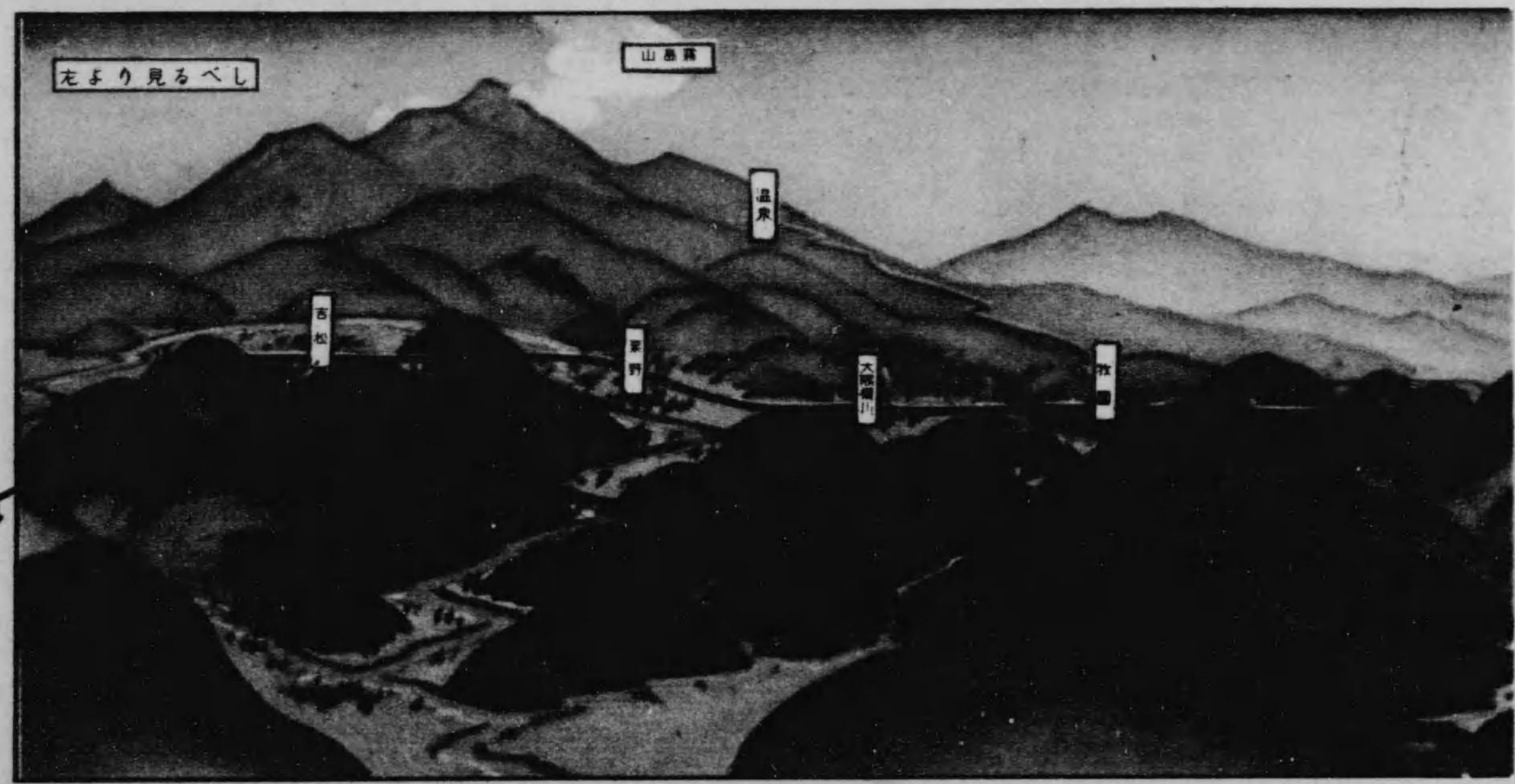
鹿兒島	三三、七九〇、八九三	鹿兒島	一一、七六三、九六七
香川	一一、四〇〇、〇二二	東京	一一、三三三、三三四

甘蔗の主要産地

鹿兒島	四九、九三三、〇九二	鹿兒島	三〇、七八三、一九八
香川	一〇八、一二七、〇八九	東京	三三、六五、四五一
熊本	一〇、三三三、三三三	全	一一、一四四、四五六
鹿兒島	一〇、三三三、三三三	全	一一、一四四、四五六
麻織物等八縣布の主要産地			
鹿兒島	一、二九四、六四五	新川	六、九九、九三八
香川	六、八七九、二六六	石川	一三〇、五六七
西宮	一一、一四七、〇七〇	全	三〇、一一、一九一

川内線 鹿兒島—川内町 三〇哩七分

川内線は鹿兒島から伊集院、串木野を経て川内町迄行つてゐるが、將來は薩肥の海岸を北して八代に至り、鹿兒島本線に接する使命を持つてゐる、【伊集院】(いじやうゐん) 一二哩七 北一丁の徳重神社は島津義弘を祀り、陰曆九月十五日の祭禮は妙圓寺詣りとて、夜中薩南の健兒が甲冑に身を固めて參詣する、南薩鐵道は茲より南下して薩摩大崎に至つてゐる、其途中伊作驛より廿六丁には伊作温泉がある、傳賢廿五錢、鹿兒島人士の遊樂地である、旅館みどりや 【湯之元】(ゆのもと) 一八哩 南四丁傳賢十五錢に湯之元温泉がある、旅館朝日館、喜久屋 【串木野】(くしきのみ) 三〇哩七 鹿兒島より約二時間 旅館高瀬屋、常盤屋 國幣中社新田神社西北一里三丁、傳馬車の便がある、社背に可愛山陵がある、薩肥海岸巡り、川内町より薩肥の西海岸に浴うて八代驛に至る約三十里は至る處風光がよい、此間馬車、自動車の便があるから三日間あれば十分である、又汽船に依つても風光は極めてよい、川内より西二里、網津は川内川の海に入る所である、これより北西方に至る間は奇岩亂立して青松之を繞り、風光甚佳、中に平瀨鼻勝景と稱せられて居る、阿久根は四方の北三里、住古よりの宿驛として名高く、海岸又奇勝に富んで居る、米の津は阿久根の北三里、川内町から十三里馬車賃二圓、廣瀬川の河口港で三角への汽船便がある、往時薩



藩が嚴に行人を檢した出水關址は北一里半、道は之れより肥後に入るのである。水俣は水俣川口に在る一大邑、津奈木太郎峠を越ゆれば佐敷である。佐敷城址は建武以來の古城址で、戰國時代島津相良兩氏互に相攻略してこの城を有した。茲より東して球磨川沿岸の白石驛に出づる道がある。道程約四里、馬車俥の便がある。佐敷より尙北すれば佐敷太郎峠、赤松太郎峠を越えて、日奈久温泉場を経て八代に出づ、これはゆる三太郎越の嶺と稱せられたものであるが、今は道路改修せられて交通甚便に、到る處風光の美に富んで居るのである。

何時も五月のまつきならよかる、思ふ殿御の手
苗とる。

娘友達や櫻のはなよ、さかりすぐればちらばら
と。
(筑前)

腰のいたさよ此田のながさ、四月五月の日のな
がさ。

男振りには惚れんばな、煙草入の銀金具が因縁
たい、あか、ちやか、べつちやか、ちやか、ち
やか、ちやか。
(肥後)

聞いておそろし顔見て怖し、添うてやさしい
薩摩さん。
さくら島見てながかぬ人は、枝垂柳でもてかへ
る。
(薩摩)

宮崎線

宮崎線とは

一宮崎本線 吉松、美々津間一〇〇哩六分
一妻輕便線 廣瀬、妻間八哩五分

の總稱で、本線は鹿兒島本線吉松より東に岐れ、肥日國境山脈と霧島山脈との間なる眞幸平の沃野を横斷し、小林町より南に轉じ、霧島諸山の東麓を繞つて都城に至り、これより東に轉じ宮崎を経て美々津に至つてゐる。妻輕便線は廣瀬より分岐し北妻に至る線である。列車は吉松より美々津に直通するもの三回、鹿兒島より宮崎に直通するもの往復各一回あり、吉松宮崎間約四時間半、吉松美々津間約八時間を要する。

宮崎本線 吉松—美々津 一〇〇哩六分

【吉松】(よしまつ) 鹿兒島本線接続點【高原】(たかほら) ▼霧島登山 宮崎線方面よりする登山の最捷経路で、途中霧島東神社(二里廿三丁、馬車賃五十錢)に參詣し、夫より登路一里半約三時間を費して高千穂峯の絶頂に達する。絶頂より噴火口を右に南すれば二里にして官幣大社霧島神宮に出る。神宮より鹿兒島本線國分驛迄南六里、俥賃二圓五十錢、馬車賃一圓五十錢、馬車は三人分を拂はぬと出ない事がある。又神宮から二里を隔てて霧島の諸温泉に浴し、牧園驛に出てもよい。驛迄四里半馬車も駕籠もあるが緩な下坂だから歩いてよい。霧島神宮へ直接參詣すれば西南五里半、馬車賃一圓五十錢である【都城】(みやこ) 三八哩三 元島津氏の支封地で今人口二萬五千人を有し、宮崎線第一の都會である。旅館持水、水間【大淀】(おほよど) 六七哩八 宮崎輕便鐵道接続點、大淀川を隔て、宮崎町と相對してゐる ▼生目神社、西一里俥賃一圓、惡七兵衛景清主家の爲に報復を圖つて成らず、遂に兩眼を抉つて替となつたが



其兩眼を祭つたのが此神社といはれ、眼病に靈驗があるとて参拜する者が多い。宮崎輕便鐵道は内海を終點とし、其間十二哩五分、三等運賃七十錢である、其青島驛より數丁に青島がある島は周廻凡そ十町、對岸の陸地より橋が架されてあるが、干潮時は沙路を歩いて行かれる、島中彦火々出見尊と豐玉姫命となつた青島神社があり、其附近は蒲葵樹幾千となく聳立し、頗桐、蘆葦、文珠蘭等多く宛然熱帶地方の森林を思はせる。實に診らしい島で宮崎に行く人は必ず茲に立寄る事にしてゐる、植物の主なるものは下記の通りである、オホハマグルマ、マハオモト(文珠蘭)モクダチバナ、オニヤブソテツ、トベラ、クワズイモ、ヒギリ(タクギリ)バセウムサシアブミ、(由波)ハヒビヤクシン(矮檜)ビラウ(蒲葵)コノデカシハ(側柏)マサキ、ハマビラ、イスビハ、タルメルギア、リキダニバル、アラタヌス、ヤナギイチゴ、ビルマコウラン、バナヤ、青島旅館廣瀬

▼官幣大社鶴戸神社、内海驛より南四里半、毎日朝一回列車に接続して汽船が出る、海に枕める巖窟内鶴鷄草葺不合尊を祀る、社前怪巖亂立して風光雄大である【宮崎】(みやざき)六九哩三 ▼官幣大社宮崎神社、北二十丁、次驛花ヶ島からは西三丁、舊都高千穂宮址に神武天皇を祀つた社である、境内に微古館がある、尙驛から東北一里に一葉の濱がある、松樹亂綴數里に亘り、往々一葉の松があるので此名に呼ばれる、旅館神田館、廣瀬、井上、日州館

宮崎町は宮崎縣廳所在地、縣は日向國を管轄して居る、九州山脈縣下に延びし、霧島火山西南境に聳立して居る、縣の大部分は山林原野を以て成はれ、木材薪炭を出すこと多く、又製茶、竹材、樟腦の産あり、海岸は出入極めて盛きが爲に豊産に乏しく、沿海には鱈、鰯を産し、煙草の製造場である

推其の主要産地

宮崎	一、〇四三、五八三圓	大分	(大正八年)
鹿兒	大〇四、二三四圓	熊本	九一三、五三八圓
島根	二二九、四三〇圓	全 國	二六八、六六四圓
			四五一、九〇九六圓

【廣瀬】(ひろせ) 七六哩六 妻輕便線分岐點、同線は八哩五分の妻迄走つてゐる、都萬神社は妻驛から北四丁、馬車賃十五錢、俵

欠

欠

長崎線

長崎線とは

- 一 長崎本線 鳥栖、長崎間九八哩六分
- 一 唐津線 久保田、西唐津間二六哩八分、山本、岸嶽間二哩六分、及貨物支線
- 一 伊萬里線 有田、伊萬里間八哩一分
- 一 佐世保線 早岐、佐世保間五哩五分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、鹿兒島本線の鳥栖より分岐し、筑後川下流の沃野を西南に走り、佐賀を経て久保田より西北に唐津線を岐ち、有田よりは伊萬里線を北に、早岐よりは早世保線を西に岐ち、本線は南折して大村灣の風光に接する。川棚より大草に至る間、汽車は風曲せる海岸に沿うて走り、灣又灣、山又山、車窓の眺望飽く事を知らず、中に大草驛附近は最景勝に富んで居る。長興よりは灣に離れて南し、やがて長崎に達するのである。列車の運行は本線内の外門司、長崎間直通列車四回あり、内一回は急行で門司長崎間約六時間半を要するのである。

長崎本線

鳥栖—長崎 九八哩六分



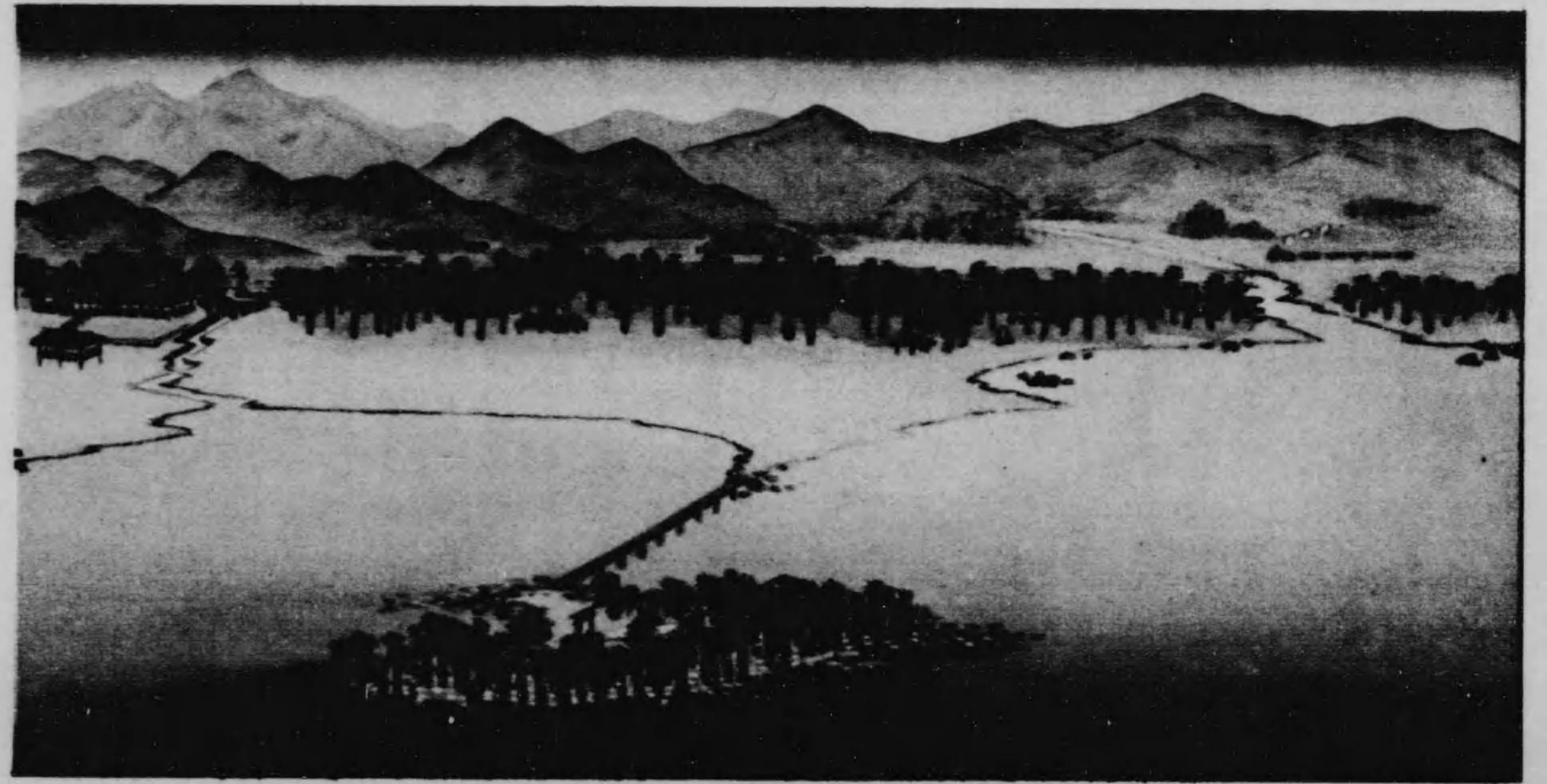
【鳥栖】とて、鹿兒島本線参照 【佐賀】とて、一五哩五 鍋島氏

三十五萬石の舊城市で、今人口三萬四千人を有し、米、小麥、鑄物、廻類等を産し、名物

柿羊羹、丸房露がある、佐賀城址は驛南十四

丁馬車軌道貫八錢、俵貫三十五錢、江藤新平

の亂に兵燹に罹つたので今は僅に本丸の一部と城門とを殘し林影寂たる邊に新平以下の靈を記念した「嗚呼諸君子之碑」がある、鍋島直茂を祀つた松原神社も此近くにあり、境内は今公園となつて林泉の美がある、神野茶屋は驛西十三丁、俵貫三十五



錢、田布尾川の清流を引いて泉池とし、林丘の絶致が甚佳い、旅館榮徳屋、松本樓

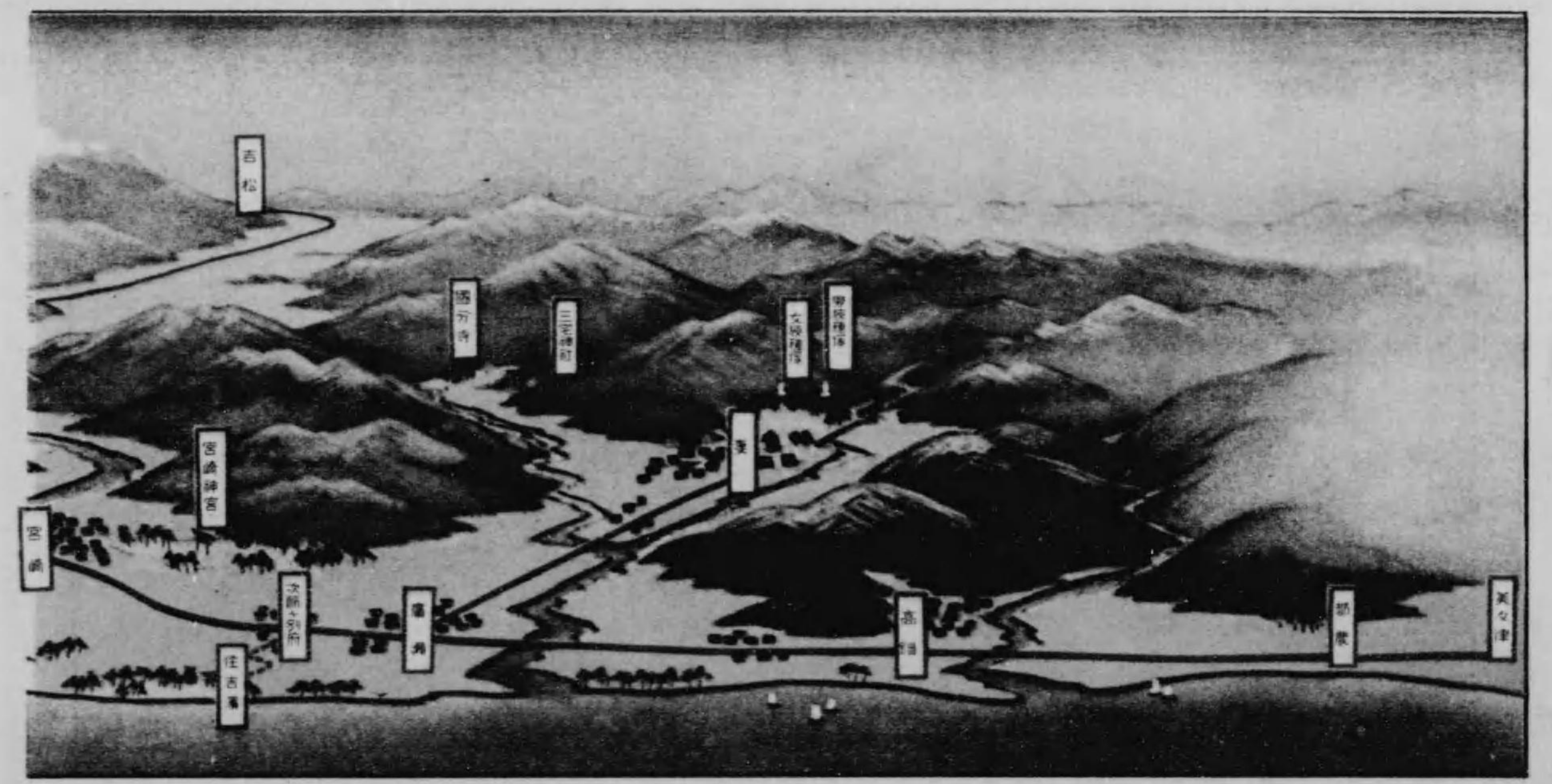
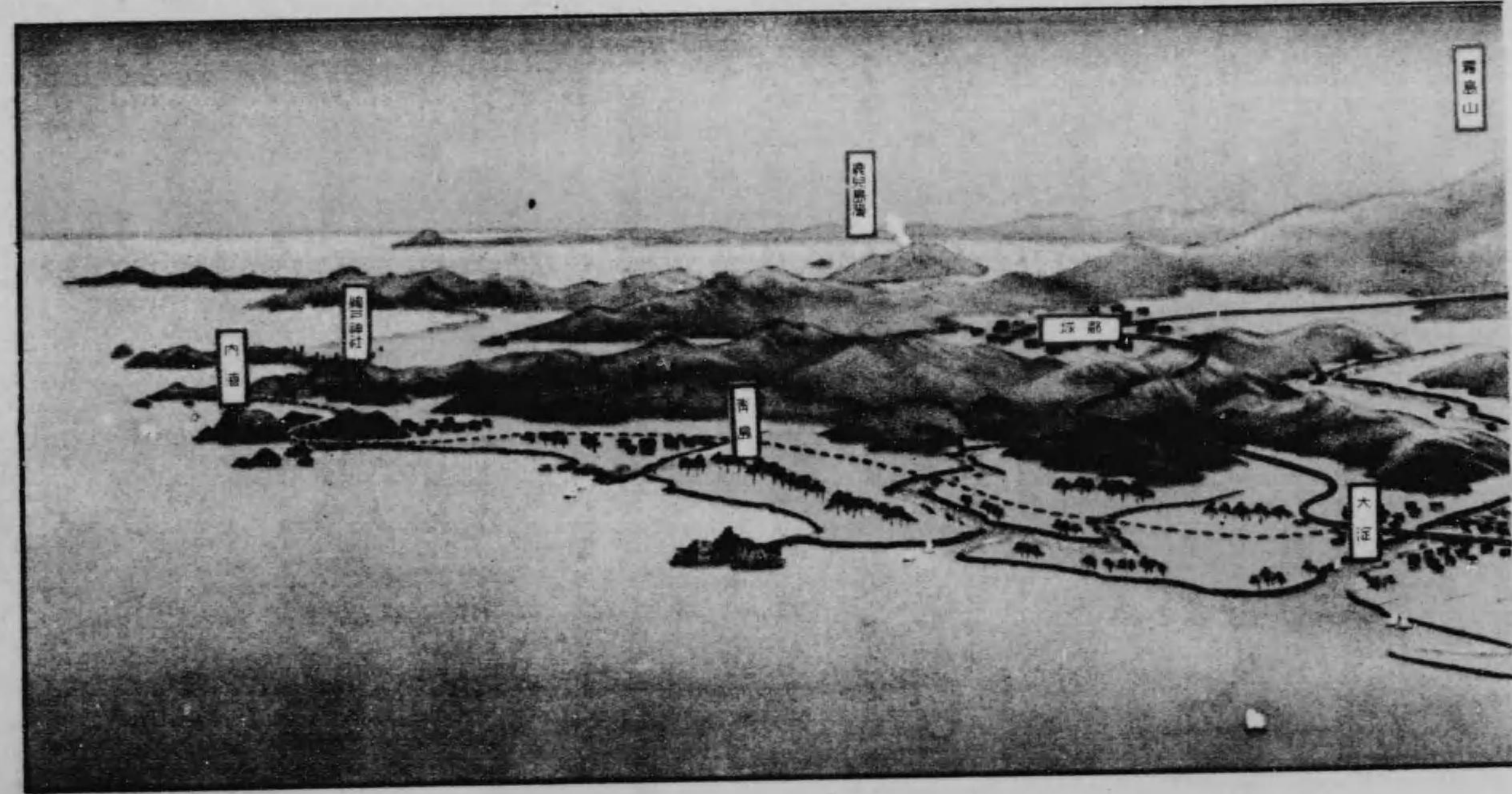
佐賀市は佐賀縣所在地で、縣は肥前國の一部を管轄して居る、縣の北方は筑紫山脈連亘して狭田多く、唐津は其輸出港である、南部は有明海に瀕して筑紫平野の一部をなす農産に富んで居る、有明海には鱈の産出多く、沿岸には石炭の輸出港たる佐の江港がある、有田は縣の西部にあり、陶磁器の産地として知られて居る

社領の主要産地 (大正八年)
佐賀 五一〇、七三七圓 廣島 四六八、九八八圓
福岡 三六七、五八九圓 全 國 一、九五三、四七六圓

【久保田】(くぼた) 一九哩五 唐津線分岐點

唐津線 西唐津迄廿六哩八分と其途中山本より分岐して岸嶽に至る二哩六分とないふ、此線も炭坑線といふべきで、各驛に旅客の多いのも旅客に異様の感と興へる、久保田の次驛小城は鍋島氏七萬三千石の支封地で、驛北二丁の舊城址は小城公園となり櫻多く、南麓に支藩祖を祀る岡山神社がある【唐津】(からつ) 二五哩【西唐津】(にしからつ) 二六哩八 小笠原氏六萬石の舊城下で松浦川口に跨つて唐津灣に臨み、今人口一萬五千人を有し、古雅なる唐津焼及半紙、魚類、肥料等を産し、名物松浦漬がある、唐津の築港は町の北一里弱の大島の陸にあり、大船巨舶も碇泊し得、石炭の輸出港として大正七年の貿易額輸出五百六十萬圓、輸入二十萬圓に上つてゐる。地は又海水浴場として知られ、白沙青松の長汀約一里半何處も適してゐるが、設備のあるのは海濱旅館の東側軌道會社娛樂場附近である、舊城址は驛東十丁、今舞鶴公園となつてゐる、左右の青松が兩翼に似てゐるので此名があり、直ちに海に臨んで虹の松原、大島其他を眺めて風光極めて佳く、唐津の景はこれあるが爲に一層其美しさを増してゐる、公園の右手に見ゆるのが虹の松原で、驛から濱崎迄軌道がある、松浦灣長汀二里餘の間、萬松一路白波の上に翠を連れて玄海の清波に浮び、傾巾振山の晴嵐に映じて清麗優艶の景には、三保の松原、舞子の濱も或は及ばないだらう、白沙青松の海濱に夕陽燃ゆるが如く海波を紅にする時は、紅白青の色を重ねて





宛然たる二里の大虹をなして、唐津の虹の松原か、虹の松原の唐津かと人を驚かすのである、旅館新岩井屋、博多屋

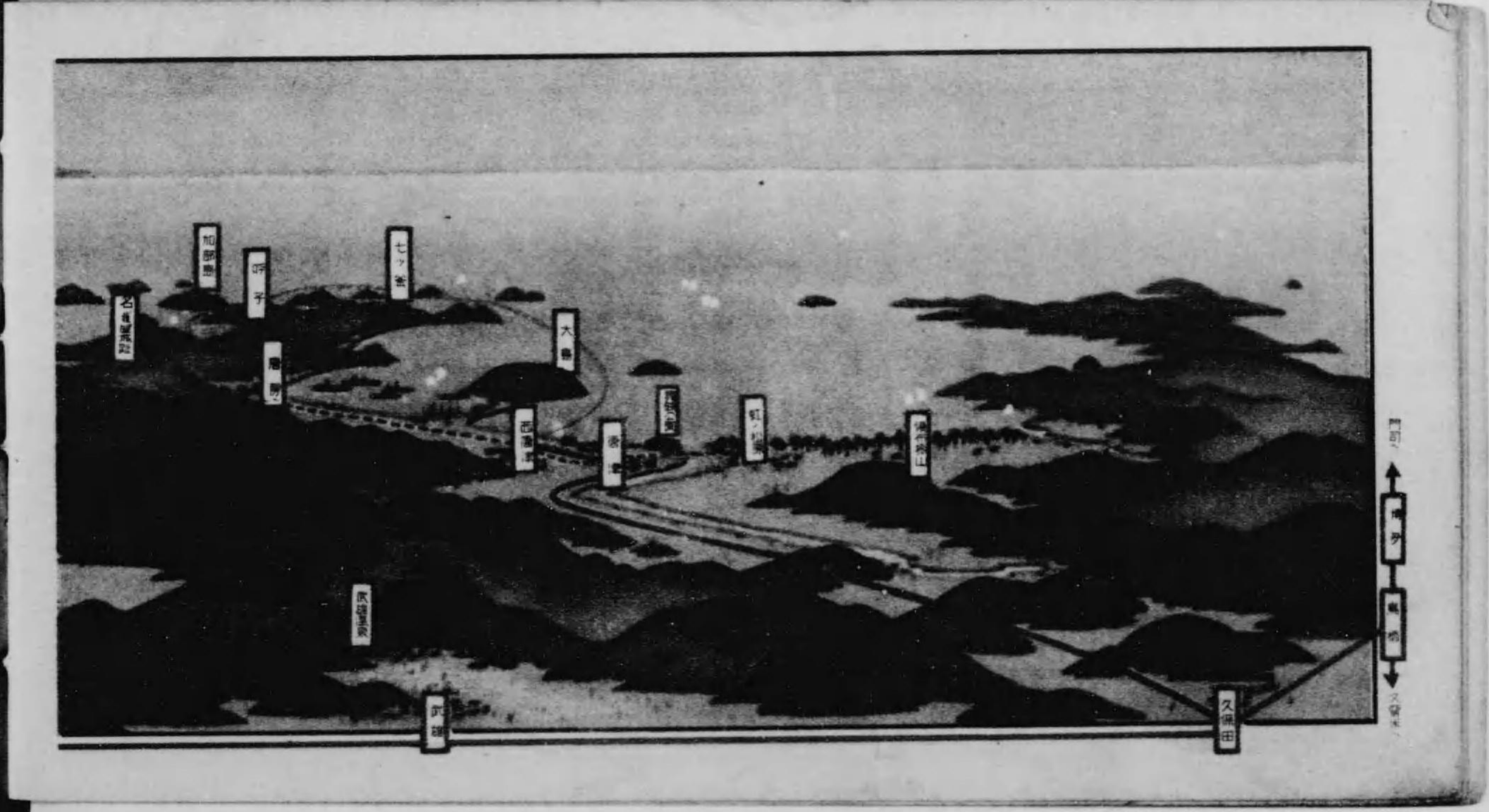
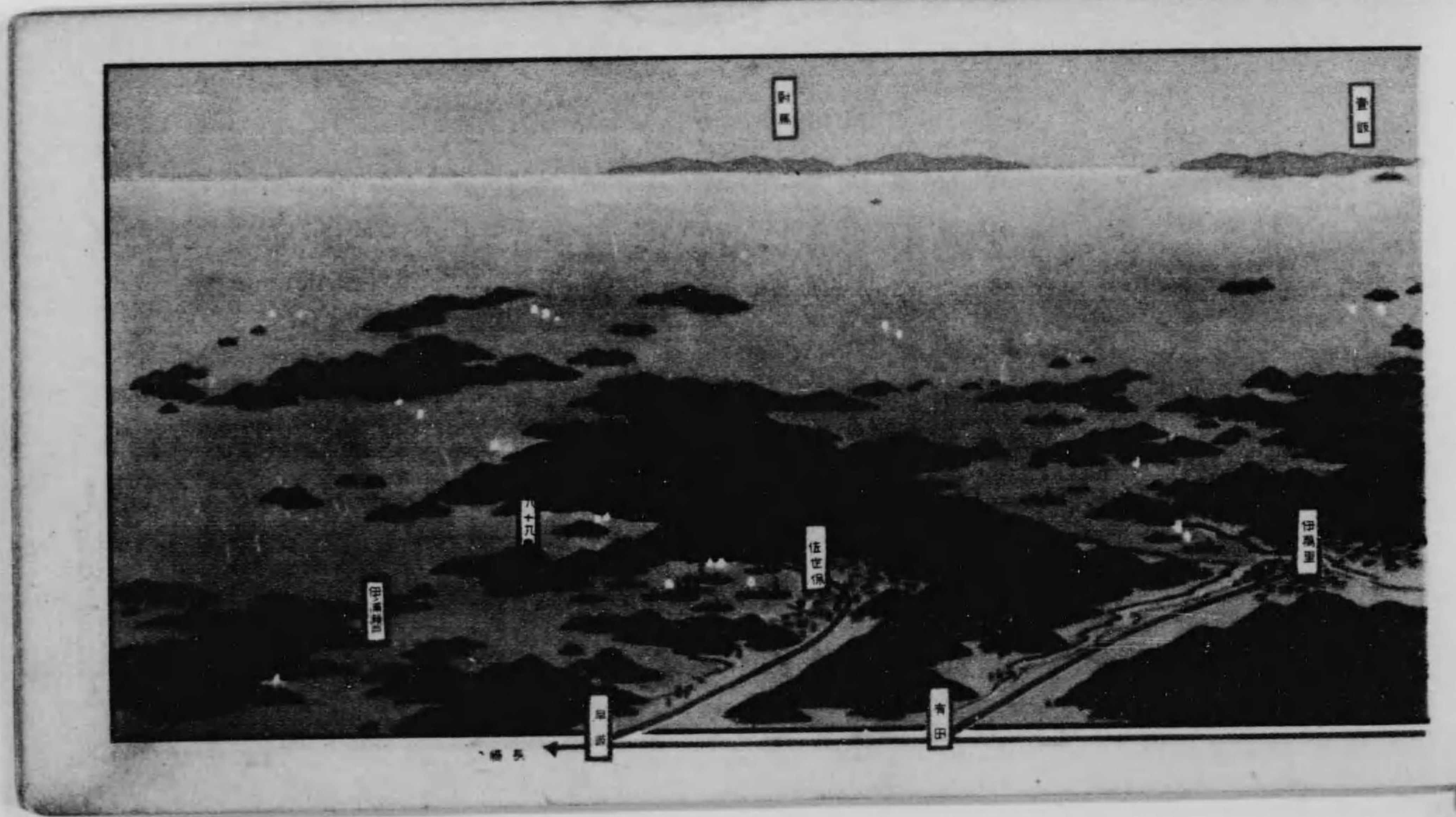
▼七ツ釜、呼子廻遊 七ツ釜は西唐津より北海上五里、十人乗一艘船賃八圓、全岬柱を列べたるが如き玄武岩より成り、其先端分岐して稍三又状を成し、其東なる又の某脚に七箇の横洞が並列して竈を並べたやうであるので七ツ釜といふ、波靜かな日は此洞門に舟を入れる事が出来る。七ツ釜から呼子港迄の間約一里は玄武岩の断崖絶壁峭然として連續しフキンガル窟を想はせる。呼子港は驛より直接汽船によれば運賃五十錢、陸路は三里十五丁、自動車賃一圓五十錢、國幣中社田島神社は呼子の前面加部島にあり、渡船賃十錢、境内に佐用姫神社望夫石がある、名護屋城址は呼子より渡船賃十五錢、豐太郎が朝鮮征伐の陣營を置いた處で、諸侯陣營の址が二里餘の間に散在し、其規模の大なる事が推知される、本丸址は丘陵の上位置し、遙に蒼波を隔て、壹岐島を望んで風光秀絶なるのみならず、英雄の偉業を追想せしむるに足る處である。以上の行程は呼子へ一泊すれば十分である

【武雄】(たけを) 三三哩一 ▼武雄温泉、西六丁、傳賃二十錢、旅館角樹、東洋館、三國屋 ▼祐徳稻荷より嬉野温泉へ、祐徳稻荷は南五里半、軌道賃七十錢、自動車賃一圓五十錢、幽邃の境を占め、九州に其名を知られた流行神である、稻荷より再び軌道にて引返し、鹽田より肥前電鐵によれば賃金三十二錢で嬉野温泉に達する、武雄驛より嬉野迄は約三里半、驛より鹽田迄の軌道賃四十錢、驛から温泉迄自動車賃一圓である、旅館和田屋、竹屋、笹屋、大村屋、嬉野に一泊したらば武雄に引返さず四三里四丁の彼岸驛に出られるとよい、倭坂越をして行く道で自動車賃一圓十錢、傳賃一圓、馬車賃五十錢である 【上有田】(かみありた) 有田燒の産地として名高く附近に香蘭社、深川製鐵會社、有田製陶所等がある、次驛有田、三河内も亦此産がある 【右田】(みぎた) 四二哩二 伊萬里線の分岐點、同線は有

田伊萬里間八哩一分あり、伊萬里は伊萬里灣頭の港で昔から有田燒の輸出地として知られてゐる、七ツ島の奇勝は伊萬里より海上三哩、和船一艘三圓である、有田旅館三宮屋、伊萬里旅館岩田屋、今福屋 【早岐】(はやくき) 四九哩五 早岐の瀬戸に望み五島、平戸に至る汽船便あり、佐世保線の分岐點である、同線は五哩五分の佐世保に至る、佐世保は三方を峰巒に圍まれ、南方に良港を有し、島嶼西邊に横はつて形勢無雙の地で、海軍鎮守府を置かれ、今人口八萬七千人を有する、



九十九島は軍港の外灣九十九島灣にあり、驛より西一里餘ある、無數の島嶼は翠松を波に浮べて、船遊の興は極めて深い、佐世保の南對岸數哩、南風崎から西南二里の伊ノ浦の瀬戸は大村灣口の一部をなし其海口極めて狭いので、大潮の頃は鳴門に劣らぬ壯觀を呈する、佐世保旅館池月、油屋、鶴谷、山下 【大村】(おほむら) 七一哩九 大村氏二萬八千石の舊城下で大村灣に臨んで風光極めて佳い、玖島城址は西南六丁、大村灣の風光を見渡す處で、大村神社がある、旅館山札、乾物屋、柳川屋、松島屋 【諫早】(いさはや) 七九哩 戰國の頃龍造寺氏の居つた處で、卍字形を爲す肥前南部の諸半島の中に當る重要な地である、旅館中村(驛前)舞鶴、水月樓、富士屋。島原鐵道は此處から分岐し島原半島の東岸を走つて島原湊に止まる、延長二六哩三分、運賃三等一圓七錢、二等一圓八十九錢である、温泉嶽行きは此の鐵道によるのである ▼小濱・温泉廻遊 (一)諫早より島原鐵道愛野村驛に下車し、小濱を経て温泉公園に至り、普賢岳に登山し、島原に下つて島原鐵道によつて諫早に出るか、島原より汽船で三角に至るもの、諫早愛野村同七哩七分、所要時間四十分、運賃三等三十二錢、二等五十八錢、愛野村小濱間四里十一丁、乗合自動車賃一圓五十錢、所要時間一時間、貸切自動車七人乗十四圓、六人乗十圓、乗合馬車賃八十錢、貸切四人乗三圓廿錢

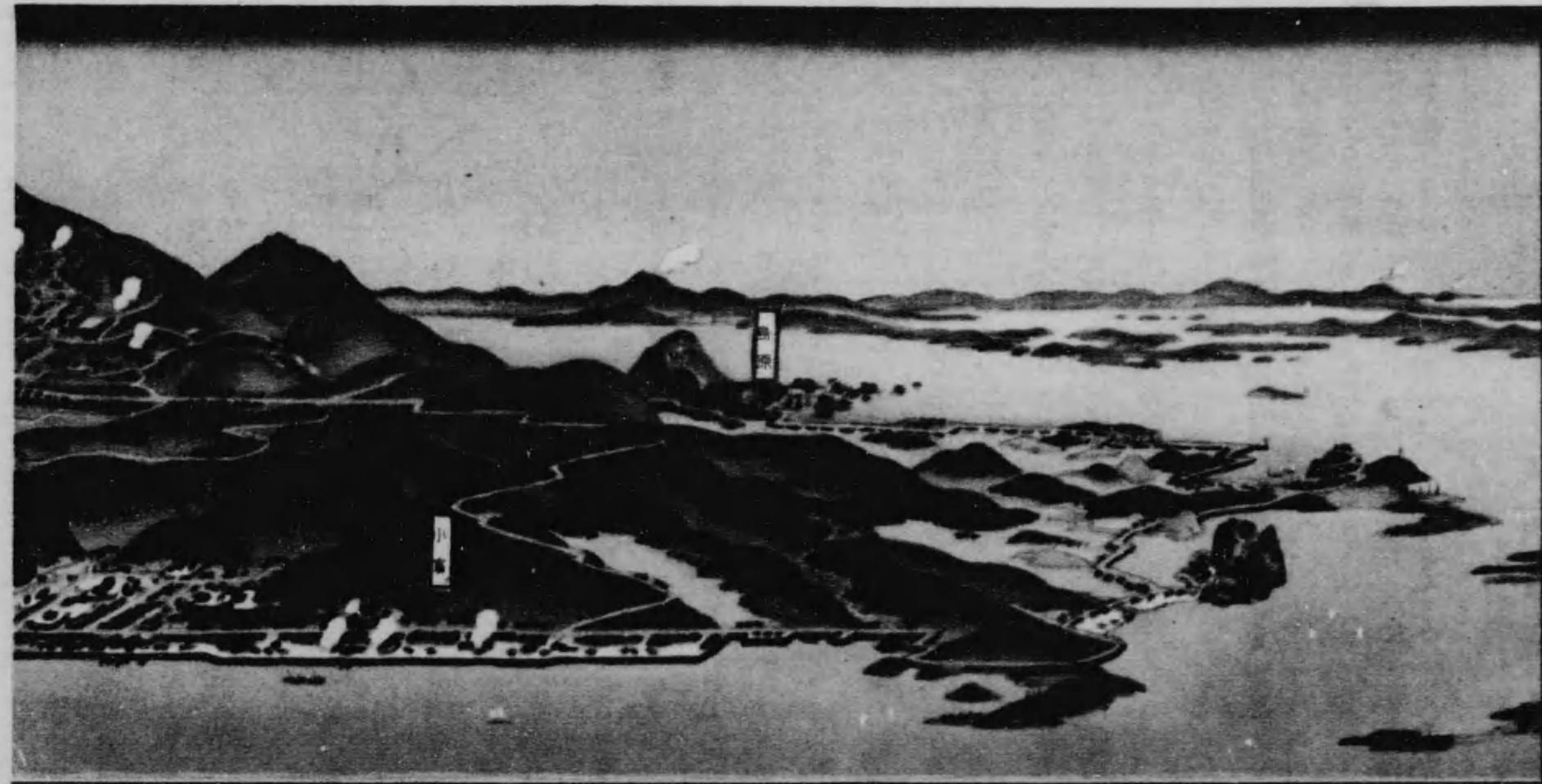


所要時間二時間半、賃賃一圓四十錢、所要時間二時間、小濱温泉は温泉郷の四麓、千々石灘に面して風光がよい、旅館一角樓ホテル、柳川屋、角屋、秋津屋、伊勢屋、小濱温泉公園間二里十一丁、徒歩約三時間、賃賃自動車(乗合無し)二十四圓、馬車同十圓、此途中は風光が佳い、温泉は新湯、古湯、小地獄に分れ、新湯附近一帯が公園となり、其面積十六萬四千四百坪長崎縣が巨費を投じて經營してゐる、旅館有明ホテル、九州ホテル、新湯ホテル、温泉ホテル、高來ホテル、富貴屋ホテル、富貴屋、萬屋、上田屋、ホテル以外には内湯はない、公園より普賢岳に登つて島原に至る約六里、徒歩約八時間、普賢に至る途中五萬一千餘坪の大「ゴルフ」場がある、普賢は春は躑躅、秋は紅葉、冬は霧水の美があり、頂上よりは千々石灘、島原海岸、野母崎、阿蘇の噴煙等一帯が眼界に入るのである、島原へ下る道は極めて悪い、島原三角港間は一〇哩五、所要時間二時間、運賃二等一圓六十錢、三等一圓十錢、島原湊出帆は毎日午前七時と正午十二時とである、以上の行程は朝長崎を出発しても温泉には午後四時頃着く、途中小濱に一泊すれば温泉公園を廻る多くの名所巡りも其日の内に出来る、翌日は朝八時に出発すれば普賢に登山して午後四時頃島原に着く、島原には南風樓と米屋旅館とがある、(一)愛野村より木場を経て温泉公園に至り、普賢登山の上小濱に下り、同處より汽船にて茂木に上陸して長崎に至る、或は此反對、愛野村木場間二里廿七丁、乗合自動車一圓卅錢、所要時間卅分、馬車賃七十錢、所要時間一時間半、賃賃一圓廿錢、所要時間約一時間半、木場温泉間二里十六丁、三人乗賃切馬車賃七圓廿錢(乗合無し) 徒歩三時間、此日温泉に一泊の上翌日は普賢に登り小濱に下つて小濱温泉に浴する 温泉小濱間は(一)を参照、小濱茂木間一五哩五、所要時間二時間、賃賃一等二圓、二等一圓五十九錢、三等一圓五錢、小濱發午前八時一回、茂木長崎間二里、乗合自動車賃八十錢、



所要時間三十分、賃賃七圓、賃賃一圓、約一時間を要する(三) 長崎より茂木、小濱、温泉、普賢を経て島原に至るもの【大草】(おほくさ) 驛附近海上の風光佳く、驛の西北三十丁には名高い伊木力蜜柑を産する【道ノ尾】(みちのこ) 九四哩八 ▼道尾温泉、東五丁、長崎人士の遊樂地である、旅館古田【長崎】(ながさき) 九八哩六 長崎は風光の美、氣候の温、物價の廉を以て外人に「世界の樂土」と激賞せられてゐる。天正の昔西班牙葡萄牙の商船が初めて來て貿易を開いてから、此地は外國交通の唯一の門戸となり、西方の文物消息は皆此地を經由して這入つたのである、今人口十七萬六千人を有し、九州第一、本邦第七位の大都會となり、大正七年の貿易額は輸出一千四百五十萬圓、輸入二千四百三十四萬圓に上つてゐる、物産には藍甲細工あり、其他珊瑚、眞珠、金銀等の細工漆器、洋傘、縫針、石炭、海産物等を産し、蠟子、長崎カステラ亦世に聞えてゐる。灣頭の風光は實に愛すべく、風に瓊浦の美稱を唱へて居る、丘山海を抱いて三面を繞り、波濤に盆水の如く、三十六灣廿四橋勝景盡くる事は無いのである、國幣神社諏訪神社は東十一丁、競走電車賃五錢、祠宇宏壯で十月七日から三日間續く祭禮は、七月十五日の精靈流しと四月の風揚げと共に長崎の三名物となつてゐる境内は今公園となり市の大體が展望される、市の東部には特色のある南京寺多く福濟寺、興福寺、大徳寺、崇福寺等があり、崇福寺の傍には八坂神社がある、大波止場は南六丁にある、又市には長崎高等商業學校、長崎醫學專門學校がある、旅館上野屋、福島屋、みどりや、池田屋

長崎市は長崎縣所在地で、肥前國の一部及壹岐對馬二國を管轄して居る。島の主部は殆ど半島より成り、西後村、島原の兩半島は磯に連なり、地味によりて九州島の細砂と連なつて居る。長崎は西後村半島の西側に灣入せる小灣に臨み、最古の開港場で壯大なる三笠造船所あり、灣外には高島炭坑がある、島原半島には口ノ津の開港場あり、佐世保は大村灣外の佐世保灣に臨める軍港である。縣下到處水産の利あり、鯛、海魚、真鱈等を多く出し、對馬五島は鰺を以て聞え、五



佐賀	長崎	山口	山形	青森	長崎	石川	鹿兒島
佐賀	長崎	山口	山形	青森	長崎	石川	鹿兒島
一八五、六二九圓	一六八、八九二圓	一八九七、九三四圓	八四七、六八七圓	九三、七七八二圓	七〇一、八六九圓	一、八九六、二〇九圓	一八五、六二九圓
五〇、九八〇圓	一六八、八九二圓	八四七、六八七圓	八四七、六八七圓	九三、七七八二圓	七〇一、八六九圓	一、八九六、二〇九圓	五〇、九八〇圓
全	全	全	全	全	全	全	全
鹿兒島	山口	山形	山形	青森	長崎	石川	鹿兒島
六二、七三三圓	一、九五、五七一圓	七、九四二、七四五圓	六、五三三、五二六圓	二、一六六、二一四二圓	九三、七七八二圓	一、八九六、二〇九圓	六二、七三三圓
七三、八、四三三圓	一、九五、五七一圓	七、九四二、七四五圓	六、五三三、五二六圓	二、一六六、二一四二圓	九三、七七八二圓	一、八九六、二〇九圓	七三、八、四三三圓
(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)	(大正八年)

讓難しかも其頃肥前ぶし 超渡
 浦人を寐せて海見る月夜かな 去來
 長崎に唐物もなし年の市 氷化
 珠は鬼灯砂糖は土のごとく也 素基
 長崎の山から出づる月はよか
 こんげな月はえつとなかばい 蜀山人

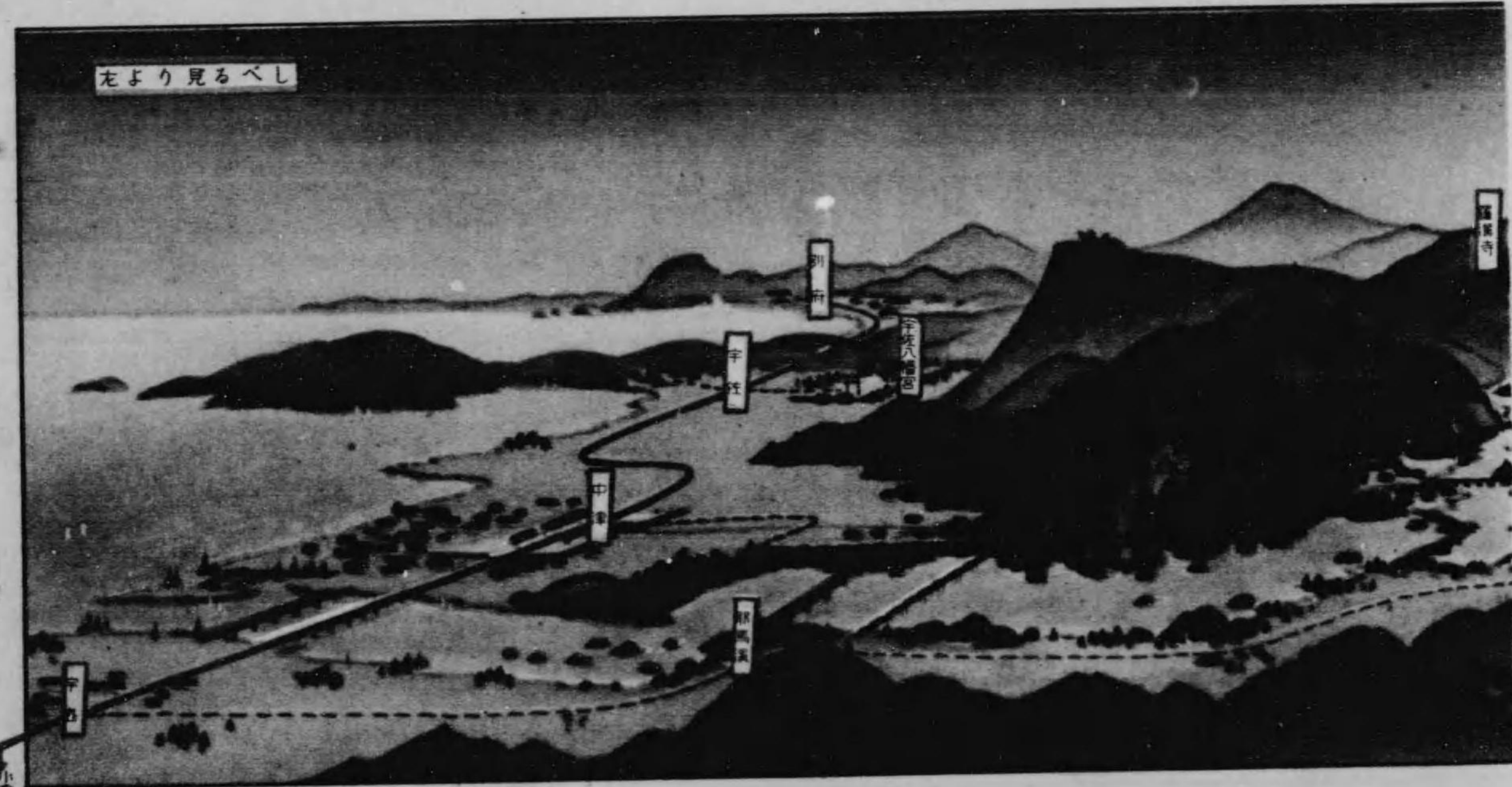
豊州線

豊州線とは
 一 豊州本線 小倉、神原間一三二哩三分
 一 田川線 行橋、添田間二三哩一分及貨物支線
 一 宮床線 後藤寺、宮床間一哩八分、及貨物支線
 一 大飼輕便線 大分、三重町間二二哩五分

の總稱で、其本線は鹿兒島本線の小倉驛より南に岐れて、九州の東海岸に出て、行橋より西に田川線を岐ち、本線は中津、宇佐を経て國東半島を横断して大分海岸に出て、別府温泉地を過ぎて大分に至り、そより大飼輕便線を西に岐ち、本線は尙南して神原に至つて止まつて居る、神原より南する日豐線は今工事中である、列車は門司より大分まで三回、佐伯まで四回の直通列車あり、大分まで約四時間、佐伯まで約六時間を要し、神原は佐伯で乗換へるのである

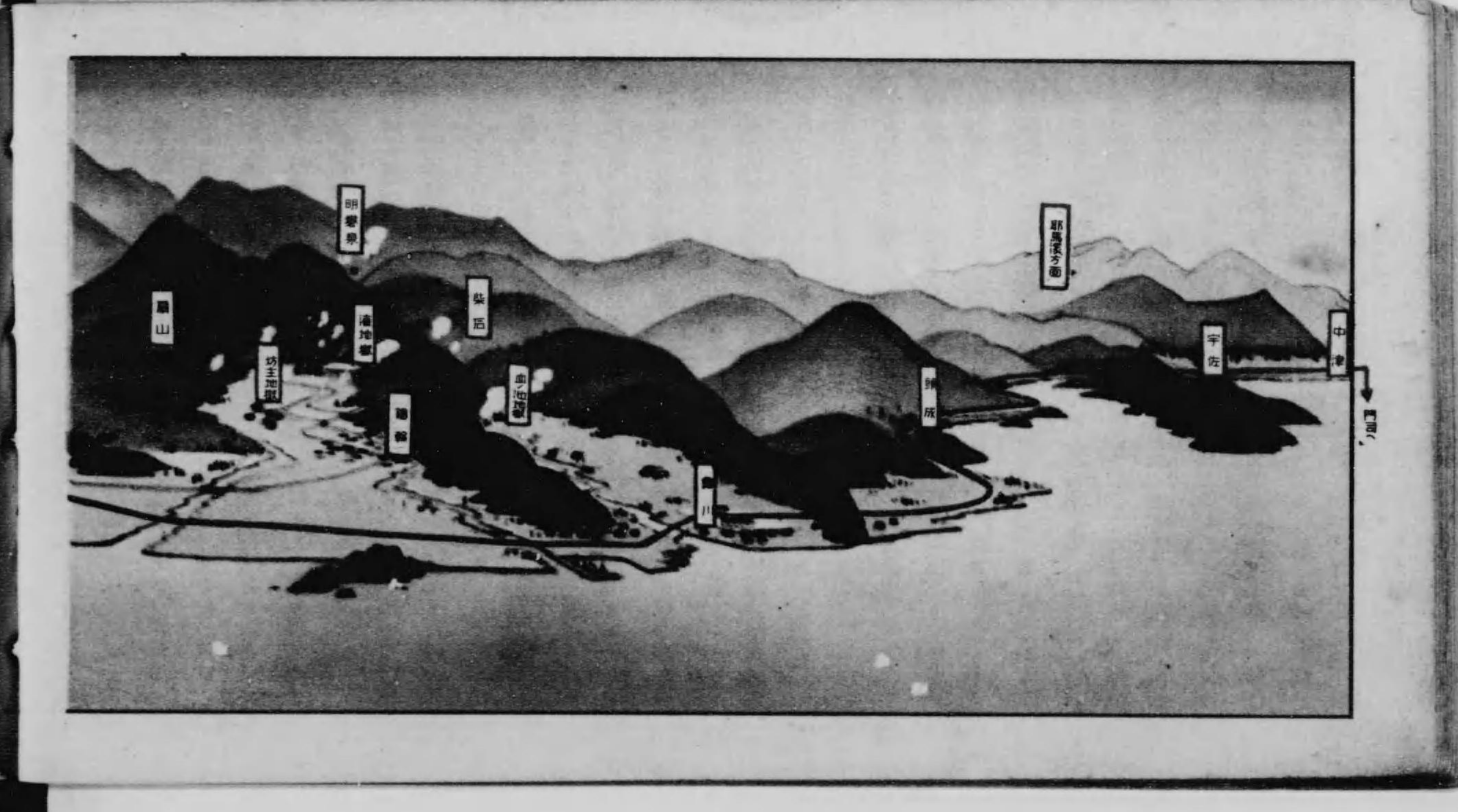
豊州本線 小倉—神原 一三二哩三分

【小倉】(こくら) 鹿兒島本線参照 【行橋】(ゆきはし) 一五哩 田川線は茲より分岐して添田迄二三哩一分走る、香原、伊田、後藤寺、池尻、川崎、添田皆炭坑地である、伊田は筑豊線の伊田線に接続し、後藤寺よりは宮床支線を岐ちてゐる、豐津は行橋より三哩一、東半里に九州屈指の名刹國分寺がある、油須原は一〇哩一、英彦山は南四里にあり、内二里半は傳が通ずる、山上の英彦山神社に參詣して南麓に下れば耶馬溪見物が出来る、添田よりも神社迄南四里、途中三里七丁の二又村迄傳馬車が通ふ、【宇之島】(うのしま) 二七哩六、此處より耶馬溪樋田の對岸まで宇島輕鐵の便がある、賃金六十五錢 【中津】(なかつ) 三一哩七 山國川の河口に在り、奥平氏の十萬石の舊城下で、名物には柿羊羹、耶馬溪焼、白酒がある ▼ 扇城址、北八丁、今公園とす、福澤氏の獨立自尊の碑あり ▼ 大雅堂、西八丁、自性寺の書院を云ふ、



襖、板戸皆大雅堂の揮毫に成る ▼耶馬溪へ、中津から分岐せる耶馬溪鐵道は、名勝耶馬溪を貫通せるもので、樋田より羅漢寺を経て柿坂まで、沿線皆耶馬溪山の勝で、新耶馬溪、奥耶馬溪亦柿坂より遊覽すべきものである。耶馬溪は本邦に於ける溪山の勝の最著名なるもので、山國川の上流二帯の溪谷十數里に亘つて居る、巍峨たる英彦山の奇峯天際に聳えて常に白雲を醸し、雲汁流れて山國の溪流となる所、鐘山の山脈と榮岡竝馳して自然の奇觀を呈し、峯頭突兀、山、水を驚み、水、石に迫り奇頭峭壁、迅流激湍縱横に好曲し、山形岩容變幻奇異名狀すべからざる風光を呈するものである、頼山陽が一度此の地の奇勝を説き、耶馬溪の名を命じ、之を海内第一といふも或は誣ひざるなり」と云つてから、足九州に入つてこの地を訪はぬものはなく、日本の山水美を説くもの、また此地に指を屈しないものはない。宇島よりは樋田の對岸まで、中津よりは樋田、羅漢寺を経て柿坂まで輕便鐵道の便あり、樋田に近き點近より漸く風光の美を現はし、佛坂より青生の洞門に至れば、路は菊の如き攢峯の山腹を穿ち、川に沿つて通じて居る、洞傍舟津あり、備うて對岸より望めば、苔蒸したる絶望の下亂松遂に倒れ、危巖突兀たる間、人馬洞門を出入する光景、宛として畫のやうである、進んで耶馬溪畔に至り、左すれば二十丁にして羅漢寺、溪勝指呼の間にあつまり、心神恍として仙ならむとするのである、中津より羅漢寺驛まで賃金三等四十一錢、驛の近くに犬走りの勝がある、羅漢寺の寺門まで賃賃往復八十錢である、耶馬橋より尙遊めば、溪山の美愈加はり、口ノ林、柿坂、中磨の勝を経て、旭橋より彦山路に入り、山麓猿飛に至る間、山陽のいはゆる造物の奇怪畫手また寫す能はざるもの、一步に觀を異にし、二歩に趣を別にし、淺より深に入り、平より奇に移り一曲は一曲より奇にして窮まるを知らず、誠に天然の一大傑作である、旭橋より西三里、日田に行けば筑後軌道に頼り久留米

に出られる。柿坂より南すれば新耶馬溪で近時其奇勝却て本溪に勝るを説く人が多い、柿坂より一里餘にして山移、夫れより十數丁を行けば山靈水泊秀麗の勝景送迎に違あらず、芝石山、鷹の巢山、龍鼻岩、コツキ岩、七福岩、船岩、人形岩、鴨良ノ瀑等の勝あり、二里餘の間奇岩怪石千態萬狀を競うて居る、秋季紅葉の美觀は又筆舌の及ぶ所でない、柿坂より舞出橋に至る間を新耶馬溪と稱し、舞出橋をの字に廻りて、同橋を渡りて隧道に出て柿坂に引返せば、此行程八里である。中津より柿坂まで輕便鐵道賃金三等六十三錢、約一時間中、柿坂舞出橋間は俥、馬車の便があり、五時間乃至六時間を要する
猿飛より北三里、嵯峨として天空に聳えて居るは英彦山で、海拔三千九百五十九尺、峯勢八方に分れて數里に延く、山上英彦山神社あり、官幣中社に列して居る、これが所謂彦山權現で天津日子忍骨尊の靈籙と傳へて居る、山中名勝甚多く、近時避暑探勝の杖を曳くものが多い
旅館松風軒、高本屋、丸梅、米屋(中津)、天幸閣(樋田) 山國屋、圓山ホテル、第一樓(羅漢寺) 三猿亭(柿坂) 橋本屋(新耶馬溪)
【宇佐】(うま) 四六哩六 ▼官幣大社宇佐神社、西南一里七町、宇佐參宮鐵道に乗換へ宇佐八幡驛に下車すれば東南五丁、輕鐵賃十六錢である、宮は古より朝廷の崇敬厚く、廟宇壯麗である、神護景雲の危機に於ける和氣清麿託宣の一言、凜として秋霜烈日の概あり、俯仰靜に心を清めて思ふ千年の古に馳すれば、神威嚴として在ますかと思はる、宮から數丁の大尾神社は清麿が神託を蒙つた處である【別府】(べつふ) 七四哩六 別府は別府灣頭に在る著名なる温泉場で人口二萬五千人あり、鶴見山脈東に傾いて別府灣に盡くる所、廣さ數平方里の間、海岸に、沙汀に丘上に溪間に、行くとして温泉ならざるはなく湯の池、湯の川、湯の瀧、見るとして温泉ならざるはない、酸性泉あり、鹽



類泉あり、炭酸泉あり、硫黄泉あり、殊に海濱汀渚に湧出する砂湯の如きは、他に見るべからざるもので、別府の温泉が、温泉の別府か、浴者必す其多様なるに驚くであらう、全区を分つて龜川、柴石、鶴輪、明礬、別府町、濱脇、觀海寺、堀田の八湯として居る、此間鐵道は龜川、別府、濱脇の三驛を置く

龜川は龜川温泉所在地で別府の北門、旅館民家一千戸皆浴槽を有し、最温泉の豊富なる所である、旅館平山旅館、寶屋、白龜館、血の池地獄は龜川の西十丁、赤褐色の熱湯沸々として湧き、時々轟然として噴騰する、柴石温泉はこれより西七丁、四面翠樹に覆はれて居る、旅館柴石園、柴石館、柴石より七丁にして鐵輪温泉がある、此地は到る處天然蒸氣を噴出するので、槽前竈下小孔を穿つて導き、釜飯を懸けて蔬菜を煮て居る、名づけて地獄の火と云ふ、旅館富士屋、萬屋、大平屋、鐵輪より北、海地獄、坊主地獄、紺屋地獄等の硫氣芬々たる間を過れば明礬温泉、龜川別府より西南二里、俣がある、地は別府諸温泉中最高の地面を占め、豊後灣の風光雙眸の中に在り、展望の勝地である。此處で湯の花が採れる、旅館岡本屋、蛭子屋、柳屋

別府町温泉は七湯の中心に當り、宏壯なる浴場が多い、海濱の砂汀は名高い砂湯浴場で、干潮の際砂中に全身を埋むれば適度の温度が自然に體を潤して、洵に愉快である、共同湯の安壯なものに不老泉がある、旅館日名子、龜ノ井、紅井、米屋、觀海寺温泉は町の西三十丁、俣の便がある、八湯中最展望の勝に富んで居る、旅館松屋、坂本屋、小松屋、これより西北二十丁、堀田温泉がある旅館金田屋、濱屋、更に登ること二里にして鶴見嶽の山頂に達する、由布嶽は鶴見の西に聳立し、豊後富士の稱あり、別府附近に温泉の湧出するもの極めて多きは、火山作用の盛なるを示すのである。此兩山は共に前に觀音灣の海光を望み、別府市街より右は大分市、左は國東半島を眺め、雙子嶋火山の半島に秀絶して居るを見ることが出来る、風光の快潤なる九

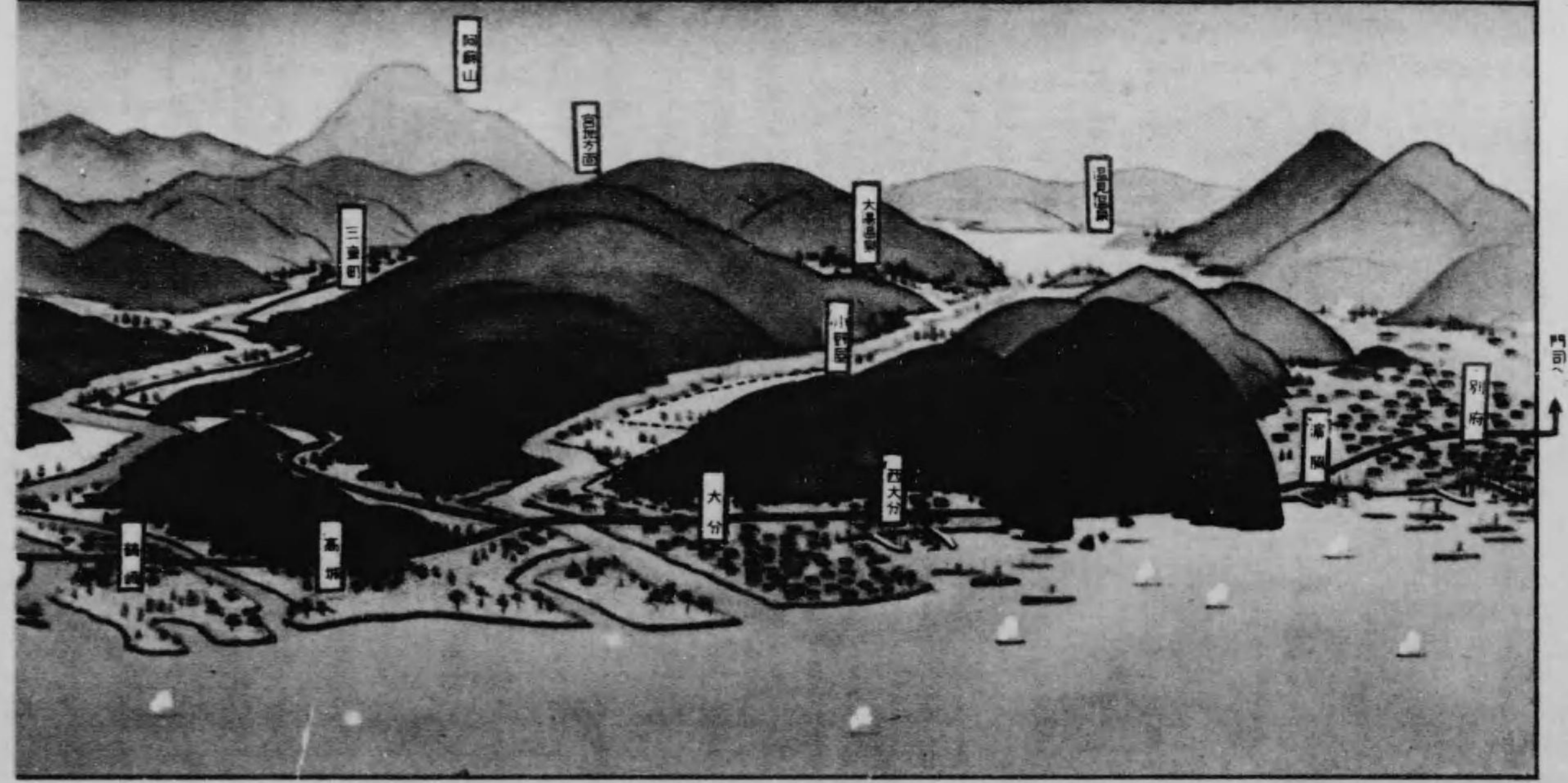
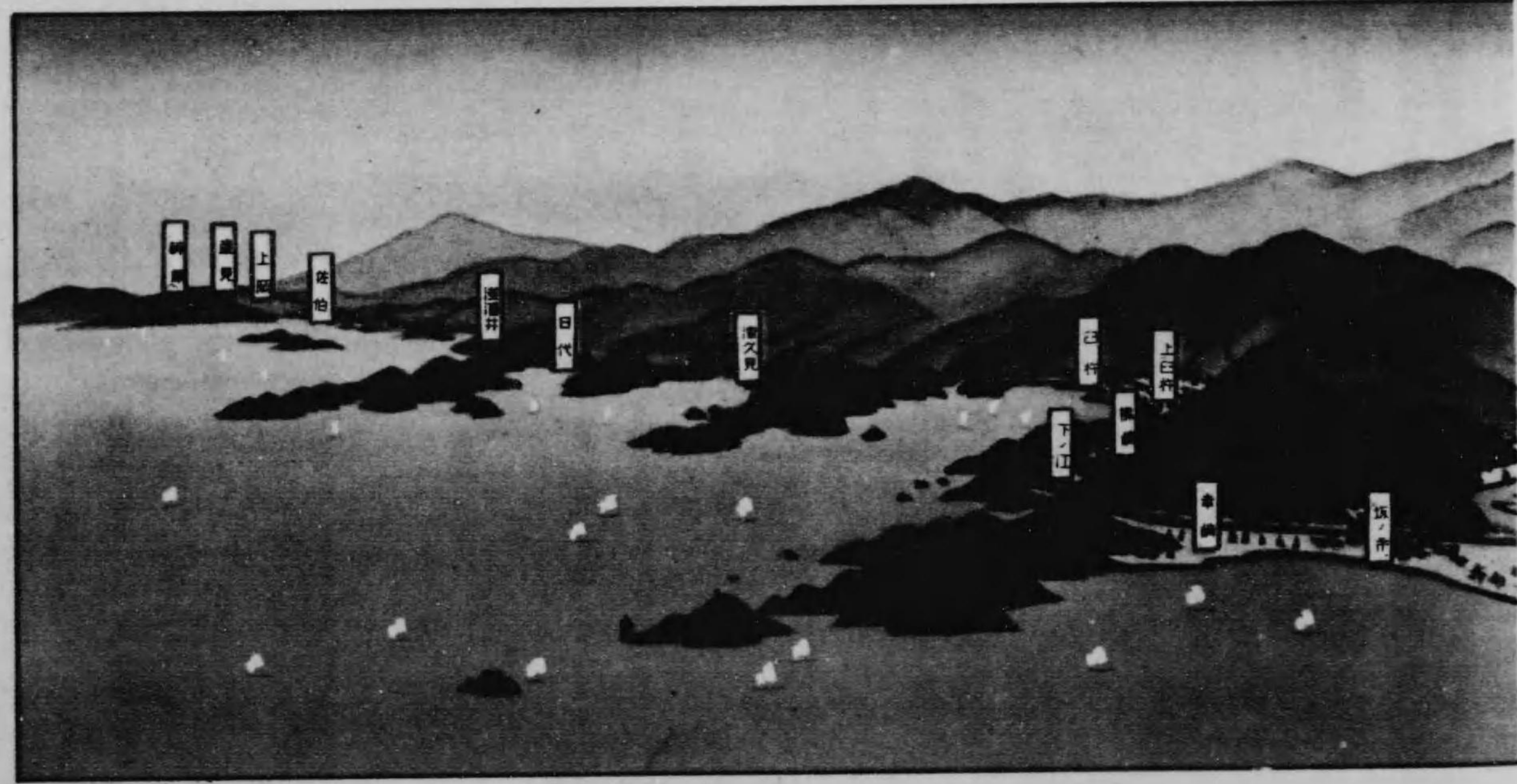
州東岸第一である、濱脇温泉は別府の南、御幸町を以て境として居る、浴客の多いことは或は別府區より勝つて居るやうである、濱脇公園、西温泉、東温泉等がある、旅館米道、立花屋、泉孫【西大分】(にしおほいた) ▼國幣小社梓原八幡宮、西三十丁、俣八十八錢【大分】(おほいた) 八二哩二 大分川の吐口、大



分平野の北部に在り、中世大友氏に居り、武威九州北部に及んだ、維新前は大給氏二萬石の城市であつた、今人口四萬三千を有し、米、青蓮、繭、生糸、繪物細工の産あり、子持雑魚、大分饅頭、堀川饅頭を名産とする、旅館八百屋、水野、帶屋、大湯鐵道は小野屋迄十三哩六分、賃金四十九錢である、小野屋驛から三里半に湯平温泉がある、別府に次ぐ温泉である、途中三里の幸野迄馬車、俣がある、旅館鶴屋、石丸屋、新屋、犬飼輕便線も犬飼を経て三重町迄二二哩五分走つてゐる、此線は將來肥後に入つて鹿兒島本線に接続する使命をもつてゐる

大分市は大分縣廳所在地、縣は豊後國及豊前國の一部を管轄して居る阿蘇山脈の西南より東北に向ひて南下を横斷し、温泉到る處に湧いて別府温泉あり、黄の産も多し、大分は別府頭地に在り、附近一帶豊表の製造地である、縣の北境には英彦山あり、山國川より流れて奇勝耶馬嶺あり、中津は其河口に在る名邑である、東部には九州山脈連亘して林産多く、山麓豊後水運に入りて湧くも處佐賀國海峽あり、沿海水産の利も多し、縣は豊後梅の産地である

大分	五、四九二、六四四圓	縣	同	(大正八年)
大分	三、一八、九〇三圓	縣	同	(大正八年)
大分	三、四〇一、四三八圓	縣	同	(大正八年)
大分	五、〇六六、六三三圓	縣	同	(大正八年)
大分	三、〇一八、六六三圓	縣	同	(大正八年)
大分	六、四七六、一一一圓	縣	同	(大正八年)
大分	八、五一一、三四三圓	縣	同	(大正八年)
大分	六、三〇八、二〇〇圓	縣	同	(大正八年)
大分	五、〇八八、九二四圓	縣	同	(大正八年)
大分	六、〇五九、三三三圓	縣	同	(大正八年)
大分	五、九九一、一一一圓	縣	同	(大正八年)
大分	八、六九四、〇〇〇圓	縣	同	(大正八年)
大分	五、九二一、三三三圓	縣	同	(大正八年)



【幸崎】(かうさき) 九三九哩 ▼佐賀の關、東二里半、馬車がある、海部半島の地頭で、其南北兩端に小港灣あり、半島の高峯は牧山で其東端は關岬である、關岬の絶端には半島高島相連り東北八海里を隔てて伊豫の佐田岬と相對して居る、これ即ち古の速吹名門で今佐賀關海峽と云ひ、瀬戸内海より南方に通ずる水道の要害である、神武天皇東征の時此地に椎根津彦あり、從つて東征船隊の前軍となり偉功を奏した、今早吹神社あり、其靈を祀つて居る【臼杵】(うすき) 一〇四哩七 臼杵川の河口に在り、元稻葉氏五萬石の城下である、大友氏の築いた舊臼杵城址は驛北三丁、今日杵公園になつてはる【佐伯】(さへき) 一二二哩五 元毛利氏二萬石の城下で佐伯灣の西岸に瀕してゐる、城址は西南二十六丁にある、旅館清風館、京屋、梅屋【神原】(かうのはら) 一三二哩三 神原から豊後、日向の國境を越えて宮崎に出る鐵道は目下建設中である

筑豊線

筑豊線とは

- 一 筑豊本線 若松、上山田間三三哩三分、及貨物支線
 - 一 漆生線 芳雄、漆生間五哩四分及上三緒、筑前山野間一哩三分
 - 一 香月線 中間、香月間二哩二分
 - 一 伊田線 直方、伊田間九哩九分、及貨物支線
 - 一 桐野線 勝野、桐野間三哩三分、及貨物支線
 - 一 幸袋線 小竹、二瀬間四哩七分、及貨物支線
 - 一 長尾線 飯塚、長尾間三哩六分、及貨物支線
- の總稱で、其本線は若松を起點として、折尾にて鹿兒島本線と交叉して南し、上山田に至りて止まるのである、其間香月、伊田、桐野、幸袋、長尾の短支線あり、伊田線は伊田に至つて豊州線田川支線と接續して居る、列車は若松より上山田まで約二時

間半乃至三時間にして達せらるゝのである、本線及支線沿道一帯の地域と、鹿兒島本線大牟田、萬田驛附近の地は、本邦に於ける石炭の最主要産地で其採掘高と價格高とは兩地方を通じて全國總額の三分の二に當つて居る、其他長崎本線には杵島炭の炭坑あり、唐津線には唐津炭の炭坑あり、門司港を始として若松、博多、三池、唐津、住ノ江、口の津皆石炭の輸出港である、九州が漸次工業地として重要な地位を占めつゝあるのは、工業の生命たる石炭の産額の多いのが最大原因である

筑豊本線

若松—上山田 三三哩三分



【若松】(わかまつ) 洞海の門口の西岸に在り、筑豊炭の輸出港にして門司、戸畑と共に、連然として舊觀を一新した、今人口四萬九千人を有し、大正七年の貿易額は輸出千二百萬圓

輸入三千八十萬圓に上つて居る、驛の構内は直に海に接して廣さ二十萬坪に餘り、鐵軌の敷かるゝもの二十哩、刻々運び來れる炭車の數幾百千なるを知らず、其壯觀真に想像の外に在るのである、姪子神社は北六丁、金比羅山は西二丁、眺望が佳い【折尾】(せりを) 六哩六 鹿兒島本線との交叉點【中間】(なかま) 九哩二 香月線の分岐點、鞍手輕便接續點で何れも沿線は炭坑に富む【直方】(なはかた) 一五哩四 附近に炭坑、鐵工所が多い、伊田線は茲より分れて伊田に至り田川線に接續する【勝野】(かつの) 一六哩九 桐野線の分岐點である【小竹】(こたけ) 一九哩三 幸袋線の分岐點である、神籠石は東南一里七丁、附近八板岩の奇勝がある【飯塚】(いひづか) 二四哩四 長尾支線の分岐點である、納祖八幡宮、東北十五丁【上山田】(かみやまだ) 本線の終點で、若松より三三哩三分である

東北線

東北線とは

- 一 東北本線 上野、青森間四五六哩九分、及貨物支線
- 一 山手線 品川、田端間一二哩八分、池袋、赤羽間三哩五分
- 一 常磐線 日暮里、岩沼間二一三哩二分、田端、三河島間一哩、及貨物支線
- 一 高崎線 大宮、高崎間四六哩四分
- 一 兩毛線 小山、高崎間五七哩一分
- 一 上越南線 新前橋、澁川間八哩六分
- 一 足尾線 桐生、間藤間二七哩四分、及貨物支線
- 一 水戸線 小山、友部間三一哩三分
- 一 真岡輕便線 下館、茂木間二六哩一分
- 一 日光線 宇都宮、日光間二五哩一分
- 一 鹽竈線 岩切、鹽竈間四哩三分
- 一 東横黒輕便線 黒澤尻、横川目間八哩九分
- 一 橋場輕便線 盛岡、聖石間一〇哩
- 一 八ノ戸線 尻内、湊間五哩一分
- 一 大湊輕便線 野邊地、陸奥横濱間一八哩七分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、東京市内上野驛を起點として宇都宮、福島、仙臺、盛岡等を経て、北海の波津たる青森に至つて止まるのである、その間青森灣頭に於て海光に接するの外は、東北の平野を走るのみで、風光の變化に乏しいやうであるけれども、峰巒の起伏、平野の曠茫また見るべきものがないではない。特に白河以北は古の陸奥の地、曠野百里に涉つて天遠く山長く、山河草木皆島國の形態を脱して、大陸的風物の面影がある、一帯の地は蝦夷人種の跋扈した古より殆ど別世界の觀を爲し、安倍氏、清原氏より藤原氏に至つて愈

盛に、平泉の古址今尙當時を想見するに足るものあり、近く徳川氏の時に至つても、時に泰西に使用して私に交を修むる等、殆ど、小王國を爲せるが如く、滿目の風物自ら趣を異にして居る。列車の運行は上野青森間相互五回の直通列車の外、常磐線廻り二回、奥羽線廻りの三回の直通列車あり、本線直通の内一回は急行にして十七時間、常磐線急行も同じく十七時間、奥羽線廻り約二十二時間半を要する、別に信越線北陸線を経て山陽線明石に至るもの一回あり、上野明石間約二十八時間、上野新潟間は信越線と磐越線の何れに頼るも約十二時間半を要する

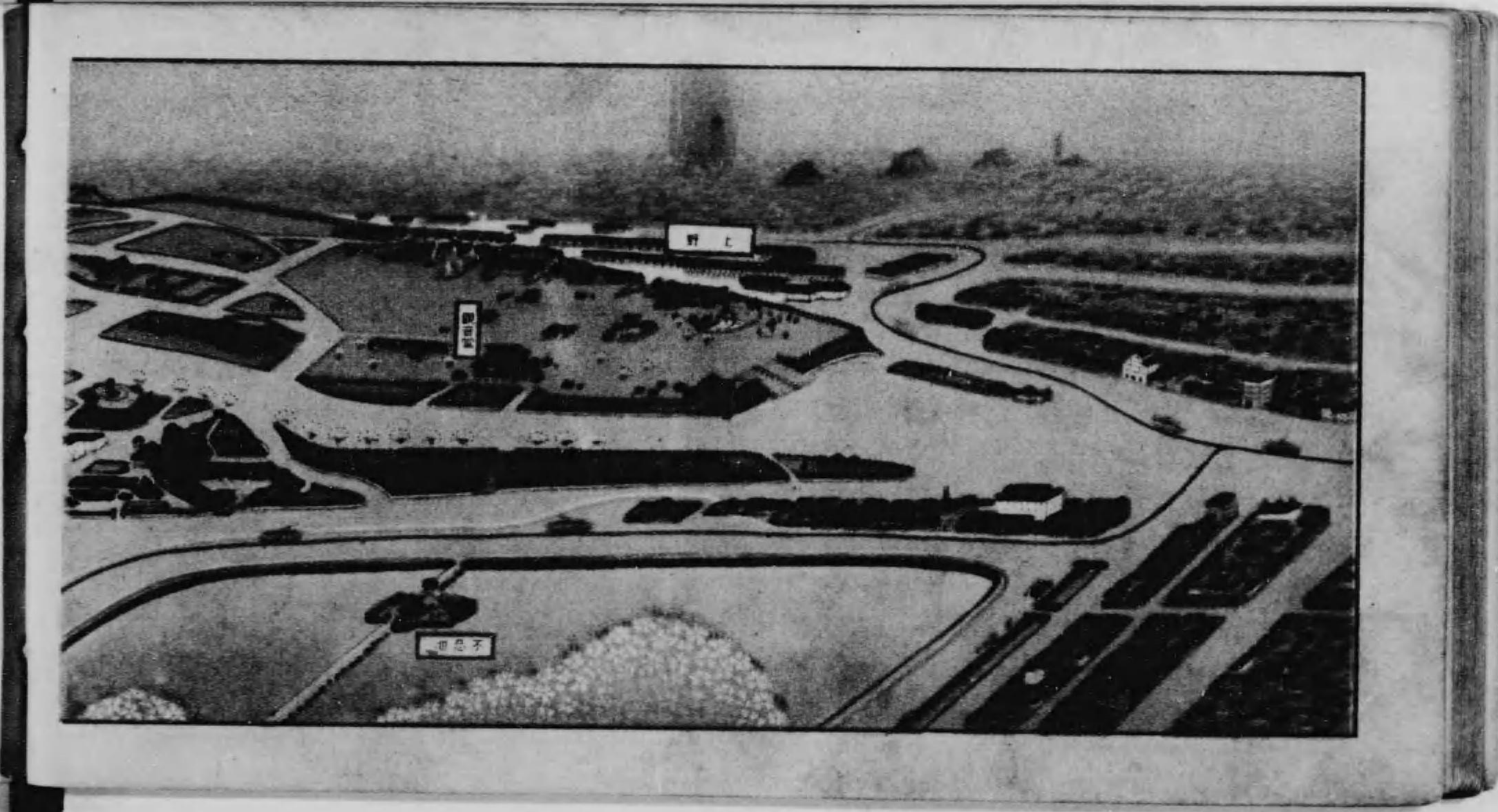
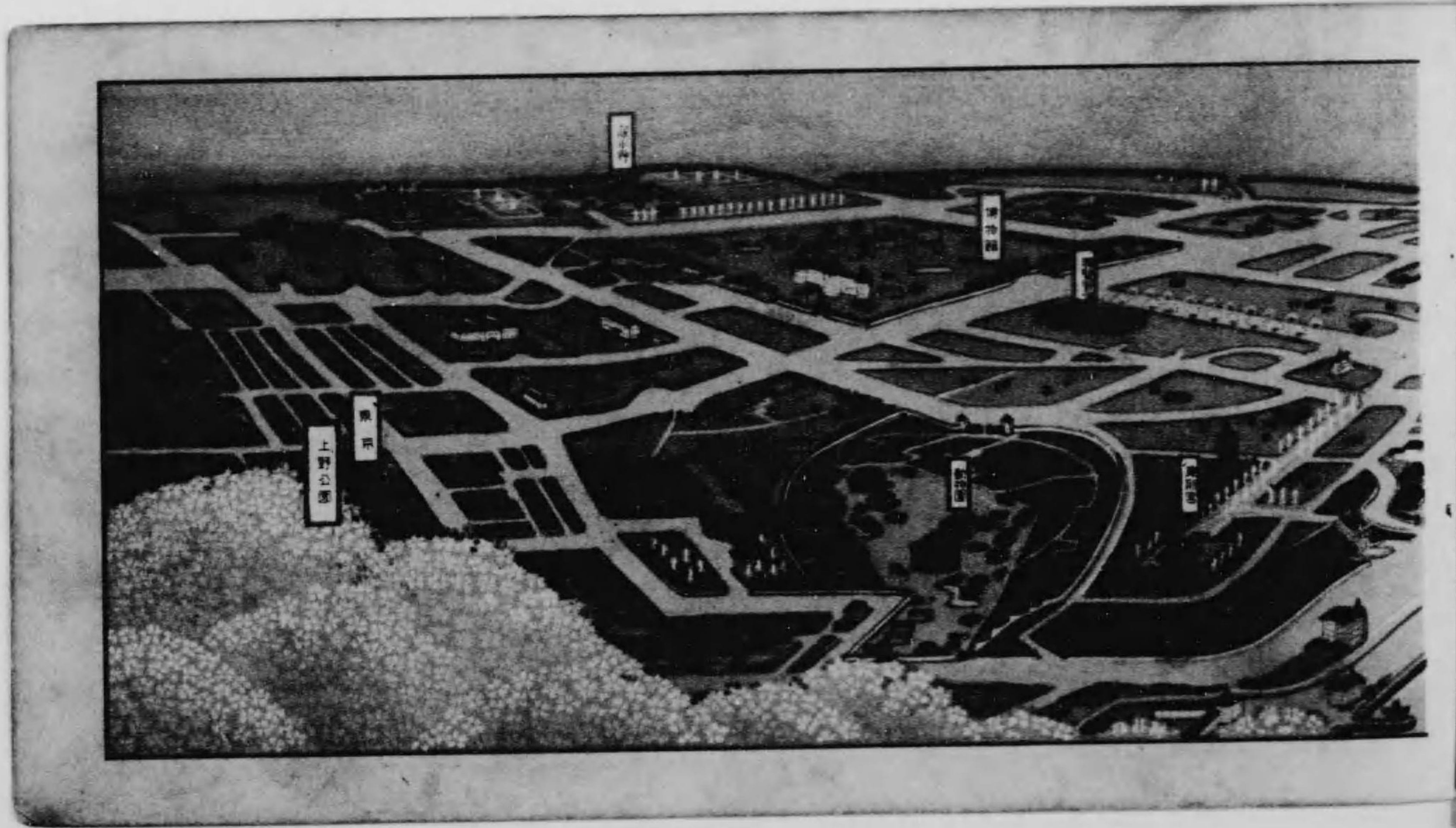
本線は支線が多い、山手線は田端及赤羽にて分岐し、東海道本線及中央本線との連絡を保ち、常磐線は日暮里より岐れて太平洋岸を経て岩沼に至つて更に本線に合して居る、大宮より岐る、高崎線は高崎に至つて信越線、兩毛線に接し、小山より左に岐れて高崎に至る兩毛線は、桐生より足尾線、新前橋より上越南線を岐ち、右に岐る、水戸線は下館にて真岡輕便線を岐ち友部に至りて常磐線に接続する、宇都宮よりは日光線の岐る、あり、鹽竈線は岩切より、東横黒輕便線は黒澤尻より、橋場輕便線は盛岡より、八ノ戸線は尻内より、野邊地よりは、大湊輕便線を分岐して居る、記事の都合上高崎線は信越線に併記した

東北本線

上野—青森 四五六哩九分

【上野】への、東京市内上野公園下に在り、東北地方への交通門戸である 【日暮里】に三つぼり、一哩四、常磐線の分岐點 【田端】に二つぼり、二哩二、山手線の分岐點

山手線 東海道本線と東北本線とを連絡する線で、東京市の西北東部を一周し、東京驛より品川、新宿、池袋、田端を経て上野までと、池袋赤羽間とに電車を運轉してゐる。東海道本線、東北本線、常磐線を連絡旅行せられる場合は、普通此



線に頼られるのであるが、萬世橋、上野兩驛に乘降される方は、別に運賃を拂はなるともいのである【目白】(めじろ) 東三丁に學習院、東北七丁には雜司ヶ谷鬼子母神がある【高田馬場】(たかのば) 根部安兵衛の敵討知られ、東八丁に穴八幡、同十丁に早稲田大學がある【新宿】(しんじゅ) 中央本線の交叉點【原宿】(はらじゅく) 明治天皇を奉祀した官幣大社明治神宮參詣の下車驛である【澁谷】(しぶや) 四十五丁に農科大學がある【惠比壽】(えびす) 東叡丁に惠比壽ビールの大日本麥酒會社工場がある【目黒】(めぐろ) 西九丁には目黒不動があり、堂後の丘陵に甘藷先生青木昆陽の墓がある【五反田】(ごたんだ) 南一里半には洗足池あり、池畔に勝海舟の墓がある【品川】(しながわ) 東海道本線との接續點である

【王子】(おうじ) 三哩九 王子は近年工場地として榮え、驛の附近に砲兵工廠支廠、關東釀曹會社、王子製紙會社、東京毛織會社等がある ▼瀧ノ川の紅葉 西北十丁 ▼飛鳥山 驛前にあり櫻樹が多く花時の雜踏は東京附近第一といふ、花期四月五日より十五六日まで ▼王子稻荷 西北五丁 ▼荒川堤の櫻 東北三十丁、渡船場まで俵五十五錢、次驛赤羽からも略同里程、王子電氣小臺の渡留所からは十五丁、千住大橋からは和船及モーターボートが出る、櫻樹は堤上里餘に互り五色櫻と言はれ、一重及八重の變種が多い、花期四月十六日から二十五六日まで【赤羽】(あかはね) 六哩二 山手線の分岐點 ▼浮間の櫻草 西半里俵七十錢、川口町からも略同様、荒川對岸の廣野に咲く【浦和】(うらわ) 一二哩八 埼玉縣廳所在地である、旅館伊勢屋、山口屋、松屋

浦和は埼玉縣廳所在地で、縣は武藏國の一部を管轄して居る、西半の秩父地方は山嶺多く秩父川を産し、東半は平野多く連りて麥の産多く、養蠶、機織亦盛に熊谷、川越等其中心地となつて居る、川越地方は又甘藷の産地として名高い

大宮の主要産地 (大正八年)

埼玉	八〇二七〇二石
浦和	七〇九五八八石
蕨	五七二一五〇石
鴻巣	四六七七七石

浦和は埼玉縣廳所在地で、縣は武藏國の一部を管轄して居る、西半の秩父地方は山嶺多く秩父川を産し、東半は平野多く連りて麥の産多く、養蠶、機織亦盛に熊谷、川越等其中心地となつて居る、川越地方は又甘藷の産地として名高い

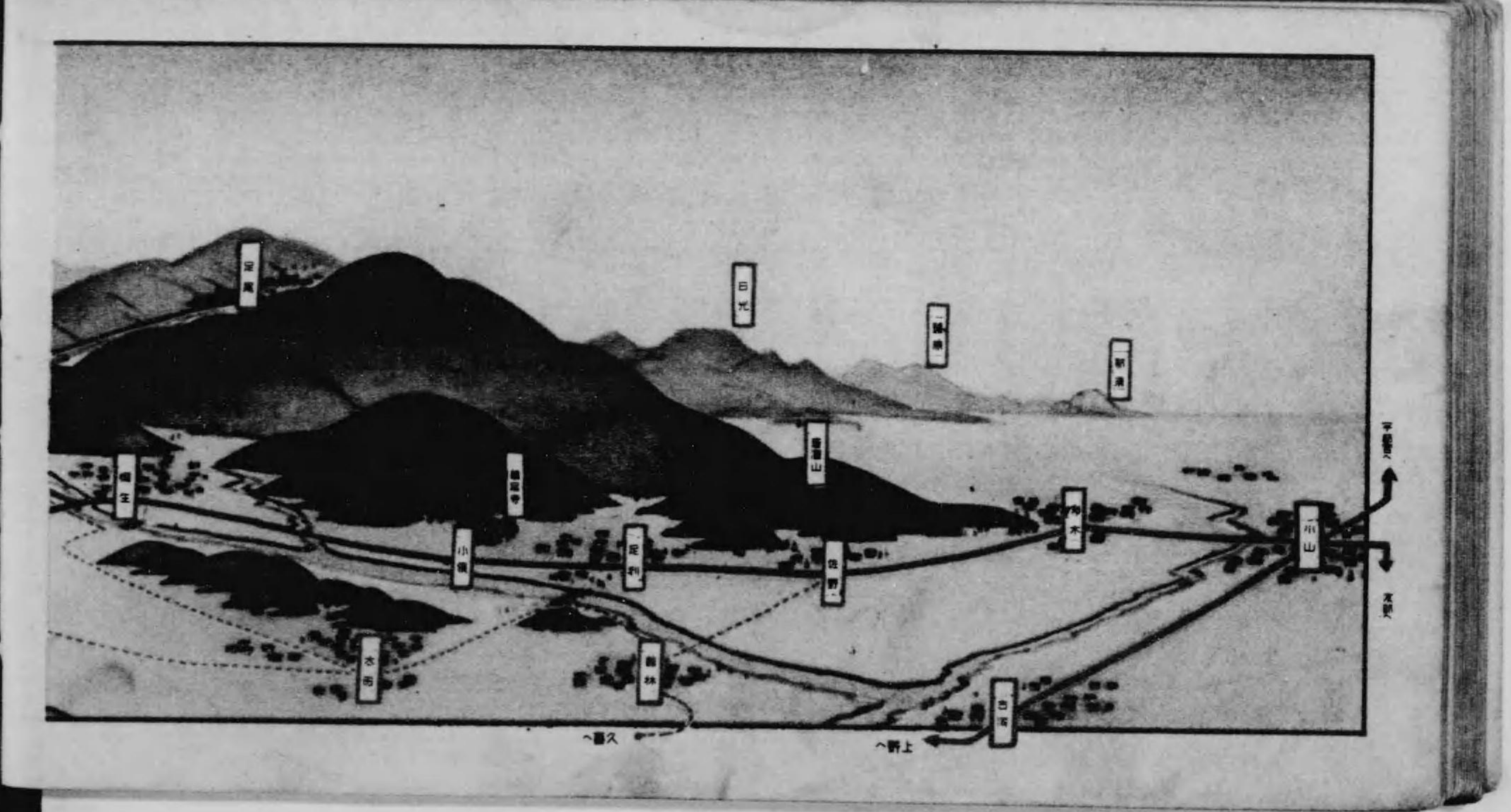
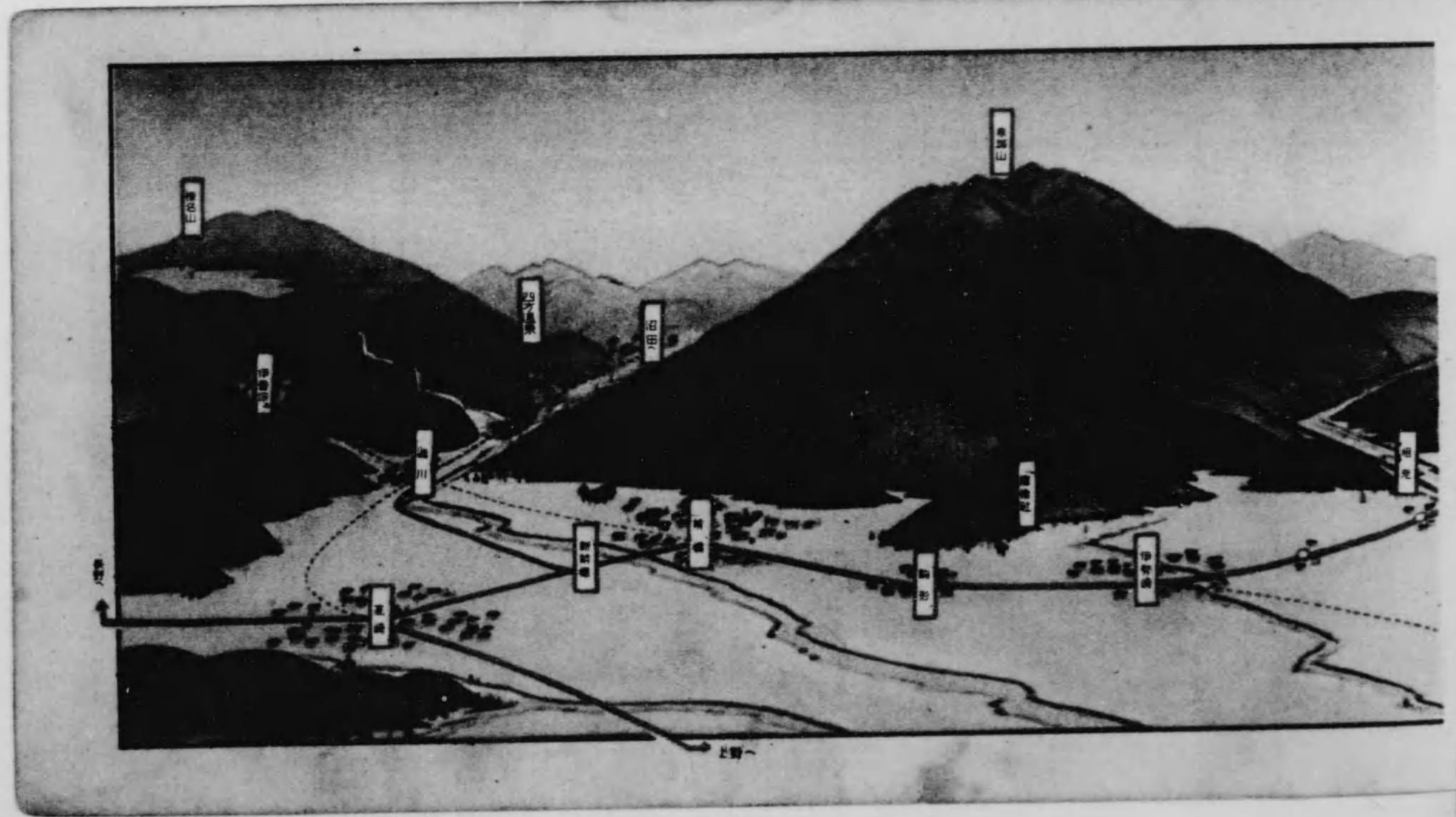
大宮の主要産地 (大正八年)

埼玉	四二六四八三石
浦和	一〇八八四〇石
蕨	八二八八五九石
鴻巣	一五七〇二九石
大宮	一五七〇二九石
埼玉	三三七八三三六石
浦和	三三〇八八二九石
蕨	三〇七二二二六石
鴻巣	三〇七二二二六石

電車がある、大宮には鐵道省大宮工場を首め片倉組、大宮館、山丸、渡邊等の製紙工場がある ▼大宮公園東北十一丁、俵賃三十五錢、官幣大社氷川神社の境内である、旅館八重垣、萬松樓、石州樓、新一の家、岩井屋【古河】(こが) 三八哩 土居氏八萬石の舊城邑で室町時代には古河公方足利成氏がゐた ▼古河 桃林南半里俵三十錢、土井利勝の栽培したもので香雲一里に亘つて美觀を極める、桃林より十丁の鮭延寺には熊澤蕃山の墓がある、旅館加美屋【小山】(おやま) 四七哩九 兩毛線、水戸線の分岐點、關ヶ原の役に家康が上杉景勝を征する爲東下し、石田三成の事を擧げたのを聞いて旗を降した地である ▼小山 城址北六丁思川の西岸に在り、思川は鮎漁に適する ▼小山農園北七丁、總面積二十六丁三段内梨十丁、栗五丁、桐六丁を栽培してゐる、旅館角屋、伊豆倉、田中屋、肴屋

兩毛線 此線は小山から分岐し、足利、桐生、伊勢崎等の農業地を經、前橋を過ぎて高崎に至り、高崎線及信越本線に接する線、列車は多く上野から大宮高崎を経て小山との間に運行してゐるから、記事も高崎方面から始める

【高崎】(たかぎ) 信越本線接續點【新前橋】(しんまへばし) 上越南線は茲から岐れて流川に行く、流川は伊香保、四萬等の門戸である ▼伊香保から四萬、草津へ、伊香保温泉へは流川から電車があり、賃金四十九錢、温泉は榛名山東麓に在り、人家



嶮に據つて建てられ、乙樓、甲樓の上に聳え、西樓、乙樓の上に
 駕して居る、風景絶佳、空氣清冷、好箇の避暑地である。温泉の
 噴口は二嶽の下なる溪間にあり、鑿を伏せて各旅館の浴室に
 導いて居る。榛名湖は伊香保より登路二里、榛名火山の大目湖
 湖で周圍約一里、海拔三千九百尺の高處に在り、水光一變、山
 影投寫、明媚秀麗の趣に富んで居る、湖畔より山中の最高點
 榛名富士に登る途がある、山は秀美なる円錐形をなし、三十度
 内外の傾斜を作して峻立し、湖面より高さこと八百餘尺であ
 る。湖の西北南には烏帽子、鬘櫛、硯、掃帚嶽屹立し、掃帚嶽
 腹に榛名神社がある、祠邊には奇巖怪石多く、葛籠岩、被褥
 岩、雷電岩大黒巖等最世に知られて居る、榛名山附近にはスナ
 ー練習場あり、十二月下旬より三月上旬までを可とす、旅館
 本郷別館、本館、蓬萊館、千明、千登世館、伊香保を見物し
 たら澁川迄引返し(電車賃四十九錢)更に澁川から約五里の
 中之條迄電車に乗る、賃金一回、四萬温泉は中之條から北西
 里、馬車賃一回五十錢、他に乗合、貸切自動車がある。温泉
 は四萬川、新湯川に沿ひ山光水色の美あり、避暑の適地とし
 て、秋季紅葉の美を以て知られてゐる、旅館養陵館、積善館、
 山口館、鐘壽館、川河湯温泉は中之條から西四里半、馬車の
 便がある、吾妻川の溪谷に望み風光勝れ秋季紅葉の美もある、
 旅館敬業館、山本館、草津温泉は河原湯から五里、四萬から
 澤渡温泉を経、暮坂峠を越えて約十里、高原性の温泉場、古
 來有名な處である、旅館大東館、望雲館、一井館、草津から
 草津鐵道の終點標津迄約三里、乗馬、馬車の便がある。以上
 の温泉廻りは一週間もあれば十分である【前橋】(まへはし)
 六哩二 利根川の左岸に在り、越後、下野と
 の交通の要路に當つてゐる、松平氏十七萬石
 の舊城市で上毛糸市場の中心地を爲し、生
 糸工場の数も多い、今人口六萬二千人を有し



てゐる ▼前橋公園十三丁電車賃往復十錢、舊城址で利根の
 清流に臨み赤城、榛名、妙義の三山及淺間の噴煙を望む、園内
 に公會堂臨江閣がある旅館住吉屋、白井屋、東郷館、岩六屋、油
 屋 ▼赤城登山北六里、途中三里の小暮村迄俣が通ふ賃金一
 圓二十錢、足尾線上神梅駅から北三里同水沼駅から北西
 二里半、山頂數峯に分れ中央に大湖があつて水を湛へてゐる
 これが火口原湖の大沼で周圍約一里、四千六百尺の高位にあ
 る、酷暑のときへ水蒸氣は直ちに凝結して屢々湖面の模糊た
 るを見る、湖畔隱凄幽寂の境を占めて赤城神社あり、沼の北
 に小黒檜、東に大黒檜、南に地蔵、西に鈴鹿峯聳え、鈴鹿の
 西更に荒山、鍋割山がある、大黒檜は海拔六千二百餘尺實に
 上毛三山中の最崇壇である。神社から三十丁其頂上に達すれ
 ば、天高地濶氣宇頓に豪壯なるを覺ゆる

前橋市は群馬縣所在地で、縣は上野國を管轄して居る、縣は三面山を繞らし
 唯東南の一面のみ平坦である、赤城、榛名兩火山中部に相對峙し、西南部の妙義
 の奇峯と聳立して居る、縣下一般に養蠶、機業甚だ盛に、前橋は蠶、生絲の市場
 をなし、伊勢崎は銘仙を以て名高く、桐生は關東第一の絹織物産地として知られ
 て居る

絹織物業地及絹着尺物業の主要産地 (大正八年)

群馬	三〇、九九、一一三	東京	三〇、九九、一一三
群馬	一七、九七、五三六	埼玉	一四、九〇、四二六
群馬	一三、七四、四一四	全 國	一六、八六、〇六八
群馬	三、三七、七八四	栃 木	九、二二、一九四
全 國	四、二八、三九〇		

【伊勢崎】(いせざき) 一四哩一 桐生に次いで機織業の盛な地
 で年産額三千萬圓に上り、伊勢崎銘仙及大島絹は特に名高い
 今人口一萬五千人を有し上毛蠶糸會社、上毛織物會社、伊勢
 崎織物會社等がある、旅館新井屋【桐生】(きりや) 二四哩二
 關東第一の機織地で年産額三千萬圓に上り京都西陣に匹敵し
 てゐる、人口四萬人を有し本年三月市制を布いた、縣東十五
 丁の桐生高等染織學校の他、桐生蠶糸會社、兩毛製織會社、
 東洋織物會社、桐生織物同業組合等があり、市内の名勝地に
 は北十丁に西の宮神社、同十五丁に桐生天満宮等がある、旅

館桐生館、東屋、藤文、丸啓、田川屋

足尾鐵 桐生間藤間二七哩四分あり云はば足尾銅山鐵道である、汽車桐生を後にすればやがて赤城山麓を縫うて渡良瀬川の溪谷に入るので、青嵐時に窓に襲うて山氣透徹心氣自ら爽快を覺ゆる、通洞、足尾、間藤の三驛は何れも足尾銅山驛である



【足利】(あしかが) 三三哩三 本年市制を布き人口三萬六千人を有する、地は渡良瀬川の北岸に在り、足利氏勃興の地で機業地として世に知られ附近織物同業組合四七丁、木村織物工場東十三丁、山保毛織物工場四廿丁、足利蠶糸會社南十五丁、足利織物會社南一里十丁等あり年産額五千五百萬圓に及ぶ、名勝地としては足利學校遺跡西四丁、圖書館あり古珍書一萬二千餘冊を蔵す、大日堂西五丁、饒阿寺といひ足利氏の創建に成り堂宇壯麗古畫も多い、足利公園西二十丁櫻楓露園が多い、行道山西北二里俵賃八十錢、山頂に關東有数の靈利淨因寺がある、市内見物(足利學校、大日堂、足利公園)自動車賃五圓約一時間、俵賃一圓約二時間を要する、

太田呑龍上人及太田金山新田氏の城址は西南二里渡良瀬川の南岸より馬車の便あり賃金三十錢、市役所西北十五丁、足利座西五丁、末廣座西十丁、旅館初谷本店、足利屋、巴屋【佐野】(さの) 四〇哩五 機業地で人口一萬七千人を有す ▼古城山公園北三丁 ▼別格官幣社唐澤山神社、北一里半、山下迄俵賃八十錢、茲から行く東武鐵道田沼驛よりは山下迄十五丁俵賃三十錢、山下より山上迄十四丁俵賃二人挽を要する、藤原秀郷を其居城址に祀る風光絶佳である、旅館佐野館、久内屋、京屋、万世樓【栃木】(とちぎ) 五〇哩三 人口二万七千人を有す ▼錦着山公園、北二十丁俵賃三十五錢 ▼太平山公園、西一里俵賃五十錢、山上に太平神社がある、旅館見陽

館、鯉保【小山】(おやま) 五七哩一 東北本線水戸線接続點

水戸線【小山】(おやま) 東北本線兩毛線接続點【結城】

(ゆうき) 四哩三 水野氏一萬七千石の舊城下である【下館】

(しもだて) 眞岡輕便線分岐點、旅館堺屋本支店、廣澤

眞岡輕便線 茂木迄二十六哩一分、主に田野の間を走り

眞岡附近の米穀、七井茂木附近の煙草を輸送する線であるが、高僧哲人の遺跡が沿線に點在するので、曳杖の遊客も亦夥なくない【寺内】(てらうち) 七哩九 ▼高田山尊修寺、

一里俵賃八十錢、親鸞上人東國化導の古蹟である、後本寺は伊勢の一身田に移つたが尙高田派と呼ばれるは此地名に因るのである ▼二宮尊徳翁の遺跡三十丁、俵賃七十錢【益子】(ましこ) ▼陶器製作所、廿丁【七井】(ななゐ) 一七哩七

附近煙草を産する【茂木】(もつき) 二六哩一 煙草專賣支局 五丁、旅館叶屋

【岩瀬】(いわせ) 一八哩五 ▼富谷觀世音、北半里俵賃四十錢 僧行基の開基、三重塔は天平以後の古建築である ▼雨引觀

世音西南一里半俵賃一圓、山櫻多く花期は四月十日より十五日頃迄 ▼加波山、西南二里半【羽黒】(はくろ) 二〇哩六

磯部の櫻十丁、古より名高い櫻川は此處である、櫻は木花咲耶姫を祀つた境内にあり社前の馬場に老木が多い、紅花櫻

句櫻毛櫻等東北地方に固有な櫻の變種が多い、花期は四月十五日より二十日迄【稻田】(いなだ) 二五哩一 附近一帶に花

崗石を産し、年々此驛から發送するもの四萬噸以上を算する

▼西念寺、西北八丁、親鸞上人が一宗開立の基を始めた地で門徒の最神聖視する所である ▼玉日御坊の墓、三丁【笠間】

(かさま) 二七哩一 牧野氏八萬石の舊城邑である ▼笠間

稻荷北十三丁俵賃廿五錢、俗に胡桃下稻荷又は紋三郎稻荷と呼ぶ、社宇宏壯賽客の多い事成田不動と並稱される ▼笠間

燒製産地、北廿丁俵賃五十錢、旅館井筒屋、惠比壽屋、笠間

館、吉原屋、大阪屋 【友部】(ともべ) 三一哩三 常磐線接續點
【小金井】(こがねの) 五二哩五 ▼藥師寺 東北一里、古は海内屈
指の靈場であつたが、後世廢絶して僅に龍興寺があるのみであ
る、藥師寺別當として貶せられた道鏡の墓も竹林中にある



【宇都宮】(うつのみや) 六五哩八 上野から普通は二時間半、急行
は二時間、戸田氏七萬石の舊城市、古來奥羽
に通ずる要路であつた、今人口六萬三千人を
有し、米、麥、製麵、干瓢、石材、木片織を
産し、米、麥、石材の取引が盛である、市
内見物は三時間あれば足り、其主なるものは驛四十丁に國幣中
社二荒山神社、縣下唯一の大社で市の中央に地を占め眺望絶佳
境内は今公園となり、櫻多く蒲生君平の碑もある、更に五丁西
すれば釣天井で知られた宇都宮城址がある、今は市の公樂園と
なつてゐる、工場には下野製紙會社、日清製粉會社等がある
▼十四師團司令部西北一里十丁 ▼大谷觀音西北二里十丁、人
車鐵道貨二十一錢、材木町から發車する、自動車貨五圓、宇都
宮附近第一の名勝地で、弘法大師作の本尊を安置する、總て天
然の岩を刻んだものである、附近に屏風岩、天狗投石等の巖岨
とした岩石併列し、洞窟も頗る多く風景奇絶な爲野州妙義と呼
ばれてゐる、躑躅及紅葉の季節は更に美觀を呈する、宇都宮旅
館清水屋、白木屋支店、手塚屋支店、白木屋本店、丸治、藤江
屋支店、結城屋、仙臺屋、稻屋、河内屋

宇都宮市は朽木縣廳所在地で、縣は下野國を管轄して居る、縣の西北境は山嶽
重疊し、男體山瀧山水の名區日光あり、日光の西南足尾は銅山所在地として名高
く、北部には高原、那須嶺あり、那須野原は近時次第に開墾せられ、耕地を見る
こと、なつた、鬼怒川の上流には發電所あり、那珂川沿岸には蘆草の産多く、中
部の平野には大麻、干瓢を産し、鹿沼は大麻産地の中心地となつて居る、南部は
養蠶、機業盛に、朽木は繭、生絲を集散し、足利は銅鑛交織を多く産出して居る

朽木	一三、五七九、五一圓	秋田	一一、五八〇、七三五圓
茨城	一〇、八四四、四〇五圓	愛媛	九、八七四、〇八九圓
大分	六、四二六、二七四圓	全國	六、七五八、四七五圓
銅鑛物産木綿の主要産地			(大正八年)
朽木	一四、六二九、二九一圓	徳島	五、七四九、九五二圓

欠

欠

大猷院廟は三代將軍家光の遺骨を葬つた處で、東照宮と共に其殿堂の美を以て聞えて居る、常行、法華二堂を西に距ること數十間、二王門を入りて御手洗屋を過ぐれば、石階の上に二王門が聳えて居る、丹塗にして處々に黄金を飾り、鼓樓、鐘樓を過ぐれば、夜叉門、丹塗黄金を以て之を飾り、左右の廻廊甚美麗である、唐門は其構造東照宮と均しく、鐫刻の精あり、采畫の妙あり、瑞籬の拜殿を圍繞せる、黒蠟色の殿階を設けたる等、皆東照宮と同じである、

拜殿は東方に面し、柱は皆白地で縁に黄金を飾りてある、正面扉内には家光の木像を安んじ、格天井は蠟色、格子の内は百間百色、緋地は金の蟠龍を彫刻し、承塵は花鳥を刻して金の彩色を施してある。正面の破目には金地に獅子を畫き、筆頭には二十四個の鍍金の釣燈をかりてある、ことに金色燦爛として、殆ど人目を眩するばかりなのは、中央にかかげられた金製の天蓋で、其下に金梨子地の高机及び三具足の美を盡したのを据ゑてある。本殿は佛殿造二重屋根で其の周圍は朱塗の欄と黒塗の縁とで造らしてある。唐門を出で、更に右の瑞籬を過れば、龍宮に擬した皇嘉門あり、これより奥の院に行くのである。

見廟の拜觀がすんだならば寶物館を見るのが順序である、同館は三百年祭記念に建築したもので、從來見廟各處に散在してゐた寶物を一堂に蒐めてある。此見物を終へたならば尼を瀧廻りに向くるがよい、霧降、含滿、裏見、方等、般若、華嚴、布引、白絲、相生等、見山七十二瀧と云つて居るが、中に最偉觀なのは華嚴である、瀑は即ち大谷川の源で、中禪寺湖水の決する所、其初めて落つるや、一曲また一曲、之字の様をなして流下すること七八町、大岩缺くる所直下四十丈、草木震動して巖石碎けむとし、餘沫霧となり、蓬物として楢嶺に上り、去つて雲となるのである、石間に岩濤あり、水煙

を破りて翺々して居る。中禪寺湖は日光より四里、途中約二里の馬返し迄電車がある、華嚴よりは十数町のみ、湖は東西二里、南北三十町、水光一碧拭へる鏡の如く、倒瀾の四山、浮游の閑雲、洗滌として畫も亦及ばず、湖上舟を泛べて遊べば身も亦畫中の人となるのである、湖水周遊船料はモーターボート七人乗、和船五人乗で左の通りである

湖水一周	モーターボート	十五圓	
	和船	六圓	
菖蒲濱	同	片道	五圓
		往復	二七圓
千手	同	同	四圓
		同	四圓
阿世瀉	同	同	二七圓
		同	四圓
名所巡り	同	同	五圓
		同	五圓
同菖蒲濱	同	同	一圓五十錢
迂回	同	同	二八圓
歌ヶ濱	同	同	二圓五十錢
二荒山前	同	同	九圓五十錢

時間貸モーターボートは一時間六圓二時間十圓である

中禪寺湖畔には紅櫻多く五月中旬花を開く。秋の紅葉は人の知る處である。湖畔に中宮祠があり、祠背から男體山に登山道がある。山は海拔八千二百尺日光山麓の主峯で、眺望も勝れてゐる。毎年夏季の登山者多く、殊に八月一日より一週間を山開きといつて、萬を數へる行者が絡繹として續く。湖の北岸に沿うて一里すれば菖蒲ヶ濱で、茲から地獄川を渡り龍頭瀧を過ぐれば戰場ヶ原に出る。原は植物採集家の寶庫である。原から湯瀧は近く、瀧に沿うて急坂を上れば湯の湖の風光が眼前に展開する。湯本温泉は此湖畔温泉嶽、白根山を背にして景勝の地を占めてゐる。中禪寺湖から此處まで三里のよい道である。海拔四千尺の地故冬は到底行けない。中禪寺から足尾へは約四里主に下り坂である。尙遊覽順路其他を詳記すれば左の通りである。日光廟—霧降瀧—裏見瀧—清

禪寺—湯本—西澤、日光旅館小西、神山、神橋館、古
—光ホテル、中禪



磐越西線の分岐點、附近養蠶業が盛んで郡山絹

一三九哩

糸紡績、岩代、小口組等の製糸場が多い、驛から西十丁に

は麓山公園がある、開盛山公園は驛の西二十九丁、俵貫四十

錢、東北に名だたる櫻の名所で花期は四月中旬から下旬ま

で、旅館太田屋本支店、和久屋、木村屋、布袋屋、和久屋、

旭館 【二本松】にはほんまつ 一五四哩 一 丹羽氏五万石の舊城

下戊辰の役の激戦地 ▼安達ヶ原黒塚、東二十丁、安達からは

東南十五丁、鬼が住んだといふ處は公園になつてゐる、旅

館大和屋、繪物屋、馬屋 ▼岳温泉、西二里半俵貫一圓二十

錢、馬車賃六十錢、安達太郎山の麓にある、旅館扇屋、安達屋

【福島】(ふくしま) 一六八哩 奥羽線の分岐點、上野より普通八

時間、急行六時間半、板倉氏二万八千石の舊城下で阿武隈川

の左岸を占め、人口三萬八千人を有し、生

糸、絹織物、繭、真綿の取引が盛んで、羽二

重會社、山十組製糸場、共同生糸荷造所等が



ある。市の大體を見るには驛から北半里の信

夫山に上るがよい、俵貫は五十錢、山は高さ數百尺巨然として

平野の中に聳え、山上から福島瓦葺を見下す事が出来る。山

は湯殿、月山、羽黒の三山に分れ、中腹に信夫公園がある、旅

館松葉館、福島ホテル、藤金、福島館、辰巳屋 ▼文字摺石、

東北一里半俵貫七十錢、自動車賃往復四圓、觀音寺境内にあり、

石上に草花を載せ布を打つて模様を造つたとも言ひ、夢の青葉

で石面を摺ると相思の人の面影が見られるとも傳へられる、河

原左大臣の詠がある「みちのくのしのぶ文字摺誰ゆゑに亂れそ

めにしわれならなく」今後山を開いて公園としてゐる

▼飯坂温泉、西北二里十丁、伊達驛からは西三十丁に過ぎぬが

福島からした方が便利である。自動車賃一圓、軌道の便もある

飯坂は摺上川を隔て、湯野温泉に對し、奇妙な構造の客舎皆斷

崖に枕み、浴槽中から山水の勝に親しめる。昔から飯坂の奇觀

は湯野より眺むるにあると言はれてゐる。附近に鷗公園、佐